# 病　院　年　報

## 第10巻

（令和7年度）




独立行政法人 地域医療機能推進機構

大 阪 病 院

# 独立行政法人　地域医療機能推進機構　大阪病院年報第10巻

# 巻　頭　言

令和七年度は、4月13日（日）から10月13日（月）の184日間、大阪夢洲で開催された2025年大阪・関西万博（EXPO 2025 Osaka, Kansai, Japan）で始まりました。世界158ヶ国と7国際機関が参加し、延べ2,900万人が入場し、大きな成功をおさめました。12月には大阪大学特任教授の坂口志文先生がノーベル生理学・医学賞を受賞されました。一方、2026年2月に始まった「2026年イラン戦争」等の影響で、世の中は物価高に加え、石油製品が手に入りにくくなり医療材料確保にも不安が広がりました。診療報酬も厳しく、正に医療機関にとっては正念場の年になりました。この厳しい令和七年度を振り返り、大阪病院の活動を年報第10巻にてご報告させて頂きます。

大阪病院は、地域の診療所や医療機関、介護施設とも連携し、大阪市西部地区の急性期医療を担う総合病院として十分な機能を果たすため様々な整備を進めております。例えば、地域連携に関しては、地域の医療機関の診療時間に合わせ平日は19時半まで、土曜日は午前中、地域連携室（2026年4月1日より「地域医療支援センター」へ名称変更）にて電話、FAX、メール、WEB等での予約や相談を受け付けております。更に、地域の医療機関からの要望があれば、救急患者さんや急変患者さんに対し病院救急車でのお迎え搬送も行っております。

幸い、お迎え搬送は地域の皆様から高く評価頂いております。一方で、既存の病院救急車の老朽化と、一台体制では地域の要望に十分には応えられない課題がありました。そこで、新しい病院救急車の購入に向けて、2025年10月4日から12月19日までクラウドファンディングを実施させて頂きました。皆様の温かいご支援を頂き目標を大きく上廻るご寄付を頂くことができました。お陰様で令和七年度末の3月に新しい病院救急車が納車され、翌4月から稼働を開始しました。以降、従前の2倍のお迎え搬送を行うことができるようになりました。この場を借りて皆様に心よりお礼申し上げます。

大阪病院を受診された患者・家族の皆様の患者経験価値（PX）をより良いものにするため、2025年3月に病床60床を返納しそのスペースと資金を活用し、病院の一部をリノベーションしました。13階東にがんと感染専用の診察室とリニューアルした外来化学療法室を配置し、落ち着いてがん診療と治療を受けて頂ける場所にしました。同時に入院患者さんの負担を少しでも軽くするため3階にワンストップで入院支援を行う入院支援センターを造りました。そこでは多職種による面談や相談に加え、タブレットなどでクラウドにある入院の手続きや入院後の治療の説明動画を見て頂けます（自宅でもスマホで見ることができます）。これから自分がどの様な治療をうけ、どういう経過をたどるかイメージでき、安心して療養して頂けるようになりました。

現役世代の働き手が減少する中、人間的で温かい医療を届け、診断や治療、ケアの質を落とさないために、AIやDXなど新しい技術を取り入れ医療やケアの生産性と安全性を上げています。同時に職員が安心して働け、愛着の持てる職場にしたいとも思います。昨年来、連携医療機関で大阪病院ネットにご参加頂いた医療機関にたいしては、WEBでの予約のみならず、患者さんの同意の下、スムースで信頼でき安心の地域連携を推し進めるために診療情報の共有をしております。更なる働き方改革推進のため、大阪病院、日本マイクロソフト、富士通Japan、フォーティエンスコンサルティングの四社が連携・協力し、医療機関で生成AIを安全に利活用できる体制を構築することとなり、現在そのプロジェクトを推進しております。

これからも大阪病院は、地域の医療機関から選ばれ、地域住民の皆様が安心して受診でき、「病気になったら大阪病院にかかりたい」と思って頂ける病院になるよう尽力して参ります。同時に、優秀な医療者を育成し、若手医療者からも選ばれる病院を目指し、地域の急性期医療の中核的医療機関としての機能を果たして参りたいと考えております。

引き続き皆様方のご理解とご支援、忌憚のないご意見をよろしくお願い申し上げます。

地域医療機能推進機構　大阪病院　病院長　西 田 俊 朗

## INDEX


■ 理　　念 …… 1

■ 病院概要 …… 4

■ 施設基準 …… 4

■ 学会認定 …… 11

■ 沿　　革 …… 12

■ 職 員 数 …… 13

■ 附属施設 …… 13

■ 組 織 図 …… 14

■ Topics …… 15

■ 医事統計 …… 23

■ 病歴統計 …… 37

■ 部門概要 …… 67

■ 各種委員会 …… 148

■ 業　　績 …… 149

# JCHO の理念

我ら全国ネットのJCHO は
地域の住民、行政、関係機関と連携し
地域医療の改革を進め
安心して暮らせる地域づくりに貢献します

## 地域医療支援病院としての基本方針

1．小児救急を含む24時間救急医療をおこなっています。
2．母子医療センターとして妊娠・分娩と新生児・未熟児の医療に24時間体制で迅速かつ確実に対応します。
3．各部位の癌に対して、内科的・外科的に積極的な集学的治療をおこなっています。
4．内視鏡、内視鏡下手術などを用いた低侵襲かつ高度な治療とともに外来化学療法や緩和医療チームにも力を入れています。
5．慢性疾患に対してもリハビリを含む集学的な治療体制を整え、患者教育にも熱心です。
6．脊椎・四肢・視覚・皮膚などの疾患に対して、専門性の高い手術的治療を麻酔科、ICU、放射線科等とチームを組んでおこなっています。
7．心筋梗塞・脳卒中などに対して、各診療科が協力して治療にあたります。
8．生活習慣病の予防や癌の早期発見についても各診療科が協力して診療にあたります。
9．各診療科での診療は地域や関連する診療所や病院との連携を大切におこなっています。
10．地域の医療従事者と合同で医療の質の向上を目的とした研修会等をおこなっています。
11．職員の子育て支援にも積極的に取り組んでいます。

# 大阪病院の
# PURPOSE, MISSION, VISION & CREDO

社会環境・構造が複雑化かつ急激に変化する時代において、当院が置かれている状況を様々な観点から再確認し、「私たちはどこに向かうのか」「私たちはなにを大切にしていくのか」…、今後の方針となるour PURPOSE を策定しました。

また、わたしたちは、何をやるかではなく、なぜやるのかを問いながら、当院が存在する意義として【our PURPOSE】を表現するため、【our MISSION】【our VISION】の実現に向けて、【our CREDO】「あしたのしせい＋」を示しました。これは、あらゆる日常の臨床場面において、私たちが大切にする価値観や行動規範です。いつも５つの信条を念頭に置いて、わたしの小さな一歩を職員皆で培い、より最適と最善を目指していきながら、JCHO 大阪病院は成長して参ります。

## JCHO OSAKA our PURPOSE

わたしたちが存在する理由・社会への約束

**より最適な医療と**
**温かいこころで、**
**「あなた」と「地域」を**
**支えます**

大切な命が生まれるとき
自分や大切な人が病に苦しむとき
ただただ回復を願うとき
命の終わりが近づきつつあるとき

そして、
世の中が危機に瀕したとき

なにかあったときに
頼れる存在がある

ここ大阪の地で
暮らしと健康を支える

その存在であるために
わたしたちだからできることを探り、
磨きつづけていく

その人らしさを大切にする心
多様なニーズに
対応できる医療技術
困ったときに助け合える関係
未来に向けて育つ環境

わたしたちは、
より最適な医療と
温かいこころで、
「あなた」と「地域」を
支えます

## JCHO OSAKA our MISSION

パーパスを実現するために
目指し続けるもの

**「あなた」と「地域」を**
**支えるために…**

- 一人ひとりに寄り添って、
  より最適な医療を目指します
- 専門的かつ高度な医療技術を
  提供できる体制を確保し続けます
- 未来の医療を支える
  プロフェッショナルを育成し続けます
- 社会の要請・医療ニーズの変化に、
  真摯にかつ迅速に応えます
- わたしたち職員は互いを支え、高め合い、
  そして大阪病院は職員を大切にします

JCHO OSAKA our

# VISION FOR 2030

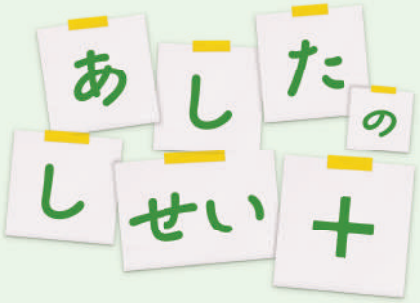
わたしたちが2030年までに
創り出したい状態

1. わたしたちは、「ありがとう」「選んでよかった」と思える病院をめざします
2. わたしたちは、当院の「公的役割」をふまえ、社会の要請・医療ニーズの変化に真摯かつ迅速に応えます
3. わたしたちは、健やかな地域づくりのために、個人も病院も共に健やかであるよう努めます
4. わたしたちは、「成長実感」と「誇り」を持てる病院を創ります

JCHO OSAKA our

# CREDO

わたしたちが大切にする価値観・行動基準




## あ 温かさ

- 患者さんや地域に「温もり」や「その人らしさ」を感じながら寄り添えているか？
- 忙しい時こそ、自分自身や目の前のひとを大切にできているか？

## し 真摯

- 目の前の一人ひとりから「信頼」を得られるように、誠実に接しているか？
- ニーズを理解し、「迅速・丁寧・公正」に応えることができているか？

## た 対話

- 互いに対話しやすいよう相手を尊重し、「心理的安全性」が高い関わりや環境づくりができているか？
- 対話を重ね、「より最適」なことが何かを探り、進化し続けているか？

## し 支える

- 困難なときでも、働く仲間と支え合い、互いを高め合えているか？
- 地域になくてはならない存在の一員として「公的役割」も自覚できているか？

## せい 成長

- プロフェッショナルとして「心・技・体」を磨き続けているか？
- 自らの成長とともに後進の成長に喜びを持つことができているか？

## + 小さな一歩

- より良い明日に向けて、わたし（たち）ができる「小さな一歩」を創り出せているか？
- わたしの一歩

## 【病院概要】

開　設　者：　独立行政法人 地域医療機能推進機構（JCHO）

病　院　名：　独立行政法人 地域医療機能推進機構 大阪病院

病　院　長：　西田 俊朗

所　在　地：　大阪府大阪市福島区福島４丁目２番78号

開設年月日：　平成26年４月１日

許可病床数：　505床（一般病床）

特殊病床：　特定集中治療室（ICU）　12床

脳卒中ケアユニット（SCU）　９床

新生児特定集中治療室（NICU）　6床

小児入院医療管理料2　22床

開放型病床15床を含む

標 榜 科：　整形外科、リウマチ科、形成外科、リハビリテーション科、外科、消化器外科（内視鏡）、呼吸器外科（内視鏡）、肝臓・胆のう・膵臓外科、乳腺・内分泌外科、脳神経外科、内科、消化器内科（内視鏡）、呼吸器内科（内視鏡）、腎臓内科（人工透析）、糖尿病・内分泌内科、循環器内科、感染症内科、免疫内科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、腫瘍内科、頭頸部外科、小児科、新生児内科、神経精神科、脳神経内科、放射線診断科、放射線治療科、歯科、歯科口腔外科、臨床検査科、病理診断科、麻酔科、緩和ケア・ペインクリニック内科、救急科

## 【施設基準】

令和８年３月31日現在

| | |
|---|---|
| 先進医療 | ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断（PCR法） |
| 入院基本料 | 一般病棟入院基本料（急性期一般入院料1） |
| 入院基本料等加算 | 急性期充実体制加算１ |
| | 超急性期脳卒中加算 |
| | 救急医療管理加算 |
| | 診療録管理体制加算１ |
| | 医師事務作業補助体制加算2（15対1） |
| | 急性期看護補助体制加算（25対1） |
| | 看護職員夜間配置加算（12対1 配置加算１） |

| | |
|---|---|
| | 療養環境加算 |
| | 重症者等療養環境特別加算 |
| | 緩和ケア診療加算 |
| | 栄養サポートチーム加算 |
| | 医療安全対策加算１ |
| | 感染対策向上加算1 |
| | 患者サポート体制充実加算 |
| | 重症患者初期支援充実加算 |
| | 報告書管理体制加算 |
| | 褥瘡ハイリスク患者ケア加算 |
| | ハイリスク妊娠管理加算 |
| | ハイリスク分娩管理加算 |
| | 呼吸ケアチーム加算 |
| | 術後疼痛管理チーム加算 |
| | 後発医薬品使用体制加算1 |
| | バイオ後続品使用体制加算 |
| | 病棟薬剤業務実施加算１ |
| | 病棟薬剤業務実施加算２ |
| | データ提出加算２ |
| | 入退院支援加算１ |
| | 認知症ケア加算１ |
| | せん妄ハイリスク患者ケア加算 |
| | 精神疾患診療体制加算 |
| | 排尿自立支援加算 |
| | 地域医療体制確保加算 |
| | 医療ＤＸ推進体制整備加算 |
| | 看護職員処遇改善評価料60 |
| | 外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ） |
| | 入院ベースアップ評価料７６ |
| 特定入院料 | 特定集中治療室管理料１ |
| | 脳卒中ケアユニット入院医療管理料 |
| | 新生児特定集中治療室管理料２ |
| | 小児入院医療管理料２ |
| 指導管理 | 外来栄養食事指導料の注2に規定する基準 |
| | 心臓ペースメーカー指導管理料の注5に規定する遠隔モニタリング加算 |
| | 糖尿病合併症管理料 |
| | がん性疼痛緩和指導管理料 |
| | がん患者指導管理料イ |
| | がん患者指導管理料ロ |
| | がん患者指導管理料ハ |

| | |
|---|---|
| | がん患者指導管理料ニ |
| | 外来緩和ケア管理料 |
| | 糖尿病透析予防指導管理料 |
| | 小児運動器疾患指導管理料 |
| | 乳腺炎重症化予防ケア・指導料 |
| | 婦人科特定疾患治療管理料 |
| | 腎代替療法指導管理料 |
| | 一般不妊治療管理料 |
| | 二次性骨折予防継続管理料1 |
| | 二次性骨折予防継続管理料3 |
| | 下肢創傷処置管理料 |
| | 慢性腎臓病透析予防指導管理料 |
| | 地域連携小児夜間・休日診療料１ |
| | 地域連携夜間・休日診療料 |
| | 院内トリアージ実施料 |
| | 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算 |
| | 外来放射線照射診療料 |
| | 外来腫瘍化学療法診療料1 |
| | 連携充実加算 |
| | ニコチン依存症管理料 |
| | 療養・就労両立支援指導料の注3に掲げる相談支援加算 |
| | 開放型病院共同指導料 |
| | がん治療連携計画策定料 |
| | 肝炎インターフェロン治療計画料 |
| | 外来排尿自立指導料 |
| | ハイリスク妊産婦連携指導料1 |
| | こころの連携指導料（Ⅱ） |
| | 検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料 |
| | 薬剤管理指導料 |
| | 医療機器安全管理料１ |
| | 医療機器安全管理料２ |
| 在宅医療 | 在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料 |
| | 救急患者連携搬送料 |
| | 在宅療養後方支援病院 |
| | 在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算 |
| | 在宅腫瘍治療電場療法指導管理料 |
| 検査 | 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合) |
| | 持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合) |
| | 遺伝学的検査 |

| | |
|---|---|
| | BRCA1／2遺伝子検査 |
| | 先天性代謝異常症検査 |
| | ＨＰＶ核酸検出及びＨＰＶ核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) |
| | ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（ＳＡＲＳ－ＣｏＶ－２核酸検出を含まないもの） |
| | ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液） |
| | 検体検査管理加算（Ⅰ） |
| | 検体検査管理加算（Ⅳ） |
| | 国際標準検査管理加算 |
| | 遺伝カウンセリング加算 |
| | 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| | 胎児心エコー法 |
| | ヘッドアップティルト試験 |
| | 脳波検査判断料1 |
| | 神経学的検査 |
| | 小児食物アレルギー負荷検査 |
| | 内服・点滴誘発試験 |
| | 経頸静脈的肝生検 |
| | 前立腺針生検法（ＭＲＩ撮影及び超音波検査融合画像によるもの） |
| 画像診断 | 画像診断管理加算２ |
| | ＣＴ撮影及びＭＲＩ撮影 |
| | 冠動脈ＣＴ撮影加算 |
| | 心臓ＭＲＩ撮影加算 |
| | 乳房ＭＲＩ撮影加算 |
| | 小児鎮静下ＭＲＩ撮影加算 |
| | 頭部ＭＲＩ撮影加算 |
| | 全身ＭＲＩ撮影加算 |
| 投薬 | 抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| 注射 | 外来化学療法加算１ |
| | 無菌製剤処理料 |
| リハビリ | 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | 運動器リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ） |
| | がん患者リハビリテーション料 |
| | 摂食機能療法（摂食嚥下機能回復体制加算2） |
| | リンパ浮腫複合的治療料 |
| 精神科専門療法 | 療養生活継続支援加算 |
| 処置 | 医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる処置の休日加算１ |
| | 医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる処置の時間外加算１ |

| | |
|---|---|
| | 医科点数表第２章第９部処置の通則の５に掲げる処置の深夜加算１ |
| | 静脈圧迫処置（慢性静脈不全に対するもの） |
| | 人工腎臓 |
| | 導入期加算2及び腎代替療法実績加算 |
| | 透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算 |
| | 下肢末梢動脈疾患指導管理加算 |
| | 難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対するＬＤＬアフェレシス療法 |
| | 移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法 |
| | ストーマ合併症加算 |
| 手術　他 | 医科点数表第２章第10部手術の通則の１２に掲げる手術の休日加算１ |
| | 医科点数表第２章第10部手術の通則の１２に掲げる手術の時間外加算１ |
| | 医科点数表第２章第10部手術の通則の１２に掲げる手術の深夜加算１ |
| | 周術期栄養管理実施加算 |
| | 組織拡張器による再建手術（一連につき）（乳房（再建手術）の場合に限る。） |
| | 骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。） |
| | 後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの） |
| | 椎間板内酵素注入療法 |
| | 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 |
| | 角結膜悪性腫瘍切除手術 |
| | 緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの）） |
| | 緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術） |
| | 緑内障手術（濾過胞再建術（needle法） |
| | 網膜付着組織を含む硝子体切除術（眼内内視鏡を用いる） |
| | 内視鏡下鼻・副鼻腔手術Ｖ型（拡大副鼻腔手術）及び経鼻内視鏡下鼻副鼻腔悪性腫瘍手術（頭蓋底郭清、再建を伴うもの） |
| | 乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検（併用） |
| | 乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検（単独） |
| | 乳腺悪性腫瘍手術（乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴わないもの）及び乳輪温存乳房切除術（腋窩郭清を伴うもの）） |
| | ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後） |
| | 乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 |
| | 胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は１肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は１肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除） |
| | 肺悪性腫瘍及び胸腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法 |

| | |
|---|---|
| | 胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの） |
| | 経皮的冠動脈形成術（特殊ｶﾃｰﾃﾙによるもの） |
| | 胸腔鏡下弁形成術 |
| | 胸腔鏡下弁置換術 |
| | 経カテーテル大動脈弁置換術 |
| | 不整脈手術左心耳閉鎖術（胸腔鏡下によるもの） |
| | 経皮的中隔心筋焼灼術 |
| | ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| | ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー） |
| | 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| | 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術 |
| | 両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器移植術及び両室ﾍﾟｰｼﾝｸﾞ機能付き植込型除細動器交換術 |
| | 大動脈ﾊﾞﾙｰﾝﾊﾟﾝﾋﾟﾝｸﾞ法（IABP法） |
| | 経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの） |
| | 腹腔鏡下ﾘﾝﾊﾟ節群郭清術（傍大動脈） |
| | 腹腔鏡下ﾘﾝﾊﾟ節群郭清術（側方） |
| | 骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法 |
| | 腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの） |
| | 腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）） |
| | 腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）） |
| | 腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）） |
| | 腹腔鏡下胃縮小術（スリーブ状切除によるもの） |
| | バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術 |
| | 胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。） |
| | 腹腔鏡下肝切除術 |
| | 腹腔鏡下肝切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 腹腔鏡下膵腫瘍摘出術 |
| | 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 |
| | 腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| | 内視鏡的小腸ポリープ切除術 |
| | 腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 腹腔鏡下直腸切除・切断術（切除術、低位前方切除術及び切断術に限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術 |
| | 腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） |

| | |
|---|---|
| | 腎悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法 |
| | 生体腎移植術 |
| | 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 |
| | 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合） |
| | 精巣内精子採取術 |
| | 腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの） |
| | 腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに限る。） |
| | 腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術 |
| | 医科点数表第２章第10部手術の通則の16に掲げる手術 |
| | 遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮附属器腫瘍摘出術 |
| | 遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術 |
| | 輸血管理料Ⅰ |
| | 輸血適正使用加算 |
| | 人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 |
| | 胃瘻造設時嚥下機能評価加算 |
| | 麻酔管理料（Ⅰ） |
| | 麻酔管理料（Ⅱ） |
| | 周術期薬剤管理加算 |
| | 放射線治療専任加算 |
| | 外来放射線治療加算 |
| | 高エネルギー放射線治療 |
| | １回線量増加加算 |
| | 画像誘導放射線治療加算（ＩＧＲＴ） |
| | 体外照射呼吸性移動対策加算 |
| | 定位放射線治療 |
| | 定位放射線治療呼吸性移動対策加算 |
| | 保険医療機関間の連携による病理診断 |
| | 病理診断管理加算２ |
| | 悪性腫瘍病理組織標本加算 |
| 食事療養 | 入院時食事療養（Ⅰ） |
| 歯科 | 地域歯科診療支援病院歯科初診料 |
| | 歯科外来診療医療安全対策加算2 |
| | 歯科外来診療感染対策加算４ |
| | 歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ） |
| | クラウン・ブリッジ維持管理料 |
| | 歯科治療時医療管理料 |
| | 歯科口腔リハビリテーション料２ |
| | ＣＡＤ/ＣＡＭ冠 |

## 【医学会認定研修等施設一覧】

厚生労働省臨床研修指定病院
日本内科学会認定医教育病院
日本リハビリテーション医学会研修施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本小児科学会小児科専門医研修支援施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本整形外科学会専門医研修施設
日本形成外科学会認定医研修施設
日本皮膚科学会認定専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本産婦人科学会総合型専攻医指導施設
日本麻酔科学会麻酔科認定病院
日本病理学会病理専門医研修認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本消化器病学会専門医認定施設
日本肝臓学会認定施設
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設（内科・小児科）
日本神経学会専門医教育施設
日本リウマチ学会教育施設
日本呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本周産期・新生児医学会周産期（母体・胎児）専門医暫定認定施設
日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設
日本生殖医学会生殖医療専門医制度研修連携施設
日本放射線腫瘍学会認定施設
日本手外科学会認定基幹研修施設
脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設
日本大腸肛門病学会認定施設
日本呼吸器内視鏡学会関連認定施設
日本消化器内視鏡学会認定指導施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本透析医学会専門医認定施設
日本超音波医学会超音波専門医研修基幹施設
日本核医学会専門医教育病院
日本臨床細胞学会認定施設
日本臨床細胞学会教育研修施設
日本脳神経外科学会専門医連携研修施設
日本脳卒中学会専門医研修教育病院
日本脳卒中学会一次脳卒中センター PSCコア施設
日本IVR学会専門医修練施設認定施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本静脈経腸栄養学会ＮＳＴ稼動施設
日本栄養療法推進協議会ＮＳＴ稼動施設
日本食道学会全国登録認定施設
食道外科専門医準認定施設
日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設
日本産科婦人科内視鏡学会認定研修施設
日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設
日本消化管学会胃腸科指導施設
日本総合病院精神医学会一般病院連携研修施設
日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
日本膵臓学会認定指導施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会エキスパンダー実施施設
日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会インプラント実施施設
日本アレルギー学会アレルギー専門医準教育研修施設
肺がんＣＴ検診認定施設
日本胃癌学会認定研修施設（Ａ）
日本ステントグラフト実施施設
浅大腿動脈ステントグラフト実施施設
鼻科手術認可研修施設
心臓血管外科専門医認定機構認定修練施設
日本呼吸器学会新専門医制度機関施設
集中治療科専門医研修施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本歯科口腔外科学会 准研修施設
日本放射線学会専門医研修施設
日本ペインクリニック学会 ペインクリニック専門医認定施設

## 【沿　革】

| | |
|---|---|
| 昭和27年 10月 | 大阪厚生年金病院 開設（整形外科・内科54床） |
| 29年　3月 | 外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・小児科・歯科新設334床 |
| 30年　4月 | 改築増床 計375床に |
| 32年　7月 | 総合病院名称使用の承認 |
| 33年　4月 | 増改築増床 計560床に<br>福島小学校分校 併設（H22.12まで）厚生年金病院大阪高等看護学院 開院 |
| 34年　4月<br>10月 | 下福島中学校分校 併設（H22.12まで）<br>神経精神科・放射線科 新設 |
| 36年　4月 | 麻酔科 新設 |
| 38年　4月 | リウマチ科・災害外科 新設 |
| 43年　7月 | 臨床研修指定機関となる |
| 45年　9月 | 脳神経外科・リハビリテーション科・病理検査科 新設 |
| 48年 12月 | 病院新築工事着工（旧病院） |
| 56年　3月 | すべての新改築工事完了（旧病院） |
| 57年　3月 | 10床増床 計570床に |
| 平成 7年 2月 | 阪神・淡路大震災 医療支援活動 |
| 8年 2月 | 救急告示病院として認定 |
| 9年 3月 | ICU・救急処置室 開設 |
| 12年　4月<br>10月 | 開放型病床の承認（15床）院<br>外処方全面発行開始 |
| 13年　7月 | 地域医療連絡室設置 |
| 16年　3月<br>4月 | オーダーリングシステム導入<br>産科オープンシステム開始 |
| 18年　4月<br>10月 | DPC対象病院に指定<br>SCU（脳卒中ケアユニット）新設許可病床数変更570床→565床 |
| 19年　4月<br>12月 | 院内保育園設置<br>地域医療支援病院の承認 |
| 20年　5月 | 電子カルテシステム導入 |
| 22年　4月 | 大阪府がん診療拠点病院の指定 |
| 23年　4月 | 東日本大震災 医療支援活動 |
| 25年　2月 | 耐震建替工事着工 |
| 26年　4月 | 独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院　改組 |
| 27年　4月<br>5月 | 新病院竣工式<br>新病院診療開始 |
| 28年　4月 | 新病院グランドオープン |
| 令和 1年 9月 | 一次脳卒中センター認定 |
| 2年 4月 | 40床休床　　NICU 9床→6床<br>13階東45床/ 西45床→13階東60床　9階西46床→45床<br>COVID-19 受入病床15床（13東）<br>COVID-19 救急外来 発熱外来用コンテナ設置<br>COVID-19　3階図書コーナー閉鎖 |
| 4年　7月 | 大阪府小児地域医療センター 指定 |
| 5年　3月 | 新理念「あしたのしせい＋」完成 |
| 5年　8月 | 紹介受診重点医療機関 |
| 6年　3月 | 大阪府と感染症法に基づく医療措置協定締結 |
| 6年　4月 | 55床休床 |
| 6年 11月 | 病院機能評価（3rdG:Ver.3.0）認定 |
| 7年　1月 | NPO法人卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定 |
| 7年　3月 | 許可病床数変更565床→505床 |

## 【職 員 数】

令和８年３月１日現在

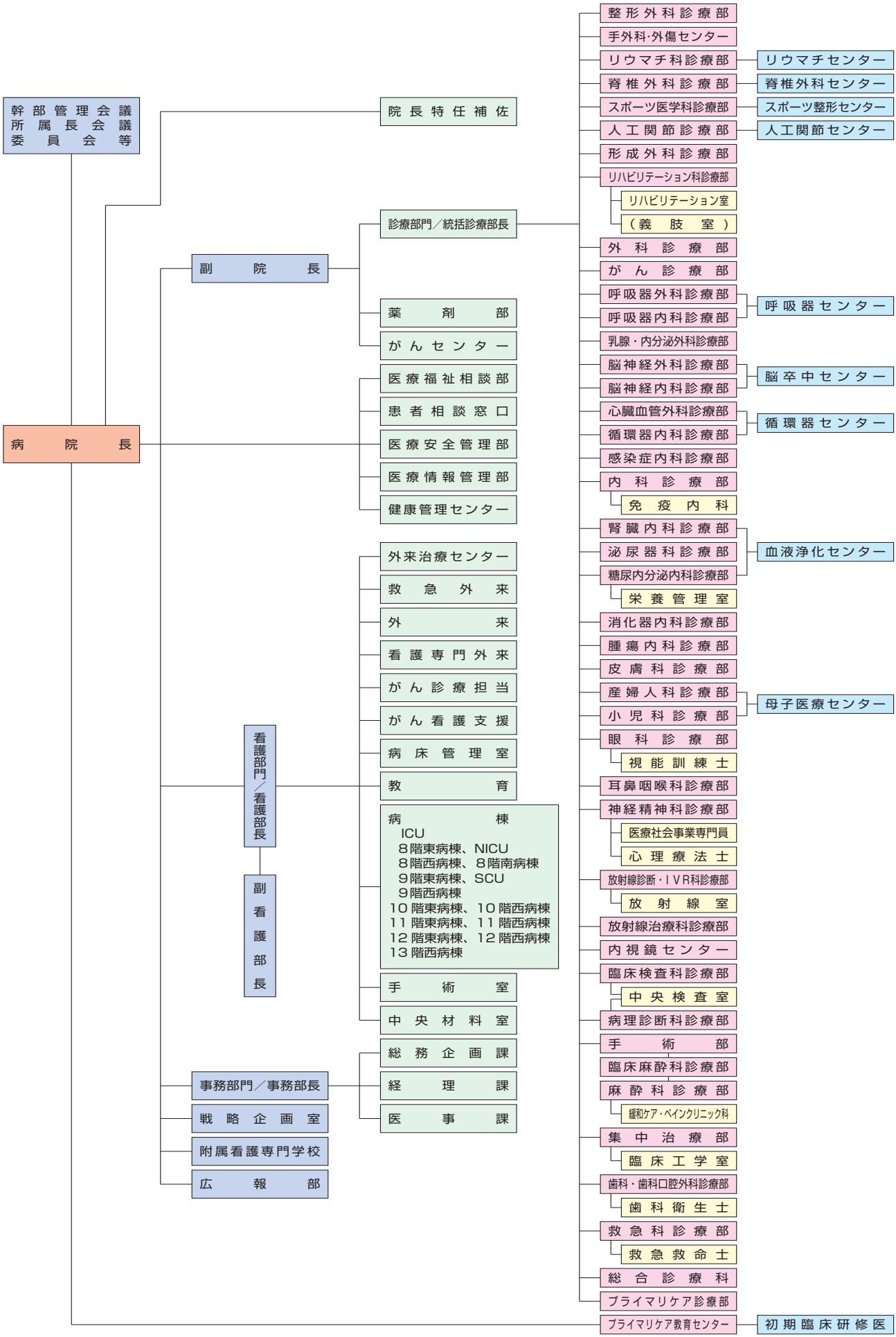
| | 区分 | 医療職 | 医技職 | 看護職 | 事務職 | 診療情報管理職 | 技能職 | 福祉職 | 療養介助職 | 医師事務作業補助職 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 病院 | 常勤 | 189.0 | 173.0 | 536.0 | 34.0 | 4.0 | 3.0 | 7.0 | 28.0 | 8.0 | 982.0 |
| | 非常勤 | 2.0 | 6.4 | 8.6 | 18.3 | 0.0 | 0.0 | 0.7 | 8.6 | 5.6 | 50.2 |
| | 小計 | 191.0 | 179.4 | 544.6 | 52.3 | 4.0 | 3.0 | 7.7 | 36.6 | 13.6 | 1,032.2 |
| | 区分 | 教育職 | 事務職 | | | | | | | | |
| 学校 | 常勤 | 9.0 | 2.0 | | | | | | | | 11.0 |
| | 非常勤 | 0.0 | 0.8 | | | | | | | | 0.0 |
| | 小計 | 9.0 | 2.8 | | | | | | | | 11.0 |
| 合計（人） | | 200.0 | 182.2 | 544.6 | 52.3 | 4.0 | 3.0 | 7.7 | 36.6 | 13.6 | 1,043.2 |

## 【附属施設】

独立行政法人地域医療機能推進機構 大阪病院附属看護専門学校

## 【組織図】

令和８年３月１日現在



# Topics

# Topics

## コンサート





### 七夕コンサート








### クリスマスコンサート








### バレンタインコンサート



**【コンサート】**
当院では七夕、クリスマス、バレンタインなど季節の行事に合わせて、音楽大学の学生によるコンサートを開催してまいりました。クラシックから親しみやすい曲まで幅広い演奏を通じて、患者さんに本格的で温かい音楽を楽しんでいただくとともに、音大生にとっても日頃の研鑽を披露する機会となりました。

## オープンキャンパス


JCHO大阪病院
オープンキャンパス 2025テーマ
JCHO大阪病院 博覧会
今年のオープンキャンパスでは、わたしたちが大切にする価値観・行動基準（CREDO）の観点でパビリオン（イベントブース）を企画しました。
CREDOは「あ（温かさ）し（真摯）た（対話）のし（支える）せい（成長）＋（小さな一歩）」で構成されます。スタッフみんなの想いのこもったパビリオンをお楽しみください。
また、ぜひ当院とＬＩＮＥでお友達になってください。
ミニ人間ドック
簡単な身体測定や計測、検査ができます。
自分や家族の健康を考える機会にしましょう！
バックヤードツアー
病院の普段入ることがないエリアを医療者がガイドします。
体験コーナー
子どもから大人まで体験できる企画を用意しています。
病院スタッフと一緒に楽しみましょう！
オープンスクール＆文化祭
大阪病院附属 看護専門学校を開放します
●バザー ●縁日（景品あり） ●学校紹介
●クラシックコンサート など
その他
健康や医療に関する様々な展示や
動画上映などを行います。
2025年
10月4日（土）10時～15時
参加無料


パビリオンが盛りだくさん
大人気！抽選が必要なパビリオン（LINEの友達登録で事前登録してから抽選へ）
ICU館 ICU（集中治療室）ってどんなところかな？
①10:30～ ②12:00～ ③13:30～
赤ちゃんとファミリー館
1 沐浴体験してみよう
①10:00～ ②11:00～ ③12:00～ ④13:00～ ⑤14:00～
2 助産師さんやお医者さんになって、はいチーズ！
①10:00～ ②11:00～ ③13:00～ ④14:00～
がんについて知ろう館 アロマテラピーを体験しませんか
①10:30～ ②11:15～ ③13:00～ ④13:45～ ⑤14:30～
超音波検査館 超音波（エコー）で身体の声を聴いてみよう
①10:10～ ②11:00～ ③11:50～ ④13:10～ ⑤14:00～
レッツゴーおくすり館
おくすりの分包機を体験して、あなたも薬剤師さん！
①10:00～ ②10:15～ ③10:30～ ④10:45～ ⑤11:00～ ⑥11:15～ ⑦11:30～ ⑧11:45～ ⑨12:45～ ⑩13:00～ ⑪13:15～ ⑫13:30～ ⑬13:45～ ⑭14:00～ ⑮14:15～ ⑯14:30～
資生堂館 毎日の紫外線ケア正しくできてる？
①10:00～ ②10:30～ ③11:00～ ④11:30～ ⑤13:00～ ⑥13:30～ ⑦14:00～ ⑧14:30～
心臓病館 心臓の超音波検査を経験してみない？
①10:30～ ②10:45～ ③11:00～ ④11:15～ ⑤11:30～ ⑥11:45～ ⑦13:00～ ⑧13:15～ ⑨13:30～ ⑩13:45～ ⑪14:00～ ⑫14:15～
放射線検査館 放射線検査ってどんなもの？見て・知って・体験してみよう
①10:10～ ②10:30～ ③10:50～ ④11:10～ ⑤11:30～ ⑥11:50～ ⑦13:10～ ⑧13:30～ ⑨13:50～
手術館
1 手術体験館 手術室で手術体験をしよう ①10:30～ ②11:30～
2 ロボット手術館（成人のみ参加可能） 手術用ロボットで最新医療を知ろう ①10:30～ ②11:30～
3 骨放出術ノウハウ館（成人のみ参加可能） 骨折の手術ってどうしているのかな？ ①10:30～ ②11:30～
抽選への参加方法
❶最下部のQRコードからLINEに友達登録
❷LINEで記信される この画像から事前登録
❸抽選用アンケートフォームのリンクが届くので、入力して抽選へ応募！
抽選なしで楽しめるパビリオンはこちら!!
●JCHO大阪病院救命館 救急車を見てみよう 写真も撮れるよ
●健診・測定館 ・身体測定 ・血圧測定 ・簡易血糖測定 ・ロコモ度テスト 等
●栄養サポート館 栄養状態改善のために栄養補助食品等を知ろう
●帯状疱疹館 帯状疱疹で苦しまないように対策を知ろう
●赤ちゃんとファミリー館 妊娠から子育てまで、それぞれのはじめの一歩に寄えようパーソナルジム LIGHT FIT トレーナーによる講演会
●キッズ館 子どもの病気について相談コーナー 看護師さんになって、はいチーズ！
●摂食嚥下の世界館 飲み込みの働きって知ってる？
●呼吸器センター館 呼吸器の大切さを知ろう
●認知症とくらす・まなぶ館 認知症の世界を体験してみよう
●心臓病館 心臓の働きを知ろう
●一次救命処置とAED体験館 突然倒れたり、溺れたりしたときの救命処置を学ぼう
●Let's ロコモ館 いつまでも若々しく、健康の保持増進のための体操を教えるよ
●ダンスエクササイズ館 大人も子どももみんなで楽しく踊って、心も体も健康に！
●ブレイン館 脳卒中の予防や発症時の対応、治療を知ろう
●生演奏を楽しもう（コンサート）
12:45～13:15 音大生によるクラシックコンサート
14:00～14:30 JAZZコンサート
事前登録はこちら
JCHO大阪病院
〒553-0003 大阪市福島区福島4-2-78
主催 オープンキャンパス実行委員会事務局
06-6441-5451（代）










大腸トンネル探検隊


大阪病院
PARAMEDIC























**【オープンキャンパス】**

2025 年 10 月 4 日(土)に JCHO 大阪病院オープンキャンパスを開催し、1,163 名の方にお越し頂きました。今年のテーマは大阪病院博覧会。わたしたちが大切にする価値観・行動基準（CREDO）の観点より、パビリオン（イベントブース）を企画しました。

昨年、大盛況だった「バックヤードツアー」。今年は LINE のお友達登録を頂いた方より、抽選にてご参加頂きました。参加された方々は、初めて見るものも多く、興味津々で担当スタッフの話を聞かれておりました。

## クラウドファンディング

































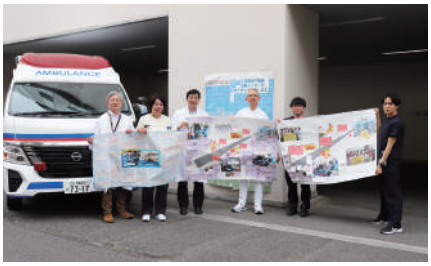














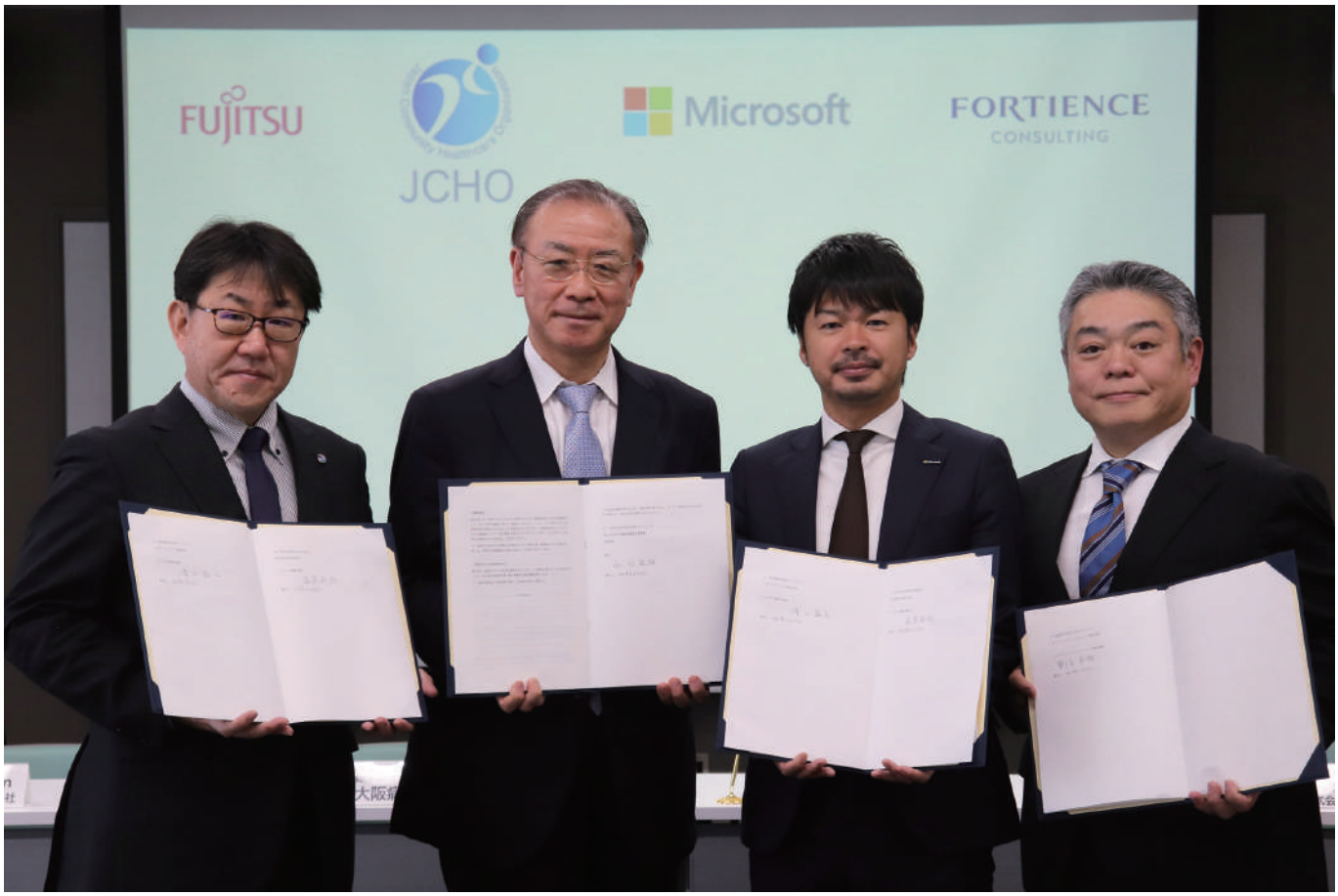

**【クラウドファンディング】**当院は 2025 年 10 月から 12 月にかけて、「地域医療がつなぐ命のリレー 安心と未来を届けたい」と題し、救急車購入クラウドファンディングに挑戦しました。
約 2 ヶ月間で全国から 507 名、総額 18,105,440 円の温かいご支援を賜り、新たな救急車を整備することができました。
皆様のご厚情に深く御礼申し上げますとともに、今後もより一層の医療サービスの向上に努めてまいります。

## AI 調印式








**【AI 調印式】**

当院は富士通 Japan、フォーティエンスコンサルティング、日本マイクロソフトと協力し、生成 AI を安全に活用する体制構築に向けた協定を 2026 年 2 月に締結しました。退院サマリ作成や看護申し送り業務への生成 AI 導入を進めるとともに、2026 年 6 月の運用開始に向けてガイドライン整備や情報基盤の構築を進めています。本取り組みを全国の病院のモデルケースとして展開し、医療 DX の推進に貢献してまいります。

# 医 事 統 計

## ■科別外来患者数【2025 年度】

外来診療日：242 日

| 診　療　科 | 新患 | 再来 | 合計 | 1 日平均患者数 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 新患 | 再来 | 合計 |
| 整形外科 | 3,719 | 31,574 | 35,293 | 15.4 | 130.5 | 145.8 |
| 形成外科 | 718 | 3,821 | 4,539 | 3.0 | 15.8 | 18.8 |
| リハビリテーション科 | 0 | 8,727 | 8,727 | 0.0 | 36.1 | 36.1 |
| 消化器外科 | 355 | 8,217 | 8,572 | 1.5 | 34.0 | 35.4 |
| 呼吸器外科 | 60 | 1,692 | 1,752 | 0.2 | 7.0 | 7.2 |
| 乳腺内分泌外科 | 241 | 8,813 | 9,054 | 1.0 | 36.4 | 37.4 |
| 心臓血管外科 | 44 | 1,482 | 1,526 | 0.2 | 6.1 | 6.3 |
| 脳神経外科 | 669 | 3,753 | 4,422 | 2.8 | 15.5 | 18.3 |
| 腎臓内科 | 241 | 11,271 | 11,512 | 1.0 | 46.6 | 47.6 |
| 糖尿病内分泌内科 | 311 | 14,377 | 14,688 | 1.3 | 59.4 | 60.7 |
| 呼吸器内科 | 439 | 10,002 | 10,441 | 1.8 | 41.3 | 43.1 |
| 消化器内科 | 1,802 | 24,517 | 26,319 | 7.4 | 101.3 | 108.8 |
| 循環器科 | 901 | 18,329 | 19,230 | 3.7 | 75.7 | 79.5 |
| 皮膚科 | 674 | 7,099 | 7,773 | 2.8 | 29.3 | 32.1 |
| 泌尿器科 | 332 | 9,070 | 9,402 | 1.4 | 37.5 | 38.9 |
| 産婦人科 | 789 | 17,648 | 18,437 | 3.3 | 72.9 | 76.2 |
| 眼科 | 894 | 17,240 | 18,134 | 3.7 | 71.2 | 74.9 |
| 耳鼻いんこう科 | 771 | 6,802 | 7,573 | 3.2 | 28.1 | 31.3 |
| 小児科 | 1,558 | 7,538 | 9,096 | 6.4 | 31.1 | 37.6 |
| 神経精神科 | 88 | 6,237 | 6,325 | 0.4 | 25.8 | 26.1 |
| 脳神経内科 | 528 | 4,343 | 4,871 | 2.2 | 17.9 | 20.1 |
| 放射線診断科 | 977 | 464 | 1,441 | 4.0 | 1.9 | 6.0 |
| 放射線治療科 | 0 | 2,649 | 2,649 | 0.0 | 10.9 | 10.9 |
| 免疫内科 | 84 | 3,054 | 3,138 | 0.3 | 12.6 | 13.0 |
| 感染症内科 | 854 | 161 | 1,015 | 3.5 | 0.7 | 4.2 |
| 麻酔科 | 83 | 3,126 | 3,209 | 0.3 | 12.9 | 13.3 |
| 腫瘍内科 | 1 | 479 | 480 | 0.0 | 2.0 | 2.0 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 2,183 | 6,413 | 8,596 | 9.0 | 26.5 | 35.5 |
| 合計 | 18,498 | 239,716 | 258,214 | 76.4 | 990.6 | 1,067.0 |

## ■病棟別患者数

365 日

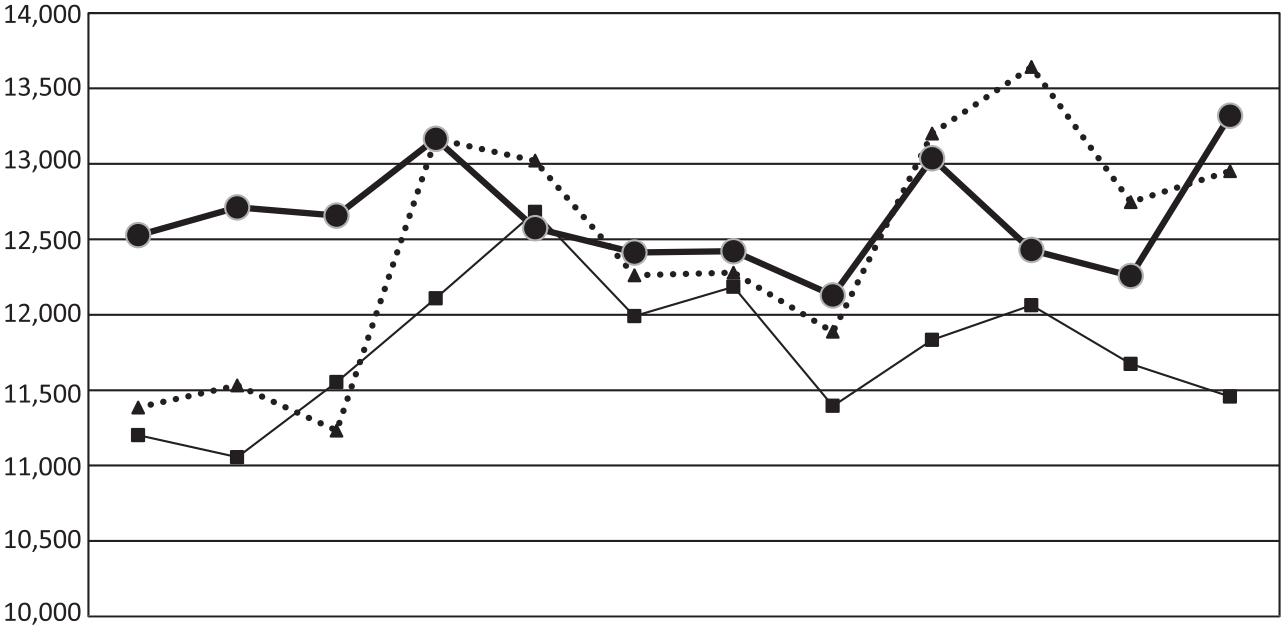
| 病棟名 | 取扱患者数 | 1 日平均患者数 |
|---|---|---|
| 8 階東 | 6,271 | 17.2 |
| 8 階西 | 5,329 | 14.6 |
| 8 階南 | 10,619 | 29.1 |
| 9 階東 | 11,817 | 32.4 |
| 9 階西 | 14,639 | 40.1 |
| 10 階東 | 13,701 | 37.5 |
| 10 階西 | 13,554 | 37.1 |
| 11 階東 | 14,006 | 38.4 |
| 11 階西 | 13,766 | 37.7 |
| 12 階東 | 14,149 | 38.8 |
| 12 階西 | 14,552 | 39.9 |
| 13 階東 | 0 | 0.0 |
| 13 階西 | 12,134 | 33.2 |
| ICU | 3,183 | 8.7 |
| SCU | 3,082 | 8.4 |
| NICU | 842 | 2.3 |
| 合計 | 151,644 | 415.5 |

## ■診療科別入院患者数【2025 年度】

入院日数：365 日

| 診　療　科 | 繰越延患者数 | 新入院患者数 | 退院患者数 | | 在院延患者数 | 取扱患者数 | 1 日平均患者数 | 平均在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | 死亡 | 退院 | | | | |
| 整形外科 | 86 | 2,433 | 4 | 2,438 | 32,470 | 34,912 | 95.6 | 13.3 |
| 形成外科 | 0 | 126 | 0 | 127 | 856 | 983 | 2.7 | 6.8 |
| 消化器外科 | 28 | 936 | 13 | 970 | 10,549 | 11,532 | 31.6 | 11.0 |
| 呼吸器外科 | 5 | 143 | 1 | 143 | 1,442 | 1,586 | 4.3 | 10.0 |
| 乳腺内分泌外科 | 4 | 245 | 5 | 241 | 1,551 | 1,797 | 4.9 | 6.3 |
| 心臓血管外科 | 6 | 118 | 3 | 120 | 2,836 | 2,959 | 8.1 | 23.5 |
| 脳神経外科 | 12 | 390 | 15 | 365 | 6,043 | 6,423 | 17.6 | 15.7 |
| 腎臓内科 | 17 | 486 | 17 | 459 | 5,334 | 5,810 | 15.9 | 11.1 |
| 糖尿病内分泌内科 | 10 | 802 | 11 | 774 | 12,293 | 13,078 | 35.8 | 15.5 |
| 呼吸器内科 | 25 | 501 | 35 | 440 | 5,411 | 5,886 | 16.1 | 11.1 |
| 免疫内科 | 3 | 38 | 0 | 54 | 621 | 675 | 1.8 | 13.5 |
| 消化器内科 | 43 | 2,406 | 35 | 2,336 | 14,381 | 16,752 | 45.9 | 6.0 |
| 循環器科 | 43 | 1,424 | 27 | 1,381 | 12,524 | 13,932 | 38.2 | 8.8 |
| 皮膚科 | 1 | 200 | 1 | 197 | 2,043 | 2,241 | 6.1 | 10.3 |
| 泌尿器科 | 11 | 603 | 3 | 609 | 4,686 | 5,298 | 14.5 | 7.7 |
| 産婦人科 | 16 | 1,172 | 1 | 1,178 | 6,650 | 7,829 | 21.4 | 5.7 |
| 眼科 | 3 | 772 | 0 | 769 | 2,154 | 2,923 | 8.0 | 2.8 |
| 耳鼻いんこう科 | 3 | 605 | 0 | 603 | 2,566 | 3,169 | 8.7 | 4.2 |
| 小児科 | 12 | 1,290 | 0 | 1,286 | 5,624 | 6,910 | 18.9 | 4.4 |
| 脳神経内科 | 14 | 421 | 7 | 411 | 5,774 | 6,192 | 17.0 | 13.8 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 0 | 191 | 0 | 187 | 570 | 757 | 2.1 | 3.0 |
| 合計 | 342 | 15,302 | 178 | 15,088 | 136,378 | 151,644 | 415.5 | 8.9 |

■入院延患者数の推移

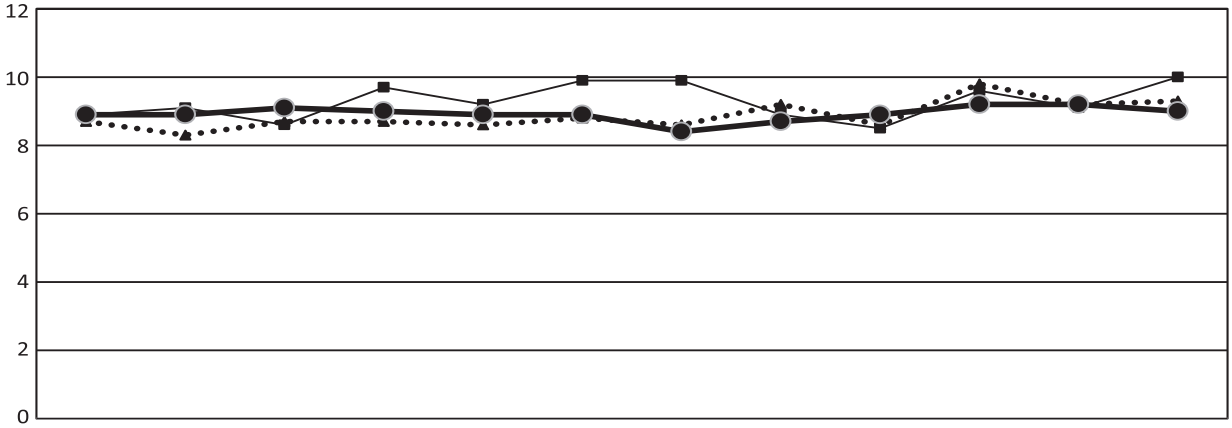



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 11,201 | 11,056 | 11,553 | 12,108 | 12,682 | 11,990 | 12,185 | 11,395 | 11,833 | 12,063 | 11,673 | 11,458 |
| 2024年度 | 11,386 | 11,532 | 11,232 | 13,166 | 13,021 | 12,261 | 12,280 | 11,887 | 13,202 | 13,642 | 12,747 | 12,953 |
| 2025年度 | 12,527 | 12,711 | 12,657 | 13,167 | 12,575 | 12,413 | 12,421 | 12,129 | 13,037 | 12,429 | 12,258 | 13,320 |

【2025年度】

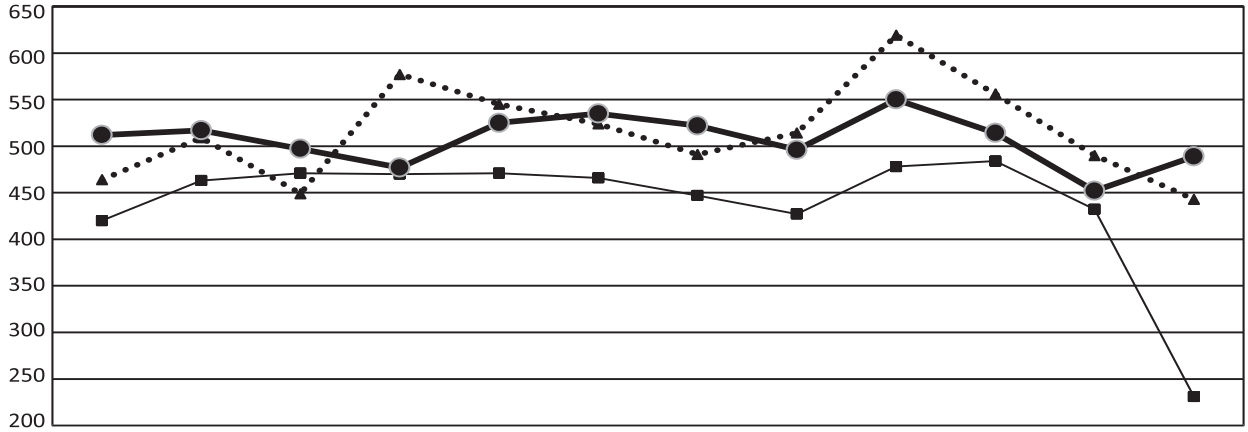
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整形 | 2,869 | 2,837 | 2,874 | 3,180 | 3,134 | 2,877 | 2,875 | 2,643 | 2,995 | 2,572 | 2,928 | 3,128 | 34,912 |
| 形成 | 48 | 65 | 54 | 77 | 60 | 115 | 102 | 68 | 75 | 105 | 107 | 107 | 983 |
| 外科 | 878 | 1,026 | 1,071 | 1,028 | 882 | 976 | 1,039 | 1,079 | 962 | 944 | 818 | 829 | 11,532 |
| 呼外 | 117 | 75 | 106 | 161 | 162 | 99 | 131 | 162 | 185 | 124 | 127 | 137 | 1,586 |
| 乳腺 | 160 | 186 | 134 | 166 | 119 | 112 | 243 | 127 | 112 | 171 | 158 | 109 | 1,797 |
| 心臓 | 229 | 262 | 278 | 243 | 229 | 274 | 191 | 246 | 267 | 179 | 234 | 327 | 2,959 |
| 脳外 | 468 | 430 | 485 | 487 | 446 | 535 | 588 | 587 | 547 | 602 | 593 | 655 | 6,423 |
| 腎内 | 483 | 598 | 543 | 455 | 418 | 385 | 380 | 323 | 495 | 607 | 525 | 598 | 5,810 |
| 呼内 | 1,045 | 1,223 | 1,131 | 978 | 1,049 | 1,017 | 938 | 881 | 1,138 | 1,116 | 1,206 | 1,356 | 13,078 |
| 糖内 | 559 | 512 | 441 | 544 | 468 | 651 | 344 | 456 | 543 | 511 | 451 | 406 | 5,886 |
| 免内 | 47 | 36 | 43 | 22 | 64 | 51 | 116 | 94 | 54 | 43 | 67 | 38 | 675 |
| 消内 | 1,586 | 1,383 | 1,426 | 1,374 | 1,453 | 1,390 | 1,353 | 1,519 | 1,414 | 1,297 | 1,159 | 1,398 | 16,752 |
| 循環 | 1,249 | 1,247 | 1,151 | 1,249 | 1,099 | 984 | 1,004 | 1,020 | 1,265 | 1,287 | 1,240 | 1,137 | 13,932 |
| 皮膚 | 127 | 109 | 166 | 278 | 200 | 187 | 127 | 182 | 208 | 167 | 176 | 314 | 2,241 |
| 泌尿 | 462 | 497 | 452 | 403 | 524 | 492 | 383 | 522 | 438 | 427 | 322 | 376 | 5,298 |
| 産婦 | 622 | 562 | 639 | 654 | 708 | 694 | 811 | 580 | 703 | 636 | 601 | 619 | 7,829 |
| 眼科 | 189 | 208 | 244 | 280 | 236 | 186 | 253 | 281 | 239 | 265 | 207 | 335 | 2,923 |
| 耳鼻 | 256 | 251 | 187 | 295 | 293 | 275 | 272 | 310 | 262 | 291 | 231 | 246 | 3,169 |
| 小児 | 666 | 643 | 589 | 571 | 528 | 580 | 669 | 476 | 581 | 493 | 540 | 574 | 6,910 |
| 神内 | 415 | 492 | 584 | 661 | 462 | 469 | 538 | 525 | 489 | 527 | 496 | 534 | 6,192 |
| 歯科 | 52 | 69 | 59 | 61 | 41 | 64 | 64 | 48 | 65 | 65 | 72 | 97 | 757 |
| 合計 | 12,527 | 12,711 | 12,657 | 13,167 | 12,575 | 12,413 | 12,421 | 12,129 | 13,037 | 12,429 | 12,258 | 13,320 | 151,644 |

■平均在院日数



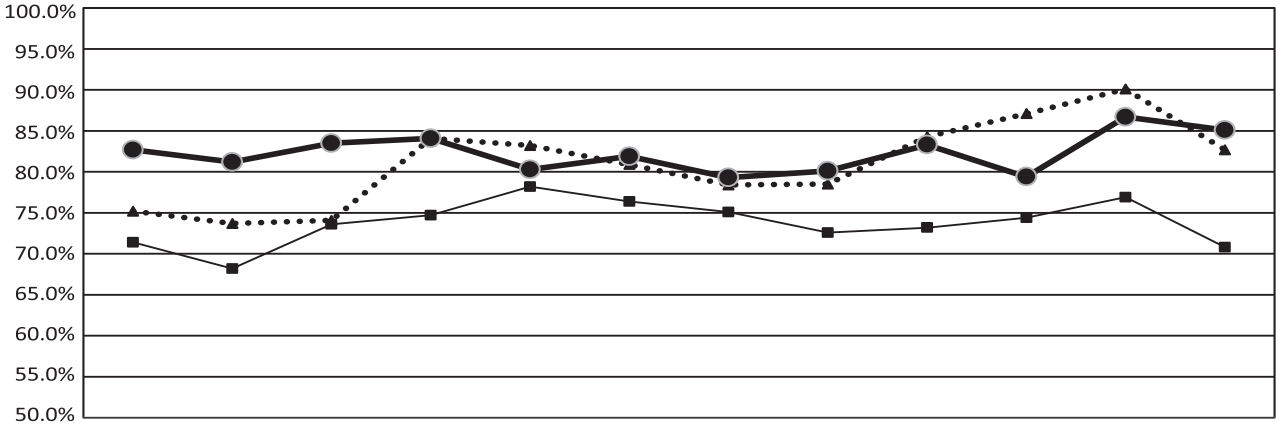

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 8.9 | 9.1 | 8.6 | 9.7 | 9.2 | 9.9 | 9.9 | 8.9 | 8.5 | 9.6 | 9.1 | 10 |
| 2024年度 | 8.7 | 8.3 | 8.7 | 8.7 | 8.6 | 8.8 | 8.6 | 9.2 | 8.6 | 9.8 | 9.2 | 9.3 |
| 2025年度 | 8.9 | 8.9 | 9.1 | 9.0 | 8.9 | 8.9 | 8.4 | 8.7 | 8.9 | 9.2 | 9.2 | 9.0 |

■直入患者数の推移



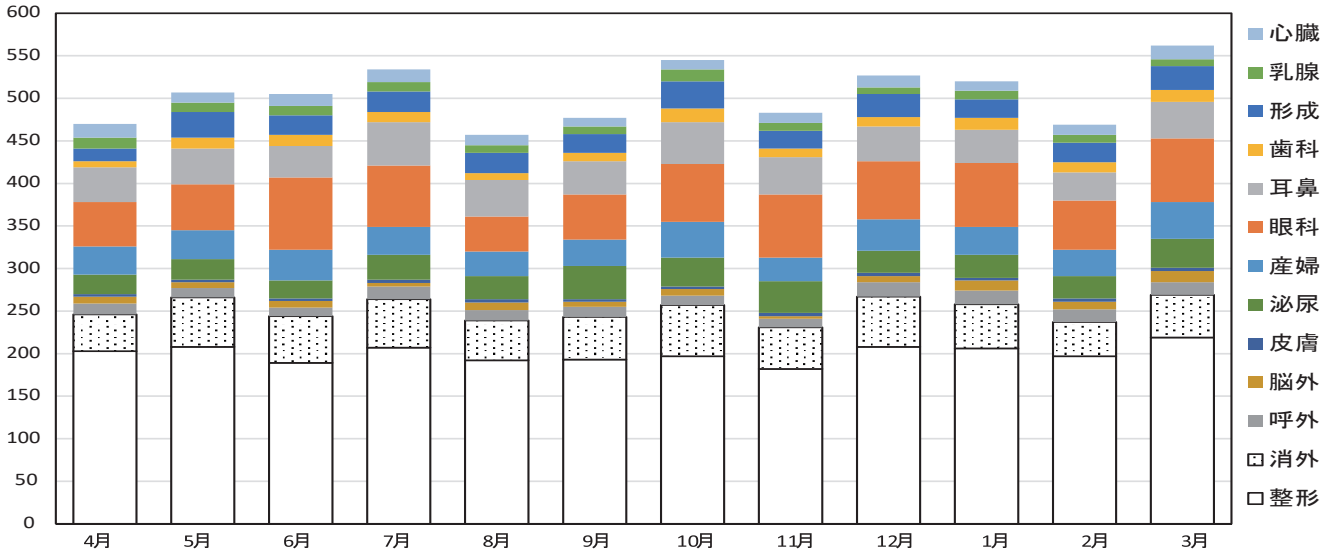

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 420 | 463 | 471 | 470 | 471 | 466 | 447 | 427 | 478 | 484 | 432 | 231 |
| 2024年度 | 464 | 509 | 449 | 577 | 545 | 524 | 491 | 514 | 619 | 556 | 490 | 443 |
| 2025年度 | 512 | 517 | 497 | 477 | 525 | 535 | 522 | 496 | 550 | 514 | 452 | 489 |

■病床稼働率




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 71.4% | 68.2% | 73.6% | 74.7% | 78.2% | 76.4% | 75.1% | 72.6% | 73.2% | 74.4% | 76.9% | 70.8% |
| 2024年度 | 75.2% | 73.7% | 74.1% | 84.1% | 83.2% | 80.9% | 78.4% | 78.5% | 84.3% | 87.1% | 90.1% | 82.7% |
| 2025年度 | 82.7% | 81.2% | 83.5% | 84.1% | 80.3% | 81.9% | 79.3% | 80.1% | 83.3% | 79.4% | 86.7% | 85.1% |

## ■診療科別手術件数（手術室実施分）【2025 年度】




### 【2025 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整形 | 203 | 208 | 189 | 207 | 192 | 193 | 197 | 182 | 208 | 206 | 197 | 219 | 2,401 |
| 消外 | 43 | 58 | 55 | 57 | 47 | 50 | 60 | 49 | 59 | 52 | 40 | 50 | 620 |
| 呼外 | 13 | 11 | 10 | 15 | 12 | 12 | 11 | 10 | 17 | 16 | 15 | 15 | 157 |
| 脳外 | 8 | 7 | 8 | 4 | 9 | 6 | 8 | 3 | 7 | 12 | 9 | 13 | 94 |
| 皮膚 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 | 3 | 3 | 4 | 4 | 3 | 4 | 4 | 42 |
| 泌尿 | 23 | 24 | 21 | 29 | 27 | 39 | 34 | 37 | 26 | 27 | 26 | 34 | 347 |
| 産婦 | 33 | 34 | 36 | 33 | 29 | 31 | 42 | 28 | 37 | 33 | 31 | 43 | 410 |
| 眼科 | 52 | 54 | 85 | 72 | 41 | 53 | 68 | 74 | 68 | 75 | 58 | 75 | 775 |
| 耳鼻 | 41 | 42 | 37 | 51 | 43 | 39 | 49 | 44 | 41 | 39 | 33 | 43 | 502 |
| 歯科 | 7 | 13 | 13 | 12 | 8 | 10 | 16 | 10 | 11 | 14 | 12 | 14 | 140 |
| 形成 | 15 | 30 | 23 | 24 | 24 | 22 | 32 | 21 | 27 | 22 | 23 | 28 | 291 |
| 乳腺 | 13 | 11 | 11 | 11 | 9 | 9 | 14 | 9 | 8 | 10 | 9 | 8 | 122 |
| 心臓 | 16 | 12 | 14 | 15 | 12 | 10 | 11 | 12 | 14 | 11 | 12 | 16 | 155 |
| 合計 | 470 | 507 | 505 | 534 | 457 | 477 | 545 | 483 | 527 | 520 | 469 | 562 | 6,056 |

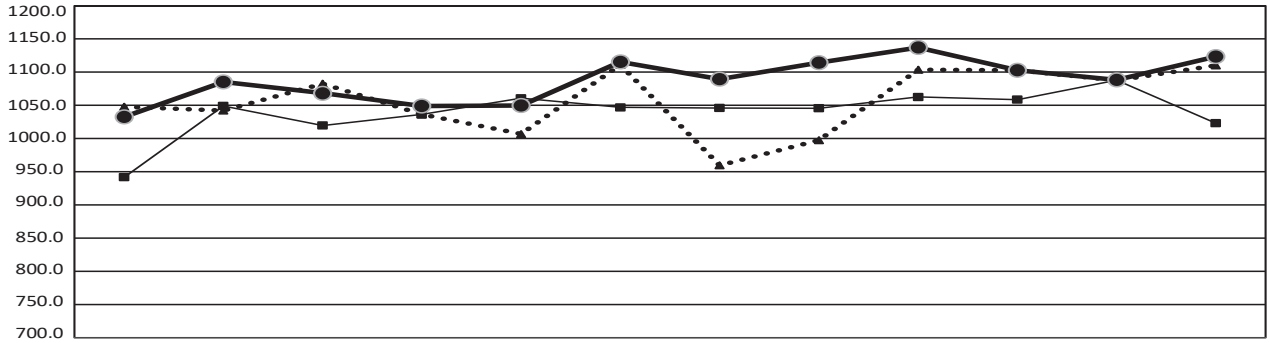
### 【2024 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整形 | 182 | 185 | 176 | 215 | 199 | 174 | 183 | 175 | 199 | 210 | 190 | 183 | 2,271 |
| 形成 | 25 | 31 | 28 | 37 | 30 | 19 | 16 | 26 | 30 | 29 | 24 | 16 | 311 |
| 外科 | 62 | 60 | 55 | 69 | 71 | 64 | 59 | 58 | 60 | 62 | 59 | 59 | 738 |
| 乳腺 | 11 | 10 | 9 | 12 | 13 | 10 | 13 | 13 | 11 | 14 | 13 | 13 | 142 |
| 心臓 | 10 | 9 | 11 | 12 | 10 | 13 | 14 | 8 | 12 | 11 | 11 | 14 | 135 |
| 脳外 | 13 | 11 | 3 | 7 | 5 | 4 | 10 | 12 | 15 | 5 | 9 | 10 | 104 |
| 皮膚 | 2 | 4 | 4 | 4 | 8 | 3 | 2 | 4 | 3 | 4 | 3 | 2 | 43 |
| 泌尿 | 19 | 24 | 13 | 23 | 29 | 22 | 26 | 19 | 26 | 20 | 21 | 26 | 268 |
| 産婦 | 30 | 36 | 31 | 31 | 44 | 32 | 36 | 33 | 35 | 32 | 36 | 36 | 412 |
| 眼科 | 64 | 75 | 69 | 66 | 62 | 59 | 70 | 63 | 55 | 77 | 68 | 70 | 798 |
| 耳鼻 | 35 | 40 | 40 | 38 | 45 | 33 | 39 | 34 | 43 | 33 | 36 | 39 | 455 |
| 歯科 | 7 | 7 | 8 | 6 | 10 | 6 | 8 | 7 | 7 | 11 | 8 | 8 | 93 |
| 合計 | 460 | 492 | 447 | 520 | 526 | 439 | 476 | 452 | 496 | 508 | 478 | 476 | 5,770 |

### 【2023 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 整形 | 185 | 178 | 198 | 188 | 218 | 182 | 188 | 184 | 198 | 175 | 194 | 159 | 2,247 |
| 形成 | 27 | 21 | 31 | 27 | 42 | 32 | 34 | 33 | 26 | 29 | 30 | 18 | 350 |
| 外科 | 58 | 59 | 62 | 53 | 65 | 45 | 54 | 52 | 47 | 55 | 50 | 52 | 652 |
| 乳腺 | 14 | 9 | 10 | 9 | 9 | 11 | 10 | 9 | 9 | 9 | 12 | 9 | 120 |
| 心臓 | 20 | 17 | 13 | 15 | 17 | 14 | 15 | 14 | 13 | 15 | 17 | 15 | 185 |
| 脳外 | 2 | 6 | 10 | 6 | 4 | 4 | 7 | 7 | 11 | 8 | 8 | 9 | 82 |
| 皮膚 | 6 | 3 | 5 | 4 | 2 | 5 | 3 | 6 | 4 | 0 | 3 | 5 | 46 |
| 泌尿 | 17 | 14 | 16 | 14 | 19 | 15 | 19 | 15 | 13 | 15 | 19 | 13 | 189 |
| 産婦 | 23 | 31 | 26 | 33 | 40 | 33 | 35 | 37 | 33 | 34 | 30 | 27 | 382 |
| 眼科 | 92 | 57 | 74 | 62 | 59 | 56 | 85 | 73 | 73 | 55 | 71 | 39 | 796 |
| 耳鼻 | 29 | 32 | 28 | 27 | 38 | 33 | 37 | 33 | 35 | 27 | 33 | 31 | 383 |
| 歯科 | 1 | 2 | 2 | 2 | 5 | 7 | 6 | 3 | 6 | 7 | 7 | 6 | 54 |
| 合計 | 474 | 429 | 475 | 440 | 518 | 437 | 493 | 466 | 468 | 429 | 474 | 383 | 5,486 |

## ■１日平均外来患者数の推移

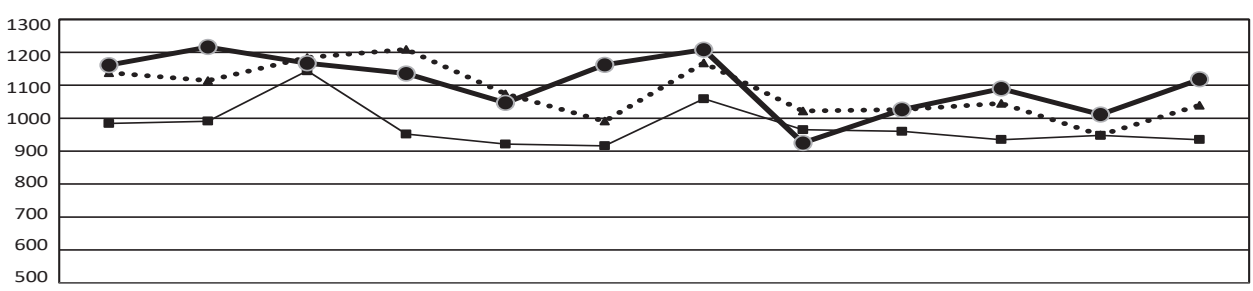



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 941.5 | 1049.1 | 1019.7 | 1036.4 | 1060.7 | 1046.9 | 1045.9 | 1045.6 | 1062.6 | 1058.5 | 1087.9 | 1023.1 |
| 2024年度 | 1047.9 | 1042.1 | 1082.7 | 1036.2 | 1006.8 | 1111.0 | 959.6 | 997.5 | 1103.6 | 1103.0 | 1087.5 | 1110.1 |
| 2025年度 | 1032.6 | 1085.4 | 1068.3 | 1049.0 | 1049.7 | 1115.6 | 1089.6 | 1114.3 | 1137.1 | 1102.7 | 1088.4 | 1123.6 |

## 【2025年度】

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 平均 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 外来日数 | 21.0 | 20.0 | 21.0 | 22.0 | 20.0 | 20.0 | 22.0 | 18.0 | 20.0 | 19.0 | 18.0 | 21.0 | 242.0 |
| 整形外科 | 141.0 | 143.8 | 146.5 | 140.1 | 144.0 | 148.5 | 142.3 | 144.3 | 150.3 | 149.2 | 148.2 | 152.9 | 145.8 |
| 形成外科 | 13.9 | 18.5 | 17.3 | 15.9 | 19.4 | 17.6 | 18.7 | 18.6 | 20.8 | 22.8 | 19.9 | 22.4 | 18.8 |
| リハビリテーション科 | 38.2 | 38.5 | 36.2 | 35.8 | 36.2 | 36.8 | 32.7 | 35.4 | 35.3 | 34.8 | 35.6 | 37.3 | 36.1 |
| 消化器外科 | 29.6 | 35.6 | 35.6 | 32.7 | 35.8 | 38.8 | 35.5 | 35.6 | 37.9 | 34.4 | 37.1 | 37.2 | 35.4 |
| 呼吸器外科 | 6.6 | 5.6 | 6.7 | 6.0 | 7.7 | 8.0 | 7.7 | 6.9 | 8.4 | 7.9 | 8.5 | 7.2 | 7.2 |
| 乳腺内分泌外科 | 35.4 | 38.5 | 37.8 | 31.2 | 33.7 | 41.4 | 38.8 | 40.6 | 41.9 | 36.6 | 34.1 | 39.6 | 37.4 |
| 心臓血管外科 | 6.4 | 5.7 | 5.4 | 6.4 | 6.3 | 6.8 | 6.6 | 5.9 | 5.8 | 6.5 | 6.8 | 7.3 | 6.3 |
| 脳神経外科 | 18.0 | 18.3 | 18.4 | 16.4 | 17.5 | 18.7 | 18.6 | 16.7 | 20.9 | 17.8 | 18.4 | 19.7 | 18.3 |
| 腎臓内科 | 41.9 | 46.2 | 42.5 | 48.3 | 43.8 | 50.0 | 47.2 | 50.7 | 51.3 | 50.8 | 51.4 | 48.2 | 47.6 |
| 糖尿病内分泌内科 | 56.9 | 60.4 | 55.6 | 59.5 | 57.4 | 66.4 | 57.1 | 60.9 | 65.1 | 65.4 | 60.9 | 64.0 | 60.7 |
| 呼吸器内科 | 41.0 | 42.6 | 40.9 | 40.1 | 42.6 | 40.9 | 44.4 | 47.1 | 44.2 | 45.0 | 45.9 | 44.3 | 43.1 |
| 消化器内科 | 106.9 | 112.3 | 108.3 | 104.0 | 104.7 | 106.8 | 111.8 | 117.8 | 110.6 | 100.3 | 109.2 | 113.0 | 108.8 |
| 循環器科 | 86.0 | 86.6 | 84.6 | 80.9 | 72.0 | 76.8 | 80.0 | 79.7 | 80.2 | 79.2 | 72.0 | 74.2 | 79.5 |
| 皮膚科 | 31.8 | 31.7 | 33.4 | 32.1 | 31.6 | 34.0 | 31.9 | 34.6 | 29.7 | 31.8 | 30.2 | 32.7 | 32.1 |
| 泌尿器科 | 36.1 | 37.6 | 37.5 | 35.5 | 35.3 | 42.1 | 40.6 | 40.2 | 44.0 | 39.1 | 37.3 | 41.2 | 38.9 |
| 産婦人科 | 71.5 | 73.4 | 73.8 | 73.6 | 73.0 | 83.9 | 79.8 | 75.1 | 78.4 | 79.3 | 73.4 | 79.1 | 76.2 |
| 眼科 | 66.6 | 78.8 | 73.1 | 74.4 | 71.9 | 70.2 | 72.0 | 73.7 | 80.7 | 80.8 | 78.8 | 79.5 | 74.9 |
| 耳鼻いんこう科 | 27.7 | 27.8 | 28.6 | 29.3 | 32.8 | 33.1 | 30.8 | 33.3 | 34.9 | 31.4 | 31.4 | 35.1 | 31.3 |
| 小児科 | 36.7 | 35.9 | 36.6 | 38.9 | 38.9 | 38.2 | 36.5 | 37.5 | 38.6 | 39.2 | 35.4 | 38.8 | 37.6 |
| 神経精神科 | 24.7 | 24.7 | 24.8 | 25.3 | 24.0 | 28.9 | 25.4 | 27.4 | 28.6 | 27.8 | 26.2 | 26.5 | 26.1 |
| 脳神経内科 | 21.0 | 20.5 | 22.0 | 21.0 | 19.4 | 22.6 | 20.0 | 17.5 | 20.9 | 18.7 | 18.1 | 19.3 | 20.1 |
| 放射線診断科 | 5.1 | 6.1 | 6.3 | 5.9 | 4.5 | 7.0 | 7.7 | 5.6 | 5.6 | 5.8 | 6.4 | 5.4 | 6.0 |
| 放射線治療科 | 9.6 | 13.1 | 13.0 | 8.2 | 9.5 | 11.3 | 14.7 | 14.8 | 11.3 | 6.4 | 10.1 | 9.5 | 10.9 |
| 免疫内科 | 11.9 | 12.5 | 10.9 | 12.6 | 12.7 | 13.2 | 12.3 | 15.1 | 13.1 | 14.3 | 13.9 | 13.9 | 13.0 |
| 感染症内科 | 2.2 | 3.7 | 4.6 | 4.0 | 4.1 | 4.1 | 3.0 | 5.0 | 5.4 | 5.1 | 4.7 | 5.0 | 4.2 |
| 麻酔科 | 11.0 | 11.9 | 13.0 | 13.5 | 13.2 | 13.5 | 13.0 | 13.9 | 13.8 | 14.0 | 14.6 | 14.1 | 13.3 |
| 腫瘍内科 | 0.0 | 0.3 | 0.8 | 1.4 | 1.2 | 2.2 | 2.5 | 3.0 | 2.6 | 3.1 | 3.4 | 3.8 | 2.0 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 34.1 | 35.4 | 33.2 | 34.1 | 37.3 | 34.3 | 36.0 | 39.4 | 37.5 | 36.3 | 38.4 | 31.4 | 35.5 |
| 合計 | 1032.6 | 1085.4 | 1068.3 | 1049.0 | 1049.7 | 1115.6 | 1089.6 | 1114.3 | 1137.1 | 1102.7 | 1088.4 | 1123.6 | 1067.0 |

## ■紹介患者数の推移

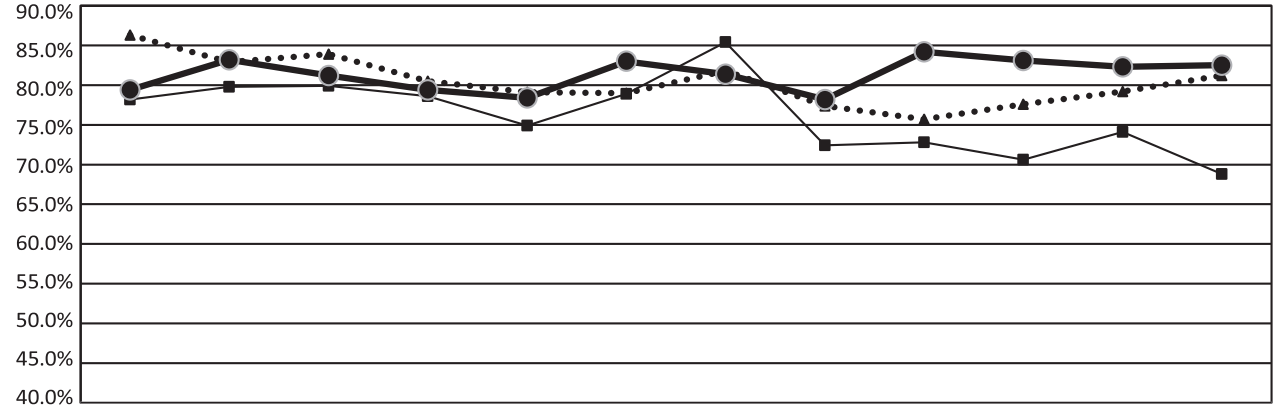



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 984 | 991 | 1144 | 952 | 921 | 916 | 1059 | 965 | 960 | 935 | 948 | 935 |
| 2024年度 | 1138 | 1114 | 1184 | 1209 | 1074 | 991 | 1168 | 1022 | 1026 | 1045 | 949 | 1039 |
| 2025年度 | 1161 | 1216 | 1167 | 1136 | 1047 | 1162 | 1208 | 925 | 1026 | 1090 | 1011 | 1118 |

## ■地域医療支援病院　紹介率と逆紹介率の推移

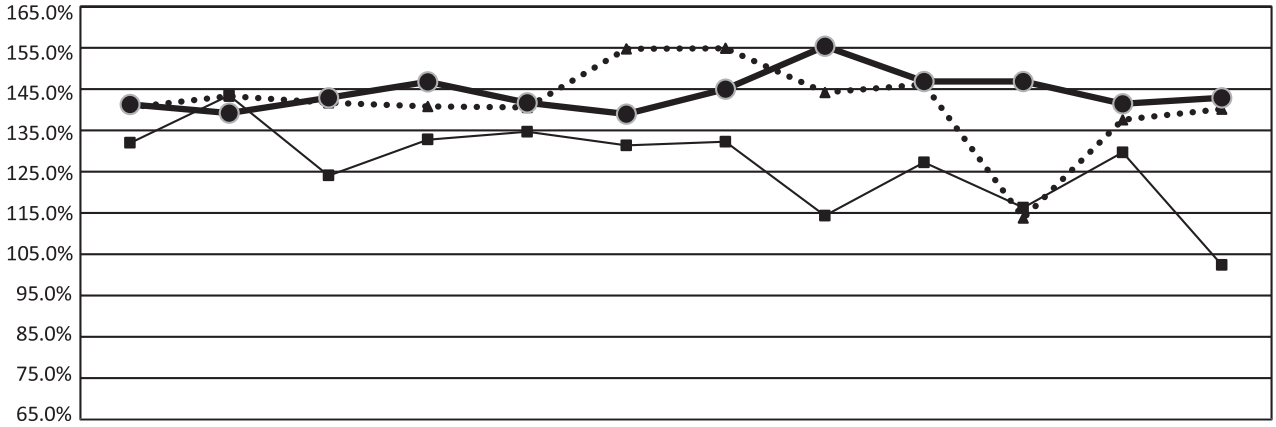
| | 項目 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 紹介率 | 78.2% | 79.8% | 79.9% | 78.6% | 74.9% | 78.9% | 85.4% | 72.4% | 72.8% | 70.6% | 74.1% | 68.8% | 76.1% |
| | 逆紹介率 | 132.0% | 143.5% | 124.1% | 132.8% | 134.7% | 131.4% | 132.3% | 114.4% | 127.3% | 116.3% | 129.7% | 102.4% | 126.4% |
| 2024年度 | 紹介率 | 86.3% | 82.9% | 83.9% | 80.5% | 79.1% | 79.0% | 81.8% | 77.4% | 75.7% | 77.6% | 79.2% | 81.2% | 80.4% |
| | 逆紹介率 | 140.6% | 143.3% | 141.7% | 140.8% | 140.6% | 154.8% | 154.9% | 144.2% | 146.2% | 113.8% | 137.6% | 140.2% | 139.9% |
| 2025年度 | 紹介率 | 79.4% | 83.2% | 81.2% | 79.4% | 78.4% | 83.0% | 81.4% | 78.2% | 84.2% | 83.1% | 82.3% | 82.5% | 81.4% |
| | 逆紹介率 | 141.3% | 139.2% | 142.9% | 146.8% | 141.7% | 139.0% | 145.0% | 155.4% | 146.9% | 146.9% | 141.5% | 142.9% | 141.7% |

## 地域医療支援病院　紹介率の推移




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■ 2023年度 | 78.2% | 79.8% | 79.9% | 78.6% | 74.9% | 78.9% | 85.4% | 72.4% | 72.8% | 70.6% | 74.1% | 68.8% |
| ▲ 2024年度 | 86.3% | 82.9% | 83.9% | 80.5% | 79.1% | 79.0% | 81.8% | 77.4% | 75.7% | 77.6% | 79.2% | 81.2% |
| ● 2025年度 | 79.4% | 83.2% | 81.2% | 79.4% | 78.4% | 83.0% | 81.4% | 78.2% | 84.2% | 83.1% | 82.3% | 82.5% |

## 地域医療支援病院　逆紹介率の推移

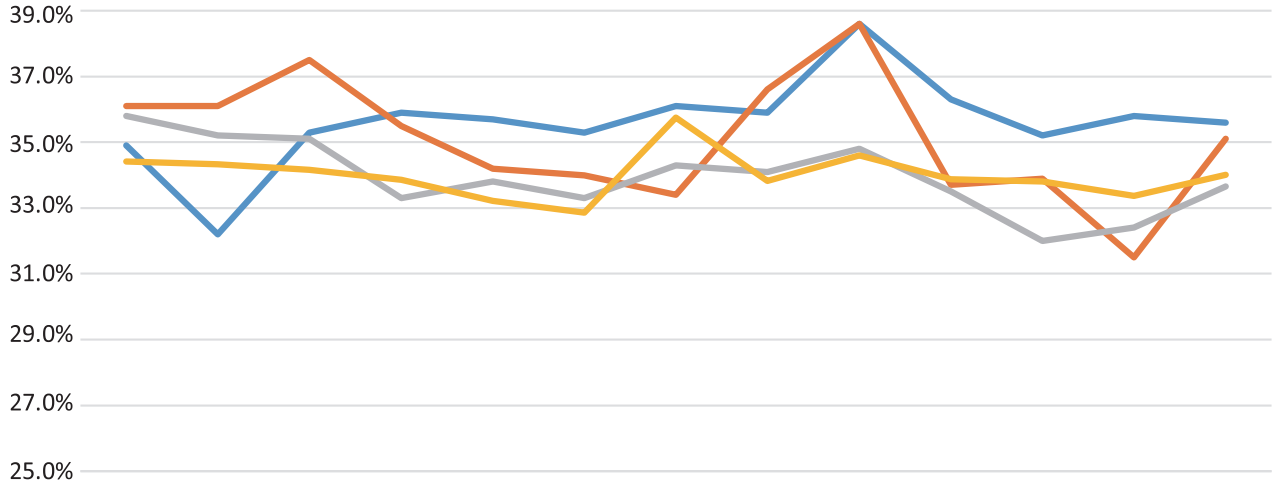



| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■ 2023年度 | 132.0% | 143.5% | 124.1% | 132.8% | 134.7% | 131.4% | 132.3% | 114.4% | 127.3% | 116.3% | 129.7% | 102.4% |
| ▲ 2024年度 | 140.6% | 143.3% | 141.7% | 140.8% | 140.6% | 154.8% | 154.9% | 144.2% | 146.2% | 113.8% | 137.6% | 140.2% |
| ● 2025年度 | 141.3% | 139.2% | 142.9% | 146.8% | 141.7% | 139.0% | 145.0% | 155.4% | 146.9% | 146.9% | 141.5% | 142.9% |

$$\text{紹介率（地域医療支援病院）}\ (65\%\text{ 以上}) = \frac{\text{紹介患者数}}{\text{初診患者} - (\text{救急搬送患者（初診）} + \text{休日夜間救急外来患者（初診）})}$$

$$\text{逆紹介率}\ (40\%\text{ 以上}) = \frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者} - (\text{救急搬送患者（初診）} + \text{休日夜間救急外来患者（初診）})}$$

■重症度、医療・看護必要度の基準を満たす患者割合の推移




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2022年度 | 34.9% | 32.2% | 35.3% | 35.9% | 35.7% | 35.3% | 36.1% | 35.9% | 38.6% | 36.3% | 35.2% | 35.8% | 35.6% |
| 2023年度 | 36.1% | 36.1% | 37.5% | 35.5% | 34.2% | 34.0% | 33.4% | 36.6% | 38.6% | 33.7% | 33.9% | 31.5% | 35.1% |
| 2024年度 | 35.8% | 35.2% | 35.1% | 33.3% | 33.8% | 33.3% | 34.3% | 34.1% | 34.8% | 33.5% | 32.0% | 32.4% | 33.7% |
| 2025年度 | 34.4% | 34.3% | 34.2% | 33.9% | 33.2% | 32.9% | 35.8% | 33.8% | 34.6% | 33.9% | 33.8% | 33.4% | 34.0% |

【2025年度】

| 病棟 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 南 | 45.7% | 45.6% | 39.9% | 41.2% | 38.9% | 37.6% | 45.9% | 41.6% | 43.9% | 42.0% | 42.7% | 42.6% | 42.3% |
| 9 東 | 32.4% | 26.8% | 25.4% | 23.8% | 24.2% | 23.2% | 24.6% | 22.0% | 23.3% | 22.7% | 21.7% | 20.4% | 24.2% |
| 9 西 | 24.5% | 24.5% | 25.3% | 24.5% | 24.5% | 23.5% | 30.0% | 26.9% | 27.0% | 25.0% | 24.2% | 25.0% | 25.4% |
| 10 東 | 40.6% | 35.5% | 38.5% | 38.7% | 38.7% | 37.5% | 35.6% | 34.9% | 35.5% | 34.7% | 35.9% | 38.2% | 37.0% |
| 10 西 | 34.0% | 43.3% | 43.6% | 44.2% | 43.9% | 44.5% | 46.0% | 46.2% | 46.4% | 45.0% | 42.8% | 39.5% | 43.3% |
| 11 東 | 23.4% | 21.9% | 24.7% | 25.9% | 27.0% | 25.3% | 21.9% | 21.9% | 25.3% | 28.8% | 31.0% | 30.6% | 25.6% |
| 11 西 | 22.0% | 23.1% | 19.9% | 22.6% | 22.2% | 24.5% | 26.2% | 25.9% | 23.6% | 23.1% | 23.0% | 25.1% | 23.4% |
| 12 東 | 48.1% | 42.1% | 47.2% | 43.6% | 42.3% | 41.0% | 45.7% | 42.5% | 43.5% | 42.6% | 42.4% | 39.7% | 43.4% |
| 12 西 | 46.3% | 46.1% | 46.0% | 43.3% | 41.2% | 41.8% | 44.1% | 43.4% | 45.1% | 44.5% | 45.3% | 45.0% | 44.4% |
| 13 西 | 41.9% | 41.5% | 35.7% | 35.7% | 34.8% | 35.1% | 42.3% | 38.4% | 39.4% | 38.0% | 37.2% | 34.9% | 37.9% |
| 計 | 34.4% | 34.3% | 34.2% | 33.9% | 33.2% | 32.9% | 35.8% | 33.8% | 34.6% | 33.9% | 33.8% | 33.4% | 34.0% |

【2024 年度】

| 病棟 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 南 | 36.5% | 40.9% | 47.0% | 38.5% | 41.8% | 39.6% | 49.6% | 45.8% | 51.6% | 48.2% | 46.0% | 48.2% | 45.6% |
| 9 東 | 34.7% | 28.2% | 27.8% | 24.1% | 29.7% | 23.5% | 30.3% | 27.7% | 27.3% | 20.4% | 20.1% | 13.9% | 24.5% |
| 9 西 | 35.5% | 39.5% | 25.2% | 32.5% | 27.7% | 28.8% | 28.0% | 28.0% | 29.6% | 26.4% | 28.2% | 25.3% | 28.0% |
| 10 東 | 35.5% | 38.7% | 36.2% | 31.4% | 35.6% | 35.9% | 40.4% | 37.7% | 39.6% | 37.4% | 37.6% | 34.0% | 36.6% |
| 10 西 | 31.1% | 36.7% | 46.2% | 41.4% | 42.4% | 40.8% | 41.0% | 42.7% | 41.3% | 40.3% | 39.8% | 36.6% | 41.3% |
| 11 東 | 22.7% | 19.6% | 25.9% | 29.4% | 22.2% | 27.8% | 26.8% | 27.6% | 28.0% | 29.0% | 21.9% | 27.5% | 26.6% |
| 11 西 | 22.5% | 22.5% | 24.7% | 21.5% | 21.8% | 21.7% | 23.5% | 22.0% | 22.5% | 22.4% | 18.9% | 17.6% | 21.7% |
| 12 東 | 49.2% | 48.1% | 46.9% | 41.3% | 45.2% | 42.5% | 41.0% | 42.2% | 42.9% | 45.0% | 44.3% | 46.2% | 43.8% |
| 12 西 | 55.6% | 51.0% | 43.7% | 43.4% | 45.1% | 41.7% | 43.9% | 42.5% | 46.5% | 45.9% | 43.0% | 45.3% | 44.1% |
| 13 西 | 26.6% | 23.6% | 39.9% | 32.0% | 35.5% | 36.8% | 35.6% | 36.7% | 34.8% | 32.7% | 30.0% | 34.4% | 34.8% |
| 計 | 35.8% | 35.2% | 35.1% | 33.3% | 33.8% | 33.3% | 34.3% | 34.1% | 34.8% | 33.5% | 32.0% | 32.4% | 33.7% |

【2023 年度】

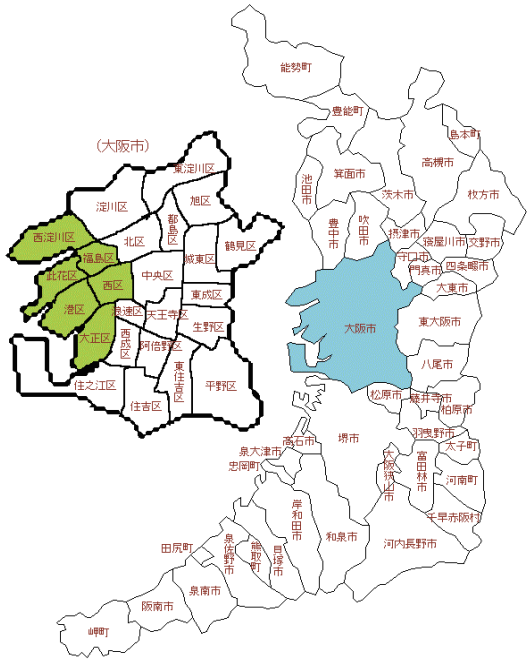
| 病棟 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 南 | 41.5% | 39.2% | 45.5% | 41.0% | 39.5% | 40.3% | 40.6% | 44.7% | 44.3% | 40.6% | 30.9% | 32.8% | 39.8% |
| 9 東 | 19.2% | 20.6% | 21.1% | 19.4% | 15.2% | 16.7% | 24.0% | 24.8% | 16.4% | 18.7% | 27.5% | 20.3% | 20.2% |
| 9 西 | 35.1% | 33.0% | 41.4% | 36.7% | 33.2% | 29.5% | 31.6% | 31.6% | 38.2% | 33.0% | 33.9% | 28.5% | 33.6% |
| 10 東 | 38.1% | 39.9% | 41.7% | 40.8% | 34.9% | 34.5% | 31.7% | 39.9% | 45.6% | 32.1% | 38.7% | 34.0% | 37.6% |
| 10 西 | 42.2% | 37.8% | 38.9% | 35.4% | 34.9% | 30.9% | 37.4% | 33.1% | 37.4% | 35.4% | 35.7% | 34.8% | 36.2% |
| 11 東 | 26.3% | 22.2% | 25.2% | 21.6% | 16.6% | 18.9% | 17.1% | 27.8% | 23.1% | 21.9% | 19.8% | 15.2% | 21.2% |
| 11 西 | 30.3% | 33.1% | 31.6% | 26.5% | 36.0% | 31.6% | 31.5% | 33.0% | 33.2% | 32.6% | 30.8% | 22.6% | 31.3% |
| 12 東 | 46.1% | 47.0% | 50.3% | 47.0% | 48.7% | 53.1% | 44.0% | 50.0% | 55.2% | 47.3% | 43.8% | 45.7% | 48.2% |
| 12 西 | 51.9% | 50.0% | 49.1% | 53.1% | 52.5% | 53.7% | 48.0% | 49.1% | 51.6% | 45.9% | 49.4% | 53.7% | 50.7% |
| 13 西 | 24.9% | 34.3% | 27.1% | 26.6% | 26.2% | 28.6% | 20.9% | 27.2% | 34.8% | 32.4% | 22.8% | 21.0% | 27.1% |
| 計 | 36.1% | 36.1% | 37.5% | 35.5% | 34.2% | 34.0% | 33.4% | 36.6% | 38.6% | 33.7% | 33.9% | 31.5% | 35.1% |

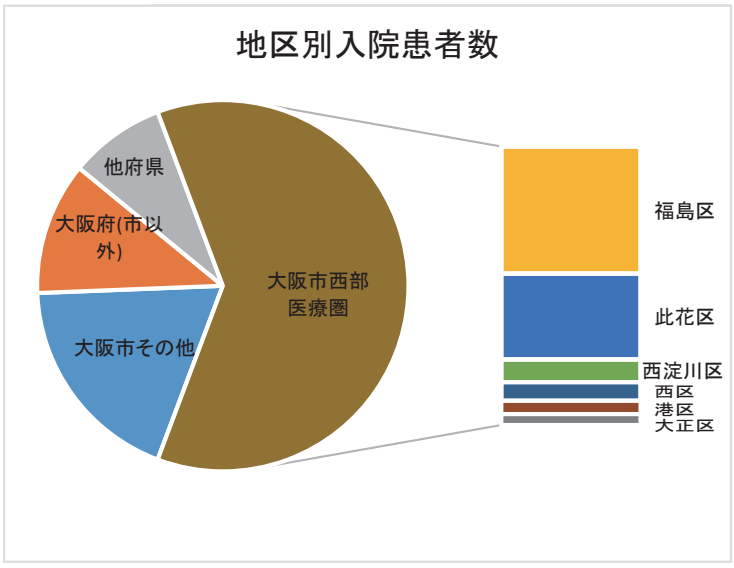
【2022 年度】

| 病棟 | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 8 南 | 32.1% | 37.8% | 42.1% | 45.6% | 30.6% | 40.9% | 44.7% | 33.5% | 45.4% | 38.0% | 45.1% | 47.5% | 40.4% |
| 9 東 | 17.2% | 14.5% | 16.0% | 15.4% | 18.8% | 19.2% | 15.8% | 18.9% | 30.0% | 19.8% | 20.5% | 18.0% | 18.4% |
| 9 西 | 34.9% | 34.0% | 33.7% | 31.5% | 35.0% | 37.2% | 37.2% | 35.4% | 40.1% | 39.3% | 35.4% | 34.0% | 35.7% |
| 10 東 | 36.4% | 29.5% | 35.8% | 39.6% | 36.8% | 36.8% | 41.6% | 37.3% | 39.4% | 37.6% | 39.0% | 32.7% | 36.9% |
| 10 西 | 39.1% | 43.6% | 39.7% | 36.9% | 33.6% | 34.3% | 33.3% | 34.9% | 39.4% | 37.3% | 31.6% | 36.6% | 36.7% |
| 11 東 | 17.3% | 18.6% | 15.4% | 17.6% | 19.5% | 21.0% | 17.7% | 30.3% | 22.2% | 24.8% | 21.5% | 21.4% | 20.5% |
| 11 西 | 37.1% | 23.2% | 26.9% | 35.3% | 33.9% | 29.3% | 27.6% | 36.2% | 32.5% | 32.0% | 31.7% | 31.7% | 31.5% |
| 12 東 | 52.8% | 52.7% | 55.4% | 50.7% | 47.6% | 54.3% | 54.1% | 48.7% | 53.2% | 48.3% | 45.0% | 50.2% | 51.0% |
| 12 西 | 54.6% | 48.0% | 55.3% | 50.6% | 48.1% | 49.7% | 54.7% | 49.8% | 52.6% | 45.0% | 48.4% | 50.3% | 50.5% |
| 13 東 | 48.4% | 41.0% | 36.7% | 47.4% | 53.4% | 33.0% | 63.3% | 45.5% | 38.7% | 50.7% | 61.8% | 69.6% | 47.5% |
| 13 西 | 25.3% | 16.6% | 21.3% | 19.8% | 13.6% | 34.7% | 26.0% | 21.6% | 27.8% | 2.5% | 26.4% | 29.6% | 26.9% |
| 計 | 34.9% | 32.2% | 35.3% | 35.9% | 35.7% | 35.3% | 36.1% | 35.9% | 38.6% | 36.3% | 35.2% | 35.8% | 35.6% |

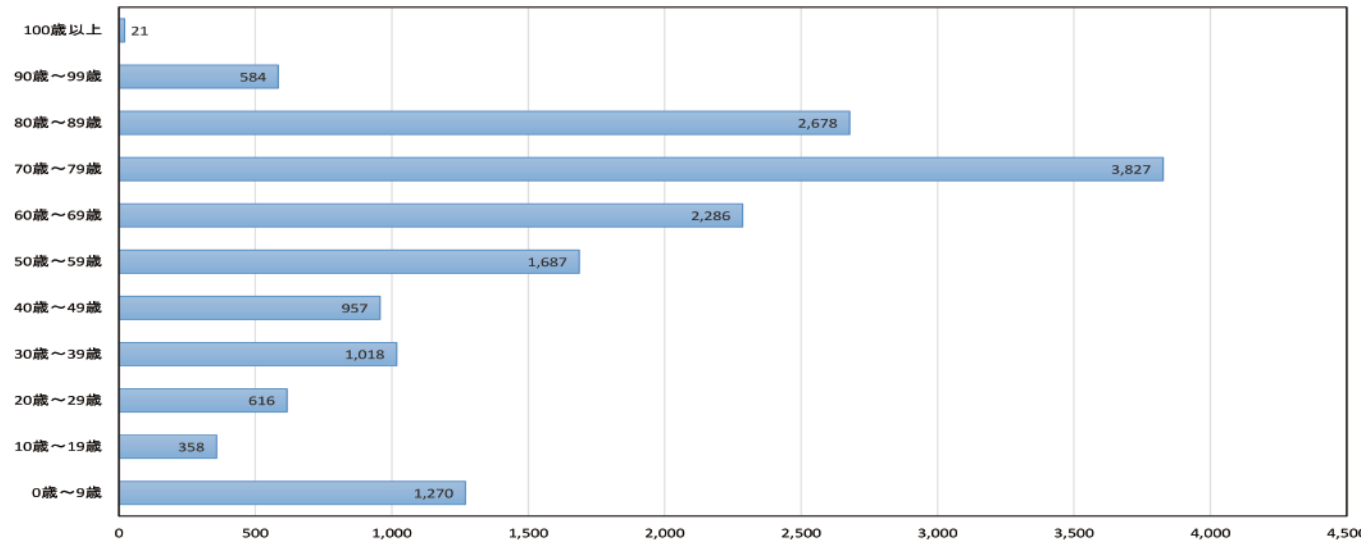
■診療科別住所地別入院患者数【2025 年度】

| 診　療　科 | 大阪市 | | | | | | | その他大阪府 | 他府県 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 福島区 | 此花区 | 西淀川区 | 西区 | 港区 | 大正区 | その他 | | | |
| 整形外科 | 309 | 157 | 137 | 112 | 81 | 83 | 603 | 614 | 337 | 2,433 |
| 形成外科 | 52 | 20 | 4 | 4 | 1 | 2 | 13 | 19 | 11 | 126 |
| 消化器外科 | 284 | 165 | 63 | 63 | 31 | 25 | 152 | 107 | 46 | 936 |
| 呼吸器外科 | 31 | 29 | 11 | 6 | 9 | 6 | 22 | 26 | 3 | 143 |
| 乳腺内分泌外科 | 34 | 34 | 29 | 25 | 7 | 6 | 51 | 45 | 14 | 245 |
| 心臓血管外科 | 19 | 15 | 9 | 7 | 23 | 8 | 20 | 10 | 7 | 118 |
| 脳神経外科 | 116 | 97 | 35 | 23 | 13 | 6 | 47 | 29 | 24 | 390 |
| 腎臓内科 | 165 | 112 | 46 | 22 | 28 | 8 | 58 | 30 | 17 | 486 |
| 糖尿病内分泌内科 | 163 | 122 | 26 | 21 | 15 | 12 | 69 | 50 | 23 | 501 |
| 呼吸器内科 | 255 | 195 | 55 | 31 | 42 | 25 | 103 | 66 | 30 | 802 |
| 免疫内科 | 7 | 8 | 4 | 3 | 4 | 3 | 5 | 3 | 1 | 38 |
| 消化器内科 | 726 | 454 | 121 | 98 | 58 | 59 | 377 | 313 | 200 | 2,406 |
| 循環器科 | 383 | 326 | 106 | 77 | 79 | 36 | 259 | 104 | 54 | 1,424 |
| 皮膚科 | 63 | 44 | 16 | 10 | 5 | 7 | 32 | 14 | 9 | 200 |
| 泌尿器科 | 201 | 93 | 33 | 29 | 39 | 6 | 102 | 57 | 43 | 603 |
| 産婦人科 | 420 | 78 | 33 | 102 | 16 | 15 | 304 | 131 | 73 | 1,172 |
| 眼科 | 151 | 194 | 50 | 18 | 7 | 5 | 124 | 127 | 96 | 772 |
| 耳鼻いんこう科 | 145 | 65 | 26 | 41 | 24 | 5 | 158 | 100 | 41 | 605 |
| 小児科 | 476 | 101 | 31 | 192 | 43 | 11 | 311 | 82 | 43 | 1,290 |
| 脳神経内科 | 128 | 120 | 32 | 16 | 16 | 9 | 43 | 32 | 25 | 421 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 59 | 31 | 21 | 11 | 3 | 3 | 35 | 14 | 14 | 191 |
| 合計 | 4,187 | 2,460 | 888 | 911 | 544 | 340 | 2,888 | 1,973 | 1,111 | 15,302 |



## 年齢階層別新入院患者数【2025 年度】




## 【2025 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 104 | 117 | 99 | 117 | 98 | 122 | 119 | 95 | 102 | 97 | 103 | 97 | 1,270 |
| 10 歳～ 19 歳 | 16 | 21 | 22 | 34 | 42 | 29 | 23 | 20 | 32 | 37 | 27 | 55 | 358 |
| 20 歳～ 29 歳 | 50 | 42 | 45 | 51 | 56 | 65 | 42 | 66 | 54 | 40 | 55 | 50 | 616 |
| 30 歳～ 39 歳 | 92 | 79 | 93 | 85 | 99 | 80 | 88 | 79 | 94 | 86 | 58 | 85 | 1,018 |
| 40 歳～ 49 歳 | 75 | 85 | 69 | 109 | 70 | 75 | 86 | 65 | 70 | 80 | 74 | 99 | 957 |
| 50 歳～ 59 歳 | 139 | 151 | 139 | 140 | 149 | 135 | 138 | 148 | 129 | 139 | 141 | 139 | 1,687 |
| 60 歳～ 69 歳 | 188 | 162 | 208 | 182 | 192 | 187 | 214 | 204 | 186 | 188 | 175 | 200 | 2,286 |
| 70 歳～ 79 歳 | 344 | 293 | 315 | 316 | 309 | 324 | 333 | 312 | 312 | 320 | 307 | 342 | 3,827 |
| 80 歳～ 89 歳 | 230 | 255 | 242 | 223 | 190 | 198 | 233 | 210 | 223 | 240 | 200 | 234 | 2,678 |
| 90 歳～ 99 歳 | 52 | 48 | 43 | 54 | 49 | 46 | 40 | 47 | 60 | 61 | 40 | 44 | 584 |
| 100 歳以上 | 4 | 2 | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 4 | 1 | 2 | 0 | 4 | 21 |
| 合計 | 1,294 | 1,255 | 1,278 | 1,311 | 1,255 | 1,261 | 1,316 | 1,250 | 1,263 | 1,290 | 1,180 | 1,349 | 15,302 |

## 【2024 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 97 | 112 | 100 | 116 | 111 | 106 | 100 | 108 | 133 | 108 | 111 | 96 | 1,298 |
| 10 歳～ 19 歳 | 21 | 21 | 22 | 35 | 36 | 33 | 24 | 27 | 36 | 27 | 28 | 35 | 345 |
| 20 歳～ 29 歳 | 31 | 40 | 41 | 45 | 65 | 45 | 48 | 57 | 46 | 46 | 50 | 41 | 555 |
| 30 歳～ 39 歳 | 89 | 99 | 65 | 84 | 95 | 89 | 78 | 81 | 78 | 76 | 82 | 82 | 998 |
| 40 歳～ 49 歳 | 90 | 69 | 72 | 75 | 88 | 93 | 90 | 52 | 68 | 76 | 65 | 74 | 912 |
| 50 歳～ 59 歳 | 161 | 133 | 134 | 157 | 154 | 145 | 160 | 142 | 161 | 169 | 126 | 135 | 1,777 |
| 60 歳～ 69 歳 | 166 | 184 | 178 | 214 | 184 | 170 | 190 | 162 | 219 | 184 | 171 | 199 | 2,221 |
| 70 歳～ 79 歳 | 263 | 293 | 310 | 367 | 302 | 319 | 317 | 281 | 292 | 328 | 292 | 304 | 3,668 |
| 80 歳～ 89 歳 | 228 | 218 | 197 | 249 | 228 | 199 | 210 | 203 | 259 | 242 | 244 | 234 | 2,711 |
| 90 歳～ 99 歳 | 49 | 48 | 47 | 61 | 63 | 61 | 40 | 46 | 59 | 59 | 64 | 37 | 634 |
| 100 歳以上 | 2 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 | 12 |
| 合計 | 1,197 | 1,217 | 1,167 | 1,404 | 1,326 | 1,260 | 1,258 | 1,160 | 1,352 | 1,316 | 1,236 | 1,238 | 15,131 |

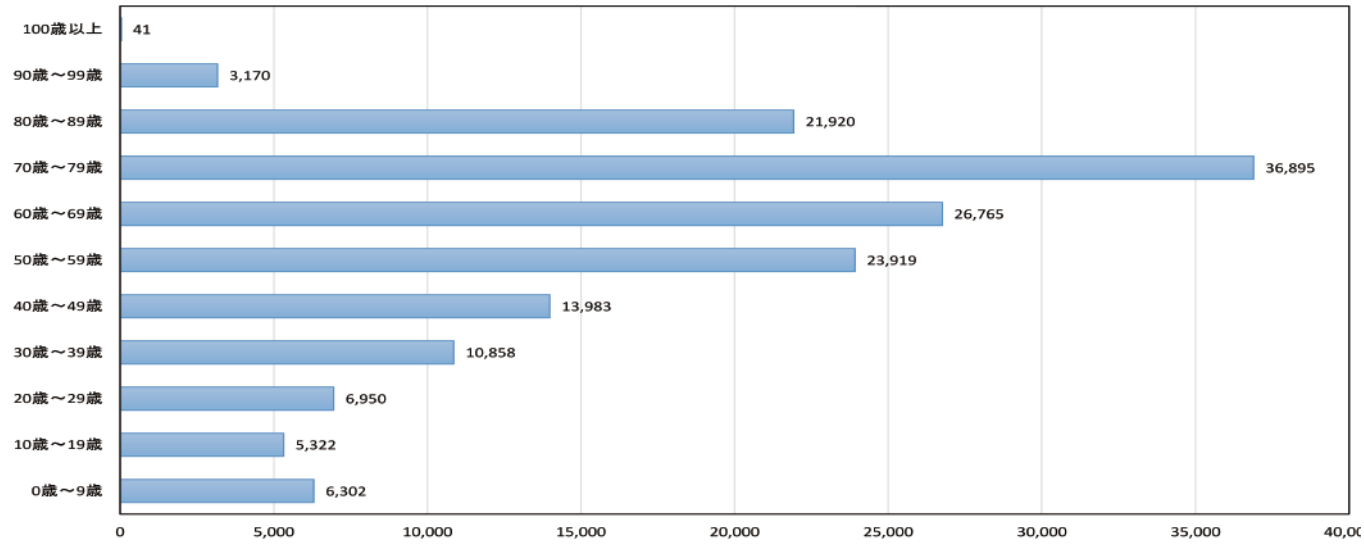
## 【2023 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 60 | 55 | 70 | 122 | 99 | 66 | 50 | 61 | 58 | 63 | 54 | 58 | 816 |
| 10 歳～ 19 歳 | 20 | 18 | 20 | 25 | 35 | 23 | 17 | 17 | 32 | 22 | 28 | 29 | 286 |
| 20 歳～ 29 歳 | 33 | 50 | 35 | 38 | 45 | 44 | 38 | 36 | 41 | 37 | 41 | 39 | 477 |
| 30 歳～ 39 歳 | 74 | 62 | 54 | 80 | 81 | 84 | 81 | 96 | 83 | 76 | 67 | 67 | 905 |
| 40 歳～ 49 歳 | 81 | 85 | 81 | 91 | 78 | 69 | 88 | 61 | 75 | 68 | 92 | 82 | 951 |
| 50 歳～ 59 歳 | 148 | 129 | 154 | 117 | 131 | 124 | 144 | 127 | 149 | 156 | 160 | 116 | 1,655 |
| 60 歳～ 69 歳 | 180 | 168 | 184 | 152 | 196 | 149 | 192 | 169 | 176 | 184 | 165 | 130 | 2,045 |
| 70 歳～ 79 歳 | 287 | 265 | 344 | 293 | 304 | 286 | 347 | 297 | 286 | 337 | 301 | 299 | 3,646 |
| 80 歳～ 89 歳 | 204 | 215 | 227 | 190 | 209 | 208 | 191 | 241 | 234 | 210 | 202 | 175 | 2,506 |
| 90 歳～ 99 歳 | 44 | 55 | 37 | 46 | 50 | 33 | 36 | 29 | 49 | 67 | 28 | 28 | 502 |
| 100 歳以上 | 0 | 2 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 7 |
| 合計 | 1,131 | 1,104 | 1,206 | 1,154 | 1,228 | 1,087 | 1,184 | 1,134 | 1,184 | 1,220 | 1,140 | 1,024 | 13,796 |

## 【2022 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 58 | 56 | 66 | 125 | 95 | 61 | 45 | 57 | 52 | 57 | 47 | 65 | 784 |
| 10 歳～ 19 歳 | 19 | 19 | 19 | 26 | 34 | 21 | 15 | 16 | 29 | 20 | 24 | 33 | 275 |
| 20 歳～ 29 歳 | 32 | 51 | 33 | 39 | 43 | 40 | 34 | 34 | 37 | 34 | 36 | 44 | 457 |
| 30 歳～ 39 歳 | 71 | 64 | 51 | 82 | 78 | 77 | 73 | 90 | 74 | 69 | 58 | 75 | 862 |
| 40 歳～ 49 歳 | 78 | 87 | 76 | 94 | 75 | 63 | 79 | 57 | 67 | 62 | 80 | 92 | 910 |
| 50 歳～ 59 歳 | 143 | 132 | 145 | 120 | 126 | 114 | 129 | 119 | 133 | 142 | 139 | 130 | 1,572 |
| 60 歳～ 69 歳 | 173 | 173 | 173 | 156 | 188 | 137 | 172 | 158 | 157 | 168 | 143 | 146 | 1,944 |
| 70 歳～ 79 歳 | 277 | 274 | 324 | 302 | 290 | 264 | 311 | 279 | 256 | 305 | 264 | 337 | 3,483 |
| 80 歳～ 89 歳 | 197 | 221 | 214 | 195 | 201 | 191 | 171 | 226 | 209 | 191 | 175 | 197 | 2,388 |
| 90 歳～ 99 歳 | 42 | 56 | 35 | 47 | 48 | 30 | 32 | 27 | 44 | 61 | 24 | 31 | 477 |
| 100 歳以上 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 7 |
| 合計 | 1,090 | 1,134 | 1,136 | 1,186 | 1,179 | 998 | 1,061 | 1,063 | 1,059 | 1,112 | 990 | 1,151 | 13,159 |

## 年齢階層別外来実患者数【2025 年度】




### 【2025 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 521 | 501 | 576 | 569 | 531 | 525 | 571 | 474 | 528 | 520 | 430 | 556 | 6,302 |
| 10 歳～ 19 歳 | 450 | 385 | 398 | 475 | 588 | 388 | 396 | 350 | 485 | 427 | 393 | 587 | 5,322 |
| 20 歳～ 29 歳 | 525 | 560 | 544 | 598 | 620 | 577 | 594 | 500 | 610 | 544 | 613 | 665 | 6,950 |
| 30 歳～ 39 歳 | 867 | 878 | 841 | 913 | 861 | 959 | 1,000 | 881 | 957 | 925 | 812 | 964 | 10,858 |
| 40 歳～ 49 歳 | 1,097 | 1,093 | 1,197 | 1,241 | 1,177 | 1,225 | 1,225 | 1,074 | 1,202 | 1,142 | 1,077 | 1,233 | 13,983 |
| 50 歳～ 59 歳 | 1,995 | 1,961 | 2,033 | 2,040 | 1,937 | 2,000 | 2,110 | 1,854 | 2,042 | 1,928 | 1,908 | 2,111 | 23,919 |
| 60 歳～ 69 歳 | 2,191 | 2,212 | 2,253 | 2,206 | 2,160 | 2,222 | 2,366 | 2,187 | 2,249 | 2,230 | 2,126 | 2,363 | 26,765 |
| 70 歳～ 79 歳 | 3,099 | 3,096 | 3,184 | 3,078 | 2,824 | 3,203 | 3,261 | 2,862 | 3,164 | 2,992 | 2,906 | 3,226 | 36,895 |
| 80 歳～ 89 歳 | 1,864 | 1,869 | 1,963 | 1,823 | 1,688 | 1,930 | 1,942 | 1,720 | 1,872 | 1,750 | 1,624 | 1,875 | 21,920 |
| 90 歳～ 99 歳 | 255 | 265 | 250 | 286 | 241 | 247 | 275 | 260 | 288 | 267 | 258 | 278 | 3,170 |
| 100 歳以上 | 3 | 5 | 2 | 3 | 2 | 1 | 4 | 6 | 3 | 5 | 2 | 5 | 41 |
| 合計 | 12,867 | 12,825 | 13,241 | 13,232 | 12,629 | 13,277 | 13,744 | 12,168 | 13,400 | 12,730 | 12,149 | 13,863 | 156,125 |

### 【2024 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 429 | 475 | 445 | 605 | 527 | 521 | 509 | 476 | 490 | 450 | 440 | 541 | 5,909 |
| 10 歳～ 19 歳 | 378 | 355 | 361 | 439 | 518 | 358 | 358 | 338 | 429 | 392 | 321 | 501 | 4,747 |
| 20 歳～ 29 歳 | 496 | 474 | 435 | 621 | 569 | 446 | 441 | 415 | 445 | 478 | 500 | 555 | 5,876 |
| 30 歳～ 39 歳 | 822 | 845 | 787 | 918 | 845 | 828 | 802 | 833 | 837 | 854 | 786 | 854 | 10,010 |
| 40 歳～ 49 歳 | 1,119 | 1,088 | 1,179 | 1,210 | 1,143 | 1,120 | 1,173 | 1,190 | 1,152 | 1,146 | 1,157 | 1,288 | 13,966 |
| 50 歳～ 59 歳 | 1,859 | 1,832 | 1,981 | 1,926 | 1,798 | 1,855 | 2,016 | 1,831 | 1,961 | 1,932 | 1,854 | 2,003 | 22,847 |
| 60 歳～ 69 歳 | 2,034 | 1,994 | 2,105 | 2,024 | 2,002 | 2,078 | 2,242 | 2,029 | 2,107 | 2,092 | 1,999 | 2,158 | 24,865 |
| 70 歳～ 79 歳 | 3,229 | 3,076 | 3,127 | 3,123 | 3,020 | 3,209 | 3,363 | 3,151 | 3,144 | 3,172 | 2,995 | 3,190 | 37,798 |
| 80 歳～ 89 歳 | 2,152 | 2,118 | 2,140 | 2,071 | 1,962 | 2,125 | 2,286 | 2,134 | 2,180 | 1,834 | 1,743 | 1,958 | 24,704 |
| 90 歳～ 99 歳 | 333 | 318 | 324 | 335 | 308 | 316 | 362 | 327 | 325 | 261 | 237 | 260 | 3,706 |
| 100 歳以上 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 6 | 4 | 6 | 6 | 6 | 2 | 52 |
| 合計 | 12,855 | 12,579 | 12,888 | 13,274 | 12,695 | 12,861 | 13,559 | 12,729 | 13,075 | 12,617 | 12,037 | 13,310 | 154,479 |

### 【2023 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 419 | 484 | 469 | 591 | 542 | 531 | 509 | 487 | 497 | 449 | 467 | 512 | 5,957 |
| 10 歳～ 19 歳 | 369 | 361 | 380 | 429 | 532 | 365 | 358 | 346 | 435 | 391 | 341 | 474 | 4,781 |
| 20 歳～ 29 歳 | 485 | 483 | 458 | 606 | 585 | 455 | 441 | 425 | 451 | 477 | 531 | 525 | 5,922 |
| 30 歳～ 39 歳 | 803 | 860 | 830 | 896 | 868 | 844 | 802 | 852 | 849 | 852 | 834 | 808 | 10,098 |
| 40 歳～ 49 歳 | 1,094 | 1,108 | 1,243 | 1,181 | 1,174 | 1,141 | 1,172 | 1,218 | 1,169 | 1,144 | 1,228 | 1,219 | 14,091 |
| 50 歳～ 59 歳 | 1,817 | 1,865 | 2,088 | 1,880 | 1,847 | 1,890 | 2,015 | 1,874 | 1,989 | 1,928 | 1,968 | 1,895 | 23,056 |
| 60 歳～ 69 歳 | 1,988 | 2,030 | 2,219 | 1,976 | 2,057 | 2,118 | 2,241 | 2,076 | 2,137 | 2,088 | 2,122 | 2,042 | 25,094 |
| 70 歳～ 79 歳 | 3,156 | 3,132 | 3,296 | 3,049 | 3,103 | 3,270 | 3,362 | 3,224 | 3,189 | 3,165 | 3,179 | 3,018 | 38,143 |
| 80 歳～ 89 歳 | 2,103 | 2,156 | 2,256 | 2,022 | 2,016 | 2,165 | 2,285 | 2,184 | 2,212 | 1,830 | 1,850 | 1,853 | 24,932 |
| 90 歳～ 99 歳 | 325 | 324 | 341 | 327 | 316 | 322 | 362 | 335 | 330 | 260 | 252 | 246 | 3,740 |
| 100 歳以上 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 6 | 4 | 6 | 6 | 6 | 2 | 53 |
| 合計 | 12,563 | 12,806 | 13,584 | 12,960 | 13,044 | 13,106 | 13,553 | 13,025 | 13,264 | 12,590 | 12,778 | 12,594 | 155,867 |

### 【2022 年度】

| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 0 歳～ 9 歳 | 432 | 483 | 469 | 613 | 552 | 538 | 488 | 478 | 487 | 434 | 437 | 555 | 5,966 |
| 10 歳～ 19 歳 | 380 | 360 | 380 | 445 | 542 | 370 | 343 | 339 | 427 | 378 | 319 | 514 | 4,797 |
| 20 歳～ 29 歳 | 499 | 482 | 458 | 629 | 596 | 461 | 423 | 417 | 442 | 461 | 497 | 569 | 5,934 |
| 30 歳～ 39 歳 | 826 | 858 | 830 | 929 | 884 | 856 | 769 | 836 | 833 | 823 | 781 | 876 | 10,101 |
| 40 歳～ 49 歳 | 1,126 | 1,105 | 1,243 | 1,225 | 1,196 | 1,157 | 1,124 | 1,195 | 1,147 | 1,105 | 1,149 | 1,322 | 14,094 |
| 50 歳～ 59 歳 | 1,870 | 1,860 | 2,088 | 1,950 | 1,882 | 1,917 | 1,933 | 1,838 | 1,951 | 1,862 | 1,842 | 2,055 | 23,048 |
| 60 歳～ 69 歳 | 2,046 | 2,024 | 2,219 | 2,050 | 2,096 | 2,148 | 2,149 | 2,036 | 2,096 | 2,017 | 1,986 | 2,214 | 25,081 |
| 70 歳～ 79 歳 | 3,248 | 3,123 | 3,296 | 3,163 | 3,162 | 3,316 | 3,225 | 3,162 | 3,128 | 3,057 | 2,975 | 3,273 | 38,128 |
| 80 歳～ 89 歳 | 2,164 | 2,150 | 2,256 | 2,098 | 2,054 | 2,196 | 2,192 | 2,142 | 2,169 | 1,767 | 1,731 | 2,010 | 24,929 |
| 90 歳～ 99 歳 | 334 | 323 | 341 | 339 | 322 | 327 | 347 | 329 | 324 | 251 | 236 | 267 | 3,740 |
| 100 歳以上 | 4 | 3 | 4 | 3 | 4 | 5 | 6 | 4 | 6 | 6 | 6 | 2 | 53 |
| 合計 | 12,929 | 12,771 | 13,584 | 13,444 | 13,290 | 13,291 | 12,999 | 12,776 | 13,010 | 12,161 | 11,959 | 13,657 | 155,871 |

# 病 歴 統 計

## ■退院患者数及び平均在院日数

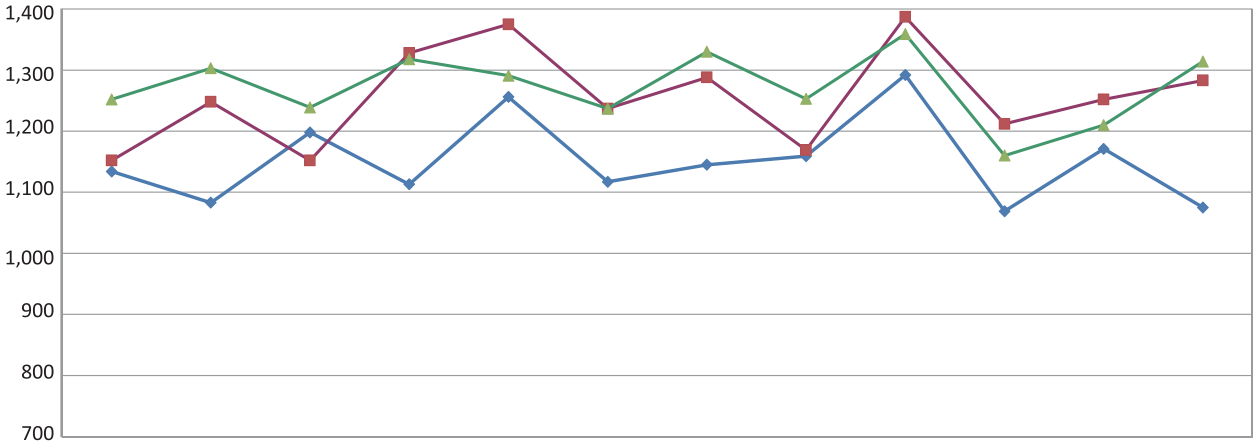
### 【2025 年度】

| 大分類表 | | 退院患者数（人） | | | 延在院日数（日） | | | 退院患者平均在院日数（日） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 1 感染症及び寄生虫症 | A00-B99 | 224 | 193 | 417 | 2,173 | 1,774 | 3,947 | 9.70 | 9.19 | 9.47 |
| 2 新生物 | C00-D48 | 1,318 | 1,353 | 2,671 | 14,735 | 12,223 | 26,958 | 11.18 | 9.03 | 10.09 |
| 3 血液及び造血器の疾患ならびに免疫機構の障害 | D50-89 | 44 | 59 | 103 | 532 | 612 | 1,144 | 12.09 | 10.37 | 11.11 |
| 4 内分泌、栄養及び代謝疾患 | E00-90 | 278 | 225 | 503 | 2,391 | 2,342 | 4,733 | 8.60 | 10.41 | 9.41 |
| 5 精神および行動の障害 | F00-90 | 11 | 17 | 28 | 52 | 78 | 130 | 4.73 | 4.59 | 4.64 |
| 6 神経系の疾患 | G00-99 | 200 | 197 | 397 | 1,738 | 1,500 | 3,238 | 8.69 | 7.61 | 8.16 |
| 7 眼および付属器の疾患 | H00-59 | 320 | 418 | 738 | 1,205 | 1,409 | 2,614 | 3.77 | 3.37 | 3.54 |
| 8 耳および乳様突起の疾患 | H60-95 | 46 | 53 | 99 | 182 | 236 | 418 | 3.96 | 4.45 | 4.22 |
| 9 循環器系の疾患 | I00-99 | 1,122 | 752 | 1,874 | 12,645 | 9,965 | 22,610 | 11.27 | 13.25 | 12.07 |
| 10 呼吸器系の疾患 | J00-99 | 853 | 602 | 1,455 | 8,571 | 6,647 | 15,218 | 10.05 | 11.04 | 10.46 |
| 11 消化器系の疾患 | K00-93 | 1,172 | 888 | 2,060 | 7,089 | 5,854 | 12,943 | 6.05 | 6.59 | 6.28 |
| 12 皮膚および皮下組織の疾患 | L00-99 | 92 | 77 | 169 | 895 | 991 | 1,886 | 9.73 | 12.87 | 11.16 |
| 13 筋骨格系および結合組織の疾患 | M00-99 | 769 | 928 | 1,697 | 10,527 | 15,003 | 25,530 | 13.69 | 16.17 | 15.04 |
| 14 尿路性器系の疾患 | N00-99 | 282 | 397 | 679 | 3,222 | 4,032 | 7,254 | 11.43 | 10.16 | 10.68 |
| 15 妊娠，分娩および産じょく＜褥＞ | O00-99 | 0 | 654 | 654 | 0 | 4,799 | 4,799 | 0 | 7.34 | 7.34 |
| 16 周産期に発生した病態 | P00-96 | 191 | 188 | 379 | 1,529 | 1,337 | 2,866 | 8.01 | 7.11 | 7.56 |
| 17 先天奇形，変形および染色体異常 | Q00-99 | 19 | 28 | 47 | 92 | 271 | 363 | 4.84 | 9.68 | 7.72 |
| 18 症状，徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの | R00-99 | 42 | 59 | 101 | 265 | 553 | 818 | 6.31 | 9.37 | 8.10 |
| 19 損傷，中毒およびその他の外因の影響 | S00-T98 | 595 | 537 | 1,132 | 6,291 | 6,665 | 12,956 | 10.57 | 12.41 | 11.45 |
| 20 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用 | Z00-99 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0.00 | 0.00 | 0.00 |
| 21 特殊目的コード | U00-U89 | 34 | 29 | 63 | 410 | 264 | 674 | 12.06 | 9.10 | 10.70 |
| 合　　計 | | 7,612 | 7,654 | 15,266 | 74,544 | 76,555 | 151,099 | 9.79 | 10.00 | 9.90 |

### 【2025 年度】

| 診療科 | 退院患者数（人） | | | 延在院日数（日） | | | 退院患者平均在院日数（日） | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 | 男 | 女 | 計 |
| 整形外科 | 1,144 | 1,298 | 2,442 | 14,696 | 20,028 | 34,724 | 12.85 | 15.43 | 14.22 |
| 形成外科 | 65 | 62 | 127 | 443 | 488 | 931 | 6.82 | 7.87 | 7.33 |
| 消化器外科 | 559 | 424 | 983 | 7,083 | 4,876 | 11,959 | 12.67 | 11.50 | 12.17 |
| 呼吸器外科 | 86 | 58 | 144 | 1,031 | 478 | 1,509 | 11.99 | 8.24 | 10.48 |
| 乳腺内分泌外科 | 0 | 246 | 246 | 0 | 1,831 | 1,831 | 0.00 | 7.44 | 7.44 |
| 心臓血管外科 | 78 | 45 | 123 | 1,966 | 1,084 | 3,050 | 25.21 | 24.09 | 24.80 |
| 脳神経外科 | 204 | 176 | 380 | 3,434 | 2,653 | 6,087 | 16.83 | 15.07 | 16.02 |
| 腎臓内科 | 241 | 235 | 476 | 2,947 | 2,932 | 5,879 | 12.23 | 12.48 | 12.35 |
| 糖尿病内分泌内科 | 251 | 224 | 475 | 3,151 | 2,710 | 5,861 | 12.55 | 12.10 | 12.34 |
| 呼吸器内科 | 429 | 356 | 785 | 7,202 | 5,680 | 12,882 | 16.79 | 15.96 | 16.41 |
| 消化器内科 | 1,350 | 1,021 | 2,371 | 9,016 | 7,524 | 16,540 | 6.68 | 7.37 | 6.98 |
| 循環器内科 | 838 | 570 | 1,408 | 7,409 | 6,377 | 13,786 | 8.84 | 11.19 | 9.79 |
| 免疫内科 | 24 | 30 | 54 | 361 | 430 | 791 | 15.04 | 14.33 | 14.65 |
| 皮膚科 | 106 | 92 | 198 | 1,039 | 1,044 | 2,083 | 9.80 | 11.35 | 10.52 |
| 泌尿器科 | 506 | 106 | 612 | 4,231 | 1,166 | 5,397 | 8.36 | 11.00 | 8.82 |
| 産婦人科 | 0 | 1,179 | 1,179 | 0 | 7,938 | 7,938 | 0.00 | 6.73 | 6.73 |
| 眼科 | 341 | 428 | 769 | 1,337 | 1,544 | 2,881 | 3.92 | 3.61 | 3.75 |
| 耳鼻咽喉科 | 355 | 248 | 603 | 1,788 | 1,358 | 3,146 | 5.04 | 5.48 | 5.22 |
| 小児科 | 731 | 555 | 1,286 | 3,869 | 2,995 | 6,864 | 5.29 | 5.40 | 5.34 |
| 脳神経内科 | 220 | 198 | 418 | 3,271 | 2,960 | 6,231 | 14.87 | 14.95 | 14.91 |
| 歯科・歯科口腔外科 | 84 | 103 | 187 | 270 | 459 | 729 | 3.21 | 4.46 | 3.90 |
| 合　　計 | 7,612 | 7,654 | 15,266 | 74,544 | 76,555 | 151,099 | 9.79 | 226 | 224 |

## ■退院患者数の推移




| | 4 月 | 5 月 | 6 月 | 7 月 | 8 月 | 9 月 | 10 月 | 11 月 | 12 月 | 1 月 | 2 月 | 3 月 | 合計 | 死亡 | 剖検 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023 年度 | 1,134 | 1,083 | 1,198 | 1,113 | 1,256 | 1,117 | 1,145 | 1,159 | 1,292 | 1,069 | 1,171 | 1,075 | 13,812 | 242 | 10 |
| 2024 年度 | 1,152 | 1,248 | 1,152 | 1,328 | 1,375 | 1,237 | 1,288 | 1,169 | 1,387 | 1,212 | 1,252 | 1,283 | 15,083 | 244 | 5 |
| 2025 年度 | 1,252 | 1,303 | 1,239 | 1,318 | 1,291 | 1,237 | 1,330 | 1,253 | 1,359 | 1,160 | 1,210 | 1,314 | 15,266 | 177 | 7 |

## ■診療科別　退院患者数・手術件数・合併症数【2025 年度】

| 診 療 科 | 退院患者数 | 手術件数（＊） | ESD 件数 | カテ治療件数 | 合併症 | | 合併症内訳 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | 合併症総数 | 発生率 | 感　染 | 出　血 | 縫合不全 | 穿刺・裂傷 | 機械的合併症 | その他 |
| 整形外科 | 2442 | 2293 | | | 61 | 2.7% | 21 | 9 | 8 | 19 | 4 | |
| 形成外科 | 127 | 146 | | | 2 | 1.4% | | | 2 | | | |
| 消化器外科 | 983 | 603 | | 3 | 32 | 5.3% | 15 | 2 | 7 | 3 | 1 | 4 |
| 呼吸器外科 | 144 | 157 | | | 3 | 1.9% | | 3 | | | | |
| 乳腺内分泌外科 | 246 | 120 | | | 1 | 0.8% | 1 | | | | | |
| 心臓血管外科 | 123 | 126 | | 10 | 11 | 8.1% | 1 | 6 | 1 | 1 | | 2 |
| 脳神経外科 | 380 | 87 | | 37 | 1 | 0.8% | | | | 1 | | |
| 腎臓内科 | 476 | | | 78 | 0 | 5.3% | | | | | | |
| 糖尿病内分泌内科 | 475 | | | | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 呼吸器内科 | 785 | | | 6 | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 消化器内科 | 2371 | 14(14 ※ 1) | 231 | 25 | 6 | 1.1% | | 6 | | | | |
| 循環器内科 | 1408 | 23(0 ※ 2) | | 657 | 7 | 1.0% | 2 | 1 | 1 | 3 | | |
| 免疫内科 | 54 | | | | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 皮膚科 | 198 | 18 | | | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 泌尿器科 | 612 | 344 | | 2 | 6 | 1.7% | 1 | 1 | | 4 | | |
| 産婦人科 | 1179 | 411 | | 3 | 4 | 1.0% | 1 | 1 | | 2 | | |
| 眼科 | 769 | 761 | | | 2 | 0.3% | | | | | 1 | 1 |
| 耳鼻咽喉科 | 603 | 499 | | | 9 | 1.8% | 1 | 7 | | 1 | | |
| 小児科 | 1286 | | | | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 脳神経内科 | 418 | | | 12 | 0 | 0.0% | | | | | | |
| 歯科・歯科口腔外科 | 187 | 1311 | | | 2 | 0.2% | 1 | | | | | 1 |
| 合計 | 15266 | 5733(14) | 231 | 833 | 147 | 1.5% | 44 | 36 | 19 | 34 | 6 | 8 |

＊手術件数は手術室で行った手術の件数　　手術室で行った ESD( ※ 1)、カテ治療 ( ※ 2) は（　　）をもって再掲とする

## ■悪性新生物部位別　術後合併症件数【2025 年度】

| | 感染 | 出血 | 縫合不全 | 穿刺・裂傷 | その他 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 胃・十二指腸 | 2 | 1 | | | 2 | 5 |
| 大腸（含直腸） | 3 | | 2 | 3 | | 8 |
| 肺 | 1 | | | | | 1 |
| 肝 | | | | | | 0 |
| 乳房 | | | | | | 0 |
| 前立腺 | | | | 2 | | 2 |

＊ ESD は含まない

## Ⅰ．死亡原因別死亡数【2025 年度】

| | 整形外科 | 形成外科 | 消化器外科 | 呼吸器外科 | 乳腺内分泌外科 | 心臓血管外科 | 脳神経外科 | 腎臓内科 | 糖尿病内分泌内科 | 呼吸器内科 | 消化器内科 | 循環器内科 | 免疫内科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 産婦人科 | 眼科 | 耳鼻咽喉科 | 小児科 | 脳神経内科 | 歯科・歯科口腔外科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 診療科別死亡数 | 3 | | 13 | 1 | 5 | 3 | 15 | 17 | 11 | 35 | 35 | 27 | | 1 | 3 | 1 | | | | 7 | | 177 |
| 麻酔による死亡数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 術後１ヶ月以内の死亡数 | 0 | | 2 | 0 | 1 | 3 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | | 0 | 0 | 0 | | | | 0 | | 10 |
| 産婦出生による死亡数 | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | | | | | 0 |
| 新生児（生後２８日以内）死亡数 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 | | | 0 |
| （再掲） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | (0) | | | (0) |
| 入院４８時間以内死亡数 | 1 | | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 2 | 3 | 2 | 6 | 5 | | 0 | 1 | 0 | | | | 2 | | 26 |

注）新生児死亡数欄で院外出生の死亡数は（　　）をもって再掲とする。

## Ⅱ．麻酔件数・手術件数・分娩件数【2025 年度】

| | 整形外科 | 形成外科 | 消化器外科 | 呼吸器外科 | 乳腺内分泌外科 | 心臓血管外科 | 脳神経外科 | 腎臓内科 | 糖尿病内分泌内科 | 呼吸器内科 | 消化器内科 | 循環器内科 | 免疫内科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 産婦人科 | 眼科 | 耳鼻咽喉科 | 小児科 | 脳神経内科 | 歯科・歯科口腔外科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 手術件数 | 2,293 | 146 | 603 | 157 | 120 | 126 | 87 | | | | 14 | 23 | | 18 | 344 | 411 | 761 | 499 | | | 131 | 5,733 |
| 麻酔件数 | 2,293 | 131 | 597 | 155 | 120 | 125 | 87 | | | | 13 | 23 | | 18 | 337 | 409 | 761 | 496 | | | 129 | 5,694 |
| （全身麻酔件数）再掲 | (2,143) | (65) | (573) | (155) | (119) | (120) | (50) | | | | (13) | (23) | | (0) | (172) | (212) | (15) | (484) | | | (82) | (4,226) |

## Ⅲ．分娩件数・新生児数【2025 年度】

| | | |
|---|---|---|
| 分娩件数 | 521 | (96) |
| 新生児数 | 523 | (7) |

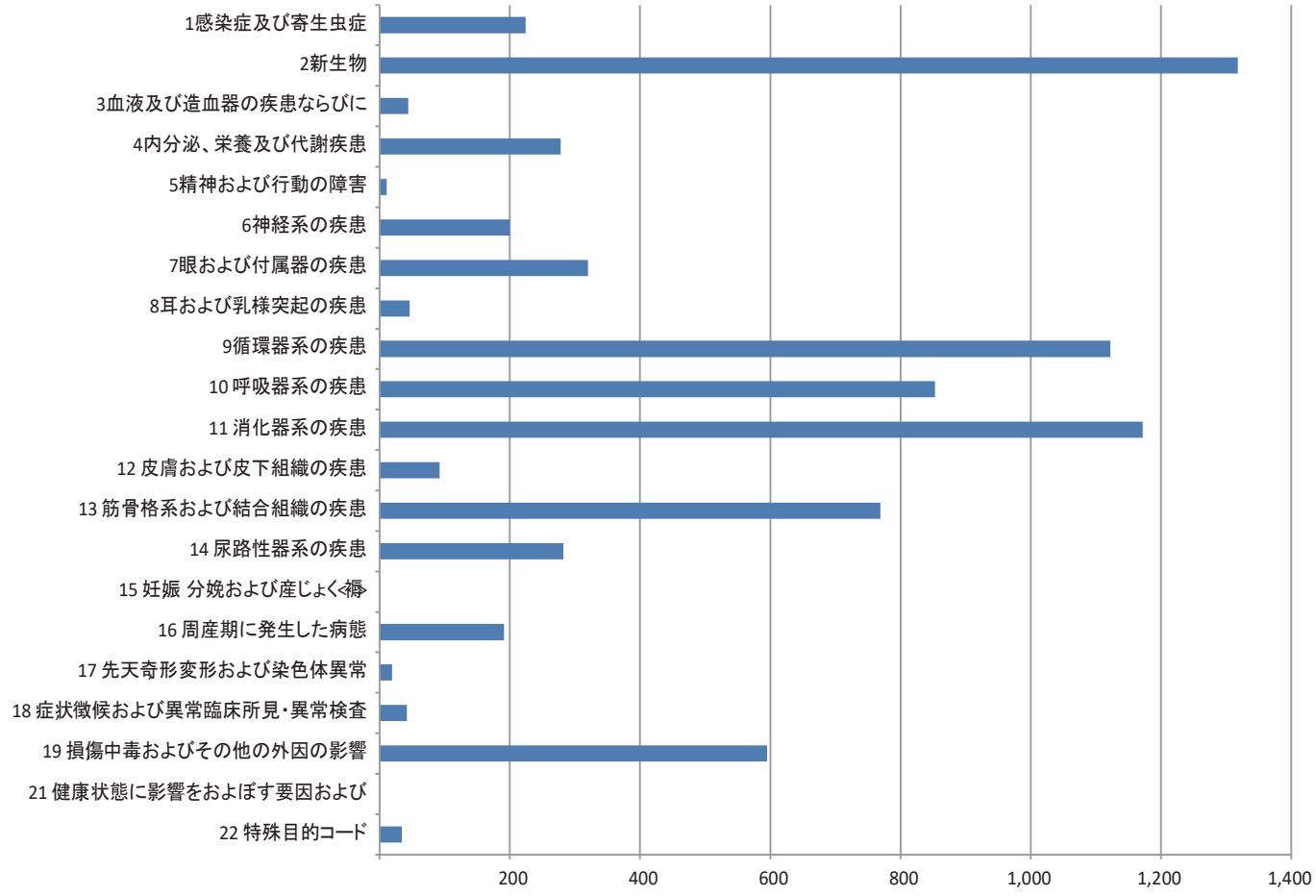
注）分娩件数で帝王切開の数、および新生児数欄で院外出生の数は（　　）をもって再掲とする。

## Ⅳ．退院患者診療科別転帰統計【2025 年度】

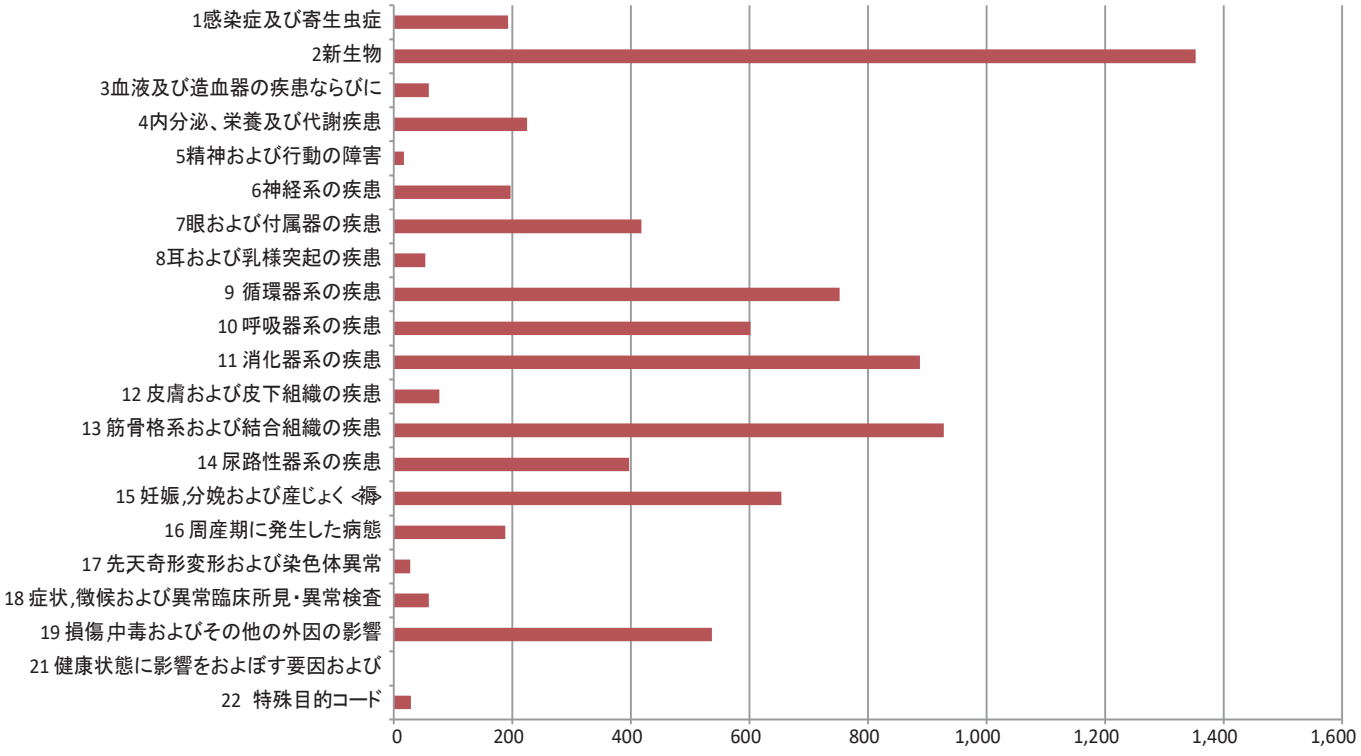
| | 整形外科 | 形成外科 | 消化器外科 | 呼吸器外科 | 乳腺内分泌外科 | 心臓血管外科 | 脳神経外科 | 腎臓内科 | 糖尿病内分泌内科 | 呼吸器内科 | 消化器内科 | 循環器内科 | 免疫内科 | 皮膚科 | 泌尿器科 | 産婦人科 | 眼科 | 耳鼻咽喉科 | 小児科 | 脳神経内科 | 歯科・歯科口腔外科 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 治癒 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 軽快 | 2,109 | 120 | 818 | 129 | 203 | 93 | 195 | 381 | 381 | 471 | 1,958 | 1,081 | 48 | 182 | 434 | 541 | 748 | 600 | 1,017 | 266 | 184 | 11,959 |
| 寛解 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 0 |
| 不変 | 6 | 3 | 112 | 4 | 26 | 3 | 7 | 21 | 14 | 74 | 47 | 31 | 2 | 2 | 21 | 81 | 10 | 1 | 68 | 25 | 2 | 560 |
| 増悪 | | | | | | | | | | 4 | | 1 | | | | 1 | | | | | | 6 |
| 死亡 | 3 | | 13 | 1 | 5 | 3 | 15 | 17 | 11 | 35 | 35 | 27 | | 1 | 3 | 1 | | | | 7 | | 177 |
| （剖検） | | | | | | | | (1) | (1) | (2) | (3) | | | | | | | | | | | (7) |
| 転院 | 319 | 4 | 29 | 10 | 7 | 14 | 140 | 32 | 38 | 71 | 64 | 65 | 4 | 10 | 16 | 12 | 1 | 2 | 9 | 114 | | 961 |
| 検了 | 2 | | 11 | | 5 | 10 | 22 | 25 | 29 | 129 | 263 | 198 | | 3 | 138 | 24 | 10 | | 190 | 2 | | 1,061 |
| 自己退院 | 2 | | | | | | 1 | | 2 | 1 | 4 | 5 | | | | 1 | | | 2 | 4 | 1 | 23 |
| 分娩 | | | | | | | | | | | | | | | | 518 | | | | | | 518 |
| 合計 | 2,442 | 127 | 983 | 144 | 246 | 123 | 380 | 476 | 475 | 785 | 2,371 | 1,408 | 54 | 198 | 612 | 1,179 | 769 | 603 | 1,286 | 418 | 187 | 15,266 |

注）死亡欄で剖検数は（　　）をもって再掲とする。

■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（男）【2025 年度】




■疾病（大分類）別・性別・退院患者数（女）【2025 年度】



## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（男）【2025 年度】

| 2025 年度　退院患者数（男） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ 感染症及び寄生虫症** | | | | | | | | | | | | **224** | **2,173** |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 8 | 27 | 9 | 13 | 1 | 5 | 4 | | 7 | 7 | 81 | 400 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | 1 | | | 2 | 3 | 40 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | 2 | 7 | | | 2 | 1 | 3 | 11 | 7 | 21 | 54 | 950 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | | | | 3 | | | | 3 | 32 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 6 |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | 1 | 7 | 1 | 1 | 3 | 6 | 4 | 2 | 8 | 11 | 44 | 399 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | | 1 | 1 | | 1 | | 1 | 1 | 5 | 61 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 14 | 11 | 2 | | | 1 | | | | 1 | 29 | 180 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | 1 | | 1 | 1 | 3 | 100 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 5 |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | | | | | | | | |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅱ -1 新生物（腫瘍）悪性** | | | | | | | | | | | | **1,225** | **14,014** |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | | 2 | 2 | 1 | 6 | 40 |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | 6 | 4 | 19 | 21 | 9 | 59 | 890 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | | | 1 | 16 | 26 | 49 | 28 | 120 | 1,382 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | 1 | 3 | 2 | 3 | 1 | 10 | 118 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | 5 | 6 | 8 | 47 | 56 | 24 | 146 | 1,234 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | | 1 | 3 | 18 | 16 | 27 | 12 | 77 | 869 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 3 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | 4 | 3 | 11 | 32 | 23 | 73 | 902 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | 2 | | 6 | 3 | 8 | 19 | 360 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | 1 | | | 6 | 5 | 26 | 17 | 55 | 732 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | 4 | | 3 | 5 | 40 | 117 | 56 | 225 | 3,540 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 2 | 2 | 2 | 6 | 34 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | | | | 3 | 4 | 40 |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 2 | 8 | 16 | 62 | 87 | 34 | 209 | 1,138 |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 4 | 10 | 23 | 57 | 54 | 148 | 1,925 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 1 | | | 3 | 1 | | 5 | 219 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 10 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | 4 | 14 | 16 | 10 | 45 | 485 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 5 | 1 | 6 | 2 | 14 | 91 |
| C97 | 独立した ( 原発性 ) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | | | | | 1 | 2 |
| **Ⅱ -2 新生物（腫瘍）良性** | | | | | | | | | | | | **93** | **721** |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | 1 | | 2 | 2 | 4 | 5 | 9 | 12 | 15 | 3 | 53 | 445 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | 1 | | | 2 | 8 | 7 | 10 | 9 | 3 | 40 | 276 |
| **Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害** | | | | | | | | | | | | **44** | **532** |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | 1 | | | 1 | | 3 | 1 | 3 | 2 | 11 | 86 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | | | 6 | 6 | 39 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 7 | | | 2 | 2 | 1 | | 1 | 2 | 15 | 285 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | 1 | 1 | 2 | 2 | 3 | 1 | 10 | 117 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | 1 | | | | 1 | | 2 | 5 |
| **Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患** | | | | | | | | | | | | **278** | **2,391** |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | | | | | 1 | | | 2 | 3 | 21 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | 4 | 4 | 10 | 15 | 25 | 32 | 22 | 112 | 1,372 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | 3 | | | | | | 3 | 1 | 1 | 8 | 130 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | 23 | 18 | | 1 | 4 | 1 | 4 | 4 | 1 | 56 | 213 |
| E40-E46 | 栄養失調 ( 症 ) | | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 6 |
| E65-E68 | 肥満 ( 症 ) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | 1 | | | | | | | | | 1 | 2 |
| E70-E90 | 代謝障害 | | 46 | 6 | | | 2 | 4 | 11 | 6 | 22 | 97 | 647 |

| 2025 年度　退院患者数（男） | | 0 歳 | 1 歳～9 歳 | 10 歳～19 歳 | 20 歳～29 歳 | 30 歳～39 歳 | 40 歳～49 歳 | 50 歳～59 歳 | 60 歳～69 歳 | 70 歳～79 歳 | 80 歳～ | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅴ　精神及び行動の障害** | | | | | | | | | | | | **11** | **52** |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | | 2 | | | 2 | 2 | | | 6 | 24 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分［感情］障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 5 |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | 1 | | | 1 | | | 2 | 20 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | | | | | | | | | | |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | 2 | | | | | | | | | 2 | 3 |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅵ　神経系の疾患** | | | | | | | | | | | | **200** | **1,738** |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | 1 | | | 2 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | | 11 | 244 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | | 2 | 1 | 2 | | 5 | 67 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | 1 | 4 | 4 | 6 | 15 | 272 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 | 22 |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 92 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | 1 | 23 | 5 | 3 | 6 | 9 | 4 | 10 | 14 | 9 | 84 | 467 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 2 | 2 | 2 | 1 | 9 | 14 | 15 | 3 | 48 | 195 |
| G60-G64 | 多発 ( 性 ) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | | | | 2 | 2 | 5 | 3 | 1 | 13 | 125 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | 2 | | | | | | 3 | 1 | 6 | 115 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | | | | | | | | |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | | 1 | | | 2 | 2 | 2 | 3 | 4 | 1 | 15 | 139 |
| **Ⅶ　眼及び付属器の疾患** | | | | | | | | | | | | **320** | **1,205** |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | | | 1 | | | 1 | 2 | 4 | 2 | 2 | 12 | 60 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | 1 | | | | | 1 | | | 2 | 23 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | 1 | 5 | 6 | 30 | 42 | 82 | 36 | 202 | 378 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | 3 | 1 | 1 | 5 | 8 | 10 | 4 | 32 | 287 |
| H40-H42 | 緑内障 | | 1 | | | 5 | 2 | 8 | 5 | 19 | 7 | 47 | 260 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | 2 | 2 | 3 | 5 | 3 | 2 | 17 | 140 |
| H46-H48 | 視神経及び視 ( 覚 ) 路の障害 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 4 |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | 2 | 2 | 1 | | 5 | 32 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 21 |
| **Ⅷ　耳及び乳様突起の疾患** | | | | | | | | | | | | **46** | **182** |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 3 |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 6 | | | | | 1 | 1 | | | 8 | 26 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | | 5 | 4 | 5 | 5 | 6 | 25 | 114 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | 7 | 1 | | 2 | 1 | | | | 1 | | 12 | 39 |
| **Ⅸ　循環器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **1,122** | **12,645** |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | 1 | 1 | 1 | | 3 | 188 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | | | 1 | 1 | | | 2 | 13 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | | 5 | 16 | 61 | 74 | 129 | 63 | 348 | 2,341 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | | 4 | 1 | 1 | | 6 | 123 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | | 4 | 4 | 12 | 36 | 68 | 138 | 132 | 394 | 4,430 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | | 4 | 18 | 32 | 39 | 78 | 64 | 235 | 3,883 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | | 1 | 4 | 15 | 44 | 26 | 90 | 1,185 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | 1 | 2 | 1 | 2 | 7 | 10 | 12 | 5 | 40 | 413 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | 1 | | | 1 | | | | 2 | 4 | 69 |
| **Ⅹ　呼吸器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **853** | **8,571** |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 6 | 27 | 3 | 9 | 10 | 7 | 2 | 3 | | 2 | 69 | 342 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 15 | 65 | 1 | 2 | 6 | 3 | 9 | 11 | 46 | 71 | 229 | 2,483 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 26 | 21 | | 1 | | | | | | 3 | 51 | 230 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | 1 | 16 | 9 | 31 | 46 | 42 | 46 | 33 | 14 | 7 | 245 | 1,152 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | 10 | 33 | 1 | | 3 | 1 | 5 | 4 | 12 | 16 | 85 | 722 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | 1 | | 5 | | 1 | 1 | 3 | 3 | 15 | 44 | 73 | 1,847 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | 1 | | | 1 | 2 | 15 | 4 | 23 | 566 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | 1 | 3 | 7 | 4 | 5 | 4 | 24 | 547 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | 2 | 5 | 1 | 2 | 4 | 6 | 12 | 9 | 41 | 516 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | 3 | 1 | 4 | 13 | 166 |
| **ⅩⅠ　消化器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **1,172** | **7,089** |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | | 3 | 11 | 13 | 9 | 9 | 9 | 8 | 7 | 69 | 211 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 10 | 13 | 15 | 8 | 53 | 444 |
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | 2 | 7 | 8 | 12 | 6 | 4 | 1 | 3 | 43 | 336 |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | | | 11 | 20 | 20 | 12 | 63 | 375 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | | | 11 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 4 | | 21 | 181 |

| 2025 年度　退院患者数（男） | | 0 歳 | 1 歳〜9 歳 | 10 歳〜19 歳 | 20 歳〜29 歳 | 30 歳〜39 歳 | 40 歳〜49 歳 | 50 歳〜59 歳 | 60 歳〜69 歳 | 70 歳〜79 歳 | 80 歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | 1 | 2 | 1 | 4 | 3 | 11 | 133 |
| K56 | 腸閉塞 | | 1 | 3 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 15 | 13 | 41 | 594 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 6 | 2 | 5 | 16 | 20 | 26 | 18 | 93 | 814 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 1 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | | 1 | 1 | 3 | 5 | 3 | 13 | 46 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | | 6 | 20 | 88 | 132 | 175 | 63 | 484 | 1,149 |
| K64 | 痔核 | | | | | 2 | 1 | 3 | 6 | | 2 | 14 | 70 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | 1 | | 1 | 1 | | | 1 | 1 | 5 | 119 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | | 6 | 1 | 9 | 10 | 3 | 10 | 39 | 476 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | 2 | 14 | 13 | 21 | 40 | 48 | 46 | 184 | 1,799 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | 1 | 1 | | 2 | 5 | 7 | 12 | 10 | 38 | 341 |
| **XII　皮膚及び皮下組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **92** | **895** |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | 1 | 4 | 7 | 2 | 1 | 5 | 6 | 10 | 15 | 11 | 62 | 674 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | | 1 | 4 | 5 | 51 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | 1 | | 1 | | | | 1 | | | 3 | 26 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | | | |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | 1 | 2 | | | | 1 | | 1 | | | 5 | 56 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線 ( 非電離及び電離 ) に関連する障害 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | 1 | 2 | 1 | | 2 | 3 | 2 | 11 | 26 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | | | | 2 | 1 | 2 | | 5 | 60 |
| **XIII　筋骨格系及び結合組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **769** | **10,527** |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | | 2 | 1 | 7 | 3 | 2 | 15 | 555 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | | | 1 | 1 | 6 | 8 | 16 | 220 |
| M15-M19 | 関節症 | | | | 4 | 1 | 5 | 27 | 59 | 39 | 23 | 158 | 2,806 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | 1 | 6 | 18 | 9 | 15 | 16 | 16 | 3 | | 84 | 734 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 4 | 12 | | | 11 | | 4 | 5 | 4 | 4 | 44 | 402 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | 2 | 1 | 4 | 7 | 7 | 6 | 27 | 386 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | | 7 | 32 | 49 | 96 | 38 | 222 | 3,453 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 1 | 6 | 11 | 14 | 8 | 7 | 12 | 5 | 64 | 540 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | | 1 | | | | 1 | 1 | 3 | 49 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | 1 | 3 | 1 | 3 | 3 | 8 | 21 | 8 | 5 | 53 | 258 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | 1 | 5 | 12 | 13 | 7 | 5 | 43 | 580 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | 4 | 2 | 1 | | | 1 | 1 | | 9 | 67 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | 1 | | | 3 | 3 | | 2 | | 9 | 206 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | 1 | 13 | | | | | | | | 14 | 98 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | 1 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 3 | 8 | 173 |
| **XIV　腎尿路生殖器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **282** | **3,222** |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | | | 1 | 4 | 1 | 3 | 6 | 4 | 4 | 23 | 378 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | 1 | | 1 | 2 | | 3 | 6 | 8 | 22 | 15 | 58 | 659 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | 3 | 1 | 2 | 6 | 11 | 11 | 21 | 55 | 718 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 1 | 2 | 8 | 7 | 5 | 1 | 24 | 105 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | 2 | 1 | 4 | 2 | 9 | 125 |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 3 | 1 | | 1 | | | 1 | 1 | 21 | 42 | 70 | 903 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | 2 | 2 | 1 | 6 | 17 | 15 | 43 | 334 |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | | | | | | | | | |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **XV　妊娠、分娩及び産じょく‹褥›** | | | | | | | | | | | | | |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | | | | | | | | | | |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | | | | | | | | |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | | | | | | | | | |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | | | | | | | | | |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O80-O84 | 分娩 | | | | | | | | | | | | |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| **XVI　周産期に発生した病態** | | | | | | | | | | | | **191** | **1,529** |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 24 | | | | | | | | | | 24 | 183 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 20 | | | | | | | | | | 20 | 293 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 45 | | | | | | | | | | 45 | 410 |
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | 32 | | | | | | | | | | 32 | 230 |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 34 | | | | | | | | | | 34 | 178 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 30 | | | | | | | | | | 30 | 208 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | 6 | | | | | | | | | | 6 | 27 |

| 2025 年度　退院患者数（男） | | 0 歳 | 1 歳〜9 歳 | 10 歳〜19 歳 | 20 歳〜29 歳 | 30 歳〜39 歳 | 40 歳〜49 歳 | 50 歳〜59 歳 | 60 歳〜69 歳 | 70 歳〜79 歳 | 80 歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **XVII 先天奇形、変形及び染色体異常** | | | | | | | | | | | | **19** | **92** |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | 1 | | | 1 | 1 | | | 1 | | | 4 | 45 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | | | | | | | | | | | | |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | 5 | | | | | | | | | 5 | 17 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 3 | 10 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | 3 | | 1 | | | | | | | 4 | 15 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | 3 | | | | | | | | | 3 | 5 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| **XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの** | | | | | | | | | | | | **42** | **265** |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | 1 | 2 | | | 4 | 2 | 9 | 54 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | | | | 1 | | | | 1 | 3 | 5 | 55 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | 1 | | | | | 1 | 2 | 14 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 4 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 10 |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 7 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | | 10 | | | | 1 | | 4 | 2 | 6 | 23 | 121 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | | |
| **XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響** | | | | | | | | | | | | **595** | **6,291** |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | | 2 | 6 | 1 | 4 | 7 | 12 | 10 | 16 | 58 | 552 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | 1 | | 2 | 2 | 5 | 83 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | 1 | | | 1 | 4 | 3 | 5 | 14 | 195 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | 1 | 1 | 1 | | 2 | 3 | 8 | 10 | 26 | 332 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 9 | 12 | 3 | 6 | 16 | 18 | 15 | 7 | 3 | 89 | 825 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 10 | 21 | 5 | 3 | 1 | 9 | 2 | | 1 | 52 | 254 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | 3 | 8 | 2 | 5 | 8 | 6 | | 6 | | 38 | 164 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | 2 | | | | 2 | 7 | 4 | 7 | 22 | 451 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | 1 | 29 | 18 | 11 | 20 | 19 | 11 | 5 | 2 | 116 | 1,936 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | 1 | | 1 | 1 | 2 | | | | 5 | 70 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | 2 | 1 | | 3 | | 1 | 1 | 8 | 72 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | | | | 2 | 1 | | 3 | 54 |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | 2 | 1 | | 2 | | | | | 1 | 6 | 25 |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 5 |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 4 | 10 | | 4 | 2 | | | 2 | 1 | 1 | 24 | 56 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 15 |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | 1 | 1 | 3 | 3 | 4 | 13 | 9 | 17 | 45 | 30 | 126 | 1,200 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| **XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健** | | | | | | | | | | | | | |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| **XXII 特殊目的コード** | | | | | | | | | | | | **34** | **410** |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 2 | 1 | 1 | | 1 | | | 3 | 10 | 16 | 34 | 410 |
| **合計** | | **305** | **417** | **214** | **217** | **292** | **438** | **880** | **1,351** | **2,043** | **1,455** | **7,612** | **74,544** |

## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（女）【2025 年度】

| 2025 年度　退院患者数（女） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ 感染症及び寄生虫症** | | | | | | | | | | | | **193** | **1,774** |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 3 | 19 | 7 | 6 | 2 | 7 | 7 | 5 | 8 | 9 | 73 | 397 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | 2 | | | 1 | 3 | 10 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | | 7 | 1 | | | | 2 | 3 | 7 | 18 | 38 | 747 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | 3 | 1 | | | | | | 4 | 14 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | 2 | | | | | | 2 | 14 |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | 2 | 4 | | 1 | 2 | 2 | 7 | 4 | 8 | 10 | 40 | 321 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | 1 | 2 | | 1 | 1 | | | 1 | 6 | 66 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 7 | 6 | 2 | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | 21 | 127 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | 2 | 1 | 1 | 1 | 5 | 62 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 16 |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | | | | | | | | |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅱ -1 新生物（腫瘍）悪性** | | | | | | | | | | | | **1,128** | **10,651** |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 1 | | 1 | 15 |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | 2 | | | 5 | 6 | 4 | 17 | 254 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | | 1 | | 8 | 10 | 31 | 11 | 61 | 638 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 7 | | 8 | 80 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | 3 | 13 | 21 | 19 | 41 | 25 | 122 | 1,053 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | 1 | 2 | 5 | 10 | 25 | 16 | 6 | 65 | 682 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 9 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | 1 | 1 | 8 | 5 | 19 | 8 | 42 | 417 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 | 10 | 210 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | | 12 | 11 | 50 | 32 | 105 | 997 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 1 | 1 | 14 | 25 | 44 | 43 | 128 | 1,481 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 4 | 20 | 1 | 25 | 214 |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | 2 | 5 | 30 | 48 | 53 | 44 | 20 | 202 | 1,327 |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 7 | 31 | 56 | 23 | 36 | 9 | 162 | 1,249 |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 3 | 20 | 14 | 37 | 530 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 3 | | 3 | 72 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | | 1 | 4 | | 6 | 56 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 5 | 12 | 15 | 25 | 16 | 73 | 1,031 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 2 | | 12 | 4 | 13 | 31 | 248 |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | 2 | 11 | 9 | 2 | 1 | 1 | 2 | 28 | 86 |
| **Ⅱ -2 新生物（腫瘍）良性** | | | | | | | | | | | | **225** | **1,572** |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | | 3 | 3 | 11 | 29 | 40 | 27 | 11 | 16 | 6 | 146 | 981 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | 1 | 1 | 2 | 10 | 8 | 13 | 16 | 14 | 11 | 3 | 79 | 591 |
| **Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害** | | | | | | | | | | | | **59** | **612** |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | 1 | 1 | | 6 | 6 | 14 | 147 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 9 |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | 3 | 6 | 3 | 12 | 105 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 3 | | 1 | | | | | 1 | 1 | 6 | 95 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | 1 | 5 | 2 | 2 | 3 | 1 | 14 | 157 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 4 | 12 | 99 |
| **Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患** | | | | | | | | | | | | **225** | **2,342** |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | 2 | | 1 | | 1 | | 1 | | 5 | 73 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | 4 | 6 | 8 | 7 | 7 | 24 | 14 | 70 | 956 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | 1 | 1 | | | | | | | 1 | 3 | 10 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | 1 | 31 | 9 | 3 | 2 | 8 | 1 | 3 | 4 | 1 | 63 | 220 |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | 1 | | | | | | 1 | | 2 | 8 |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 61 |
| E65-E68 | 肥満（症）及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | 5 | 103 |
| E70-E90 | 代謝障害 | | 6 | 1 | 2 | | 2 | 4 | 7 | 15 | 39 | 76 | 911 |

| 2025 年度　退院患者数（女） | | 0 歳 | 1 歳～9 歳 | 10 歳～19 歳 | 20 歳～29 歳 | 30 歳～39 歳 | 40 歳～49 歳 | 50 歳～59 歳 | 60 歳～69 歳 | 70 歳～79 歳 | 80 歳～ | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **V　精神及び行動の障害** | | | | | | | | | | | | **17** | **78** |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 24 |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | 1 | 4 | 1 | | | | | 1 | 7 | 10 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分［感情］障害 | | | | | | | | | | | | |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | 2 | 1 | 1 | | | 1 | | | 5 | 35 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 6 |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 1 |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 2 |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| **VI　神経系の疾患** | | | | | | | | | | | | **197** | **1,500** |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | 1 | | | | | 1 | | 1 | | | 3 | 26 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | 1 | | | | | 1 | 11 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | 1 | 6 | 4 | 11 | 218 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | 3 | 57 |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | 1 | 2 | | | | | | 3 | 31 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | 5 | 23 | 3 | 5 | 1 | 2 | 3 | 6 | 9 | 16 | 73 | 392 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 1 | 2 | 3 | 4 | 13 | 6 | 21 | 17 | 67 | 299 |
| G60-G64 | 多発 ( 性 ) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | | | | | 3 | 2 | 3 | 2 | 10 | 131 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | 1 | 1 | | | | 1 | 1 | 2 | 3 | 9 | 113 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | | | | | | | | |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | 1 | 1 | | 2 | | 4 | 4 | 1 | 3 | 1 | 17 | 222 |
| **VII　眼及び付属器の疾患** | | | | | | | | | | | | **418** | **1,409** |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | 1 | | 1 | | 2 | | 2 | 1 | 7 | 6 | 20 | 87 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 22 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | 1 | 1 | 6 | 20 | 47 | 123 | 103 | 301 | 643 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 8 | 5 | 9 | 2 | 29 | 272 |
| H40-H42 | 緑内障 | | | | | 3 | 4 | 4 | 6 | 23 | 9 | 49 | 276 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | | 1 | 4 | 3 | 4 | 5 | 17 | 103 |
| H46-H48 | 視神経及び視 ( 覚 ) 路の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 6 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **VIII　耳及び乳様突起の疾患** | | | | | | | | | | | | **53** | **236** |
| H60-H62 | 外耳疾患 | 1 | | | | 1 | | | | | | 2 | 24 |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 6 | 1 | | | | | | | 1 | 8 | 32 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | 1 | 1 | 3 | 6 | 14 | 8 | 33 | 114 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 1 | 3 | | | 1 | 10 | 66 |
| **IX　循環器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **752** | **9,965** |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | 1 | 2 | 1 | 4 | 67 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | 6 | 39 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | 1 | | 1 | 4 | 9 | 16 | 30 | 52 | 113 | 895 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | 1 | 2 | | 4 | 5 | 1 | 5 | 18 | 261 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | 2 | 4 | 3 | 8 | 22 | 27 | 85 | 183 | 334 | 4,078 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | 2 | 2 | 7 | 16 | 9 | 56 | 92 | 184 | 3,279 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | 1 | 1 | | 2 | 8 | 22 | 28 | 62 | 1,047 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | 1 | | | 1 | 2 | 8 | 13 | 4 | 29 | 290 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | 1 | 1 | | | | 2 | 9 |
| **X　呼吸器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **602** | **6,647** |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 3 | 11 | 5 | 18 | 6 | 1 | | | | | 44 | 226 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 4 | 42 | 3 | 2 | 3 | 5 | 9 | 8 | 29 | 97 | 202 | 2,358 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 14 | 20 | | | | | | | | 2 | 36 | 184 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | 6 | 5 | 21 | 28 | 19 | 22 | 12 | 8 | 3 | 124 | 579 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | 1 | 27 | 3 | | 2 | 1 | 3 | 3 | 15 | 14 | 69 | 651 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | 1 | 1 | 2 | | 3 | 3 | 9 | 48 | 67 | 1,569 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | 2 | | 2 | 4 | 5 | 13 | 26 | 409 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | 1 | | | 3 | 2 | 6 | 148 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 4 | 9 | 20 | 369 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | | | 1 | | | | | 1 | 4 | 2 | 8 | 154 |
| **XI　消化器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **888** | **5,854** |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | 1 | 6 | 12 | 11 | 6 | 10 | 7 | 18 | 16 | 87 | 379 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | | 6 | | | 1 | 5 | 7 | 6 | 14 | 39 | 339 |
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | 2 | 7 | 4 | 3 | 5 | 5 | 5 | 2 | 33 | 228 |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | | | 2 | 2 | 7 | 7 | 18 | 137 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | 1 | | 4 | | | 1 | 2 | 3 | | 1 | 12 | 54 |

| 2025 年度　退院患者数（女） | | 0 歳 | 1 歳〜9 歳 | 10 歳〜19 歳 | 20 歳〜29 歳 | 30 歳〜39 歳 | 40 歳〜49 歳 | 50 歳〜59 歳 | 60 歳〜69 歳 | 70 歳〜79 歳 | 80 歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | 2 | 2 | 5 | 13 | 10 | 32 | 260 |
| K56 | 腸閉塞 | | | | | | 3 | 2 | 9 | 11 | 15 | 40 | 462 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 1 | 3 | 4 | 11 | 16 | 14 | 25 | 74 | 476 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | 2 | | | | 1 | | | 2 | | 5 | 21 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | 1 | | 2 | 1 | 3 | 3 | 10 | 48 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | | 5 | 15 | 43 | 66 | 106 | 60 | 295 | 849 |
| K64 | 痔核 | | | | | 1 | | 1 | 4 | 5 | 3 | 14 | 98 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | | | | 1 | 2 | | 1 | 2 | 6 | 106 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | 1 | 3 | 7 | 7 | 4 | 9 | 10 | 41 | 465 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | 3 | 3 | 6 | 25 | 18 | 32 | 57 | 144 | 1,583 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | 1 | | | | 1 | | 5 | 13 | 18 | 38 | 349 |
| **Ⅻ 皮膚及び皮下組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **77** | **991** |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | 2 | 5 | 2 | 1 | 1 | 1 | 4 | 3 | 4 | 12 | 35 | 447 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | 1 | | 4 | 5 | 145 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | 1 | | | | | | | | 1 | 4 | 6 | 89 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | 1 | | | | 1 | | | 2 | 23 |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | 2 | | | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 6 | 46 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線 ( 非電離及び電離 ) に関連する障害 | | | | | | | | | | | | |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | 2 | 1 | 2 | 1 | | 2 | | 8 | 22 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | | | | | 3 | 1 | 11 | 15 | 219 |
| **ⅩⅢ 筋骨格系及び結合組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **928** | **15,003** |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | | | 1 | 1 | 4 | 1 | 7 | 272 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | 3 | 2 | 4 | 4 | 7 | 10 | 30 | 407 |
| M15-M19 | 関節症 | | | | | 1 | 8 | 48 | 115 | 150 | 75 | 397 | 7,436 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | 1 | 11 | 11 | 4 | 11 | 18 | 9 | 9 | 2 | 76 | 1,074 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 1 | 11 | | | | 1 | 5 | 3 | 10 | 7 | 38 | 500 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | 4 | | | 2 | 4 | 5 | 27 | 5 | 47 | 915 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | 1 | 4 | 16 | 24 | 62 | 40 | 147 | 2,316 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 1 | 8 | 3 | 11 | 9 | 6 | 5 | 5 | 48 | 424 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | 1 | | | | 1 | 3 | 3 | 8 | 136 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | 5 | 4 | 2 | 6 | 19 | 15 | 10 | 2 | 63 | 282 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | | 2 | 3 | 6 | 11 | 2 | 24 | 396 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 2 | | 6 | 70 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | 3 | | 1 | 3 | 4 | | 3 | 2 | 16 | 250 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | 1 | 1 | 1 | | | | | | 3 | 27 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | | | | 1 | 3 | 2 | 12 | 18 | 498 |
| **ⅩⅣ 腎尿路生殖器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **397** | **4,032** |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | 1 | | | 9 | 5 | 4 | 1 | 1 | 3 | 24 | 176 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | | | | 6 | 3 | 3 | 8 | 12 | 11 | 25 | 68 | 764 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | | 1 | 1 | 4 | | 8 | 16 | 30 | 712 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 3 | 1 | 1 | 7 | 4 | 6 | 22 | 223 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | 2 | 3 | 1 | 6 | 214 |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 2 | 4 | | 2 | 2 | | 5 | 1 | 15 | 55 | 86 | 1,245 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | 1 | | | | | 1 | 3 |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 11 | 87 |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | 2 | 26 | 42 | 34 | 27 | 10 | 3 | 5 | 149 | 608 |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **ⅩⅤ 妊娠、分娩及び産じょく ‹ 褥 ›** | | | | | | | | | | | | **654** | **4,799** |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | 1 | 21 | 41 | 13 | | | | | 76 | 213 |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | 11 | 1 | | | | | 12 | 134 |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | 8 | 17 | | | | | | 25 | 269 |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | 12 | 51 | 16 | | | | | 79 | 608 |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | 5 | 23 | 4 | | | | | 32 | 271 |
| O80-O84 | 分娩 | | | | 104 | 289 | 36 | | | | | 429 | 3,292 |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | 1 | | | | | | 1 | 12 |
| **ⅩⅥ 周産期に発生した病態** | | | | | | | | | | | | **188** | **1,337** |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 19 | | | | | | | | | | 19 | 159 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 15 | | | | | | | | | | 15 | 136 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 37 | | | | | | | | | | 37 | 290 |
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | 52 | | | | | | | | | | 52 | 366 |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 31 | | | | | | | | | | 31 | 158 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 29 | | | | | | | | | | 29 | 199 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | 3 | | | | | | | | | | 3 | 19 |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | 2 | | | | | | | | | | 2 | 10 |

| 2025 年度　退院患者数（女） | | 0 歳 | 1 歳～9 歳 | 10 歳～19 歳 | 20 歳～29 歳 | 30 歳～39 歳 | 40 歳～49 歳 | 50 歳～59 歳 | 60 歳～69 歳 | 70 歳～79 歳 | 80 歳～ | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **XVII 先天奇形、変形及び染色体異常** | | | | | | | | | | | | **28** | **271** |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | 1 | | | | | | | | | 1 | 3 |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | 2 | | | | | | 1 | 1 | 2 | | 6 | 99 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | 1 | | | | | | | | | | 1 | 8 |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | | | | | | 1 | | | | 1 | 19 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | 3 | | | | | 3 | 5 |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | | | | | 3 | | 3 | 43 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | 2 | 6 | | | | | | | | | 8 | 77 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | 2 | | 1 | 1 | | | | | | 4 | 16 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | 1 | | | | | | 1 | 1 |
| **XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの** | | | | | | | | | | | | **59** | **553** |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | 1 | | | | 1 | 6 | 6 | 14 | 192 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | | | 1 | 2 | 1 | 2 | | 2 | 3 | 11 | 109 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 8 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 3 | 3 | 34 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 3 | 1 | 4 | 41 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | 1 | 9 | 1 | | | 1 | 1 | 1 | 2 | 9 | 25 | 163 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | 1 | | | | 1 | 6 |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | | |
| **XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響** | | | | | | | | | | | | **537** | **6,665** |
| S00-S09 | 頭部損傷 | 2 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 3 | 4 | 6 | 30 | 50 | 415 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | 1 | | 1 | 5 | 7 | 127 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | | | | 1 | 1 | | 7 | 9 | 105 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | 1 | | | | 4 | 10 | 35 | 50 | 785 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 | 4 | 12 | 15 | 11 | 51 | 673 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 3 | 4 | 3 | 1 | 1 | 6 | 16 | 14 | 11 | 59 | 301 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | | 1 | | 1 | 4 | 2 | 1 | 2 | 1 | 12 | 83 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | | | | 1 | 3 | 2 | 9 | 47 | 62 | 1,375 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | 1 | 15 | 12 | 10 | 9 | 12 | 8 | 14 | 8 | 89 | 1,763 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | | | 1 | | | 1 | | 1 | 3 | 41 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | | | | | | 1 | 7 | 8 | 183 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | | | | | | | | |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | 1 | | | | | | | | 1 | 2 |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | 1 | 1 | | | | 1 | | 3 | 9 |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 4 | 15 | 3 | 3 | | | 4 | 1 | 3 | 4 | 37 | 132 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | | | | |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | 3 | 6 | 1 | 4 | 13 | 10 | 33 | 24 | 94 | 667 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| **XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健** | | | | | | | | | | | | | |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| **XXII 特殊目的コード** | | | | | | | | | | | | **29** | **264** |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 1 | | | 1 | | | 1 | 2 | 6 | 18 | 29 | 264 |
| **合計** | | **254** | **290** | **144** | **389** | **728** | **514** | **810** | **927** | **1,747** | **1,851** | **7,654** | **76,555** |

## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（男・在院日数）【2025 年度】

| 2025 年度　在院日数（男） | | 0歳 | 1歳～9歳 | 10歳～19歳 | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳～69歳 | 70歳～79歳 | 80歳～ | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ 感染症及び寄生虫症** | | | | | | | | | | | | **2,173** |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 38 | 103 | 32 | 56 | 3 | 26 | 38 | | 56 | 48 | 400 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | 2 | | | 38 | 40 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | 19 | 45 | | | 21 | 15 | 83 | 244 | 120 | 403 | 950 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | | | | 32 | | | | 32 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | 6 | | | | | | | | | 6 |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | 8 | 25 | 16 | 8 | 20 | 45 | 37 | 15 | 118 | 107 | 399 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | | 30 | 12 | | 5 | | 2 | 12 | 61 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 88 | 62 | 9 | | | 10 | | | | 11 | 180 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | 24 | | 46 | 30 | 100 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | 5 | | | 5 |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | | | | | | | |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | |
| **Ⅱ -1 新生物（腫瘍）悪性** | | | | | | | | | | | | **14,014** |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 3 | | 15 | 15 | 7 | 40 |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | 55 | 66 | 273 | 291 | 205 | 890 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | | | 4 | 116 | 222 | 558 | 482 | 1,382 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | 11 | 38 | 36 | 26 | 7 | 118 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | 34 | 55 | 56 | 344 | 428 | 317 | 1,234 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | | 2 | 12 | 228 | 187 | 315 | 125 | 869 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | | 3 | 3 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | 39 | 19 | 103 | 407 | 334 | 902 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | 28 | | 85 | 60 | 187 | 360 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | 3 | | | 58 | 13 | 392 | 266 | 732 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | 47 | | 14 | 36 | 758 | 1,912 | 773 | 3,540 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 8 | 10 | 16 | 34 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 6 | | | | 34 | 40 |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 9 | 27 | 86 | 252 | 463 | 301 | 1,138 |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 29 | 131 | 356 | 747 | 662 | 1,925 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 15 | | | 175 | 29 | | 219 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | 4 | | | 6 | | | | 10 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 4 | 23 | 136 | 183 | 139 | 485 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | 41 | 4 | 41 | 5 | 91 |
| C97 | 独立した ( 原発性 ) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 2 | | | | | 2 |
| **Ⅱ -2 新生物（腫瘍）良性** | | | | | | | | | | | | **721** |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | 8 | | 8 | 9 | 136 | 40 | 68 | 84 | 85 | 7 | 445 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | 2 | | | 10 | 56 | 46 | 75 | 71 | 16 | 276 |
| **Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害** | | | | | | | | | | | | **532** |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | 5 | | | 3 | | 15 | 9 | 42 | 12 | 86 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | | | 39 | 39 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 80 | | | 13 | 133 | 13 | | 8 | 38 | 285 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | 4 | 28 | 16 | 19 | 33 | 17 | 117 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | 3 | | | | 2 | | 5 |
| **Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患** | | | | | | | | | | | | **2,391** |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | | | | | 9 | | | 12 | 21 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | 54 | 29 | 115 | 198 | 299 | 361 | 316 | 1,372 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | 13 | | | | | | 46 | 61 | 10 | 130 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | 64 | 50 | | 4 | 21 | 7 | 33 | 29 | 5 | 213 |
| E40-E46 | 栄養失調 ( 症 ) | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | 6 | | | 6 |
| E65-E68 | 肥満 ( 症 ) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| E70-E90 | 代謝障害 | | 55 | 37 | | | 16 | 29 | 126 | 58 | 326 | 647 |

| 2025 年度　在院日数（男） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅴ 精神及び行動の障害** | | | | | | | | | | | | **52** |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | | | |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | | 3 | | | 10 | 11 | | | 24 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分［感情］障害 | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | 3 | | | 17 | | | 20 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | | | | | | | | | |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | 3 | | | | | | | | | 3 |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | |
| **Ⅵ 神経系の疾患** | | | | | | | | | | | | **1,738** |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | 6 | | | 4 | 8 | 49 | 103 | 15 | 59 | | 244 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | | 26 | 15 | 26 | | 67 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | 11 | 50 | 89 | 122 | 272 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | | | 9 | 13 | | 22 |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | | | | | | 92 | | 92 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | 1 | 38 | 13 | 23 | 27 | 25 | 18 | 84 | 110 | 128 | 467 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 8 | 17 | 17 | 2 | 37 | 68 | 34 | 12 | 195 |
| G60-G64 | 多発 ( 性 ) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | | | | 27 | 14 | 50 | 31 | 3 | 125 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | 17 | | | | | | 76 | 22 | 115 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | | | | | | | |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | | 2 | | | 12 | 16 | 28 | 14 | 26 | 41 | 139 |
| **Ⅶ 眼及び付属器の疾患** | | | | | | | | | | | | **1,205** |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | | | 2 | | | 2 | 8 | 28 | 9 | 11 | 60 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | 2 | | | | | 21 | | | 23 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | 1 | 6 | 9 | 50 | 79 | 158 | 75 | 378 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | 28 | 9 | 5 | 44 | 64 | 103 | 34 | 287 |
| H40-H42 | 緑内障 | | 1 | | | 31 | 13 | 41 | 29 | 113 | 32 | 260 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | 9 | 6 | 32 | 36 | 41 | 16 | 140 |
| H46-H48 | 視神経及び視 ( 覚 ) 路の障害 | | | 4 | | | | | | | | 4 |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | 13 | 13 | 6 | | 32 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | 10 | 11 | 21 |
| **Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患** | | | | | | | | | | | | **182** |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | 3 | | | | | | | | | 3 |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 21 | | | | | 3 | 2 | | | 26 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | | 18 | 14 | 25 | 19 | 38 | 114 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | 7 | 1 | | 16 | 8 | | | | 7 | | 39 |
| **Ⅸ 循環器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **12,645** |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | 28 | 112 | 48 | | 188 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | | | 3 | 10 | | | 13 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | | 19 | 158 | 408 | 562 | 739 | 455 | 2,341 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | | 61 | 10 | 52 | | 123 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | | 53 | 41 | 91 | 262 | 743 | 1,433 | 1,807 | 4,430 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | | 40 | 228 | 564 | 752 | 1,189 | 1,110 | 3,883 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | | 3 | 64 | 140 | 633 | 345 | 1,185 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | 8 | 5 | 2 | 9 | 78 | 89 | 154 | 68 | 413 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | 4 | | | 43 | | | | 22 | 69 |
| **Ⅹ 呼吸器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **8,571** |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 36 | 74 | 18 | 60 | 61 | 41 | 12 | 26 | | 14 | 342 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 83 | 269 | 2 | 11 | 59 | 16 | 76 | 98 | 635 | 1,234 | 2,483 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 143 | 72 | | 3 | | | | | | 12 | 230 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | 16 | 93 | 45 | 130 | 197 | 184 | 200 | 197 | 63 | 27 | 1,152 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | 60 | 180 | 7 | | 20 | 9 | 38 | 51 | 147 | 210 | 722 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | 2 | | 86 | | 21 | 14 | 53 | 75 | 418 | 1,178 | 1,847 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | 2 | | | 35 | 49 | 391 | 89 | 566 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | 52 | 74 | 145 | 54 | 127 | 95 | 547 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | 12 | 35 | 5 | 12 | 31 | 85 | 169 | 167 | 516 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | 13 | | 3 | | 19 | | 5 | 65 | 19 | 42 | 166 |
| **Ⅺ 消化器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **7,089** |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | | 8 | 29 | 33 | 28 | 25 | 26 | 23 | 39 | 211 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | 1 | 3 | 2 | 12 | 6 | 81 | 78 | 157 | 104 | 444 |
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | 13 | 36 | 70 | 74 | 48 | 48 | 8 | 39 | 336 |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | | | 45 | 135 | 111 | 84 | 375 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | | | 107 | 21 | 8 | 2 | 13 | 19 | 11 | | 181 |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | 6 | 12 | 30 | 59 | 26 | 133 |

| 2025 年度　在院日数（男） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K56 | 腸閉塞 | | 2 | 27 | 12 | 4 | 8 | 92 | 41 | 243 | 165 | 594 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 51 | 9 | 90 | 193 | 144 | 158 | 169 | 814 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | 1 | | | | | | | | | 1 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | | 5 | 4 | 10 | 15 | 12 | 46 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | | 15 | 42 | 194 | 311 | 422 | 165 | 1,149 |
| K64 | 痔核 | | | | | 14 | 2 | 29 | 20 | | 5 | 70 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | 8 | | 3 | 23 | | | 63 | 22 | 119 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | | 63 | 12 | 102 | 156 | 34 | 109 | 476 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | 11 | 67 | 100 | 160 | 460 | 467 | 534 | 1,799 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | 2 | 4 | | 8 | 42 | 58 | 135 | 92 | 341 |
| **XII 皮膚及び皮下組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **895** |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | 7 | 29 | 41 | 15 | 8 | 56 | 45 | 116 | 183 | 174 | 674 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | | 6 | 45 | 51 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | 8 | | 8 | | | | 10 | | | 26 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | | |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | 2 | 9 | | | | 3 | | 42 | | | 56 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線 ( 非電離及び電離 ) に関連する障害 | | | | | | | 2 | | | | 2 |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | 3 | 6 | 3 | | 4 | 6 | 4 | 26 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | | | | 28 | 15 | 17 | | 60 |
| **XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **10,527** |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | | 115 | 30 | 236 | 145 | 29 | 555 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | | | 6 | 7 | 85 | 122 | 220 |
| M15-M19 | 関節症 | | | | 36 | 16 | 45 | 462 | 1,130 | 707 | 410 | 2,806 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | 31 | 28 | 162 | 169 | 98 | 82 | 153 | 11 | | 734 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 39 | 84 | | | 23 | | 68 | 79 | 54 | 55 | 402 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | 21 | 12 | 76 | 90 | 83 | 104 | 386 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | | 122 | 525 | 628 | 1,542 | 636 | 3,453 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 8 | 24 | 63 | 94 | 72 | 97 | 138 | 44 | 540 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | | 4 | | | | 8 | 37 | 49 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | 3 | 9 | 3 | 9 | 9 | 29 | 77 | 46 | 73 | 258 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | 9 | 30 | 143 | 204 | 131 | 63 | 580 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | 20 | 13 | 9 | | | 7 | 18 | | 67 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | 26 | | | 91 | 58 | | 31 | | 206 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | 3 | 95 | | | | | | | | 98 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | 5 | 10 | 7 | | 14 | 49 | 88 | 173 |
| **XIV 腎尿路生殖器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **3,222** |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | | | 13 | 55 | 2 | 8 | 96 | 114 | 90 | 378 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | 9 | | 4 | 5 | | 16 | 45 | 47 | 328 | 205 | 659 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | 67 | 10 | 25 | 45 | 146 | 134 | 291 | 718 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 1 | 10 | 30 | 28 | 29 | 7 | 105 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | 10 | 14 | 52 | 49 | 125 |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 24 | 5 | | 5 | | | 12 | 16 | 291 | 550 | 903 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | 12 | 30 | 6 | 48 | 126 | 112 | 334 |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | | | | | |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | | | | | | | | |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | | | | | | | | |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| **XV 妊娠、分娩及び産じょく ‹ 褥 ›** | | | | | | | | | | | | |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | | | | | | | | | |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | | | | | | | |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | | | | | | | | |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | | | | | | | | |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | | | | | | | | |
| O80-O84 | 分娩 | | | | | | | | | | | |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | |
| **XVI 周産期に発生した病態** | | | | | | | | | | | | **1,529** |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 183 | | | | | | | | | | 183 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 293 | | | | | | | | | | 293 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 410 | | | | | | | | | | 410 |
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | 230 | | | | | | | | | | 230 |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 178 | | | | | | | | | | 178 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 208 | | | | | | | | | | 208 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | 27 | | | | | | | | | | 27 |

| 2025 年度　在院日数（男） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **XVII 先天奇形、変形及び染色体異常** | | | | | | | | | | | | **92** |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | 9 | | | 5 | 9 | | | 22 | | | 45 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | | | | | | | | | | | |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | 17 | | | | | | | | | 17 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | 4 | | 3 | 3 | | | 10 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | 12 | | 3 | | | | | | | 15 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | 5 | | | | | | | | | 5 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | |
| **XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの** | | | | | | | | | | | | **265** |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | 8 | 15 | | | 22 | 9 | 54 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | | | | 3 | | | | 2 | 50 | 55 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | 9 | | | | | 5 | 14 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | 4 | | | | | | | | | 4 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 10 | 10 |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 7 | | 7 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | | 41 | | | | 5 | | 45 | 10 | 20 | 121 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | |
| **XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響** | | | | | | | | | | | | **6,291** |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | | 5 | 50 | 4 | 19 | 50 | 81 | 82 | 261 | 552 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | 17 | | 30 | 36 | 83 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | 7 | | | 10 | 67 | 38 | 73 | 195 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | 15 | 7 | 10 | | 8 | 28 | 95 | 169 | 332 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 29 | 46 | 11 | 35 | 84 | 242 | 214 | 104 | 60 | 825 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 48 | 93 | 34 | 15 | 9 | 33 | 12 | | 10 | 254 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | 7 | 40 | 11 | 22 | 20 | 28 | | 36 | | 164 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | 42 | | | | 37 | 135 | 70 | 167 | 451 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | 22 | 588 | 367 | 209 | 248 | 257 | 151 | 88 | 6 | 1,936 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | 4 | | 20 | 3 | 43 | | | | 70 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | 8 | 4 | | 13 | | 10 | 37 | 72 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | | |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | | | | 43 | 11 | | 54 |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | 4 | 2 | | 12 | | | | | 7 | 25 |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | 5 | | 5 |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 9 | 15 | | 8 | 5 | | | 9 | 6 | 4 | 56 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | 15 | | | 15 |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | 2 | 2 | 27 | 32 | 18 | 137 | 128 | 168 | 536 | 150 | 1,200 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| **XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健** | | | | | | | | | | | | |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| **XXII 特殊目的コード** | | | | | | | | | | | | **410** |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 7 | 3 | 13 | | 4 | | | 18 | 162 | 203 | 410 |
| **合計** | | 2,165 | 1,604 | 1,657 | 1,670 | 2,098 | 3,562 | 7,732 | 13,527 | 21,762 | 18,767 | **74,544** |

## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（女・在院日数）【2025 年度】

| 2025 年度　在院日数（男） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ 感染症及び寄生虫症** | | | | | | | | | | | | **1,774** |
| A00-A09 | 腸管感染症 | 22 | 65 | 32 | 24 | 13 | 30 | 42 | 21 | 77 | 71 | 397 |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | 8 | | | 2 | 10 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | | 25 | 11 | | | | 91 | 63 | 184 | 373 | 747 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | 12 | 2 | | | | | | 14 |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | 14 | | | | | | 14 |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | 11 | 13 | | 2 | 15 | 15 | 56 | 22 | 76 | 111 | 321 |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | 8 | 17 | | 8 | 7 | | | 26 | 66 |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | 38 | 25 | 11 | | | | 6 | 27 | 9 | 11 | 127 |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | 34 | 5 | 5 | 18 | 62 |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | 16 | | | | 16 |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | | | | | | | |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | |
| **Ⅱ -1 新生物（腫瘍）悪性** | | | | | | | | | | | | **10,651** |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 15 | | 15 |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | 15 | | | 79 | 80 | 80 | 254 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | | 7 | | 47 | 97 | 296 | 191 | 638 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | | | 7 | 73 | | 80 |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | 16 | 84 | 148 | 165 | 352 | 288 | 1,053 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | 4 | 28 | 37 | 74 | 264 | 156 | 119 | 682 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | 9 | | 9 |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | 8 | 14 | 65 | 62 | 180 | 88 | 417 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | 14 | 6 | 7 | 96 | 87 | 210 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | | 76 | 133 | 363 | 425 | 997 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 2 | 8 | 106 | 351 | 532 | 482 | 1,481 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 8 | 170 | 36 | 214 |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | 11 | 29 | 167 | 308 | 356 | 308 | 148 | 1,327 |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | 27 | 150 | 482 | 192 | 310 | 88 | 1,249 |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 26 | 236 | 268 | 530 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 72 | | 72 |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 8 | | 6 | 42 | | 56 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 63 | 127 | 241 | 393 | 207 | 1,031 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 14 | | 89 | 59 | 86 | 248 |
| C97 | 独立した（原発性）多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | 6 | 33 | 26 | 6 | 3 | 7 | 5 | 86 |
| **Ⅱ -2 新生物（腫瘍）良性** | | | | | | | | | | | | **1,572** |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | | 12 | 23 | 63 | 155 | 286 | 208 | 66 | 130 | 38 | 981 |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | 2 | 2 | 10 | 70 | 43 | 111 | 112 | 109 | 102 | 30 | 591 |
| **Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害** | | | | | | | | | | | | **612** |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | 2 | 10 | | 38 | 97 | 147 |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | 9 | | | | | | | | | 9 |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | 13 | 74 | 18 | 105 |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | 17 | | 3 | | | | | 27 | 48 | 95 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | 12 | 26 | 19 | 56 | 31 | 13 | 157 |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | 2 | 2 | 22 | 38 | 27 | 8 | 99 |
| **Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患** | | | | | | | | | | | | **2,342** |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | 16 | | 38 | | 9 | | 10 | | 73 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | 26 | 52 | 91 | 88 | 93 | 397 | 209 | 956 |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | 2 | 4 | | | | | | | 4 | 10 |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | 2 | 85 | 25 | 15 | 9 | 36 | 5 | 11 | 28 | 4 | 220 |
| E40-E46 | 栄養失調（症） | | | 5 | | | | | | 3 | | 8 |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | | | 61 | 61 |
| E65-E68 | 肥満（症）及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | | 8 | | 23 | 2 | 70 | | 103 |
| E70-E90 | 代謝障害 | | 15 | 4 | 9 | | 12 | 33 | 74 | 182 | 582 | 911 |

| 2025 年度　在院日数（女） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **V　精神及び行動の障害** | | | | | | | | | | | | **78** |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | 2 | 22 | 24 |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | 1 | 6 | 1 | | | | | 2 | 10 |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分［感情］障害 | | | | | | | | | | | |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | 11 | 18 | 4 | | | 2 | | | 35 |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | | | | | | 6 | | | 6 |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | 2 | | | | | | | | | 2 |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | |
| **VI　神経系の疾患** | | | | | | | | | | | | **1,500** |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | 7 | | | | | 4 | | 15 | | | 26 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | 11 | | | | | 11 |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | 17 | 81 | 120 | 218 |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | 40 | | 9 | 8 | | 57 |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | 13 | 18 | | | | | | 31 |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | 76 | 62 | 7 | 15 | 7 | 4 | 24 | 22 | 78 | 97 | 392 |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | 3 | 15 | 15 | 13 | 80 | 12 | 112 | 49 | 299 |
| G60-G64 | 多発 ( 性 ) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | | | | | 105 | 6 | 9 | 11 | 131 |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | 2 | 2 | | | | 9 | 19 | 37 | 44 | 113 |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | | | | | | | |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | 1 | 1 | | 13 | | 42 | 115 | 11 | 36 | 3 | 222 |
| **VII　眼及び付属器の疾患** | | | | | | | | | | | | **1,409** |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | 19 | | 3 | | 4 | | 12 | 5 | 24 | 20 | 87 |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | | | | | | | 22 | | 22 |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | 2 | 1 | 13 | 46 | 90 | 256 | 235 | 643 |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | 9 | 13 | 25 | 14 | 94 | 30 | 75 | 12 | 272 |
| H40-H42 | 緑内障 | | | | | 11 | 19 | 29 | 32 | 135 | 50 | 276 |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | | 4 | 25 | 19 | 20 | 35 | 103 |
| H46-H48 | 視神経及び視 ( 覚 ) 路の障害 | | | | | | | | | | | |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | | | 6 | | 6 |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| **VIII　耳及び乳様突起の疾患** | | | | | | | | | | | | **236** |
| H60-H62 | 外耳疾患 | 21 | | | | 3 | | | | | | 24 |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | 23 | 3 | | | | | | | 6 | 32 |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | 4 | 7 | 11 | 21 | 41 | 30 | 114 |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | 1 | 1 | | 8 | 15 | 10 | 19 | | | 12 | 66 |
| **IX　循環器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **9,965** |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | 27 | 30 | 10 | 67 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | | | 6 | 10 | 16 | 7 | 39 |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | 3 | | 2 | 26 | 43 | 76 | 291 | 454 | 895 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | 46 | 26 | | 49 | 70 | 8 | 62 | 261 |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | 8 | 17 | 45 | 54 | 207 | 205 | 940 | 2,602 | 4,078 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | 21 | 38 | 155 | 245 | 214 | 895 | 1,711 | 3,279 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | 3 | 11 | | 11 | 278 | 326 | 418 | 1,047 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | 3 | | | 4 | 19 | 67 | 135 | 62 | 290 |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | 2 | 7 | | | | 9 |
| **X　呼吸器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **6,647** |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | 17 | 29 | 36 | 108 | 31 | 5 | | | | | 226 |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | 20 | 172 | 11 | 10 | 23 | 23 | 96 | 68 | 503 | 1,432 | 2,358 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | 75 | 87 | | | | | | | | 22 | 184 |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | 28 | 21 | 90 | 122 | 85 | 102 | 65 | 52 | 14 | 579 |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | 7 | 154 | 21 | | 8 | 8 | 34 | 26 | 215 | 178 | 651 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | 43 | 6 | 79 | | 42 | 31 | 193 | 1,175 | 1,569 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | 4 | | 8 | 62 | 48 | 287 | 409 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | 14 | | | 89 | 45 | 148 |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | | 12 | 12 | 4 | 13 | 6 | 44 | 278 | 369 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | | | 2 | | | | | 92 | 46 | 14 | 154 |
| **XI　消化器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **5,854** |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | 3 | 17 | 37 | 30 | 16 | 26 | 40 | 91 | 119 | 379 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | | 16 | | | 6 | 21 | 39 | 76 | 181 | 339 |
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | 12 | 43 | 24 | 18 | 30 | 36 | 41 | 24 | 228 |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | | | 11 | 29 | 46 | 51 | 137 |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | 1 | | 12 | | | 3 | 28 | 7 | | 3 | 54 |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | 9 | 15 | 33 | 107 | 96 | 260 |

| 2025 年度　在院日数（女） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K56 | 腸閉塞 | | | | | | 42 | 16 | 132 | 102 | 170 | 462 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | 2 | 19 | 24 | 71 | 72 | 73 | 215 | 476 |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | 4 | | | | 2 | | | 15 | | 21 |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | 3 | | 7 | 2 | 22 | 14 | 48 |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | | 10 | 43 | 139 | 147 | 270 | 240 | 849 |
| K64 | 痔核 | | | | | 8 | | 5 | 31 | 25 | 29 | 98 |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | | | | 21 | 33 | | 19 | 33 | 106 |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | 7 | 28 | 37 | 82 | 51 | 124 | 136 | 465 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | 20 | 14 | 44 | 192 | 170 | 323 | 820 | 1,583 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | 3 | | | | 13 | | 32 | 116 | 185 | 349 |
| **XII 皮膚及び皮下組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **991** |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | 5 | 34 | 21 | 5 | 14 | 16 | 68 | 34 | 49 | 201 | 447 |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | 24 | | 121 | 145 |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | 3 | | | | | | | | 14 | 72 | 89 |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | 12 | | | | 11 | | | 23 |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | 5 | | | 12 | 14 | 7 | 8 | | | 46 |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線 ( 非電離及び電離 ) に関連する障害 | | | | | | | | | | | |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | 6 | 3 | 6 | 3 | | 4 | | 22 |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | | | | | 50 | 12 | 157 | 219 |
| **XIII　筋骨格系及び結合組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **15,003** |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | | | 63 | 30 | 107 | 72 | 272 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | 17 | 13 | 24 | 43 | 179 | 131 | 407 |
| M15-M19 | 関節症 | | | | | 26 | 141 | 936 | 2,201 | 2,746 | 1,386 | 7,436 |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | 26 | 201 | 133 | 75 | 203 | 203 | 75 | 126 | 32 | 1,074 |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | 6 | 91 | | | | 5 | 33 | 59 | 220 | 86 | 500 |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | 51 | | | 36 | 53 | 77 | 510 | 188 | 915 |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | 17 | 50 | 252 | 316 | 959 | 722 | 2,316 |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | 4 | 67 | 21 | 86 | 55 | 63 | 50 | 78 | 424 |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | 5 | | | | 8 | 40 | 83 | 136 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | 15 | 12 | 6 | 18 | 63 | 48 | 106 | 14 | 282 |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | | 24 | 32 | 97 | 207 | 36 | 396 |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | 7 | | 4 | 6 | 13 | | 40 | | 70 |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | 12 | | 9 | 51 | 77 | | 65 | 36 | 250 |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | 5 | 19 | 3 | | | | | | 27 |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | | | | 20 | 105 | 48 | 325 | 498 |
| **XIV 腎尿路生殖器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **4,032** |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | 9 | | | 52 | 29 | 40 | 4 | 4 | 38 | 176 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | | | | 40 | 17 | 19 | 70 | 85 | 138 | 395 | 764 |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | | 18 | 12 | 91 | | 88 | 503 | 712 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | 23 | 11 | 13 | 31 | 73 | 72 | 223 |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | 142 | 57 | 15 | 214 |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | 19 | 27 | | 13 | 18 | | 55 | 9 | 240 | 864 | 1,245 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | | | | | | | |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | 3 | | | | | 3 |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | 18 | 8 | 16 | 14 | 17 | 4 | 10 | 87 |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | 10 | 95 | 148 | 119 | 113 | 59 | 22 | 42 | 608 |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | |
| **XV 妊娠、分娩及び産じょく‹褥›** | | | | | | | | | | | | **4,799** |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | 2 | 52 | 124 | 35 | | | | | 213 |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | 113 | 21 | | | | | 134 |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | 83 | 186 | | | | | | 269 |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | 97 | 397 | 114 | | | | | 608 |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | 33 | 205 | 33 | | | | | 271 |
| O80-O84 | 分娩 | | | | 793 | 2,223 | 276 | | | | | 3,292 |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | 12 | | | | | | 12 |
| **XVI 周産期に発生した病態** | | | | | | | | | | | | **1,337** |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | 159 | | | | | | | | | | 159 |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | 136 | | | | | | | | | | 136 |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | 290 | | | | | | | | | | 290 |
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | 366 | | | | | | | | | | 366 |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | 158 | | | | | | | | | | 158 |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | 199 | | | | | | | | | | 199 |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | 19 | | | | | | | | | | 19 |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | 10 | | | | | | | | | | 10 |

| 2025 年度　在院日数（女） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **ⅩⅦ 先天奇形、変形及び染色体異常** | | | | | | | | | | | | **271** |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | 3 | | | | | | | | | 3 |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | 62 | | | | | | 21 | 8 | 8 | | 99 |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | 8 | | | | | | | | | | 8 |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | | | | | | 19 | | | | 19 |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | 5 | | | | | 5 |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | | | | | 43 | | 43 |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | 50 | 27 | | | | | | | | | 77 |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | 6 | | 5 | 5 | | | | | | 16 |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | 1 | | | | | | 1 |
| **ⅩⅧ 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの** | | | | | | | | | | | | **553** |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | 9 | | | | 2 | 63 | 118 | 192 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | | | 1 | 43 | 3 | 12 | | 13 | 37 | 109 |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 8 | | 8 |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 34 | 34 |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | 33 | 8 | 41 |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | 3 | 36 | 3 | | | 2 | 3 | 2 | 16 | 98 | 163 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | 6 | | | | 6 |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | |
| **ⅩⅨ 損傷、中毒及びその他の外因の影響** | | | | | | | | | | | | **6,665** |
| S00-S09 | 頭部損傷 | 5 | 3 | 4 | 7 | | 7 | 26 | 27 | 75 | 261 | 415 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | 19 | | 11 | 97 | 127 |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | | | | 12 | 14 | | 79 | 105 |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | 2 | | | | 65 | 124 | 594 | 785 |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | 11 | 8 | 4 | 3 | 16 | 57 | 148 | 236 | 190 | 673 |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | 8 | 15 | 10 | 3 | 3 | 24 | 60 | 92 | 86 | 301 |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | | 3 | | 9 | 15 | 6 | 5 | 33 | 12 | 83 |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | | | | 4 | 65 | 29 | 215 | 1,062 | 1,375 |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | 2 | 342 | 263 | 162 | 104 | 174 | 247 | 260 | 209 | 1,763 |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | | | 5 | | | 19 | | 17 | 41 |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | | | | | | 9 | 174 | 183 |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | 2 | 2 |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | 2 | | | | | | | | 2 |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | | | | | | | |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | 2 | | | | | | | | 2 |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | 3 | 3 | | | | 3 | | 9 |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | 8 | 19 | 6 | 8 | | | 8 | 2 | 25 | 56 | 132 |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | | | |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | 7 | 24 | 3 | 14 | 66 | 112 | 245 | 196 | 667 |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | |
| **ⅩⅩⅠ 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健** | | | | | | | | | | | | |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | |
| **ⅩⅩⅡ 特殊目的コード** | | | | | | | | | | | | **264** |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | 4 | | | 2 | | | 4 | 15 | 54 | 185 | 264 |
| **合計** | | 1,830 | 1,148 | 1,113 | 2,608 | 5,161 | 3,573 | 7,182 | 9,471 | 19,116 | 25,353 | **76,555** |

## ■疾病別・年齢階層別・退院患者数（死亡）【2025 年度】

| 2025 年度（死亡） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅰ　感染症及び寄生虫症** | | | | | | | | | | | | **11** | **182** |
| A00-A09 | 腸管感染症 | | | | | | | | | | | | |
| A15-A19 | 結核 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 22 |
| A20-A28 | 人畜共通細菌性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A30-A49 | その他の細菌性疾患 | | | | | | | | 4 | 2 | 4 | 10 | 160 |
| A50-A64 | 主として性的伝播様式をとる感染症 | | | | | | | | | | | | |
| A65-A69 | その他のスピロヘータ疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A70-A74 | クラミジアによるその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| A75-A79 | リケッチア症 | | | | | | | | | | | | |
| A80-A89 | 中枢神経系のウイルス感染症 | | | | | | | | | | | | |
| A90-A99 | 節足動物媒介ウイルス熱及びウイルス性出血熱 | | | | | | | | | | | | |
| B00-B09 | 皮膚及び粘膜病変を特徴とするウイルス感染症 | | | | | | | | | | | | |
| B15-B19 | ウイルス性肝炎 | | | | | | | | | | | | |
| B20-B24 | ヒト免疫不全ウイルス［HIV］病 | | | | | | | | | | | | |
| B25-B34 | その他のウイルス疾患 | | | | | | | | | | | | |
| B35-B49 | 真菌症 | | | | | | | | | | | | |
| B50-B64 | 原虫疾患 | | | | | | | | | | | | |
| B65-B83 | ぜん＜蠕＞虫症 | | | | | | | | | | | | |
| B85-B89 | シラミ症，ダニ症及びその他の動物寄生症 | | | | | | | | | | | | |
| B90-B94 | 感染症及び寄生虫症の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| B95-B98 | 細菌，ウイルス及びその他の病原体 | | | | | | | | | | | | |
| B99 | その他の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅱ -1 新生物（腫瘍）悪性** | | | | | | | | | | | | **52** | **1,113** |
| C00-C14 | 口唇，口腔及び咽頭の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C15 | 食道の悪性新生物 | | | | | | | | | | 2 | 2 | 68 |
| C16 | 胃の悪性新生物 | | | | | | | | 2 | 4 | 4 | 10 | 140 |
| C17 | 小腸の悪性新生物 | | | | | | | | | | | | |
| C18 | 結腸の悪性新生物 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 24 |
| C19-C20 | 直腸Ｓ状結腸移行部及び直腸の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | | | 1 | 1 |
| C21 | 肛門及び肛門管の悪性新生物 | | | | | | | | | | | | |
| C22 | 肝及び肝内胆管の悪性新生物 | | | | | | | | 3 | 1 | 1 | 5 | 89 |
| C23-C24 | 胆のう及びその他の胆道の悪性新生物 | | | | | | | | 2 | | 1 | 3 | 83 |
| C25 | 膵の悪性新生物 | | | | | | | | 1 | 3 | 2 | 6 | 99 |
| C26 | その他の部位不明確の消化器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C30-C39 | 呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 4 | 3 | 4 | 11 | 310 |
| C40-C41 | 骨及び関節軟骨の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C43-C44 | 皮膚の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C45-C49 | 中皮及び軟部組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C50 | 乳房の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 2 | 1 | | 3 | 26 |
| C51-C58 | 女性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C60-C63 | 男性生殖器の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | 1 | | | | | 1 | 1 |
| C64-C68 | 腎尿路の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | | 1 | 2 | 107 |
| C69-C72 | 眼，脳及び中枢神経系のその他の部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| C73-C75 | 甲状腺及びその他の内分泌腺の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | 1 | | 1 | 7 |
| C76-C80 | 部位不明確，続発部位及び部位不明の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | 3 | 1 | 5 | 117 |
| C81-C96 | 原発と記載された又は推定されたリンパ組織，造血組織及び関連組織の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | 1 | | | 1 | 41 |
| C97 | 独立した ( 原発性 ) 多部位の悪性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D00-D09 | 上皮内新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅱ -2 新生物（腫瘍）良性** | | | | | | | | | | | | | |
| D10-D36 | 良性新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| D37-D48 | 性状不詳又は不明の新生物＜腫瘍＞ | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅲ 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害** | | | | | | | | | | | | **1** | **27** |
| D50-D53 | 栄養性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D55-D59 | 溶血性貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D60-D64 | 無形成性貧血及びその他の貧血 | | | | | | | | | | | | |
| D65-D69 | 凝固障害，紫斑病及びその他の出血性病態 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 27 |
| D70-D77 | 血液及び造血器のその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| D80-D89 | 免疫機構の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅳ 内分泌、栄養及び代謝疾患** | | | | | | | | | | | | **5** | **57** |
| E00-E07 | 甲状腺障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 4 |
| E10-E14 | 糖尿病 | | | | | | | | | | | | |
| E15-E16 | その他のグルコース調節及び膵内分泌障害 | | | | | | | | | | | | |
| E20-E35 | その他の内分泌腺障害 | | | | | | | | | | | | |
| E40-E46 | 栄養失調 ( 症 ) | | | | | | | | | | | | |
| E50-E64 | その他の栄養欠乏症 | | | | | | | | | | | | |
| E65-E68 | 肥満 ( 症 ) 及びその他の過栄養＜過剰摂食＞ | | | | | | | | | | | | |
| E70-E90 | 代謝障害 | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 4 | 53 |

| 2025 年度（死亡） | | 0 歳 | 1 歳〜9 歳 | 10 歳〜19 歳 | 20 歳〜29 歳 | 30 歳〜39 歳 | 40 歳〜49 歳 | 50 歳〜59 歳 | 60 歳〜69 歳 | 70 歳〜79 歳 | 80 歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **Ⅴ 精神及び行動の障害** | | | | | | | | | | | | | |
| F00-F09 | 症状性を含む器質性精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| F10-F19 | 精神作用物質使用による精神及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F20-F29 | 統合失調症，統合失調症型障害及び妄想性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F30-F39 | 気分［感情］障害 | | | | | | | | | | | | |
| F40-F48 | 神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害 | | | | | | | | | | | | |
| F50-F59 | 生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群 | | | | | | | | | | | | |
| F60-F69 | 成人の人格及び行動の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F70-F79 | 知的障害＜精神遅滞＞ | | | | | | | | | | | | |
| F80-F89 | 心理的発達の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F90-F98 | 小児＜児童＞期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害 | | | | | | | | | | | | |
| F99 | 詳細不明の精神障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅵ 神経系の疾患** | | | | | | | | | | | | 1 | 59 |
| G00-G09 | 中枢神経系の炎症性疾患 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 59 |
| G10-G14 | 主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 | | | | | | | | | | | | |
| G20-G26 | 錐体外路障害及び異常運動 | | | | | | | | | | | | |
| G30-G32 | 神経系のその他の変性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| G35-G37 | 中枢神経系の脱髄疾患 | | | | | | | | | | | | |
| G40-G47 | 挿間性及び発作性障害 | | | | | | | | | | | | |
| G50-G59 | 神経，神経根及び神経そう＜叢＞の障害 | | | | | | | | | | | | |
| G60-G64 | 多発 ( 性 ) ニューロパチ＜シ＞ー及びその他の末梢神経系の障害 | | | | | | | | | | | | |
| G70-G73 | 神経筋接合部及び筋の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| G80-G83 | 脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群 | | | | | | | | | | | | |
| G90-G99 | 神経系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅶ 眼及び付属器の疾患** | | | | | | | | | | | | | |
| H00-H06 | 眼瞼，涙器及び眼窩の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H10-H13 | 結膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H15-H22 | 強膜，角膜，虹彩及び毛様体の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H25-H28 | 水晶体の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H30-H36 | 脈絡膜及び網膜の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H40-H42 | 緑内障 | | | | | | | | | | | | |
| H43-H45 | 硝子体及び眼球の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H46-H48 | 視神経及び視 ( 覚 ) 路の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H49-H52 | 眼筋，眼球運動，調節及び屈折の障害 | | | | | | | | | | | | |
| H53-H54 | 視機能障害及び盲＜失明＞ | | | | | | | | | | | | |
| H55-H59 | 眼及び付属器のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅷ 耳及び乳様突起の疾患** | | | | | | | | | | | | | |
| H60-H62 | 外耳疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H65-H75 | 中耳及び乳様突起の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H80-H83 | 内耳疾患 | | | | | | | | | | | | |
| H90-H95 | 耳のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅸ 循環器系の疾患** | | | | | | | | | | | | 36 | 445 |
| I00-I02 | 急性リウマチ熱 | | | | | | | | | | | | |
| I05-I09 | 慢性リウマチ性心疾患 | | | | | | | | | 1 | | 1 | 16 |
| I10-I15 | 高血圧性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| I20-I25 | 虚血性心疾患 | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 | 16 |
| I26-I28 | 肺性心疾患及び肺循環疾患 | | | | | | | | | | | | |
| I30-I52 | その他の型の心疾患 | | | | | | | | | 4 | 12 | 16 | 228 |
| I60-I69 | 脳血管疾患 | | | | | 1 | 1 | 3 | | 4 | 5 | 14 | 150 |
| I70-I79 | 動脈，細動脈及び毛細血管の疾患 | | | | | | | | | | 3 | 3 | 35 |
| I80-I89 | 静脈，リンパ管及びリンパ節の疾患，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| I95-I99 | 循環器系のその他及び詳細不明の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **Ⅹ 呼吸器系の疾患** | | | | | | | | | | | | 44 | 879 |
| J00-J06 | 急性上気道感染症 | | | | | | | | | | | | |
| J09-J18 | インフルエンザ及び肺炎 | | | | | | | | 1 | 4 | 13 | 18 | 323 |
| J20-J22 | その他の急性下気道感染症 | | | | | | | | | | | | |
| J30-J39 | 上気道のその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| J40-J47 | 慢性下気道疾患 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 33 |
| J60-J70 | 外的因子による肺疾患 | | | | | | | | | 3 | 11 | 14 | 374 |
| J80-J84 | 主として間質を障害するその他の呼吸器疾患 | | | | | | | | | 2 | 5 | 7 | 133 |
| J85-J86 | 下気道の化膿性及び　え＜壊＞死性病態 | | | | | | | | | | | | |
| J90-J94 | 胸膜のその他の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 4 |
| J95-J99 | 呼吸器系のその他の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 12 |
| **Ⅺ 消化器系の疾患** | | | | | | | | | | | | 13 | 182 |
| K00-K14 | 口腔，唾液腺及び顎の疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 13 |
| K20-K31 | 食道，胃及び十二指腸の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K35-K38 | 虫垂の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K40-K46 | ヘルニア | | | | | | | | | | | | |
| K50-K52 | 非感染性腸炎及び非感染性大腸炎 | | | | | | | | | | | | |
| K55 | 腸の血行障害 | | | | | | | | | | | | |

| 2025 年度（死亡） | | 0 歳 | 1 歳〜9 歳 | 10 歳〜19 歳 | 20 歳〜29 歳 | 30 歳〜39 歳 | 40 歳〜49 歳 | 50 歳〜59 歳 | 60 歳〜69 歳 | 70 歳〜79 歳 | 80 歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| K56 | 腸閉塞 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| K57 | 腸の憩室性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K58-K59 | その他の腸の機能障害 | | | | | | | | | | | | |
| K60-K62 | 肛門及び直腸の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K63 | 結腸のその他の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K64 | 痔核 | | | | | | | | | | | | |
| K65-K67 | 腹膜の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| K70-K77 | 肝疾患 | | | | | 1 | | | 2 | | 3 | 6 | 109 |
| K80-K87 | 胆のう＜嚢＞，胆管及び膵の障害 | | | | | | | | | 2 | | 2 | 51 |
| K90-K93 | 消化器系のその他の疾患 | | | | | | | | | | 3 | 3 | 7 |
| **XII 皮膚及び皮下組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **1** | **19** |
| L00-L08 | 皮膚及び皮下組織の感染症 | | | | | | | | | | | | |
| L10-L14 | 水疱症 | | | | | | | | | | | | |
| L20-L30 | 皮膚炎及び湿疹 | | | | | | | | | | | | |
| L40-L45 | 丘疹落せつ＜屑＞＜りんせつ＜鱗屑＞＞性障害 | | | | | | | | | | | | |
| L50-L54 | じんま＜蕁麻＞疹及び紅斑 | | | | | | | | | | | | |
| L55-L59 | 皮膚及び皮下組織の放射線 ( 非電離及び電離 ) に関連する障害 | | | | | | | | | | | | |
| L60-L75 | 皮膚付属器の障害 | | | | | | | | | | | | |
| L80-L99 | 皮膚及び皮下組織のその他の障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 19 |
| **XIII 筋骨格系及び結合組織の疾患** | | | | | | | | | | | | **2** | **63** |
| M00-M03 | 感染性関節障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 15 |
| M05-M14 | 炎症性多発性関節障害 | | | | | | | | | | | | |
| M15-M19 | 関節症 | | | | | | | | | | | | |
| M20-M25 | その他の関節障害 | | | | | | | | | | | | |
| M30-M36 | 全身性結合組織障害 | | | | | | | | | | | | |
| M40-M43 | 変形性脊柱障害 | | | | | | | | | | | | |
| M45-M49 | 脊椎障害 | | | | | | | | | | | | |
| M50-M54 | その他の脊柱障害 | | | | | | | | | | | | |
| M60-M63 | 筋障害 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 48 |
| M65-M68 | 滑膜及び腱の障害 | | | | | | | | | | | | |
| M70-M79 | その他の軟部組織障害 | | | | | | | | | | | | |
| M80-M85 | 骨の密度及び構造の障害 | | | | | | | | | | | | |
| M86-M90 | その他の骨障害 | | | | | | | | | | | | |
| M91-M94 | 軟骨障害 | | | | | | | | | | | | |
| M95-M99 | 筋骨格系及び結合組織のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **XIV 腎尿路生殖器系の疾患** | | | | | | | | | | | | **5** | **116** |
| N00-N08 | 糸球体疾患 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 58 |
| N10-N16 | 腎尿細管間質性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N17-N19 | 腎不全 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 18 |
| N20-N23 | 尿路結石症 | | | | | | | | | | | | |
| N25-N29 | 腎及び尿管のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N30-N39 | 尿路系のその他の障害 | | | | | | | | | 1 | 2 | 3 | 40 |
| N40-N51 | 男性生殖器の疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N60-N64 | 乳房の障害 | | | | | | | | | | | | |
| N70-N77 | 女性骨盤臓器の炎症性疾患 | | | | | | | | | | | | |
| N80-N98 | 女性生殖器の非炎症性障害 | | | | | | | | | | | | |
| N99 | 腎尿路生殖器系のその他の障害 | | | | | | | | | | | | |
| **XV 妊娠、分娩及び産じょく ‹ 褥 ›** | | | | | | | | | | | | | |
| O00-O08 | 流産に終わった妊娠 | | | | | | | | | | | | |
| O10-O16 | 妊娠，分娩及び産じょく＜褥＞における浮腫，タンパク＜蛋白＞尿及び高血圧性障害 | | | | | | | | | | | | |
| O20-O29 | 主として妊娠に関連するその他の母体障害 | | | | | | | | | | | | |
| O30-O48 | 胎児及び羊膜腔に関連する母体ケア並びに予想される分娩の諸問題 | | | | | | | | | | | | |
| O60-O75 | 分娩の合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O80-O84 | 分娩 | | | | | | | | | | | | |
| O85-O92 | 主として産じょく＜褥＞に関連する合併症 | | | | | | | | | | | | |
| O94-O99 | その他の産科的病態，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| **XVI 周産期に発生した病態** | | | | | | | | | | | | | |
| P00-P04 | 母体側要因並びに妊娠及び分娩の合併症により影響を受けた胎児及び新生児 | | | | | | | | | | | | |
| P05-P08 | 妊娠期間及び胎児発育に関連する障害 | | | | | | | | | | | | |
| P10-P15 | 出産外傷 | | | | | | | | | | | | |
| P20-P29 | 周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害 | | | | | | | | | | | | |
| P35-P39 | 周産期に特異的な感染症 | | | | | | | | | | | | |
| P50-P61 | 胎児及び新生児の出血性障害及び血液障害 | | | | | | | | | | | | |
| P70-P74 | 胎児及び新生児に特異的な一過性の内分泌障害及び代謝障害 | | | | | | | | | | | | |
| P75-P78 | 胎児及び新生児の消化器系障害 | | | | | | | | | | | | |
| P80-P83 | 胎児及び新生児の外皮及び体温調節に関連する病態 | | | | | | | | | | | | |
| P90-P96 | 周産期に発生したその他の障害 | | | | | | | | | | | | |

| 2025 年度（死亡） | | 0歳 | 1歳〜9歳 | 10歳〜19歳 | 20歳〜29歳 | 30歳〜39歳 | 40歳〜49歳 | 50歳〜59歳 | 60歳〜69歳 | 70歳〜79歳 | 80歳〜 | 合計 | 在院日数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| **XVII 先天奇形、変形及び染色体異常** | | | | | | | | | | | | | |
| Q00-Q07 | 神経系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q10-Q18 | 眼，耳，顔面及び頚部の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q20-Q28 | 循環器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q30-Q34 | 呼吸器系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q35-Q37 | 唇裂及び口蓋裂 | | | | | | | | | | | | |
| Q38-Q45 | 消化器系のその他の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q50-Q56 | 生殖器の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q60-Q64 | 腎尿路系の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q65-Q79 | 筋骨格系の先天奇形及び変形 | | | | | | | | | | | | |
| Q80-Q89 | その他の先天奇形 | | | | | | | | | | | | |
| Q90-Q99 | 染色体異常，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| **XVIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの** | | | | | | | | | | | | 3 | 19 |
| R00-R09 | 循環器系及び呼吸器系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| R10-R19 | 消化器系及び腹部に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R20-R23 | 皮膚及び皮下組織に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R25-R29 | 神経系及び筋骨格系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R30-R39 | 腎尿路系に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R40-R46 | 認識，知覚，情緒状態及び行動に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R47-R49 | 言語及び音声に関する症状及び徴候 | | | | | | | | | | | | |
| R50-R69 | 全身症状及び徴候 | | | | | | | | | | 2 | 2 | 17 |
| R70-R79 | 血液検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R80-R82 | 尿検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R83-R89 | その他の体液，検体＜材料＞及び組織の検査の異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R90-R94 | 画像診断及び機能検査における異常所見，診断名の記載がないもの | | | | | | | | | | | | |
| R95-R99 | 診断名不明確及び原因不明の死亡 | | | | | | | | | | | | |
| **XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響** | | | | | | | | | | | | 3 | 17 |
| S00-S09 | 頭部損傷 | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | 3 | 17 |
| S10-S19 | 頚部損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S20-S29 | 胸部＜郭＞損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S30-S39 | 腹部，下背部，腰椎及び骨盤部の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S40-S49 | 肩及び上腕の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S50-S59 | 肘及び前腕の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S60-S69 | 手首及び手の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S70-S79 | 股関節部及び大腿の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S80-S89 | 膝及び下腿の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| S90-S99 | 足首及び足の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T00-T07 | 多部位の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T08-T14 | 部位不明の体幹もしくは（四）肢の損傷又は部位不明の損傷 | | | | | | | | | | | | |
| T15-T19 | 自然開口部からの異物侵入の作用 | | | | | | | | | | | | |
| T20-T32 | 熱傷及び腐食 | | | | | | | | | | | | |
| T33-T35 | 凍傷 | | | | | | | | | | | | |
| T36-T50 | 薬物，薬剤及び生物学的製剤による中毒 | | | | | | | | | | | | |
| T51-T65 | 薬用を主としない物質の毒作用 | | | | | | | | | | | | |
| T66-T78 | 外因のその他及び詳細不明の作用 | | | | | | | | | | | | |
| T79 | 外傷の早期合併症 | | | | | | | | | | | | |
| T80-T88 | 外科的及び内科的ケアの合併症，他に分類されないもの | | | | | | | | | | | | |
| T90-T98 | 損傷，中毒及びその他の外因による影響の続発・後遺症 | | | | | | | | | | | | |
| **XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健** | | | | | | | | | | | | | |
| Z00-Z13 | 検査及び診査のための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z20-Z29 | 伝染病に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z30-Z39 | 生殖に関連する環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z40-Z54 | 特定の処置及び保健ケアのための保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z55-Z65 | 社会経済的環境及び社会心理的環境に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| Z70-Z76 | その他の環境下での保健サービスの利用者 | | | | | | | | | | | | |
| Z80-Z99 | 家族歴，既往歴及び健康状態に影響をおよぼす特定の状態に関連する健康障害をきたす恐れのある者 | | | | | | | | | | | | |
| **XXII 特殊目的コード** | | | | | | | | | | | | | |
| U00-U49 | 原因不明の新たな疾患の暫定分類 | | | | | | | | | | | | |
| **合計** | | | | | | 2 | 2 | 3 | 27 | 45 | 98 | 177 | 3,178 |

## ■がん登録【2024 年診断】

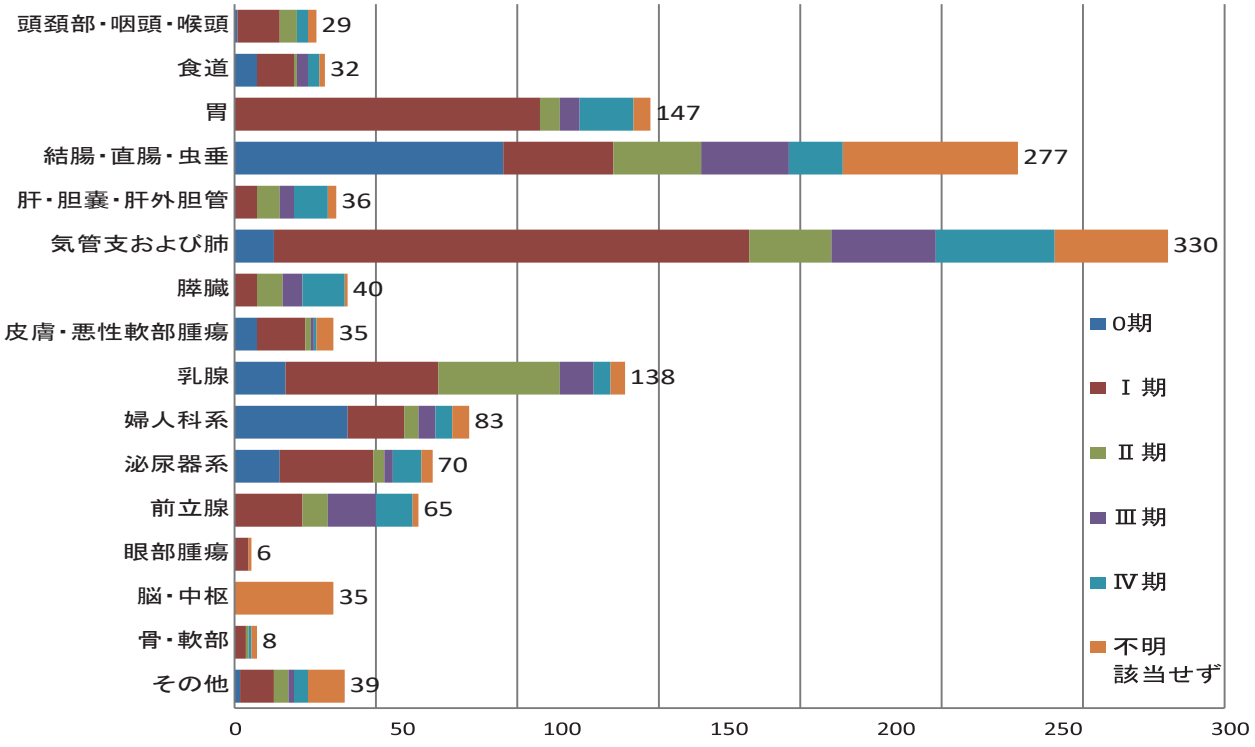
2024 年 1 月 1 日～ 2024 年 12 月 31 日診断　がん登録件数　（ 部位別及びステージ別 ）

| 部位 | 0 期 | Ⅰ期 | Ⅱ期 | Ⅲ期 | Ⅳ期 | 不明該当せず | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 頭頚部・咽頭・喉頭 | 1 | 15 | 6 | | 4 | 3 | 29 |
| 食道 | 8 | 13 | 1 | 4 | 4 | 2 | 32 |
| 胃 | | 108 | 7 | 7 | 19 | 6 | 147 |
| 結腸・直腸・虫垂 | 95 | 39 | 31 | 31 | 19 | 62 | 277 |
| 肝・胆嚢・肝外胆管 | | 8 | 8 | 5 | 12 | 3 | 36 |
| 気管支および肺 | 14 | 168 | 29 | 37 | 42 | 40 | 330 |
| 膵臓 | | 8 | 9 | 7 | 15 | 1 | 40 |
| 皮膚・悪性軟部腫瘍 | 8 | 17 | 2 | 1 | 1 | 6 | 35 |
| 乳腺 | 18 | 54 | 43 | 12 | 6 | 5 | 138 |
| 婦人科系 | 40 | 20 | 5 | 6 | 6 | 6 | 83 |
| 泌尿器系 | 16 | 33 | 4 | 3 | 10 | 4 | 70 |
| 前立腺 | | 24 | 9 | 17 | 13 | 2 | 65 |
| 眼部腫瘍 | | 5 | | | | 1 | 6 |
| 脳・中枢 | | | | | | 35 | 35 |
| 骨・軟部 | | 4 | 1 | | 1 | 2 | 8 |
| その他 | 2 | 12 | 5 | 2 | 5 | 13 | 39 |
| 合計 | 202 | 528 | 160 | 132 | 157 | 191 | 1370 |

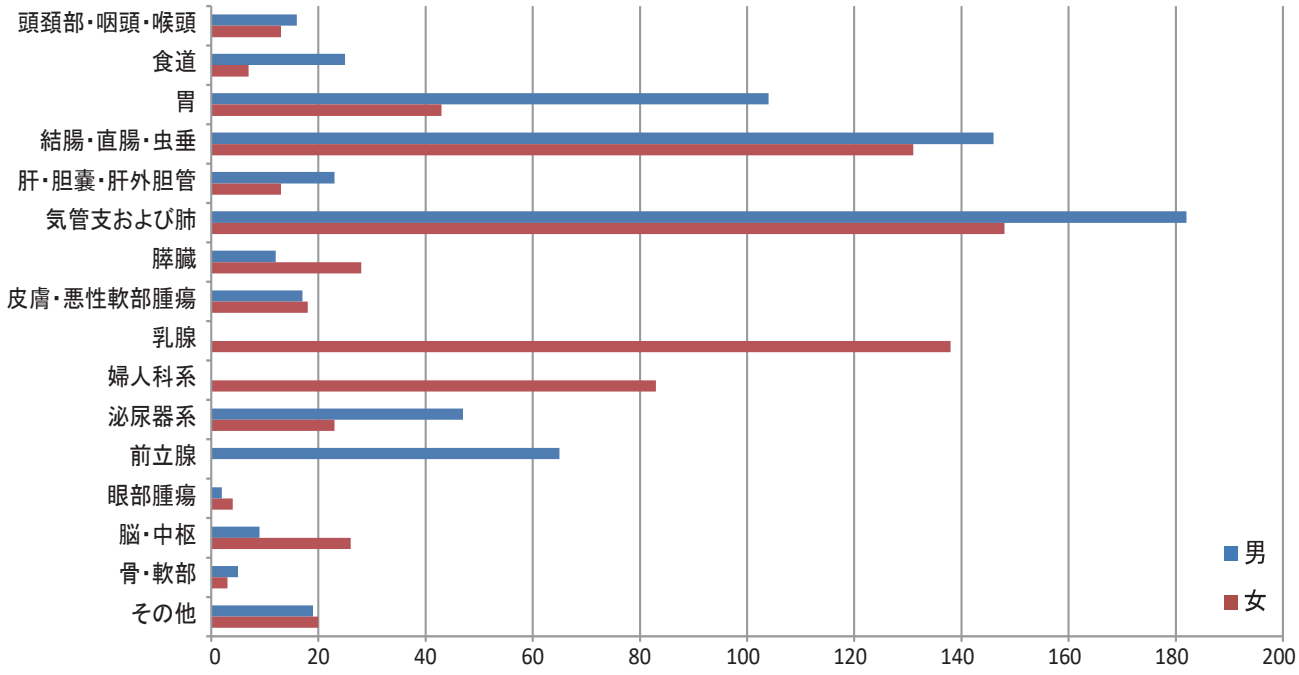
| 診断年 | 2018 年 | 2019 年 | 2020 年 | 2021 年 | 2022 年 | 2023 年 | 2024 年 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 提出件数 | 923 | 1043 | 1044 | 1153 | 1093 | 1109 | 1370 |

| 2024 年診断 | 1 位 | 2 位 | 3 位 | 4 位 | 5 位 |
|---|---|---|---|---|---|
| 合計 | 気管支および肺 | 大腸 | 胃 | 乳 | 婦人科系 |
| 男性 | 気管支および肺 | 大腸 | 胃 | 前立腺 | 泌尿器系 |
| 女性 | 気管支および肺 | 乳 | 大腸 | 婦人科系 | 胃 |

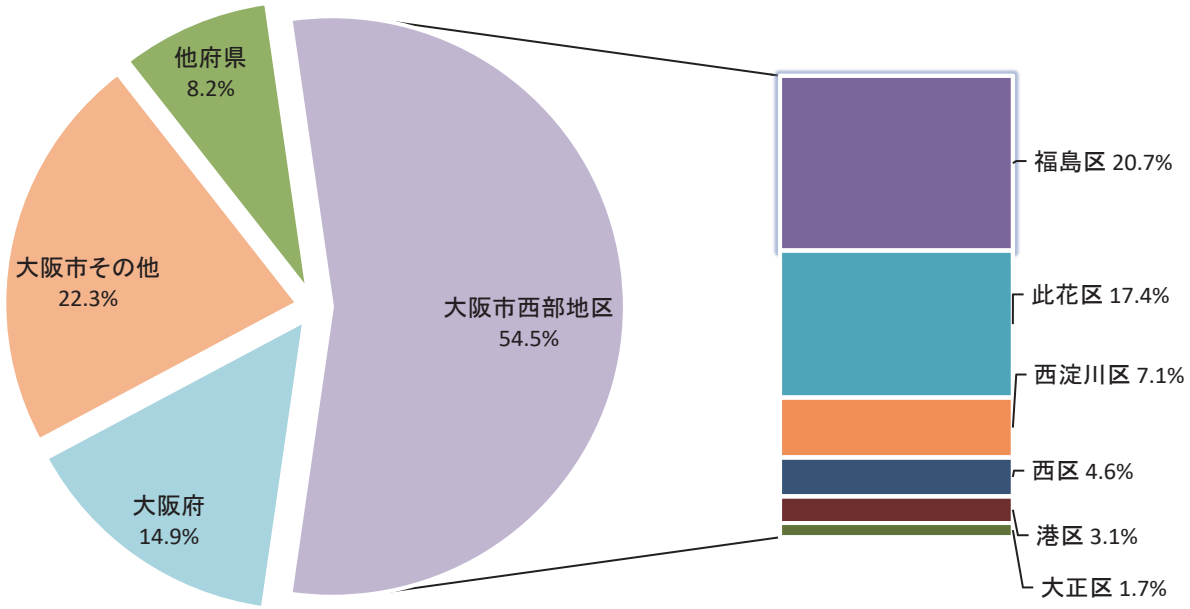
## ■がん登録　2024 年診断　部位別　ステージ別



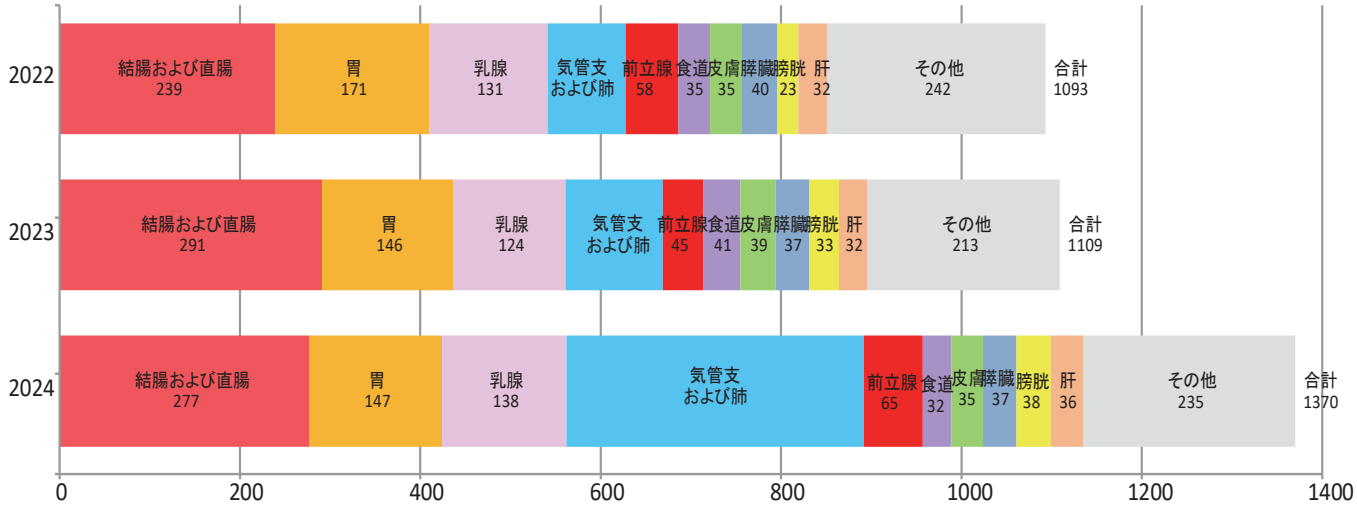
■がん登録　2024 年診断　部位別　男女別



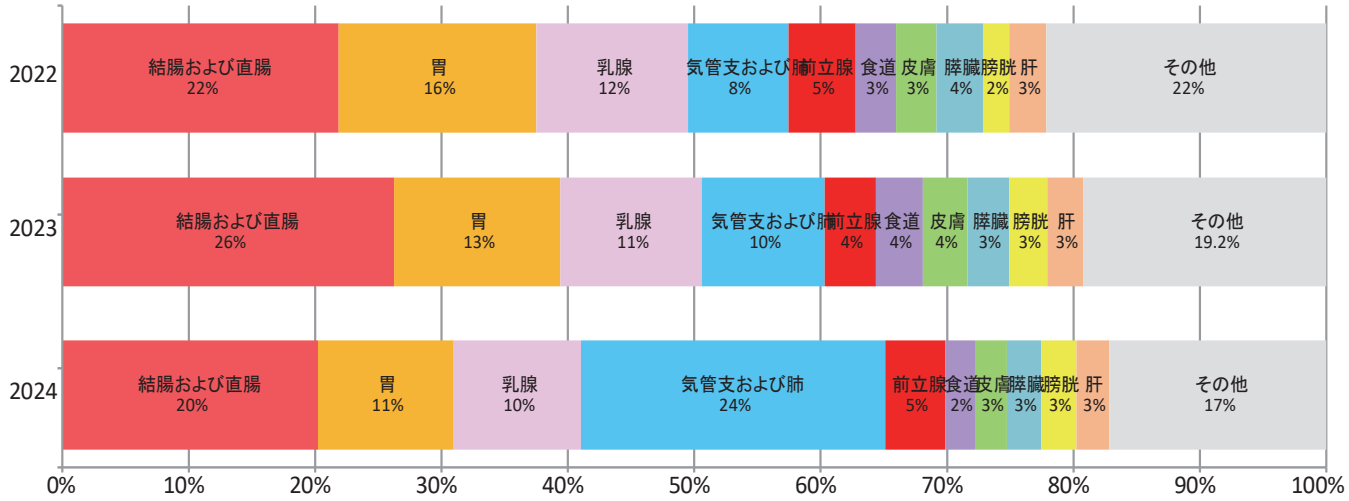

■がん登録患者　2024 年診断　地域別



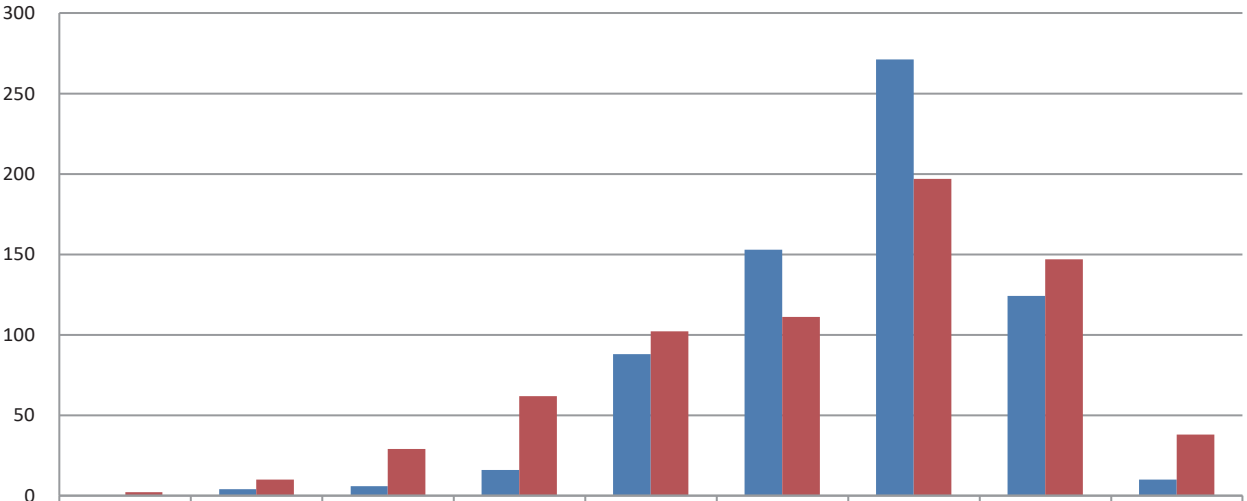
## ■ 2022 – 2024 年経年変化（実数）




## ■ 2022 – 2024 年経年変化（割合）




## ■ 2024 年症例　年齢別　男女別




| | ～19歳 | 20～29歳 | 30～39歳 | 40～49歳 | 50～59歳 | 60～69歳 | 70～79歳 | 80～89歳 | 90歳 以上 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ■男 | 0 | 4 | 6 | 16 | 88 | 153 | 271 | 124 | 10 |
| ■女 | 2 | 10 | 29 | 62 | 102 | 111 | 197 | 147 | 38 |

# 部門概要

◆スタッフ欄は、令和８年３月１日現在の配置を記す。

## 診療部門 整形外科

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田　幸造、◎（統括診療部長・主任部長）中田　活也、◎西川　昌孝、◎北　圭介、◎轉法輪　光、◎武中　章太、◎西本　竜史、岡本　恭典、金山　完哲、中矢　亮太、山田　修太郎、三好　祐史、藏谷　幸祐、河野　剛之、熨斗　優樹、田中　雄大、安田　彩夏、山本　大貴、魚住　有咲、田辺　隆司、打浪　諒太

◆概 要

整形外科は最新かつ高度な医療を提供すべく、専門分野ごとにセンター化して診療に当たっている。具体的には、脊椎外科センター、人工関節センター、手の外科・外傷センター、スポーツ整形センター（肩・肘・膝・足）、リウマチセンターの５部門に分かれている。島田副院長の下、大阪大学整形外科の主要関連病院として21名の整形外科医を擁し、個々の専門領域に応じて各センターに所属し診療に従事している。豊富な手術症例をベースにした臨床研究も盛んで国内外の学会発表や論文発表も多く、日本整形外科学会専門医14名が５名の整形外科専攻医を指導する教育体制も完備している。特に専攻医の手術技術向上に積極的に取り組むべく教育システムを有しており、診療・教育・研究の３本柱により医療に貢献するのが当整形外科の責務と考えている。

◆実 績

2025年度の整形外科の新規来院患者数は3,719名、新入院患者数は2,433名、手術件数は2,401件であった。内訳は、脊椎：555、上肢・手：469、下肢：561（THA:282, TKA:182）、外傷：312、スポーツ：408、リウマチ：20、腫瘍18、その他：58であった。これは近隣医療機関の先生方から定期的に多数のご紹介をいただいた結果である。また救急症例（大腿骨近位部骨折、小児骨折、スポーツ外傷、脊椎圧迫骨折など）を積極的に受け入れ始めた。さらに2022年10月からは近隣医療機関の先生方がご診療をされている平日午後８時までは当科スタッフが「居残り当番」としてお問い合わせに対応させていただき、整形外科が当日直をしていない休日は当科部長が「相談係」として待機していることも症例増加の要因ではないかと思われる。

臨床研究の業績としては、1編の英語論文を含む15編の論文・著書、30回の国内講演、30回の国内発表、12回の海外発表を行った。各部門長は国内外から講演依頼を受けるその道のトップランナーであり、今後も診療だけでなく臨床研究の面からも日本をリードするような整形外科であり続けたいと考えている。

当院では初期研修医から整形外科専攻医への志望者も徐々に増えつつあり、その結果、当院で研修した若い整形外科医が大阪大学を始め多くの関連病院で修練した後、当院の中堅スタッフとして整形外科の活力を高めるという好循環が実現しつつある。若手医師の育成により整形外科の底上げに寄与できる診療科を目指してゆく。

◆今後の方向性

昭和27年の旧大阪厚生年金病院開設当初から当整形外科は存在しており70余年の歴史がある。その結果整形外科診療の「最後の砦」としてのブランドが構築されてきた事実がある。一方、そのブランド名が当整形外科への受診の敷居を高くしてきたのも事実である。当科では2021年から近隣医療機関への訪問を行っている。旧厚生年金病院時代からの地域診療との垣根を低くするためである。近隣医療機関の先生方と協力して、緊密連絡・迅速対応・相互連携をモットーとした風通しの良い地域医療機能を構築していくことが当整形外科の目指すべき新しい姿であると考えている。

今後も多くの紹介患者数を受け入れ、ますます地域に根付いた整形外科診療を実施し、更にこれまでに築き上げた診療レベルを向上しつつ、大阪市内は勿論、大阪府下から近畿一円、さらには全国的に高度な整形外科治療を求める患者のニーズに応えていきたいと考えている。

診療部門 整形外科

# 手外科・外傷センター

◆スタッフ（◎部長）

（副院長）島田　幸造、◎轉法輪　光、三好　祐史

◆概 要

手外科・外傷センターは整形外科の中の一分野として、手や肘の障害や、労災事故など外傷による上肢機能の改善・再建を主なフィールドとして診療を行っている。

手は人間にとって非常に重要な道具（運動器）であると共に、物を触って判別するセンサー（知覚器）である。また舞踊の世界などでは指先の繊細な動きで美を表すように、整容面でも重要な役割を担っている。この人間にとって重要な道具を目的に応じて移動させ、標的に合わせる（ターゲッティング）ために、肩や腕、肘の機能もまた重要である。我々はそういった上肢の機能障害を最大限回復させ、人間にとっての大切な道具である手を最大限生かすことを目的に、診療に当たっている。

そういった道具であるがゆえに、仕事中など手は怪我にあう頻度が高いことは否めない。また肘に対して仕事やスポーツで負荷がかかると様々な障害をきたしうる。単に怪我や骨折を治すだけではなく、それを動かす筋肉や腱、神経を、手という精巧かつ繊細な運動器治療の専門家である我々が、その知識をフルに動員し、時には手術用顕微鏡を用いたマイクロサージャリーの技術も使い、より低侵襲な治療である手・肘関節鏡手術なども適用し、治療に当たっている。その技術は時に手だけではなく全身各所の外傷治療にも応用され、また通常の怪我、救急外傷、スポーツ傷害を含め、多岐にわたる運動器の外傷・傷害治療に専門的に当たっているのが、我々手外科・外傷センター部門である。

対象疾患としては、肘・手の骨折や脱臼、腱損傷、神経損傷などの外傷や様々な変性疾患（変形性関節症、肘離断性骨軟骨炎、上腕骨内・外側上顆炎、関節リウマチなど）である。小児の肘・手の骨折は専門スタッフが治療に介入し、麻酔科協力のもとで可能な限り早期の治療対応を心がけている。また、他院では治療困難な難治例や複数回手術症例なども積極的に受け入れている。特に肘関節鏡手術に関しては、当院は日本でも有数の症例数を誇る。高いスキルと充実した設備を基に、上肢の良好な機能回復を目指し、満足度が高い医療を目標にしている。

◆実 績

2025年度手術件数

手外科・外傷センター：541件

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など）

診療部門 整形外科

# リウマチ科

◆スタッフ（◎部長）

◎西川　昌孝、田辺　隆司、打浪　諒太、大脇　肇（非常勤）

◆概 要

2025 年度の関節リウマチセンターは、西川昌孝リウマチ科診療部長、大脇肇前副院長（非常勤）の体制を引き継ぎ、年度終わりにリウマチ研修を受けていた後期研修医の田辺隆司と打浪諒太を加えた合計 4 人で構成された。

◆実 績

2025 年度のカルテベースでの診療患者数は、関節リウマチと脊椎関節炎の合計数が 301 人で昨年度とほぼ同様の人数であった。その他の膠原病の新規紹介患者は基本的に免疫内科が担当している。

生物学的製剤は点滴製剤と皮下注射製剤があり、多くの患者は皮下注射製剤を使用し、外来処方となっているが、細かい容量調整の必要な患者は点滴製剤を使用し、水曜日午前に外来化学療法センターで行なっている。使用製剤としては、IFX（レミケード）、ETA（エンブレル）、ADA（ヒュミラ）、GLM（シンポニー）、CZP（シムジア）、OZR（ナノゾラ）、ABT（オレンシア）、TCZ（アクテムラ）、SAR（ケブザラ）があり、関節リウマチに使用できる生物学的製剤の全てを網羅している。IFX、ETA、ADA はバイオシミラーを基本的に使用している。一方、JAK 阻害薬は、TOF（ゼルヤンツ）、BARI（オルミエント）、PEF（スマイラフ）、UPA（リンヴォック）、FIL（ジセレカ）の 5 剤で、こちらも関節リウマチに使用できるもの全てを網羅している。MTX（メトトレキサート）の効果不十分症例や使用困難症例にはこれらの製剤で積極的に治療を行っており、近年は JAK 阻害薬の使用が多い。

脊椎関節炎に対しては、上記の ADA や UPA 以外に、GUS（トレムフィア）や UST（ステラーラ）などの生物学的製剤も使用している。

関節リウマチセンターの主たる手術対象は、変形性膝関節症や関節リウマチ患者に対する人工膝関節置換術であるが、全置換術（TKA）だけでなく単顆置換術（UKA）も適応を検討し、実施している。詳細は人工関節センターの項をご覧頂きたい。昨年に引き続き、リウマチ科のスタッフ減員のため、足関節と足部疾患の手術はスポーツ整形外科、手外科グループに依頼している。

関節リウマチや脊椎関節炎は、免疫抑制療法による合併症の多い疾患であり、呼吸器内科や消化器内科や眼科をはじめ、多くの他科の先生にご協力を得て診療が可能となっており感謝している。

診療部門 整形外科

# スポーツ医学科

◆スタッフ（◎部長）

◎島田　幸造、◎北　圭介、◎轉法輪　光、◎西本　竜史、三好　祐史、藏谷　幸祐、熨斗　優樹、田中　雄大

◆概 要

スポーツ医学科は、整形外科の中の一分野として、スポーツ傷害に苦しむアスリートやスポーツ愛好家をサポートすべく活動している。スポーツ傷害とはスポーツに特有の外傷とともに酷使される部位の慢性機能障害を含み、トッププレーヤーとして復帰させるためには高度に専門化された診療技術や知識が必要である。スポーツ復帰のためには、一般的に病気や怪我を治すだけでは十分ではなく、より高い治療目標が必要であり、そのためにリハビリテーション部門や看護部門と連携し、ハイレベルなチーム医療を行なっている。これらによって培われた診療技術は、スポーツ選手の復帰へのサポートだけでなく、一般の患者さんの治療にも応用され、怪我をした方の社会復帰や、活き活きした生活を送りたいという現代人の健康寿命の維持に寄与する。

当院スポーツ医学科は身体を支える下半身、中でもスポーツ傷害の頻度の高い膝関節を中心に下肢のスポーツ傷害を担当する「膝関節グループ」、人体中最も大きな可動域を有するため傷害頻度も高い肩関節を担当する「肩関節グループ」、道具として人が最も使うことから力だけでなく繊細な動きも要求される手指や肘関節を担当する「手・肘関節グループ」の３部門でスポーツ傷害の治療に対応している。いずれの分野においても関節鏡視下手術の技術を駆使した小侵襲手術を主体に、アスリートの傷害からの復帰に、ひいては一般の方の健康増進に貢献している。

◆実 績

2025 年度手術件数

膝関節グループ：514 件

（鏡視下膝十字靭帯再建、その他鏡視下靭帯再建、鏡視下半月板手術、膝周囲骨切り術（高位脛骨骨切り術）、その他の関節鏡視下手術など）

肩関節グループ：216 件

（鏡視下腱板修復、鏡視下バンカート修復、人工肩関節など）

手・肘関節グループ：診療部門「手の外科・外傷」参照

（骨折・偽関節手術、神経手術、腱・靭帯手術、離断性骨軟骨炎（肋骨移植を含む）、関節鏡視下手術など）

診療部門 整形外科

# 脊椎外科

◆スタッフ（◎部長）

◎武中　章太、金山　完哲、山田　修太郎、河野　剛之

◆概　要

当院脊椎外科センターでは、腰椎・頚椎・胸椎の変性疾患から脊柱変形、外傷、腫瘍、炎症性疾患、透析関連疾患に至るまで、幅広い脊椎疾患を対象に診療を行っています。具体的には、腰部脊柱管狭窄症、腰椎変性すべり症・分離すべり症、椎間板ヘルニア、頚椎症性脊髄症・神経根症、後縦靭帯骨化症、環軸椎亜脱臼、胸椎黄色靭帯骨化症、思春期特発性側弯症、成人脊柱変形、脊椎・脊髄腫瘍（髄内腫瘍を除く）、化膿性脊椎炎やリウマチ性脊椎疾患など、多岐にわたる病態に対応しています。

診療は、4名の脊椎外科専門医を中心とするチームで行っており、日本整形外科学会専門医、日本脊椎脊髄病学会脊椎外科指導医、BKP・XLIF・OLIF資格医、日本整形外科学会認定脊椎内視鏡下手術・技術認定医（2種および3種）など、多数の資格を有する医師が在籍しています。さらに、手術室・病棟スタッフも脊椎外科医療に精通しており、循環器内科・糖尿病内科・腎臓内科など他科と連携し、心疾患や糖尿病、透析患者を含めて安心して治療を受けられる体制を整えています。

高齢化や生活習慣の変化により、複数の合併症を抱える脊椎疾患患者が増加する中、当センターは「脊椎疾患のみならず患者全体を診る姿勢」を重視しています。科学的根拠に基づき、一人ひとりに最適化された全人的医療を提供しています。

◆実　績

当センターには、近隣医療機関から手術適応が見込まれる症例や診断が困難な症例が多く紹介されます。診察・画像検査を経て、手術適応と判断された場合は、脊椎外科カンファレンスで複数の専門医が協議し、最適な術式を決定しています。令和7年度の手術件数は596件と年々増加しており（令和6年度572件、令和5年度526件、令和4年度468件）、地域の基幹的役割を担っています。主な手術内容は以下の通りです。

腰椎手術：除圧術（FESS、MEL、開窓術）、固定術（PLIF、TLIF、前方後方固定術）、椎間板摘出術（主にFESS）

頚椎手術：椎弓形成術（人工骨・金属プレート使用）、固定術（椎弓根・外側塊スクリューを用いた後方固定、ケージや自家骨＋プレートを用いた前方固定）

脊柱変形矯正：成人脊柱変形矯正固定術、特発性側弯症手術

低侵襲手術にも積極的に取り組んでおり、令和6年度にはFESSやMELによる除圧術を179件施行しました。固定術においては、XLIF・OLIFなどの側方進入椎体間固定術を導入し、前方後方固定術や側弯症矯正手術でも応用しています。

また、ハイブリッド手術室に設置されたSIEMENS社製Artis Zeego（術中CT）とMedtronic社製ナビゲーションシステムを組み合わせ、インプラントの正確な配置をリアルタイムに確認し、安全性の高い手術を実現しています。令和6年度からは頚椎前方固定術にもナビゲーションを導入し、後縦靭帯骨化症をはじめとする高難度手術においても安全性と精度の向上を図っています。

手術内容としては、腰椎除圧術（FESS、MEL、開窓術）、腰椎固定術（後方進入椎体間固定術、後方固定術、前方後方固定術）、腰椎椎間板摘出術（主にFESS）、頚椎椎弓形成術（人工骨や金属プレートを使用）、頚椎固定術（椎弓根スクリューや外側塊スクリューを使用した後方固定術、ケージや自家骨+プレートを使用した前方固定術）、成人脊柱変形矯正固定術、特発性側弯症手術などを行っています。

診療部門 整形外科

# 人工関節センター

◆スタッフ（◎部長）

◎中田　活也、◎西川　昌孝、岡本　恭典、中矢　亮太

◆概 要

2015年４月に当人工関節センターが開設されました。手術室にはクリーンルームが４室設置され、よりスムーズに患者様を受け入れられる体制を構築しています。近隣医療機関との連携にも注力しており、変性関節疾患のみならず大腿骨頸部骨折や人工関節周囲骨折などの救急患者様も積極的に受け入れております。ご紹介いただいた患者様によりご満足していただけるために、迅速かつ安全で精度の高い治療を施せるよう対応させていただいております。

当センターでは早期社会復帰と動作制限のない人工関節置換術を目指しており、多くの新技術（MIS、３次元手術計画、手術ナビゲーション、3Dプリンター技術、症例個別的実物大骨モデル）を取り入れています。これらの新技術を駆使し、計画・作成・手術まで当センター内で実施できる自己完結型の本格的な人工関節センターです。

◆実 績（2025年度）：計546件

人工股関節置換術：282件（うち再置換術：12件）

人工膝関節置換術：182件（うち単顆置換術：8件、再置換術：3件）

大腿骨近位部骨折： 62件（うち人工骨頭置換術：24件、観血的整復固定術：38件）

ステム周囲骨折　：８件

その他　　：12件

## 診療部門 形成外科

◆スタッフ（◎部長）

◎波多　祐紀、東本　究仁、桑　夢実

◆概 要

形成外科領域専門医資格・皮膚腫瘍外科専門医資格を含む人員で高度な医療を提供しています。また、診療科としては以下の認定を得ています。

・形成外科学会認定施設

・下肢静脈瘤血管内焼灼術実施認定施設

・乳房再建用エキスパンダー及びインプラント実施認定施設

◆実 績

2025年（令和7年）の臨床活動の概要は下表の通りです。

これまでの腫瘍・創傷・先天異常といった伝統的な領域に加え、近年は特に下肢静脈瘤・眼瞼下垂・眼瞼内反などの加齢性変性疾患の治療に力を入れています。この影響で昨年に比べて局所麻酔手術が30%近く増加していますが、これらの変性疾患が治療可能であるということ自体が多くの患者さんにまだ知られていません。今後も積極的に情報の発信と紹介の受け入れを進める予定です。

「年間の麻酔別及び疾患大分類別手術手技数」

集計期間　2025年1月1日～2025年12月31日

| | 入 院 | 外 来 | 計 |
|---|---|---|---|
| 全身麻酔での手技数 | 86 | | 86 |
| 腰麻・伝達麻酔での手技数 | 3 | 1 | 4 |
| 局所麻酔・その他での手技数 | 88 | 403 | 491 |
| 入院または全身麻酔の手技数計：177 | | | |
| 外来での腰麻・伝達麻酔、局麻・その他の手技数計：404 | | | |

疾患の内訳

| 疾患大分類手技数 | 入 院 | | | 外 来 | | | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | 全身麻酔 | 腰麻・伝達麻酔 | 局所麻酔・その他 | |
| 外傷 | 17 | | 4 | | 1 | 66 | 88 |
| 先天異常 | 3 | | 4 | | | 6 | 13 |
| 腫瘍 | 46 | | 24 | | | 298 | 368 |
| 瘢痕・瘢痕拘縮・ケロイド | 1 | | | | | 10 | 11 |
| 難治性潰瘍 | 3 | | 6 | | | 6 | 15 |
| 炎症・変性疾患 | 14 | 3 | 26 | | | 18 | 61 |
| 美容（手術） | | | | | | | |
| その他 | | | 24 | | | 2 | 26 |
| Extra レーザー治療 | | | | | | | |

# 診療部門 リハビリテーション科

◆スタッフ（◎部長）

◎寺川　晴彦、前田　香、（作業療法士長）水田　裕文、他理学療法士３０名、作業療法士４名、言語聴覚士２名、義肢装具士２名、健康運動指導士１名、事務員２名

◆概 要

リハビリテーション科専任医師２名［専門医２名（内、指導医１名）］、理学療法士３０名、作業療法士５名、言語聴覚士２名、義肢装具士２名、健康運動指導士１名、クラーク２名。

セラピスト：心臓リハビリテーション指導士６名、３学会合同呼吸療法認定士１２名、がんのリハビリテーション研修修了３２名、サルコペニア・フレイル指導士２名、日本理学療法士協会認定理学療法士１４名（循環３名、運動器５名、脳卒中３名、呼吸３名）、日本作業療法士協会認定作業療法士１名、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士１名。

◆実 績

■　リハビリテーション科／室

① 新規オーダー件数（件）　PT、OT、ST合計

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 450 | 416 | 440 | 467 | 418 | 431 | 466 | 403 | 456 | 458 | 417 | 445 | 5,267 |

② 疾患別件数（件）　PT、OT、ST合計

| 疾患別 | 運動器リハ | 脳血管リハ | がんリハ | 心大血管リハ | 呼吸器リハ | 廃用症候群リハ | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 1,887 | 1,284 | 506 | 461 | 152 | 973 | 5,267 |

③ 実施単位数（単位）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| PT | 9,772 | 10,045 | 10,410 | 11,275 | 9,850 | 9,665 | 10,488 | 9,000 | 9,897 | 9,182 | 8,993 | 9,929 | 118,506 |
| OT | 1,154 | 1,179 | 1,331 | 1,468 | 1,244 | 1,317 | 1,461 | 1,242 | 1,367 | 1,300 | 1,316 | 1,427 | 15,806 |
| ST | 480 | 427 | 448 | 511 | 382 | 378 | 499 | 385 | 371 | 99 | 70 | 82 | 4,132 |

④ 心リハ外来（単位）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単位 | 429 | 448 | 465 | 478 | 320 | 398 | 411 | 365 | 386 | 377 | 415 | 459 | 4,951 |

⑤ がんリハ（単位数・対象実人数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 単位 | 771 | 810 | 820 | 815 | 651 | 804 | 950 | 727 | 681 | 744 | 838 | 826 | 9,437 |
| 実人数 | 55 | 59 | 55 | 61 | 54 | 65 | 59 | 57 | 54 | 56 | 68 | 68 | 711 |

⑤ リハ処方された退院時リハビリテーション指導料（件数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 386 | 354 | 345 | 364 | 382 | 341 | 365 | 311 | 358 | 357 | 340 | 348 | 4,251 |

■　義肢装具室

院内依頼総件数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 141 | 175 | 142 | 180 | 129 | 155 | 170 | 142 | 172 | 133 | 141 | 194 | 1,874 |

■　健康運動指導士

運動指導等（延べ総件数）

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合　計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 件数 | 67 | 69 | 69 | 88 | 64 | 71 | 103 | 53 | 79 | 65 | 74 | 56 | 858 |

# 診療部門 外科 消化器外科

◆スタッフ（◎部長）

（院長）西田　俊朗、◎松田　宙、◎出村　公一、◎和田　浩志、山中　千尋、野中　亮児、斎藤　百合奈、雪本　龍平、岡　啓史

◆概　要

**＜消化器外科全般＞**

当科は上部消化管、下部消化管、肝胆膵の３グループからなり、それぞれ2名、3名、2名のスタッフが担当している。4月から、診療部長として松田宙（平成7年卒）、肝胆膵担当部長として和田浩志（平成10年卒）、斎藤百合奈（平成22年卒）　雪本龍平（平成25年卒）が赴任した。当院で初期研修を終えた専攻医3年目の山川拓真（令和3年卒）が9月まで在籍した。

2025年の消化器外科の手術件数は603件、そのうち全身麻酔症例は569件であった。大阪府がん診療拠点病院として、手術だけでなく、化学療法、放射線治療、緩和ケアまで消化器癌のあらゆる段階での治療を行っている。また他院からの緊急手術依頼や救急外来に搬送された急性腹症も積極的に受け入れ、夜間休日はオンコール体制で対応し、消化管穿孔、腸閉塞、急性胆嚢炎 、急性虫垂炎など多くの緊急手術を施行した。当科の特徴として内視鏡手術の占める割合が多く、2025年は523件で全身麻酔手術の92%を占めた。4月からは胃癌、大腸癌に対して全例、ダビンチXiによるロボット手術を行なっている。また5月からは肝切除、膵切除の一部にもロボット手術を導入した。

また大阪大学消化器外科の関連施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実　績

**＜上部消化管＞**

食道癌、胃癌、胃・十二指腸粘膜下腫瘍（GIST）、胃・十二指腸潰瘍穿孔、高度肥満症が主な治療の対象であり、2025年度は担当部長：出村公一、医長：斎藤百合奈の２名が担当している。

胃癌はHP感染症率の減少、内視鏡治療の適応拡大により、手術症例が全国的減少している。2025年度は前年度と程同様の42例の胃癌切除を行った。当院では最新型手術支援ロボット「ダビンチXi」をほぼ全例に用いて手術を行っている。また、新たな適応追加となった免疫チェックポイント阻害薬を含めた化学療法を組み合わせた集学的治療も行い、質の高い医療を提供している。

食道癌治療は、大阪大学消化器外科と連携しながら診療を行っている。2024年度は6例の食道切除術を行った。手術適応とならない高度進行癌も多く、免疫チェックポイント阻害剤を含めた化学療法、化学放射線療法を行っている。

GISTを含む粘膜下腫瘍は西田院長就任以降増加傾向であり、昨年度は12例の粘膜下腫瘍切除術を行った。他院からのセカンドオピニオンも多く、他院では治療困難な巨大腫瘍も経験した。消化器内科と合同して行うLECSも積極的に行っており、難易度の高い十二指腸腫瘍に対するD-LECSも施行している。

高度肥満症は新たにGLP-1RA、GLP-1/GIPRAが保険適応となり、社会的関心、ニーズも増加してきている。当院では糖尿病内科、管理栄養士、精神科を含めた14の職種を含む「減量・代謝改善手術チーム」にて定期的なカンファレンスを行いながら治療方針、減量代謝改善手術の適応を検討し、2024年度は2例にスリーブ状胃切除術を施行した。広報の成果にて紹介患者様が増加しており、本年度の手術数の増加が見込まれる。

**＜下部消化管＞**

下部消化管外科は2025年度より診療部長；松田宙、2022年度より医長；野中亮児、2025年度より医員；雪本龍平の3名が担当している。大腸がん（結腸がん、直腸がん）を中心に、良性腫瘍、虫垂炎、大腸憩室症（憩室炎、憩室出血、憩室穿孔）や腸閉塞（イレウス）に対する外科的治療を行っている。特に、大腸がんに対する低侵襲手術、直腸がんに対する肛門温存手術、局所進行直腸がんに対する集学的治療を専門

としている。また、痔核、痔瘻、肛門周囲膿瘍といった肛門疾患の手術も行っている。

近年、大腸がんは増加しているが、当院での手術件数も増加傾向にある。当院では患者さん一人一人の状態にあわせて治療方針を決定しているが、とくに、体にかかる負担を少なくし、質の高い手術が可能となる低侵襲手術を積極的に取り入れている。また、肛門に近い直腸がんにも出来る限り肛門を温存できるよう、「究極の肛門温存手術」と言われる括約筋間直腸切除術（ISR）も積極的に導入している。進行度に応じて、術前化学（放射線）療法など集学的治療を用いて、出来る限り肛門を温存できるようにしている。

2023年12月より手術支援ロボットダビンチXiが導入され、2025年4月より大腸癌に対して、原則全例にロボット支援手術で施行している。ロボット支援手術は、従来の腹腔鏡手術よりもさらなる低侵襲が期待される手術で、術後合併症率の低下、神経温存率や肛門温存率の増加が期待される。ダビンチ手術は十分な訓練を経て、認定を受けた医師のみが行うことができ、手術に携わるスタッフも訓練を積み、徹底した安全管理のもとに施行している。

切除不能進行再発大腸癌に対しても、それぞれの患者様の病態、状況に応じた全身化学療法レジメン選択を行い、QOLを保った化学療法の実践を腫瘍内科と共に施行している。

お一人お一人の患者さんにあった、安全で質の高い医療を提供することを第一に、地域の皆様の力になれるよう、全力を尽くしていきたいと考えている。

2025年診療実績

下部消化管（小腸・大腸・肛門）手術　227例

うち結腸癌手術　70例

直腸癌手術　49例

腸閉塞手術　13例

肛門手術　19例

**＜肝胆膵外科＞**

肝胆膵外科では、肝胆膵領域がん（肝臓癌、膵臓癌、胆道癌、十二指腸癌）、膵神経内分泌腫瘍（NET）、膵嚢胞性腫瘍などの腫瘍性病変と、胆嚢炎、胆石症、巨大肝嚢胞などの良性疾患が主な治療対象であり、担当部長：和田浩志、医長：山中千尋の2名が担当している。消化器内科、放射線診断科と週１回合同カンファレンスを行い、診断および治療方針の決定を行なっている。多発する肝臓癌の場合、肝切除と焼灼術を組み合わせた治療や、膵臓癌に対する術前化学療法後の根治手術など、癌の進行度と患者の耐術能を総合的に評価した上で、手術・化学療法・放射線治療を組み合わせた集学的治療によって治療成績の向上に努めている。また、低侵襲手術として従来からの腹腔鏡下手術に加えて、2025年5月からロボット支援下肝切除術、7月からロボット支援下膵体尾部切除術を開始した。2025年度の手術実績は、手術件数191例：胆嚢摘出術 132例、肝切除術 34例（肝細胞癌：14例、肝内胆管癌：5例、転移性肝癌：11例、肝門部胆管癌：1例、胆嚢癌：1例、その他：2例）、術式：葉切除5例、区域・亜区域切除12例、部分切除17例、また焼灼術を1例に施行した。ロボット支援下肝切除は、23例（68%）であった。膵切除25例（膵癌：11例、IPMN：4例、NET：2例、胆道癌：3例、その他の膵腫瘍など：5例）、術式：膵頭十二指腸切除12例、膵体尾部切除13例（ロボット支援下：5例、腹腔鏡下：4例、開腹：4例）であった。また、2025年の手術実績により、2026年6月より日本肝胆膵外科学会の高度技能専門医制度認定修練施設に認定されている。

**<一般外科、その他>**

ヘルニア手術を77例（鼠経ヘルニア61例、腹壁瘢痕ヘルニア6例）、虫垂切除術59例、急性腹症に対する手術を35例行った。

**＜学術活動＞**

2025年度の業績は共著も含めて論文が英文13編、和文1編、学会発表が13件であった。

診療部門

# がん診療部

◆スタッフ（◎部長）

◎明石　雄策、今井　康乃（乳がん看護認定看護師）

◆概　要

がん診療部は、患者様に最適ながん診療を提供するため、当院内のがん診療を横断的に統括し、共通する課題に多職種で協力して取り組んでいます。月に一度程度、がん診療運営委員会を開催し、がん治療に関連するさまざまな問題について議論し、解決策を検討しています。

がん診療運営委員会では、がん手術療法、がん薬物療法、放射線治療、緩和ケア、がん相談支援センター、がん登録、がん患者の栄養、がんリハビリテーションなど、各分野や部門における課題を共有し、それぞれの専門家が連携して活動しています。医師、看護師、薬剤師、栄養士、臨床心理士、作業療法士、事務職員など、多職種のチームが協力し、患者様一人ひとりに最適な医療を提供するための取り組みを進めています。

さらに、キャンサーボードを主催し、さまざまな職種の参加を促すことで、患者様の抱える問題を多角的に検討しています。治療方針やケアプランについてチーム全体で共有し、患者様にとって最適な医療を提供することを目指しています。また、希少がんやAYA世代（思春期・若年成人）に特有のがん、妊娠中のがん治療、がん治療と就労の両立など、複雑ながん診療の問題にも取り組み、すべての患者様に質の高い医療を提供することを目指しています。

加えて、院内や地域全体に対するがん診療の啓発活動の一環として、講演会を開催し、がんに関する正しい知識の普及に努めています。また、次世代のがん教育の重要性を踏まえ、近隣の学校で出張講義を実施し、多職種が協力してがんに関する教育活動を行っています。

◆実　績

【2025年度】

・がん手術総件数…673件
・化学療法総件数…3,814件
・放射線治療総件数…3,199件

診療部門 呼吸器センター

# 呼吸器外科

◆スタッフ（◎部長）

◎髙濱　誠（センター長）、坂本　鉄基

◆概　要

呼吸器センター外科部門として、呼吸器（肺・縦隔）領域の外科疾患に対して手術治療を中心に診療を行っている。中でも肺癌の治療を専門としており、肺癌の切除成績向上を目指したEvidence Based Medicine（EBM）を実践するためのEvidenceを創り上げることを目標としている。

早期肺癌に対しては、原則的に完全胸腔鏡下もしくは胸腔鏡補助下により侵襲の少ない手術を行っており、術後のQOL改善や早期社会復帰に努めている。2025年3月からロボット支援下による肺癌手術も開始した。術中触知困難な小型肺癌に対しては、術中Cone beam CT navigationによる腫瘍の位置同定を行い、精密な肺縮小手術を行なっている。

局所進行肺癌に対しては、呼吸器内科および放射線治療科と共同で集学的治療を実践し、手術成績の向上を目指している。総合病院の特性と強みを生かして心臓血管外科、消化器外科、整形外科、耳鼻咽喉科など他科との連携下に他病院では手術困難とされる方でも積極的に各種拡大手術療法を行っている。2024年度より硬性気管支鏡を導入し、気管ステント留置術、気管・気管支拡張術も行っており、肺移植以外の全ての呼吸器外科領域の手術に対応可能となった。また手術数は2024年度より倍増し、2025年度も手術枠を増加していただき、さらに120%増となった。

大阪大学呼吸器外科診療連携施設の一つとして多施設共同臨床研究にも積極的に参加している。

◆実　績

| | 2023 年度 | 2024 年度 | 2025 年度 |
|---|---|---|---|
| 手術実績 | 59 | 128 | 158 |
| 原発性肺悪性腫瘍 | 29 | 62 | 68 |
| 転移性肺腫瘍 | 7 | 6 | 11 |
| 良性肺腫瘍 | 0 | 2 | 6 |
| 縦隔腫瘍 | 4 | 8 | 10 |
| 気胸 | 13 | 27 | 19 |
| 膿胸 | 2 | 12 | 22 |
| 気管・気管支狭窄 | 0 | 8 | 12 |
| その他の呼吸器手術 | 4 | 3 | 10 |

## 診療部門 乳腺・内分泌外科

◆スタッフ（◎部長）

◎塚本　文音、大谷　陽子、武田　恵美

◆概　要

スタッフの体制は部長１名、医長１名、専攻医１名。診療内容は乳腺疾患の診断、手術、薬物療法。終末期医療にも対応。がん救急においても、内科、循環器科、整形外科、脳神経外科等との連携により迅速な対応が可能。Weekday はすべての曜日で当科医師による初診と再診の外来を行っています。また、初診は予約枠を設けていますが、他医療機関からの紹介がない場合も受け入れています。

早期乳がんに対する新たな治療法であるラジオ波焼灼術が可能な施設として、2024年7月に日本乳癌学会により認定されています。

乳房再建用エキスパンダー/ インプラント実施施設認定であり、乳癌の手術と同時に人工物あるいは自家組織による一期的乳房再建が可能です。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群（HBOC）に対する取り組み：遺伝性乳がんが疑われる方には、遺伝相談外来における遺伝カウンセリングの場を設けています。HBOC と診断され、かつ既に乳がんあるいは卵巣がんと診断された方では2020年４月より､がんがまだ発症していない部位の予防的切除が保険診療となりました(リスク低減乳房切除術、リスク低減卵管卵巣摘出術)。当科でもリスク低減乳房切除術に対応しています。

◆実　績

| | |
|---|---|
| 乳癌手術 | １１０例 |
| 乳腺良性病変に対する手術 | １例 |
| 甲状腺癌に対する手術 | １３例 |
| 甲状腺良性病変に対する手術 | １例 |
| その他 | ２例 |

## 診療部門 脳神経外科

◆スタッフ（◎部長）

◎榊　孝之、◎山際　啓典、呉村　有紀

◆概　要

当科は昭和43年５月に開設された伝統のある診療科です。開設以来、市内はもとより、近隣市より紹介していただき、診療に携わってきました。通常の脳神経外科診療以外に、脳疾患救急・脳卒中 センター・脳ドッグを担当しています。脳卒中センターは、PSCコア（１次脳卒中センターコア）に認定され、24時間365日体制で、脳神経内科と協力して運営しています。脳卒中専任医師が、直接つながる脳卒中Hot callを常時携帯し、要請に対応しています。

手術は、従来の開頭手術だけでなく、神経内視鏡手術、定位放射線治療、血管内治療（カテーテルによる治療）など、最新の低侵襲な治療にも積極的に取り組んでいます。血管内治療では、脳動脈瘤に対するフローダイバーター(FD)ステント留置術、コイル塞栓術、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻に対する塞栓術、内頚動脈狭窄に対するステント留置術など多岐にわたる疾患に対応しています。超急性期脳梗塞に対しては、迅速に診断し、適応があれば、rt-PA 静注療法や、機械的血栓回収療法を施行しています。

脳腫瘍においては、良性腫瘍、悪性腫瘍に対応し、手術、化学療法、放射線治療などの集学的治療を行っています。手術は、顕微鏡下に、ナビゲーションシステムや、神経モニターを用いた精度の高い治療を心 がけています。髄膜腫などの多血性脳腫瘍に対しては、ハイブリッド手術（カテーテルによる栄養血管塞栓術と開頭摘出術）を行っています。悪性神経膠腫をはじめとした悪性脳腫瘍に対しては、形態的な病理診断学に加えて、遺伝子解析、分子診断を行っています。当院では、関西中枢神経腫瘍分子診断ネットワー ク、「グリオーマにおける化学療法感受性の遺伝子指標の検索とそれに基づくテーラーメード治 療法の作成に関しての臨床治験」に参加し、その結果を参考に、的確な診療を行っています。さらに新しい治療として、交流電場を用いた電場療法を導入しています。

◆実　績

手術件数（2025/ 1 / 1 ～2025/12/31）

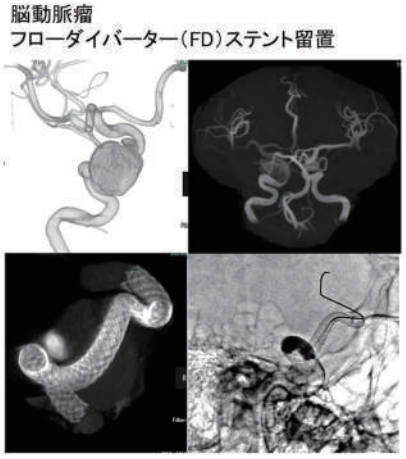
**総　数：152件**

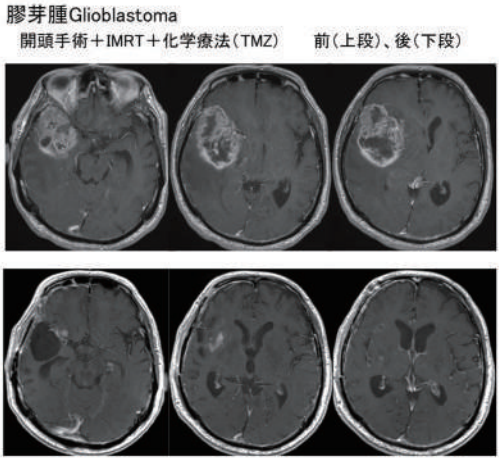
**直達手術：99件**

脳腫瘍 18件、脳出血 4件、脳動脈瘤（クリッピング術）7件、水頭症11件、慢性硬膜下血腫 32件、その他27件

**血管内治療：53件**

動脈瘤（コイル塞栓術）19件、頚動脈ステント留置術13例、機械的血栓回収療法 15例、AVM/dAVF 1件、 その他5件



## 診療部門 心臓血管外科

◆スタッフ（◎部長）

市川　肇（院長補佐）、◎北林　克清、中江　昌郎、折橋　寛典

◆概　要

JCHO大阪病院心臓血管外科では、2015年の新病院移転時に開設されたハイブリッド手術室の機能を活かし、大動脈疾患に対するステントグラフト内挿術などの低侵襲手術を積極的に行って来ました。ハートチームとして循環器内科との連携強化を継続し、大動脈弁狭窄に対する経カテーテル的大動脈弁置換術も周辺の病院に先駆けて行っております。その他、弁膜症に対する胸骨を切らない右小開胸心臓手術（ MICS ）や心房細動に対する左小開胸左心耳閉鎖術なども積極的に取り入れ、今後、患者数の増加が予想される成人先天性疾患についても外来も開設しております。

周りの方々のご助力により、開心術症例数は年々増加し、2025年も心臓血管外科専門医の修練基幹施設に必要な年間100例を超える手術を行うことが出来ました。

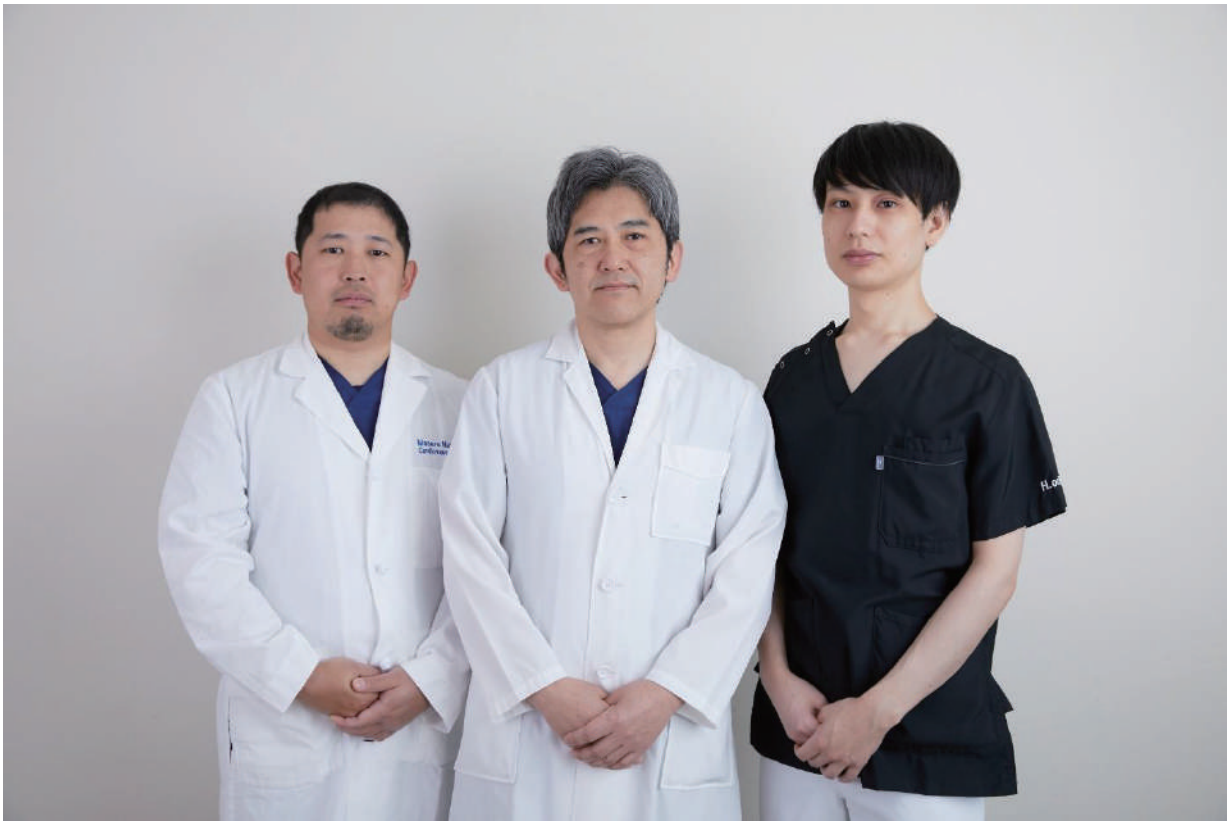
今後も多様な循環器疾患に対応して、それぞれの患者様に最適な治療を行えるよう、また安定した手術成績を残せるよう引き続き努力を続けていきたいと考えております。

◆実　績

2025年（１月１日～12月31日）

手術総数　157例

開心術数　105例（冠動脈 17例、弁膜症 51例、胸部大動脈 31例、その他 6例、重複なし）



◆スタッフ（◎部長）

◎鈴木　朗、岩橋　恵理子、山口　慧、村上　萌絵、今中　友香、橋本　沙和、岸本　真子

◆概　要

検尿異常、ネフローゼ症候群、あるいは急激な腎機能低下で発見される腎疾患について、腎生検にて診断し治療を行っております。小児期発症の微小変化型ネフローゼ症候群に対しては積極的にリツキシマブを使用し、ステロイドを減量し副作用を抑えつつ良好な治療成績をあげております。慢性腎臓病については、透析予防外来を開設し、透析導入回避を目標に、最新の知見に基づいた薬物療法、食事療法を提供しております。末期腎不全に至った例は、療法選択外来を受けていただき各個人の生活スタイルに合わせた最適な腎代替療法を提案させていただきます。当科外来において維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。内シャント狭窄に対するPTAや、ブラッドアクセス作成困難例に対するパーマネントカテーテル留置も行っております。

◆実　績

**1）外来診療**

2025年度に診療した外来患者数は11,512例でした。（2024年度10,941例、2023年度9,631例、2022年度11,271例、2021年度9,412例、2020年度8,834例、2019年度8,458例、2018年度8,316例）

**2）入院診療**

2025年度の入院症例は486例でした。（2024年度487例、2023年度435例、2022年度380例、2021年度364例、2020年度383例、2019年度395例、2018年度385例）　腎生検数は32例でした。（2024年度28例、2023年度22例、2022年度21例、2021年度33例、2020年度22例、2019年度32例、2018年度40例）腎生検診断の内訳は下記の通りでした。透析導入数は26例（腹膜透析9例）でした。（2024年度24例、2023年28例、2022年51例、2021年47例、2020年37例、2019年39例、2018年39例）

| | | | |
|---|---|---|---|
| IgA腎症 | 13 | 糖尿病性腎症 | 3 |
| 腎硬化症 | 2 | ループス腎炎 | 1 |
| ANCA関連血管炎 | 2 | 微小変化型ネフローゼ症候群 | 3 |
| IgA血管炎 | 3 | 間質性腎炎 | 2 |
| | | 計 | 32 |

**3）血液浄化センター**

当院は血液透析導入を主たる機能とする急性期病院ですが、維持血液透析患者20名、腹膜透析患者14名も管理されています。また、吸着式潰瘍治療にも積極的に取り組んでいます。2025年の各療法実施件数は以下の通りです。

| | | |
|---|---|---|
| HD | 1,613 | ▲245 |
| online HDF | 3,045 | △351 |
| PE（血漿交換） | 18 | △3 |
| DFPP | 3 | △3 |
| 吸着式潰瘍治療（レオカーナ） | 82 | △65 |
| GCAP（顆粒球吸着） | 0 | ▲32 |
| ICUにおける血液浄化 | 131 | △89 |

**4）経皮的内シャント拡張術**

2019年に導入され、当初は入院患者に発症した内シャント狭窄を対象に治療介入を行っておりましたが、2021年からは院外からの紹介も受ける体制を整えております。2025年度は82例実施しました。（2024年度51例、2023年41例、2022年26例、2021年29例、2020年18例、2019年2例）

診療部門 内科 **感染症内科**

◆スタッフ（◎部長）
◎長田 学

◆概 要

感染症はどの臓器にも発生する疾患なので、臓器に関係なく、横断的に各診療科と連携を取りながら診療している。臨床では各診療科からコンサルテーションを受けて担当医と共に感染症患者の診療に当たっており、血液培養陽性患者のチェック、特定抗菌薬（広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬）の管理も行っている。外来では厚生労働省検疫所と日本渡航医学会より認定を受けた特殊外来である「ワクチン・渡航外来」を運営している。

また院内感染予防対策委員会の委員長として、ICTメンバーの看護師、臨床検査技師、薬剤師、事務職員と共に、院内の耐性菌の発生・伝播の抑制、医療関連感染症（院内感染）の抑制、血液曝露対策、入職者の予防接種、院内スタッフに対する感染症に関する教育講演や広報活動を引き続き精力的に行っている。

さらに、2022年度より感染対策向上加算１が設定され、ICTチームとしてこれまで以上に地域の医療機関との連携による教育講演活動や感染対策の助言を求められる機会も増えて来ている。

◆実 績

新型コロナウイルス感染症に対する治療や隔離を全例感染症科コンサルトするのではなく、各診療科・病棟で判断する体制に移行した影響か、感染症コンサルト件数は2023年度をピークに緩やかに減少しているが、新型コロナウイルス流行前と比較すると相変わらずかなり多い状況が続いている。

また、ワクチン・渡航外来では大阪府で3か所目、近畿圏でも4か所目の黄熱ワクチン接種医療機関となり、アフリカや南米を中心とした海外渡航者の利用が大幅に増加傾向である。これらの実績を基に、今年度中に独立した黄熱ワクチン接種医療機関の指定を受けられるよう申請手続きを進めている。

**１．院内コンサルテーション**

各診療科の医師から感染症の診断、抗菌薬の選択、培養結果の解釈、治療期間、隔離の是非や隔離解除の判断等について相談を受け、必要に応じ直接患者を診察し、担当医のニーズに沿う形で診療の助言を行う。2025年度は延べ519件のコンサルテーションを受けて対応した。

**２．血液培養陽性例への介入**

血液培養が陽性になる患者は重篤な感染症を生じているリスクが高い。血液培養が陽性になったら全例細菌検査室より連絡を受け、カルテの内容、検査、画像等から問題があると判断した場合は主治医または担当医に連絡して治療方針について協議し、必要があればその後も定期的にフォローしている。

2025年度は647件の陽性例があり、その１/３程度について介入を行った。

**３．特定抗菌薬許可制**

2002年（平成14年）３月より導入された制度で、広域抗菌薬、抗MRSA薬、抗真菌薬のような特殊な耐性菌や真菌に有効な抗菌薬を使用する時は事前に許可が必要である。担当医からの情報で適応の有無を判断し、許可する。その後の臨床経過、培養結果を参考にして、狭域抗菌薬への変更（De-escalation）が可能であれば、ASTチームを通じて担当医と協議する。2025年度は940件の使用許可の申請があった。

4.　ワクチン・渡航外来

新型コロナウイルス禍による海外渡航制限が解除された2023年に開設された、海外渡航者や成人の免疫不全者、高齢者、医療従事者などを対象とした予防接種を行ったり、高山病やマラリアの予防薬の処方、海外渡航時や留学時の抗体検査・予防接種証明書、診断書作成などの業務を行う特殊外来である。2025年4月からは黄熱ワクチン接種医療機関として、1年間で500件近い黄熱ワクチン接種を行った。大阪はもちろん、近畿一帯や北陸や中国・四国地方からも利用者が訪れるなど、黄熱以外のワクチン接種も含めると年間の受診者数は1000人を超えてきており、地域のニーズに合わせた予防医療への貢献に取り組んでいる。

# 免疫内科

◆スタッフ（◎部長）

植田　すず、島上　洋（非常勤）、朴　正薫（非常勤）

◆概 要

当院では、大阪大学の免疫内科医局より非常勤医師の派遣を受け、皮膚科や腎臓内科外来内にて膠原病内科外来として外来診療を続けていましたが、自己免疫疾患の需要増加に伴い、2023年度より免疫内科の名称のもと常勤医1名で診療科の開設をいたしました。2024年度には常勤2名体制となり診療拡大を目指しましたが、2025年度には常勤医退職に伴い再度1名体制に戻りました。そこで、阪大からの応援医師の増員を行い、病院内外からの紹介患者への対応や新規患者の獲得を目標に、専門性の高い免疫疾患の管理や不明熱など診断困難例への対応に従事いたしました。

◆実 績

1）外来診療

2025年度に診療した外来患者数は延べ3128名で、うち新規患者数は84名でした。（2023年度 1629名、2024年度2603名）病名登録ベースにおいては、外来患者数の多い疾患から、関節リウマチ、間質性肺疾患、血管炎症候群（大型血管炎、ANCA関連血管炎）、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、リウマチ性多発筋痛性、多発性筋炎/皮膚筋炎でありました。当科への紹介患者は362件で、30%は地域から、70%が院内からの依頼で、ともに関節疾患、発熱、検査異常の内容の順でした。地域紹介患者では、47%が免疫疾患としての診断が下り、当科および当該領域の診療科での継続診療につながりました。

2）入院診療（カルテベース）

2025年度の免疫内科で入院が開始された患者数は38名、転科を含む入院患者数は54名、平均在院日数は13.5名でした。新規発症の免疫疾患としては、血管炎症候群が17名、PMR8名、関節リウマチ7名、筋炎6名、IgG4関連疾患が3名でした。

3）検査

免疫内科は関節リウマチの標準治療として、発症早期の炎症評価や類似疾患の鑑別、治療中の正確な活動性評価のため2023年度より関節エコー検査を実施しています。2025年度の関節エコー検査の実施件数は85例（2023年度 55件、2024年度 110件）でした。

診療部門 内科 **腫瘍内科**

◆スタッフ（◎部長）

◎明石　雄策

◆概要

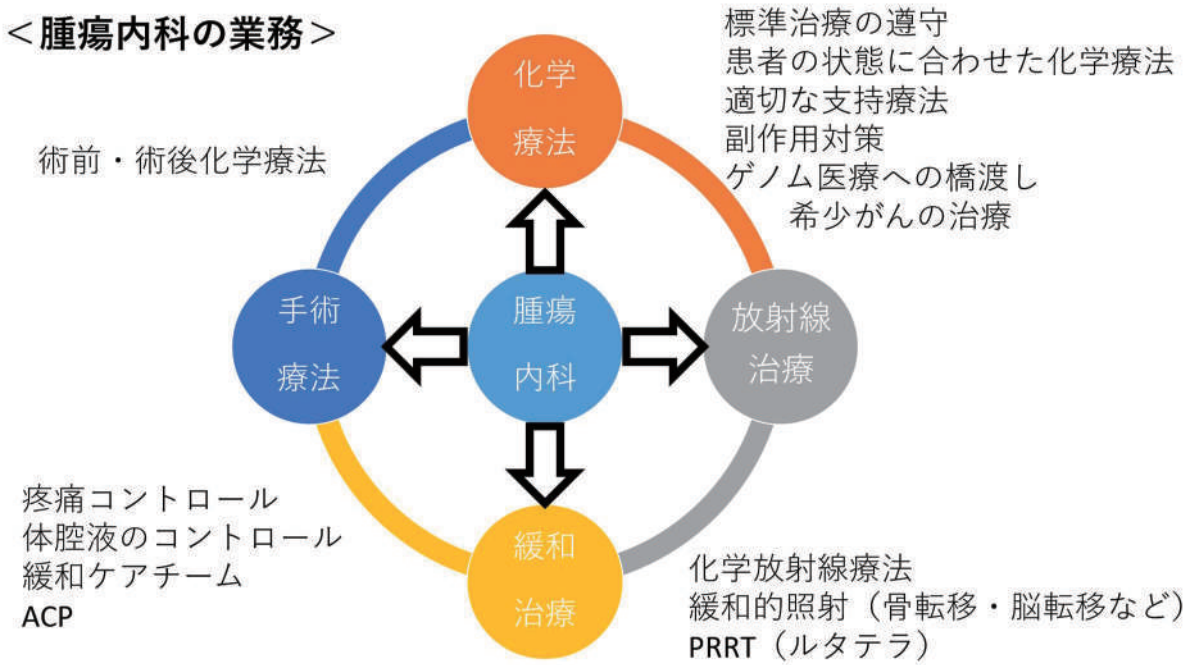
1　がん薬物療法の専門性

当院腫瘍内科は、がん薬物療法に特化した診療科として、日本臨床腫瘍学会認定の「がん薬物療法専門医」が診療にあたり、質の高い個別化治療の提供を行っています。加えて現在、同学会による認定施設の申請を進めており、今後は当院で研修を受けた医師が薬物療法専門医を取得できる環境を整えることも視野に入れています。

2　薬物療法の特徴と治療方針

当院腫瘍内科では、がん種や病期、患者さんの全身状態に応じて、最適な薬物療法を個別に設計しています。標準治療に加え、免疫チェックポイント阻害薬（ICI）や分子標的薬などの新規治療にも積極的に対応しており、副作用のマネジメントや治療継続の支援にも力を入れています。

また、薬剤師・看護師・栄養士・リハビリスタッフなど多職種との連携を通じて、治療中の生活の質（QOL）を保ちながら、患者さんが安心して治療を受けられる体制を整えています。治療方針の決定にあたっては、患者さんご本人やご家族との対話を重視し、納得のいく選択ができるよう支援しています。



診療部門 呼吸器センター

# 呼吸器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）鴨井　博、◎光岡　茂樹、◎田中　陽子、阪上　和樹、津田　誉至、矢野　朔太郎

◆概　要

呼吸器内科は気管支と肺にまつわる非常に多岐にわたる病気を担当させていただく診療科です。気管支喘息に代表されるアレルギー疾患、タバコが多くに関連するCOPD（慢性閉塞性肺疾患）などの気道疾患、数ある悪性腫瘍の代表である肺癌、細菌性肺炎、肺結核（外来治療のみ）、昨今ではCOVID-19に代表されるウイルス性肺炎などの感染症、リウマチ・膠原病肺に代表される免疫異常や特発性の間質性肺疾患と極めて広い領域を対象にしています。各呼吸器領域の指導医、専門医が在籍しており、かつ当院は呼吸器内科以外の診療科が非常に充実していますので、その特性を活かし、他科とも密接な連携のもとに迅速な診断と最新治療を提供するよう努めています。

対応可能疾患：

肺癌、気管支喘息、COPD、肺炎・胸膜炎、肺結核（塗抹陰性の場合）、非結核性肺抗酸菌症、自然気胸、胸水などの胸膜疾患、特発性、膠原病関連などの間質性肺疾患、在宅酸素導入など。

実施可能な検査：

気管支鏡（超音波気管支鏡EBUSを含む）、CT ガイド下生検、エコーガイド下生検、局所麻酔下胸腔鏡、肺機能検査、呼気NO 測定検査、PSG 検査。

◆実　績

主な入院

2025年度合計：785例

肺腫瘍：269例

肺炎（呼吸器内科担当分）：148例（膿胸：12例）

間質性肺炎：33例（薬剤性肺障害、過敏性肺炎、リウマチ肺など含む）

気　胸：18例

気管支喘息：24例

COPD：26例

主な検査

気管支鏡検査：385件

「局所麻酔下胸腔鏡」： 13件

「超音波内視鏡検査」： 33件

# 診療部門 糖尿病内分泌内科

◆スタッフ（◎部長）

（統括診療部長）◎馬屋原　豊、桂　央士、外川　有里、中嶋　玲那、村川　慧祐
レジデント：藤吉　仁史、大畑　颯世、山本　愛

◆概　要

糖尿病内分泌内科は令和３年４月に内科から独立しました。地域の先生方から信頼される糖尿病専門施設としての陣容を整えるための施策を行っています。また、内分泌疾患の検査入院なども積極的に受け入れています。2022年度より消化器外科と共に糖尿病肥満外科手術を開始しておりましたが、2025年度より肥満治療薬（ゼップバウンドおよびウゴービ）の処方を開始しました。前年度より1型糖尿病に対するインスリンポンプ療法で、ミニメド780GによるAID（Automated Insulin Delivery）を導入しておりましたが、導入患者の平均HbA1c 7％未満を達成しております。

**ガイドラインに準拠した標準的糖尿病治療**

・大きく変化する２型糖尿病治療における欧米系ガイドラインを鑑みた治療の標準化への取り組み

**１型糖尿病をきちんと管理できる体制作り**

・カーボカウント、CSII（インスリンポンプ療法）、SAP（リアルタイムCGM を併用したポンプ療法）など１型糖尿病先進治療への積極的な取り組み
・１型糖尿病患者さんへのリアルタイムCGM 導入、インスリン治療患者さんへのisCGM（リブレプロ）の積極的な導入と看護外来での指導によるコントロールの改善

**チーム医療の推進**

・多職種からなる糖尿病ケアチーム活動の活性化　　・糖尿病透析予防外来の枠拡大
・外来糖尿病教室の継続、世界糖尿病デーイベント　・11階東病棟における多職種カンファレンス

**糖尿病地域連携**

・糖尿病連携手帳を用いた、糖尿病地域連携パスの導入
・地域の先生方などを対象とした講演活動

**糖尿病肥満外科手術**

・2022年度から消化器外科にて肥満外科手術開始。当科はチームの一員としてサポートしています。

**糖尿病患者データベース**

・簡易な糖尿病患者データベース作成による、全体的な患者さんの把握

**甲状腺・内分泌疾患の精査加療**

◆実　績

・外来患者数　14,688人/ 年　・入院患者数　511人/ 年
・外来糖尿病患者統計（令和7年7月末現在）

| | 人数 | HbA1c(%) | 平均年齢 | BMI |
|---|---|---|---|---|
| 薬物療法あり | 1664 | 7.21±1.19 | 67.6±13.7 | 25.4±5.1 |
| 注射薬有り | 812 | 7.45±1.44 | 66.2±14.4 | 25.7±5.5 |
| インスリン治療群 | 585 | 7.63±1.41 | 66.7±14.8 | 24.7±5.0 |
| 内服薬のみ | 851 | 6.98±0.91 | 68.9±12.9 | 25.1±4.7 |
| | | | | |
| インスリン治療群の内訳 | | | | |
| CSII | 13 | 6.83±1.06 | 47.8±13.7 | 26.2±1.6 |
| Basal＋Bolus | 294 | 7.82±1.51 | 64.9±14.5 | 24.6±5.6 |
| PreMix | 26 | 7.49±1.05 | 76.2±12.4 | 24.2±3.8 |
| BOT | 197 | 7.70±1.33 | 69.6±13.0 | 24.8±4.3 |
| | | | | |
| GLP-1製剤使用 | 512 | 7.28±1.33 | 65.4±12.9 | 27.5±57 |
| インスリン＋GLP-1 | 227 | 7.69±1.38 | 66.9±12.7 | 26.7±5.6 |

## 診療部門 消化器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎（副院長）金子　晃、◎巽　信之、◎山本　克己、日山　智史、石見　亜矢、西尾　啓、氣賀澤　斉史、德田　有記、松前　高幸、永濱　彰悟、東原　久美、西浦　由貴、佐藤　大竜、山田　航大、垂水　千紘

◆概　要

● 消化器内科領域の専門医・指導医として診療活動と診療指導を行い、外来・病棟・内視鏡センター・超音波検査・手術・処置、周術期管理を含めた診療を安全かつ円滑に行うよう努めている。

● 肝疾患領域では、ウイルス性慢性肝疾患に対する抗ウイルス治療に加えて、脂肪肝や自己免疫性肝疾患などの非ウイルス性肝疾患の診断と治療にも取り組んでいる。最近増加傾向にある脂肪肝については教育入院の取り組みを始め、患者教育にも力を入れている。肝細胞癌に対してはラジオ波治療やマイクロウェーブ治療、肝動脈化学塞栓療法、放射線治療に加えて免疫チェックポイント阻害薬を用いた化学療法も積極的に行い、予後の改善をめざした集学的治療に取り組んでいる。

● 胆膵疾患領域においては、救急患者の受け入れ増加に伴う急性膵炎や胆管炎などの救急疾患が増加しているのに加えて、膵癌や胆道癌の患者数も増加しており、積極的に診断、治療に取り組んでいる。また、膵癌の早期発見に向けた患者やクリニックの医師に対する啓蒙活動の取り組みも行っている。

● 消化管疾患においては、食道癌、胃癌、大腸癌に対する内視鏡治療（ＥＳＤ）に積極的に取り組んでおり、紹介患者の増加に伴い症例数も増加している。また、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患も増加しており、治験も含めた新規薬剤の導入を積極的に進め病状の改善に取り組んでいる。

● 癌の領域においても、肝胆膵と消化管の癌に対して、早期診断と治療に取り組み、内視鏡や超音波器機を用いた低侵襲の癌治療を積極的に推進している。また、進行癌に対しても免疫チェックポイント阻害剤を含めた最新の抗癌剤治療に取り組み予後の改善をめざしている。さらに、緩和医療も含めた終末期医療についても緩和ケアチームと協同して診療を行っている。消化管・肝・胆膵のカンファレンスを定期開催し、消化器内科・消化器外科・腫瘍内科・放射線診断科・病理科等が協力し適切な治療計画の立案と実行、さらに治療後の評価を行っている。

● 病診・病病連携を深めるため、積極的に院内外で講演活動を行い、新規患者の紹介数の増加に取り組んでいる。

● 地域連携を推進するために地域医師会や医療機関と協力して消化器疾患の研究会を開催し、当院からの情報発信に取り組んでいる。

● 患者教育や啓発のために地域医師会や医療機関と連携して毎年市民公開講座を行っている。

● 若手の医師の教育に注力し、消化器内科医として必要な知識と技術の習得が行えるよう指導を行っている。また、看護師を含めたコメディカルと協働して円滑なチーム医療が行えるよう指導を行っている。臨床研究にも積極的に取り組めるよう教育を行っている。

● 消化器内科として診療の質の向上に努め、病院運営にも貢献できるよう努めている。適切な教育・指導により人材の確保と育成を行い、さらに、大阪大学と協同して人材の育成や臨床研究の推進に努めている。

◆実　績

上部内視鏡　5014件
下部内視鏡　2377件
小腸内視鏡　44例
超音波内視鏡　244件
ERCP　261件
大腸ポリープ切除術　856件
消化管ESD　232件
内視鏡的止血術　233件
内視鏡的異物除去術　10件
内視鏡的消化管ステント留置術　9件
肝癌焼灼術　40件
腹部超音波検査　4136件

## 診療部門 循環器内科

◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原　延行、◎三好　美和、佐伯　一、中川　雅美、有田　陽、倉岡　絢野、藏本　見帆、福井　智大、山本　将平、小畑　理沙子、高木　宏太、稲井　賢伸

◆概　要

当院では心臓核医学検査・冠動脈 CT・心臓 MRI など循環器系の専門検査が可能であり、幅広い領域での臨床・研究を行っている。

心不全に関しての患者教育・指導に力を入れており、心不全教室による患者教育、病診連携による治療管理体制を進め、心臓リハビリテーションとして、入院から外来への患者指導、運動療法を行っている。

虚血性心疾患の治療に関しては、急性心筋梗塞（急性冠症候群）に対して、24時間体制で、冠動脈再灌流治療を行っている。慢性冠動脈疾患に関しては、冠動脈CT、心筋シンチ、FFRアンギオ などを用いて、虚血の評価を行い、高度石灰化病変に対してはロータブレータに加えDIAMONDBACKの使用が可能となり症例ごとに最適な治療を行っている。

不整脈に関してはパルスアブレーションによる心房細動を中心とした各種不整脈に対する治療を積極的に行っており、近年はパルスフィールドアブレーションにてスムーズかつペインレスな治療を心がけている。

徐脈性不整脈に対するペースメーカー治療ではこのところリードレスペースメーカーの症例が増加している。また致死性不整脈に対する植込み型除細動器治療や心不全に対する心臓再同期療法も適応を検討しながら行っている。

透析患者や糖尿病患者も多く、重症下肢動脈虚血の症例に対して、皮膚科・形成外科・心臓血管外科・糖尿病内科・腎臓内科で協力して、フットケアチームとして治療にあたっている。

静脈血栓塞栓症は、外科手術や悪性疾患と密接に関係しているため、迅速な診断・治療を心掛けている。抗凝固療法の困難な症例には、肺塞栓予防のため、下大静脈フィルター留置も可能である。

睡眠時無呼吸患者についてはポリソノグラフィーによる検査入院にて、治療の適応を決めている。

心臓血管外科との連携も密接にとっており、冠動脈バイパスや弁膜症の手術も迅速に対応してもらっている。

急性大動脈解離に関しては迅速に心臓血管外科にて手術・ステント治療行っていただいている。

2019年度より経皮的カテーテル的大動脈弁留置術（TAVI）を開始して確実に症例数を増やしている。

当科は特に救急医療には積極的に対応しており、ホットラインを持ち救急患者の積極的な受け入れを行っている。また近年IMPELLAが導入され救命に寄与している。

◆実　績

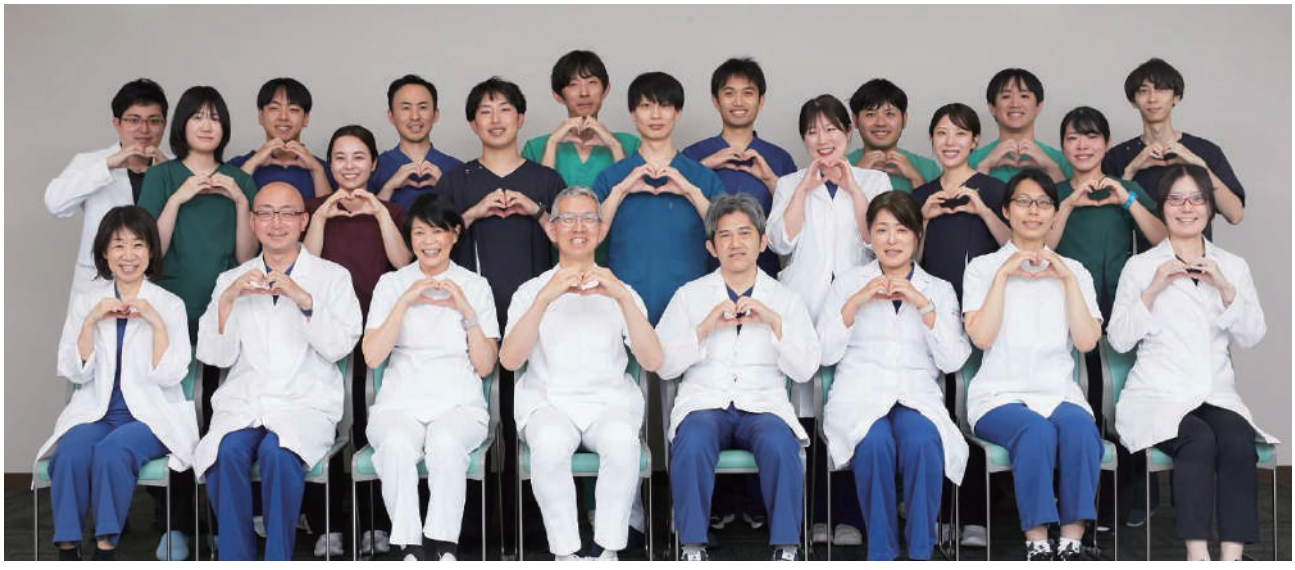
冠動脈インターベンション： 214件

末梢動脈疾患インターベンション：56件　心臓核医学検査：450件

カテーテルアブレーション：215件　冠動脈 CT：551件

新規ペースメーカー植込み：46件　ICD植込：3件　心臓 MRI：44件

経胸壁心臓超音波検査：6341件 TAVI：21件



## 診療部門　脳神経内科

◆スタッフ（◎部長）

◎高田　和城、◎村瀬　翔、山下　和哉、服部　寿紀、◎寺川　晴彦

◆概　要

当科は平成８年の開設以来、脳卒中を中心とした神経内科疾患の診療に従事し、本年もSCUでの脳卒中を中心とした診療に加えて、てんかん・髄膜炎・ギランバレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れている。2023年度より主任部長の高田、脳卒中・神経救急担当部長の村瀬が着任し、脳血管治療専門医である村瀬を中心に脳神経内科でも血管内治療を行っている。一方で、地域医療機能推進の一環として、神経難病の患者さんも増加傾向にあり、遺伝子診断・治療や免疫修飾療法・ボトックス注射などの特殊治療にも対応している。

◆実　績

本年度は、前年度SCUセンター長であった上田、専攻医松本が退職し、専攻医服部が赴任したため部長3名(1名リハビリテーション科部長兼任)・医長1名、内科専攻医1名の計5名での病棟運営および、脳外科との共同・院外からの当直専従医の補助によりSCU当直の運営をおこなった。SCU、一般病床を含めて、年間約450名の入院患者を受け入れた。

脳卒中については、t-PAや脳神経外科との協力による血管内治療などの超急性期治療実施件数が、年間25例を維持し、学会が求める施設目標を達成した。当科の脳卒中の入院はそれぞれ脳梗塞156、脳出血35名で、脳神経外科と連携してのSCU９床の稼働率は例年通り90％以上で推移していた。脳卒中ネットワークを介しての回復期リハビリテーション病院への転院や療養支援も順調であった。

その他一般神経疾患についても、神経救急疾患に対するICU 管理のほか、免疫性神経疾患に対するステロイドパルスや血漿交換を中心とした免疫修飾療法に従事。神経難病に対する特定疾患申請・在宅支援や脳卒中後遺症患者さんをも含めた身体障害認定継続の他、拘縮四肢に対するボトックス治療なども継続している。小児科　柏木部長の協力での遺伝子診断の他、遺伝子治療としての脊髄性筋萎縮症に対するヌシネルセンの髄液内投与治療、多発性硬化症に対する皮下注射製剤を用いた免疫修飾療法や重症筋無力症や視神経脊髄炎に対するバイオ製剤使用も症例に応じて積極的に使用している。

脳卒中以外の主要神経筋疾患は延べ入院数で、運動ニューロン病：1例、パーキンソン病：10例、脊髄小脳変性症/多系統萎縮症：4例、多発性硬化症/視神経脊髄炎： 5例、重症筋無力症：9例、ギランバレー症候群：5例、髄膜炎を含めた神経感染症：11例、てんかん：30例などであった。日本神経学会認定教育施設として、学生実習や初期研修医の受け入れも積極的に行い、初期研修１年目2名、初期研修２年目3名および日生病院からの内科専攻医1名が当科で研修した。また学会発表として日本神経学会地方会で1題発表を行った。

# 診療部門 皮膚科

◆スタッフ（◎部長）

◎竹原　友貴、今中　洋子、川部　僚子

◆概　要

地域医療支援病院として近隣医療機関からご紹介いただいた皮膚疾患全般を中心に診療しています。

乾癬診療では、日本皮膚科学会の生物学的製剤承認施設です。

難治性の慢性蕁麻疹やアトピー性皮膚炎、結節性痒疹に対する新規治療薬による治療も行っています。

糖尿病性足潰瘍をはじめとする難治性皮膚潰瘍では、原因・病態に即した治療を行い、必要時にはフットケアチームとしてチーム医療を行っています。

陥入爪・巻き爪では爪を極力温存する方針で治療しています(一部自費診療)。

そのほか、局所免疫療法(SADBE)、パッチテスト(パッチテストパネルS、金属アレルゲン、持参品)に対応しています。外陰部に好発する掻痒性皮疹である硬化性萎縮性苔癬の診断も積極的に行っています。

◆施設認定

日本皮膚科学会認定専門医研修施設

乾癬生物学的製剤使用承認施設

静脈圧迫処置

◆実　績

(令和7年4月～令和8年3月31日)

総外来患者数…7,773

1日平均外来数…28.3

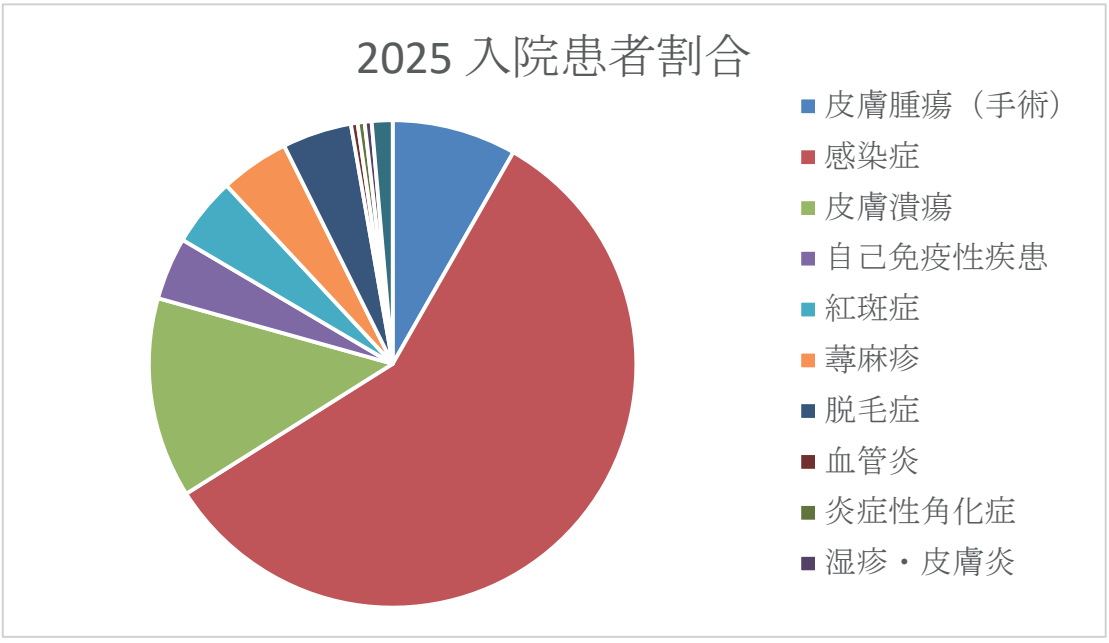
1日平均入院患者数…6.1

総新患者数…674

入院手術・皮膚生検数…319

論文・著書　：和文2編

学会・研究会発表：3演題



## 診療部門 泌尿器科

◆スタッフ（◎部長）

◎福原　慎一郎、金城　孝則、伊藤　拓也

◆概　要

2025年度は常勤医3名の構成で2024年度７月以降と同様の人員で診療にあたっております。常勤医3名ともにロボット手術資格を有しており、さらに福原、金城はロボット手術プロクター（指導者）資格も有しております。2024年1月に当院にロボット支援手術機器（ダヴィンチ）が導入され、当科でも2024年3月に前立腺癌に対して、ロボット支援下根治的前立腺全摘除術を開始いたしました。2024年度は、前立腺癌だけでなく、腎癌に対するロボット支援下腎部分切除術、ロボット支援下根治的腎摘除術、腎盂尿管癌に対するロボット支援下根治的腎尿管全摘術、膀胱癌に対するロボット支援下膀胱全摘除術を開始し、2025年度にはさらに、良性疾患である腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援下腎盂形成術も開始いたしました。ロボット支援手術がもはや標準術式となりつつある泌尿器科において、当院でも先進的かつ標準的な手術を提供できる体制を整備いたしました。

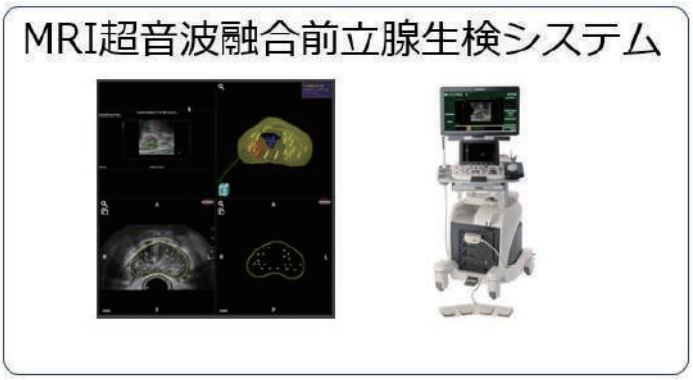
ロボット手術だけでなく、前立腺肥大症に対する低侵襲手術の一つである経尿道的前立腺水蒸気治療（WAVE）を2024年11月に導入、前立腺癌の検出において、より正確な診断が行えるMRI融合前立腺生検も2025年に導入しております。

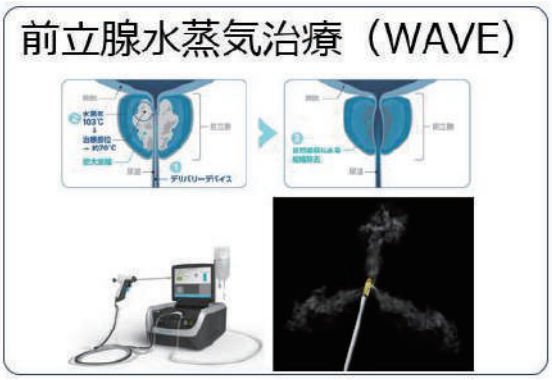
福原は生殖医療専門医の資格を有しており、顕微鏡下精索静脈瘤手術など顕微鏡下手術による男性生殖外科診療も行っております。

◆実　績

2024年度は手術枠の増加にともなって、手術数が2023年度189件から2024年度は268件と大幅に増加いたしました。対応術式の拡大等により、さらに増加傾向が続いており、2025年度は347件（うちロボット手術54件）とさらに増加しております。

外来新患数は332名、再来患者数は9070名、新入院患者数は609名、平均在院日数は7.7日でした。



## 診療部門 産婦人科

◆スタッフ（◎部長）

◎筒井　建紀、◎井上　貴史、清原　裕美子、竹田　満寿美、服部　稔恵、小泉　舞、瀧山　真帆、是常　有香、花田　佳奈

◆概　要

9名のスタッフで、外来診療、入院診療、分娩、手術を実施しています。

◆実　績

令和 7 年度は、分娩数 515 件(うち予定帝王切開術 60 件、緊急帝王切開術 34 件、吸引分娩 50 件、鉗子分娩 3 件、双胎分娩 4件、無痛分娩 112件)、婦人科手術数 310件(うち悪性腫瘍手術 27件、腹腔鏡下手術114件、子宮鏡下手術72件、ロボット支援下手術4件)を取り扱いました。

産科診療では、なるべく医療介入の少ない自然なお産を基本的な姿勢としています。医学的適応があれば、分娩誘発や吸引・鉗子分娩、帝王切開術などを適切に行っています。妊娠34週以降の分娩症例を取り扱いますので、妊娠34週未満の早産症例につきましては、早産児に対応が可能な近隣の分娩施設をご紹介します。分娩時鎮痛をご希望される妊婦さんには、麻酔科・小児科と共同で、安全で質の高い和痛分娩を提供できる体制を整えています。さらに、出生前カウンセリングやNIPTなどの出生前検査を実施しています。

婦人科診療では、良性腫瘍、悪性腫瘍、骨盤性器脱、性器形態異常などに対し、開腹手術・内視鏡下手術(腹腔鏡下手術・ロボット支援下手術・子宮鏡下手術)・腟式手術などの手術療法を行っています。また、新たに導入された医療機器を用いた治療として、子宮頸部異形成に対するレーザー治療や、子宮内膜ポリープに対する子宮鏡下シェーバーによる治療があり、入院期間の短縮が可能となりました。また、月経異常・ 更年期障害など卵巣の機能に関わる女性特有の疾患に対して、ホルモン治療・漢方薬治療を用いた薬物療法など、患者さんの症状に応じて適切な治療をご提案します。また排卵誘発剤を用いた一般不妊治療や子宮卵管造影検査(HSG)などの不妊検査・治療も実施しています。

現在、多くの医療情報はインターネットなどでも得ることができます。しかし、エビデンスに基づく医療として紹介されている情報であっても、それぞれの患者さんにとって必ずしも最適な治療とは限りません。同じ疾患でも、患者さんの年齢や医学的な見地から、最適な治療法は異なることはしばしばあります。また、専門の医師の間ですら治療方針などが異なることは、よく起こることです。これが医療の難しいところです。

私たちは患者さんと向き合い、十分にコミュニケーションをとりながら、必要な治療は何なのか、何が適切な治療なのかを常に考え、最適な治療法を提供できるよう、また新しい病態を含めたあらゆる産婦人科疾患に対応できるよう、日々努力と研鑽を惜しまず診療に取り組んでいます。是非、ご相談にお越しください。専門のスタッフがお待ちしております。

なお、当院は、

・日本産科婦人科学会　専門医制度専攻医指導施設
・日本周産期・新生児医学会　周産期専門医(母体・胎児)暫定認定施設(補完認定施設)
・日本生殖医学会　生殖医療専門医制度認定研修施設
・日本産科婦人科内視鏡学会　認定研修施設
・日本女性医学学会　専門医制度認定研修施設
・NIPT実施認証医療機関（基幹施設）

など、多くの産婦人科関連学会の研修施設に認定されています。

## 診療部門 眼科

◆スタッフ（◎部長）

◎大黒　伸行、◎眞下　永、春田　真実、部坂　優子、杉澤　孝彰、濱野　結貴：視能訓練士７名

◆概　要

常勤医師6名（専門医6名）、非常勤医師2名（全て専門医）で診療を行っており、眼科診療の各分野において専門とする医師を配置しております。

眼炎症疾患では難治性疾患を中心に診療を行っており、また感染性疾患に対してはPCR検査を導入して迅速な診断を心がけております。

網膜硝子体疾患については杉澤医師と部坂医師が担当しております。網膜剥離や眼内炎などの緊急手術にも対応しております。

緑内障は春田医師が中心となって診療を行っております。症例に応じて術式選択を行ってまいります。また、眼圧日内変動検査も実施しております。金曜日に入院していただき、土曜日の朝までの24時間に計8回（約3時間毎）眼圧測定を行います。眼圧は正常なのに視野が進行するような症例では夜間眼圧が上昇していることがあると言われております。そのような症例に適した検査となっておりますので、ぜひご活用ください。現在のところは第2金曜日に3名の枠を設けております。

白内障手術では日帰り手術・入院手術いずれにも患者様のご要望にお応えできるようになっております。

斜視弱視の専門外来は火曜日午後のみとなり、また手術には対応できなくなっております。

◆実　績

令和7年４月から令和8年３月において、白内障手術663件、網膜硝子体手術132件、緑内障手術91件、を行っております。ベーチェット病に対するレミケード治療を受けている方は42名、難治性ぶどう膜炎に対するヒュミラ治療80名、眼内悪性リンパ腫の治療中の方は17名と難治性ぶどう膜炎に対する治療を積極的に行っております。

## 診療部門 耳鼻いんこう科

◆スタッフ（◎部長）

◎前田　陽平、本田　芳大、永田　明弘、紀田　宝那

◆概　要

耳鼻いんこう科は耳・鼻・のど・頸部（くび）など幅広い領域をカバーしています。

特に2022年4月に前田が部長で赴任後は前田の専門分野である鼻副鼻腔疾患、特に経鼻内視鏡手術に力を入れています。また、入院期間も短縮し、短期滞在手術が可能となりました。

慢性副鼻腔炎や鼻腔腫瘍、副鼻腔腫瘍、アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症などで手術加療を考慮されている方の紹介が非常に増えています。

もちろん基幹病院の耳鼻咽喉科として耳・のど・頸部など下記のような疾患にも幅広く対応して参ります。頭頸部扁平上皮癌については癌専門施設に紹介する場合がありますが、お気軽にご相談ください。

日本耳鼻咽喉科学会認定研修施設
日本アレルギー学会認定研修施設日
本鼻科学会鼻科手術研修認定施設

◆診療内容

| | |
|---|---|
| 慢性副鼻腔炎（好酸球性副鼻腔炎を含む）、鼻副鼻腔腫瘍 | 内視鏡下鼻副鼻腔手術など |
| 鼻中隔湾曲症（前方湾曲を含む） | 鼻中隔矯正術など |
| アレルギー性鼻炎・肥厚性鼻炎 | 粘膜下下鼻甲介骨切除術・後鼻神経切断術など |
| 頭蓋底腫瘍 | 頭蓋底手術 |
| 慢性涙嚢炎 | 涙嚢鼻腔吻合術 |
| 嗅覚障害 | 原因に応じた投薬・手術など |
| 慢性中耳炎・真珠腫性中耳炎 | 鼓膜形成術・鼓室形成術 |
| 甲状腺腫瘍・唾液腺腫瘍 | 甲状腺腫瘍摘出術・唾液腺腫瘍摘出術 |
| 声帯腫瘤 | 顕微鏡下喉頭微細手術など |
| 慢性扁桃炎・アデノイド増殖症 | 口蓋扁桃摘出術・アデノイド切除術 |
| 頸部膿瘍 | 切開排膿術など |
| 顔面神経麻痺・突発性難聴 | ステロイドを中心とした治療 |

◆実　績

手術件数（2025年度）

| | |
|---|---|
| 内視鏡下鼻副鼻腔手術 | 351 |
| 下鼻甲介手術 | 569 |
| 鼻中隔矯正術Ⅰ型 | 222 |
| 鼻中隔矯正術Ⅲ型（前彎） | 51 |
| 鼻中隔矯正術Ⅳ型（外鼻） | 17 |
| 口蓋扁桃摘出術 | 167 |

| | |
|---|---|
| 甲状腺・副甲状腺手術（バセドウ含む） | 18 |
| 耳下腺・顎下腺手術 | 4 |
| 気管切開術 | 2 |
| 鼓膜形成術・鼓膜チューブ留置術 | 40 |
| その他 | 148 |
| 合　計 | 1,589 |

## 診療部門 小児科

◆スタッフ（◎部長）

◎柏木　博子、◎石浦　嘉人、◎松下　浩子、原田　大輔、五味　久仁子、西村　美杉、近藤　可愛、上山　薫、阪本　夏子、大嶋　英莉香、谷口　明（非常勤）

◆概　要

令和7年度は小児科医11名（日本小児科学会専門医・指導医4名、専門医6名、専攻医1名）が小児科に在籍した。日本内分泌学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本小児循環器学会専門医、日本アレルギー学会専門医などが常勤医として在籍する他、外来応援医師4名の派遣を受けた。

当院小児科は新生児から成人後の移行期まで幅広く対応可能な総合小児科であり、小児一般診療、専門外来、小児救急医療、周産期医療を提供している。また、大阪府小児地域医療センターの指定を受けており、大阪府小児医療連携体制・受入態勢構築事業にも参画している。国の指針では小児地域医療センターは小児医療圏において中心的な小児医療を実施するとされており、大阪市西部地域の基幹病院として、小児医療体制をさらに充実させ、引き続き専門性が高く良質の小児医療を地域に提供する。

外来は、午前中は一般外来中心、午後からは予防接種、乳児健診とともに、予約制専門外来を行っている。内分泌・骨代謝・骨系統疾患、小児神経、小児消化器、小児循環器、アレルギー、頭痛、遺伝相談の専門外来を開設している。専門外来では特に、成長ホルモン補充療法、性腺抑制療法、骨系統疾患、代謝疾患に対する酵素補充療法やビスホスホネート治療、抗体治療など、川崎病患者長期フォローアップや学校心臓検診の要精査者の精密検査などに力を入れている。地域かかりつけ医からの紹介患者受け入れの他、大阪市中央急病診療所の後送病院として、入院を要する救急患者の受け入れ・診療を担っている。

病棟は、小児病床22床、NICU6床に加えて、プレイルーム2室を備え、小児病棟には常勤の保育士が配置されており、付き添いあり・なし入院どちらにも対応している。急性疾患・新生児疾患の他、内分泌負荷試験、鎮静下MRI、脳波、食物経口負荷試験、鎮静下小児消化器内視鏡、終夜睡眠ポリグラフ検査などの検査入院や先天性疾患、慢性疾患の入院診療にも対応している。

NICU（新生児集中治療室）は24時間体制で、すべての帝王切開や異常分娩には小児科医が立ち会っている。産婦人科と密に連携し、合併症妊婦やハイリスク妊婦に出生前から関わり、新生児医療へスムーズに移行できるよう取り組んでいる。また近年ニーズの高い無痛分娩に対しても24時間体制でバックアップしている。

当院では、親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた」を定期的に開催している他、空き病床を使用して、大阪市産後ケア事業を実施しており、母と子に切れ目ないトータルケアを提供している。また福島区乳幼児健診に交代で出務し、地域保健事業にも貢献している。

研究面では内分泌・代謝疾患や骨系統疾患を中心に、臨床研究・治験を積極的に実施している。教育面では日本小児科学会小児科専門医研修施設、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医認定教育施設（小児科）、日本周産期・新生児医学会周産期（新生児）専門医暫定認定施設の認定を受けており、令和7年度は初期研修医19名（関西電力病院からの初期研修医を含む）および学生7名（大阪大学、兵庫医科大学）の教育にあたった。

◆実 績

論文・著書　英文1編、和文2編

学会発表・講演　22演題

（人）

| | |
|---|---|
| 新入院患者数 | 1,290 |
| NICU入院患者数 | 206 |
| 外来患者数 | 9,096 |
| 救急外来患者数 | 587 |

## 診療部門 神経精神科

◆スタッフ（◎部長）

◎山森　英長、木藤　友実子、阪上　嶺、精神保健福祉士１名、常勤心理療法士1名、非常勤心理療法士５名

◆概　要

当科外来では地域の皆様に貢献できるよう、精神疾患全般の診療を行っております。

認知症の診断・治療の導入・周辺症状への対応、ストレス因関連症、不安症、抑うつ症、統合失調症の治療、神経発達症を含む、思春期・青年期(高校生以上)の精神疾患の診断・治療等、多岐にわたり対応が可能です。令和6年4月より、抗アミロイド抗体薬(レカネマブ/ドナネマブ)によるアルツハイマー病治療を、脳神経内科、放射線診断科はじめ、関係各部署の協力のもと開始し、令和7年度末までに、12例の導入を行いました。

外来以外では「総合病院の神経精神科」として、他科との連携を重視し、身体疾患により当院他科へ入院中の患者さんに生じた、せん妄、不眠、抑うつ、不安等への診療（リエゾン精神医学）が重要な役割と考え、診療にあたっております。さらに、チーム医療にも積極的に関わっており、認知症ケアチームのメンバーとして、認知症の方が身体疾患のため入院された際の、周辺症状への対応、ADLや認知機能の低下が生じないような対応を行ったり、緩和ケアチームのメンバーとして精神科医の視点から、がん患者さんの症状緩和や精神症状への対応を、チームメンバー、病棟看護師とともに行っております。

令和7年度からは、心理療法士1名が常勤となり、これまで以上に、病棟における様々な心理的な問題への介入を行えるようになりました。

また教育面では、初期研修医の研修・指導を行うともに、日本精神神経学会、日本総合病院精神医学会、日本老年精神医学会の専門医研修施設の認定を受けており、精神科専門医、一般病院連携精神医学専門医（精神科リエゾン専門医）、老年精神医学専門医の育成にも力を注いでおります。

◆実　績

令和7年度診療実績（令和7年４月～令和8年３月）

| | | 合　計 | 月平均 |
|---|---|---|---|
| 外来 | 初　診 | 320 | 27 |
| | 再　診 | 6,080 | 506 |
| リエゾン | 初　診 | 427 | 36 |

診療部門

# 放射線診断・IVR 科

◆スタッフ（◎部長）

◎北山　聡明、大倉　隆介、雪本　真代、阪中　英里加、大賀　沙美、光山　容仁

◆概　要

当科は現代医療に欠かせない画像診断と画像下治療（IVR：Interventional Radiology）を担っています。CT・MRI・核医学検査（RI）を中心に、高精度な画像診断を提供するとともに、カテーテルを用いた低侵襲治療を幅広く行っています。

4名の放射線診断専門医が在籍しており、1名はIVR専門医、1名は核医学専門医の資格を有しています。撮影に際しては、依頼医の目的に応じて最適な撮影条件を指示し、最大限の診断情報が得られるよう努めています。診断レポートは迅速に作成し、臨床現場での的確な治療方針決定を支援しています。

また、近隣医療機関からの検査依頼にも積極的に対応しており、当日検査にも柔軟に対応するなど、地域医療連携の充実にも力を入れています。

IVRにおいては「断らないIVR」をモットーに、肝細胞がんに対する塞栓術や中心静脈ポート留置術をはじめ、止血術・ドレナージなどの救急症例にも積極的に対応しています。今後は緩和医療領域にも適応を広げ、より多様なニーズに応えていきます。

教育面でも、日本医学放射線学会による放射線専門医修練施設、日本IVR学会によるIVR専門医修練施設、日本核医学会による専門医教育機関の認定を受け、後進育成にも取り組んでいます。

画像診断・IVRに関してご相談やご質問があれば、いつでもお気軽にお声かけください。

◆実　績

2025年度モダリティー別レポート件数およびIVR件数

CT　25,790件

MRI　11,440件

RI　1,151件

IVR　120件

診療部門

# 放射線治療科

◆スタッフ（◎部長）

◎西多　俊幸、吉岡　裕人

◆概　要

放射線治療科は悪性腫瘍を対象にした放射線治療を専門に行います。放射線治療は体外照射と体内照射に大別され、当科で行うのはリニアックを用いた体外照射のみです。放射線治療は目的によって根治的にも緩和的にも適応できますので、ほとんどの癌がなんらかの放射線治療の対象となりえます。また、放射線治療は集学的治療のひとつとして化学療法や手術と併用されますので、当科では他の臨床各科との連携のもとに各種の悪性腫瘍に対する放射線治療を行っています。

体外照射に用いる治療装置として、汎用リニアックであるElekta社製Infinityが設置されており、強度変調照射や体幹部定位照射などの高精度放射線治療にも対応しています。

放射線治療を適切に行うには各分野の専門スタッフの協力が不可欠であり、放射線治療専門医をはじめとして放射線治療専門技師や医学物理士、さらに専従看護師や事務職員などが診療にあたっています。特に高精度放射線治療を安全に施行するには高度な物理学的知識が必要とされるので、医学物理の専門家の支援は不可欠です。また基本的に癌患者が対象であるため、メンタル面でのサポートも含めて看護師の役割が重要であるのも当科の特徴といえます。

放射線治療は根治目的にも緩和目的にも用いることができます。高精度照射に代表される根治照射が注目されますが、癌患者の多くは術後補助療法や緩和医療としての放射線治療を必要としています。当科ではこれら通常照射の重要性をふまえた上で、必要な症例に対しては高精度照射も提供できるように努めています。

高精度照射としては体内の多くの部への強度変調照射を保険診療の範囲内で実施しています。体幹部定位照射は肺と肝臓を主な対象に施行しており、適応症例では脊椎転移への定位照射も行っています。

◆実　績

2025年（1月～12月）

| | | |
|---|---|---|
| のべ照射件数 | 3261件 | |
| 治療計画数 | 237件 | （1門・対向2門：37、非対向・3門：44、4門以上：123、強度変調照射：28、体幹部定位照射：5） |
| 総照射部位数 | 186部位 | （乳房：57、骨：40、肺：19、前立腺：16、脳：10　など） |
| 全治療患者数 | 175人 | （原発巣別 乳腺：61、肺：42、泌尿器系：27、婦人科：12、消化管：11、肝胆膵：10　など） |

# 診療部門 歯科・歯科口腔外科

◆スタッフ（◎部長）

◎妹尾　日登美、宮本　かれん、久保　茂正（月1回非常勤）　歯科衛生士（鹿島　倫子、永田　恵、安井　麻美）

◆概　要

歯科口腔外科は歯科医師2名（日本口腔外科学会指導医1名、認定医1名）、歯科衛生士3名で診療を行っています。

埋伏歯の抜歯や難抜歯、歯の移植、口腔粘膜疾患、顎関節症、顎骨のう胞、顎骨腫瘍、炎症性疾患、薬剤関連顎骨壊死、軟組織腫瘍、顎骨骨折、インプラント等に対する診療を行っております。また他科手術・化学療法中の患者様の周術期口腔管理や誤嚥性肺炎等の患者様に対する口腔ケア、糖尿病患者や骨粗鬆症患者の口腔衛生指導なども積極的に行っており、合併症予防に努めております。

手術室では第1、4木曜日、第2，4金曜日午後に予定手術を行っております。それ以外の午後には外来手術を行っております。

月1回ですが、口腔鍼灸漢方治療を行っており、難治性口内炎の治療や、術後の知覚障害等にも対応しております。

◆実　績　（2025年1－12月）

初診患者数　2037人（紹介率40%）

手術室手術件数　126件

入院患者数　　176人

外来手術件数　806件

入院手術実績（2025年1－12月）

| | 件数 |
|---|---|
| 顎骨腫瘍摘出術 | 30 |
| 埋伏抜歯等 | 57 |
| 腐骨除去術 | 9 |
| 上下顎骨部分切除術 | 8 |
| 上下顎骨骨折観血的整復術 | 1 |
| 下顎隆起・口蓋隆起形成術 | 1 |
| 歯根嚢胞摘出術 | 11 |
| 舌・頬粘膜腫瘍摘出術 | 3 |
| 顎骨内異物除去術 | 1 |
| 消炎手術 | 2 |
| 唾石摘出 | 1 |
| 舌癌切除術 | 1 |
| 口蓋混合腫瘍摘出術 | 1 |
| 全身麻酔手術 | 82 |
| 静脈内鎮静手術 | 44 |

診療部門

# 病理診断科

◆スタッフ（◎部長）

◎吉田　康之、中井　千晶、緒方　正史

◆概　要

病院の診療部門の一つである「病理診断科」は、患者さんの病変の一部から採取された組織(あるいは細胞)を顕微鏡で観察し、その性状(例えば「悪性腫瘍」なのか、それとも「良性腫瘍」なのか等)を調べて病変を診断することを主な業務としています。具体的には、以下の内容となります。

1．『病理組織診断』

例えば、胃カメラ検査が行われた際に胃粘膜に異常が認められると、同箇所から組織の一部が採取されます。このような場合、採取された粘膜組織(これを『生検検体』と呼びます)が当科に提出され、その検体組織から標本が作製されます。そして、顕微鏡下で検体の性状を調べ、「採取された胃粘膜の病変は胃潰瘍なのか、それとも胃癌なのか」等の判定を行います。

また、手術で病変が臓器から摘出された場合、病変から組織標本を作製し、最終的な病理診断を行います。

2．『細胞診検査』

喀痰・尿・胸腹水・子宮頸管や内膜からの擦過材料、乳腺・甲状腺・リンパ節などの穿刺材料をスライドガラスに塗布し、これに必要な処理を施して、上と同様に顕微鏡下にて癌細胞の有無を判定することも行います。

3．『術中迅速診断』

手術中に悪性腫瘍を切除する場合、病変が臓器から完全に切除されているか否かを調べるために、切除断端組織から凍結切片を作製し、これを顕微鏡下で即座に診断します。そして、その結果を手術中の執刀医に連絡します。

4．『病理解剖』

患者さんが極めて難解な疾患で種々の治療の甲斐もなく、または予期しない経過で死亡した場合には、患者さん本人の遺志や遺族の了解の下で『病理解剖』を行い、臨床病理検討会において疾患の解明や診断の的確さ、治療効果等が討議されます。

5．『各科との合同カンファレンス』

内科や外科など複数の診療科と、定期的に症例の検討会を開催しています。これを通じて、以後の診療方針等を議論して決めていきます。

以上のように、当科は病院の診療活動にとって重要な役割を担っております。

◆実 績

令和7年度(2025.4.1～2026.3.31)

生検・手術材料：6,873件(内術中迅速診断：178件)

細胞診：5,908件(同上： 114件)

## 診療部門 麻酔科

◆スタッフ（◎部長）

◎田中　克明、◎佐藤　善一、◎山間　義弘、◎荒井　章臣、◎柏井　朋子、◎清水　雅子、◎笠置　益弘、今村　圭佑、近藤　悠生、小島　尚美、大熊　尚美、根岸　茉以

◆概　要

全国で1200以上ある麻酔科認定施設の中で当施設の認定施設番号は45である。市中病院としては最初期に当院の麻酔科は創設された。

2025年4月に手術部長として田中克明が着任し、麻酔科診療部長山間義弘の管理職業務の大半を受け継いだ。他のスタッフの主たる職掌、専門は、集中治療部長1名(佐藤)、臨床麻酔科部長1名(荒井、心臓血管麻酔）、緩和ケア・ペインクリニック科部長1名(清水)、担当部長2名(柏井、臨床麻酔担当・笠置、区域麻酔担当)、医長2名(今村・近藤、集中治療)、医員2名（小島、大熊）、レジデント1名(根岸)の計12名、それに加えて非常勤医師の応援で手術麻酔を行っている。過去5年間、麻酔科管理件数は毎年300件以上増えており、今年度は4,500件を越えた。

手術室12室中、麻酔科管理手術枠は前年度から順次拡大し、月曜から順に6、8、7、7、7列であったのが。7、8、8、8、7列となった。心臓血管麻酔に関しては、前年度はマンパワー上の制約から対応困難な日があったが、今年度より対応不可日は無くなった。緊急手術・予定外手術に関しては積極的に受け入れており、麻酔科管理の緊急手術件数は325件であった。産科麻酔に関しては、長年帝王切開は大半が自科麻酔であったが、今年度より大半が麻酔科管理となっている。また、例年通り、主として計画無痛分娩に対する硬膜外カテーテル留置を行っている。

集中治療室においては、日勤帯は佐藤部長を中心に1名が専従医として各科医師と協力しながら患者管理を行っている。ICU当直は火、金、日の週3回を麻酔科が、他の曜日を他科が担当していたが、常勤麻酔科医増加に伴い、土曜日が麻酔科担当に戻った。

各種研修に関しては、従来から大阪公立大学医学部附属病院麻酔科専門研修プログラムの連携施設であったが、千船病院の麻酔科専門研修プログラムに新たに連携施設として加わった。その結果、専攻医1名(根岸)が当科において後期研修を行った。例年、大阪大学歯学部と大阪歯科大学の歯科麻酔科から医科麻酔の研修を1年間受け入れていたが、今年度は両大学とも派遣が無かった。初期臨床研修医は麻酔科研修を必須として手術麻酔の基本を中心に月毎のローテーションで研修している。各種サブスペシャリティに関しては、従来から日本麻酔科学会、日本集中治療医学会、日本ペインクリニック学会の学会認定専門医研修施設であったが、今年度より、新たに日本心臓血管麻酔学会の専門医認定施設に登録された。

◆実　績

2025年度手術症例（2025年４月～2026年３月）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 手術症例 | | | 6,020 |
| | 麻酔科管理症例 | | 4,511 |
| | | 全身麻酔 | 4,248 |
| | | 脊髄くも膜下麻酔 | 243 |
| | | 脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 | 13 |
| | | その他 | 7 |

2025年度術後疼痛管理加算（2025年４月～2026年３月）

| 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 55 | 64 | 71 | 75 | 56 | 55 | 85 | 53 | 68 | 83 | 55 | 57 | 777 |

診療部門

# 緩和ケア・ペインクリニック科

◆スタッフ（◎部長）

◎清水　雅子

◆概　要

緩和ケア・ペインクリニック科は2023年よりペインクリニック外来診療（火曜午前）、2024年より緩和ケア外来診療（金曜午前）を開始しました。常勤医1名が双方の外来診療を行っていますが、ペインクリニックでは慢性疼痛（非がん）、緩和ケア外来ではがん・悪性腫瘍を対応しています。

ペインクリニック外来では、非がんの慢性疼痛を中心に診療を行っています。痛みを多角的に診断し、薬物療法だけでなく、抗血栓療法の有無など注意しつつ神経ブロックを含めた治療法を駆使して痛みを軽減し、QOL向上を目指しています。しかし慢性疼痛は十分な軽減が得られないことも多くあり、慢性化した痛みと「うまく付き合っていく」ことを患者と模索する診療を心掛けています。入院患者の院内コンサルテーションは外来が週1日のため、できるだけ事前に確認して都度対応するようにしています。また2024年4月より日本ペインクリニック学会の指定研修施設に認定されました。麻酔科のサブスペシャリティとして専門医育成を麻酔科と連携しています。

緩和ケア外来は、緩和ケアチームの一員として入院のみならず外来においても緩和ケアが提供できるように開始しました。診察医の特性上、疼痛を主とした身体症状が中心となっていますが、緩和ケアチームの看護師や多職種とともに、患者のみならず家族のケアや治療の継続・療養における気がかりなども検討し、がん治療医へ連携できるように考えて行っています。

◆実　績

2025年度ペインクリニック外来診療実績（2025年４月～2026年３月）

| | |
|---|---|
| 外来初診 | 71 |
| 外来再診（のべ） | 278 |

2025年度緩和ケア外来診療実績（2025年４月～2026年３月）

| | |
|---|---|
| 外来初診 | 3 |
| 外来再診（のべ） | 4 |

診療部門

# 救急・プライマリケア診療部

◆スタッフ（◎部長）

◎小笠原　延行、◎五十嵐　渉、永田　慎平

臨床研修医（２年）：青野　孝紀、明石　侑里香、鎌田　大喜、清水　廉、髙橋　佑生、名島　俊介、橋本　拓志、松﨑　僚太、落石　太基、時永　志帆

臨床研修医（１年）：内田　夕菜、奥村　菜々子、川口　美優、橋本　萌、三善　裕佳、望月　夏帆、川端　裕也、青木　祐将、佐島　虎之介、木村　茉由、片平　千花彩、井上　勝矢

◆概　要

当院の救急科は、地域の救急医療を担う中核として、診療と初期臨床研修医の教育に力を入れています。当院の診療限界を超える病態を除き、積極的に患者さんを受け入れています。特に、近隣の開業医から緊急でご紹介いただく患者さんについては、担当科が不明な場合でも救急科が直接対応することで、円滑な受け入れ体制を確立しています。

研修医教育プログラム

当院の救急研修は、研修医が医師として成長できるよう、実践的な教育に重点を置いています。

1年目研修医

1ヶ月間の救急科ローテーションでは、指導医とともに平日の日勤帯で救急搬送患者の初期対応にあたります。この期間に、問診や身体診察、カルテの記載方法、common　diseaseの疾患概念、診断に至る思考プロセスといった基本的な知識・技術はもちろん、患者さんへの接し方や言葉遣い、仕事への責任感やモラルといった人間性も養います。

6月からは、2年目研修医の夜間・休日の救急当直にも加わり、ウォークインを含む比較的軽症の患者さんの診療も経験します。

2年目研修医

夜間・休日の救急当直では、ある程度の判断を自ら行い、救急患者の初期対応にあたります。当院には、研修医を直接補佐する救急A当直医をはじめ、内科、循環器科、外科、脳卒中科、小児科、産婦人科、ICUなど各科の医師が当直しており、幅広い分野でコンサルトできる環境が整っています。

当直翌朝には、救急で診療した症例について、救急科、整形外科、循環器科、内科の部長と検討会を行い、経験症例へのフィードバックを得ることで、知識と技術をより深めることができます。

平成31年度からは、2年目研修医も1ヶ月の救急ローテーションが必須となり、2年間で計2ヶ月の研修期間を通じて、救急医療に必要な十分な知識と技術の習得を目指します。

働き方改革と今後の展望

働き方改革による慢性的なマンパワー不足という課題はありますが、各科医師の協力のもと、その影響を最小限に抑えるよう努めています。今後も各科との連携を強化し、救急患者の受け入れ体制を維持・向上させるとともに、研修医教育にもさらに力を入れていきます。

職員一丸となって、地域が必要とする質の高い救急医療を提供できるよう、邁進してまいります。

◆実　績

| | |
|---|---|
| 救急外来受診患者数 | 7,938名 |
| 救急搬送受け入れ患者数 | 4,987名 |
| 救急外来からの入院患者数 | 3,653名 |

## 中央部門 血液浄化センター

◆センター長

鈴木　朗

◆概　要

末期腎不全に至った症例について、血液透析、腹膜透析などの腎代替療法を導入し、また、維持血液透析患者の入院中の管理を行っています。腎代替療法導入に際しては、同センター看護師が担当する療養選択外来を受診していただき、各療法の特徴につき十分理解していただいた上で、患者さん自身に選択していただいております。自己免疫疾患や肝不全に対する血漿交換療法、炎症性腸疾患に対する白血球除去療法、家族性高コレステロール、巣状糸球体硬化症など難治性ネフローゼ症候群に対するLDLアフェレーシス療法、ASOに対する吸着型潰瘍治療（レオカーナ）、難治性腹水に対する腹水濾過濃縮療法なども積極的に行っております。ICUにおける血液浄化療法についても、オンコール体制を敷き24時間体制で対応しております。維持血液透析、維持腹膜透析例も管理しており、総合病院であるメリットを生かし合併症を早期に発見することにより透析患者さんの生命予後改善を目指しております。

◆実　績

維持血液透析を17例、腹膜透析を9例新規導入しました。
当院にて維持血液透析患者20名、腹膜透析患者13名も管理されています。
2025年の各療法実施件数は以下の通りです。

| | | |
|---|---|---|
| HD | 1,613 | ▲245 |
| online HDF | 3,045 | △351 |
| PE（血漿交換） | 18 | △3 |
| DFPP | 3 | △3 |
| 吸着式潰瘍治療（レオカーナ） | 82 | △65 |
| GCAP（顆粒球吸着） | 0 | ▲32 |
| ICUにおける血液浄化 | 131 | △89 |

◆ひとこと

当センターは夜間、休日も各種血液浄化療法が施行可能であり、大阪市西部地域における中心的な血液浄化センターです。患者教育も積極的に行っており保存期慢性腎臓病患者を対象に、栄養部、薬剤部、看護部にご協力いただき、毎月「腎臓病教室」を開催しております。どなたでも無料で受講できますのでご興味ある方は当院ホームページをご参照ください。

中央部門

# 内視鏡センター

◆センター長

山本　克己

◆概　要

上部消化管内視鏡、下部消化管内視鏡、胆膵内視鏡、超音波内視鏡（EUS）、カプセル内視鏡検査、ダブルバルーン小腸内視鏡検査、気管支鏡、胸腔鏡、超音波気管支鏡などの検査手技だけでなく、内視鏡的粘膜切除術（EMR）、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、総胆管結石破砕術・乳頭切開術、消化管止血術、食道静脈瘤結紮術・硬化療法、胃瘻増設術、消化管狭窄バルーン拡張術・ステント留置術、EUS下ドレナージ術などの内視鏡治療など、内視鏡を用いた検査・治療の幅広い領域を扱っています。新病院に移った後はリカバリルームを増設しており、近年の社会的ニーズに応えるべく、安楽な内視鏡検査を行うため、消化器内視鏡検査では、鎮静剤を積極的に導入しています。呼吸器領域においては、局所麻酔下胸腔鏡、超音波気管支鏡といった最新の検査も行っています。治療については、特に、高度な技術を要する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）件数が多いのが特徴で、早期胃癌だけでなく、早期の大腸癌、食道、十二指腸、咽頭癌など幅広い領域の表在癌の治療にあたっており、困難症例を含め、大阪府下だけでなく、他府県からもご紹介いただいています。検査・治療に際しては、合同カンファレンスを定期的に開催し、消化器内科、外科、病理科が密接にコミュニケーションを取りながら診療を行っています。最近は、外科、消化器内科が協力して、腹腔鏡内視鏡合同手術（LECS）も施行しており、咽頭癌に対するESD は消化器内科と耳鼻科が協力して行っており、先進的な医療も積極的に施行しています。

また、吐下血などの消化管出血や胆管炎などの救急疾患にもオンコール体制を敷いて対応しており、地域医療に貢献しています。

◆実　績

2025年度は、内視鏡総件数が8,317件、上部消化管内視鏡検査が5,240件、下部消化管内視鏡検査が2,641件、ESD 件数が232件、EMR 件数が886件、ERCP 件数が230件、気管支鏡件数が187件となっています。

安楽に検査や治療を受けたいと希望される患者さんが多く、全体の約8割以上の症例で鎮静剤を使用しています 。

# 中央部門 脳卒中センター

◆センター長

◎榊　孝之（SCU　責任医師）、◎高田　和城

◆概　要

脳卒中センターは、脳神経外科4名、脳神経内科4名、リハビリテーション科1名、プライマリケア診療部1～2名、看護師18名、専任PT1名、病棟薬剤師1名、栄養士1名、医療福祉相談室7名の多職種連携により、9床の病床で運営している。脳神経外科・脳神経内科が協力し、脳卒中Hotlineを携帯し、24時間365日体制にて、脳卒中診療を行っている。

日本脳神経血管内治療学会専門医が、常勤医として3名在籍し、超急性期脳梗塞に対して、血栓溶解療法（ｔPA）、機械的血栓回収術（MT）を施行している。また、出血性脳卒中に対しては、緊急開頭術、コイル塞栓術を施行している。

リハビリテーション科と連携して、早期からのリハビリテーションを開始し、早期離床を行っている。医療福祉相談室と連携し、回復期リハビリテーション病院への転院を積極的に行い、自宅復帰・社会復帰を目指している。

大阪脳卒中医療連携ネットワーク（OSN）に計画管理病院として、発足当初より参加している。OSNでは、年3回、全体会議を行い、自己啓発、急性期病院・回復期病院の連携強化、脳卒中啓発イベントである市民講座の開催、脳卒中患者・家族らへの脳卒中サロンの開催などの活動を行っている。

2022年4月1日、日本脳卒中学会認定1次脳卒中センターコア施設に認定された。それに伴い、2022年12月1日より、脳卒中療養相談窓口を外来患者相談窓口内に設置した。脳卒中療養相談士の資格を持つ医師、看護師（脳卒中リハビリテーション看護認定看護師1名を含む）、MSWが、対応にあたっている。

◆実 績

（2025/1/1-2025/12/31）

| | |
|---|---|
| SCU　入室患者数 | 393名 |
| 内訳 | |
| 脳梗塞 | 269名 |
| 脳出血 | 74名 |
| くも膜下出血 | 22名 |
| 一過性脳虚血発作 | 12名 |
| その他 | 16名 |
| | |
| 脳梗塞超急性期血栓溶解療法 | 8名 |
| 脳梗塞超急性期血栓回収術 | 17名 |
| 両者併用 | 5名 |
| 脳出血　頭蓋内結手除去術 | 4名 |
| 脳動脈瘤緊急クリッピング術 | 6名 |
| 脳動脈瘤緊急コイル塞栓術 | 12名 |
| 脳梗塞開頭減圧術 | 3名 |
| 脳動静脈奇形摘出術、塞栓術 | 1名 |

# 中央部門 外来治療センター

◆センター長

塚本　文音

◆概　要

外来治療センターでは、通院での抗悪性腫瘍剤や関節リウマチなどに対する生物学的製剤等の投与を行っています。また、曜日と時間帯を限定して自己血貯血に対応しています。

電動ベッド７台、リクライニングチェア14台が稼働。看護師6名が常駐し、薬剤投与中の観察のみならず、帰宅後の有害事象の予防、軽減のための援助を行っています。

◆実　績

令和7年度は、消化器外科、消化器内科、乳腺外科、呼吸器内科、泌尿器科、婦人科、脳神経外科、脳神経内科、腫瘍内科、 整形外科、眼科、免疫内科、腎臓内科、神経精神科が当センターを利用。

令和7年度の化学療法実施延べ件数は4,005件（月平均334件）、貯血実施延べ件数は65件（月平均5件）。

## 中央部門 母子医療センター

◆センター長

筒井　建紀（産婦人科　診療部長）

◆副センター長

高橋　唯（８階東病棟師長）

◆概　要

大阪市西部基本保健医療圏の周産期医療を担う拠点病院として、産科、小児科（認可新生児集中治療室：NICU）で連携して母子医療センターを設置しています。

産科は一次救急を扱っており、大阪府における産婦人科診療相互援助システム（OGCS）に加盟し、母体の様々な病態により急変した際の搬送の受け入れを実施し、地域の産科診療に貢献しています。また、妊婦さんの安全性と利便性の観点から、日頃より病診連携でお世話になっております産婦人科ご開業の先生に妊婦健診をお願いし、分娩は当院で取り扱う「産科オープンシステム」を取り入れています。産科以外に合併症をお持ちの妊婦さんに対しては、総合病院の利点を活かして内科・外科・精神科など院内の他診療科と連携して適切に対応しています。さらに、2022 年 7 月より分娩時鎮痛を希望される妊婦さんに、産婦人科・麻酔科・小児科と共同で、安全で質の高い和痛分娩を提供できる体制を整えています。

産科外来では、医師による通常外来の他に、助産師外来も併設しており、妊娠経過が安定している妊婦さんにご利用いただいています。助産師外来は、妊娠中の様々なご相談にきめ細やかに対応し、好評を得ております。また、当院は非侵襲性出生前遺伝学的検査（NIPT）実施認証医療機関の基幹施設であり、出生前遺伝相談外来にて出生前カウンセリングやNIPTなどの出生前検査 を実施しています。

入院中の食事メニューは、妊婦さんのご意見をフィードバックしながら、量・質ともに満足していただけるものにグレードアップしており、入院時のアメニティーもますます充実しています。また、一部の病室は改装を行い、さらに快適な入院生活をご提供できるようになりました。

小児科は、院内出生を中心にNICU 6 床を確保し、新生児診療を24時間体制で行っています。大阪府新生児診療相互援助システム（NMCS）にも参加しており、大阪の周産期地域医療システムの一翼を担っています。産科と緊密に連絡をとり、看護師・助産師のスタッフとともに、一人ひとりの赤ちゃんに対する最適の治療、退院後のフォローアップ、さらにはご家族全体のトータルな支援を心がけています。

◆実　績

令和 7 年度は、分娩数 515 件(うち予定帝王切開術 60 件、緊急帝王切開術 34 件、吸引分娩 50 件、鉗子分娩 3 件、双胎分娩 4件、無痛分娩 112件)で、このうち地域の産婦人科の先生方と連携した産科オープンシステムによる分娩数は 98 件でした。妊婦さんで出生前遺伝カウンセリングの受診件数は108件、そのうちNIPT受検件数は73件でした。

また、NICU の延入院患者数は 846人、新入院患者数は 206人でした。

# 集中治療部

◆部　長

佐藤　善一

◆概　要

当院のICUは平成９年に循環器科創設と同時に発足した。呼吸器外科担当部長大野喜代志先生、中村康子婦長のもとで開設されたICU は平成20年（2008年）４月からは10床に増床され、平成27年新病院開院とともに12床に増床された。2020年度より、佐藤を含む２名の集中治療専門医体制でICU の日勤を担当し、34名の ICU 看護師（うちクリティカルケア認定看護師１名）と共に治療を行っている。

毎朝、主治医、麻酔科ICU 担当医、看護師とでウォーキングカンファレンスを行い、治療方針の確認を行っている。また、リハビリテーション部、ICT（院内感染コントロールチーム）、NST（栄養サポートチーム）もカンファレンスに参加して緊密な連携を保ち、治療を行っている。高度医療機器は臨床工学技士の管理により安全に使用できている。日本集中治療医学会専門医研修施設の認可をいただいている。

◆実　績（2025年度）

| | |
|---|---|
| 入室患者数 | 1567例（男844例、女723例） |
| 平均年齢 | 71歳 |
| 平均在室日数 | 2.9日 |

＜診療科内訳＞

| | | | |
|---|---|---|---|
| 心臓血管外科 | 114例 | 循環器内科 | 474例 |
| 外科（胸部含む） | 391例 | （一般）内科 | 23例 |
| 脳神経外科 | 89例 | 消化器内科 | 62例 |
| 整形外科 | 229例 | 神経内科 | 13例 |
| 泌尿器科 | 74例 | 呼吸器内科 | 6例 |
| 産婦人科 | 24例 | 糖内分泌内科 | 18例 |
| 形成外科 | 1例 | 小児科 | 2例 |
| 耳鼻科 | 19例 | | |
| 皮膚科 | 6例 | | |
| 歯科 | 3例 | | |

＜その他＞

| | |
|---|---|
| 心肺蘇生後 | 17例 |
| covid19肺炎 | 1例 |
| 陰圧室使用 | 4例 |

## 中央部門 手術室

◆スタッフ（◎部長）

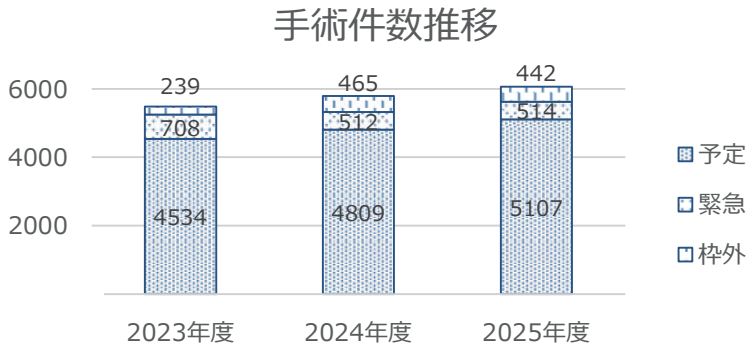
◎田中　克明、他麻酔科医8名、（看護師長）藤原　千佳、他看護師41名

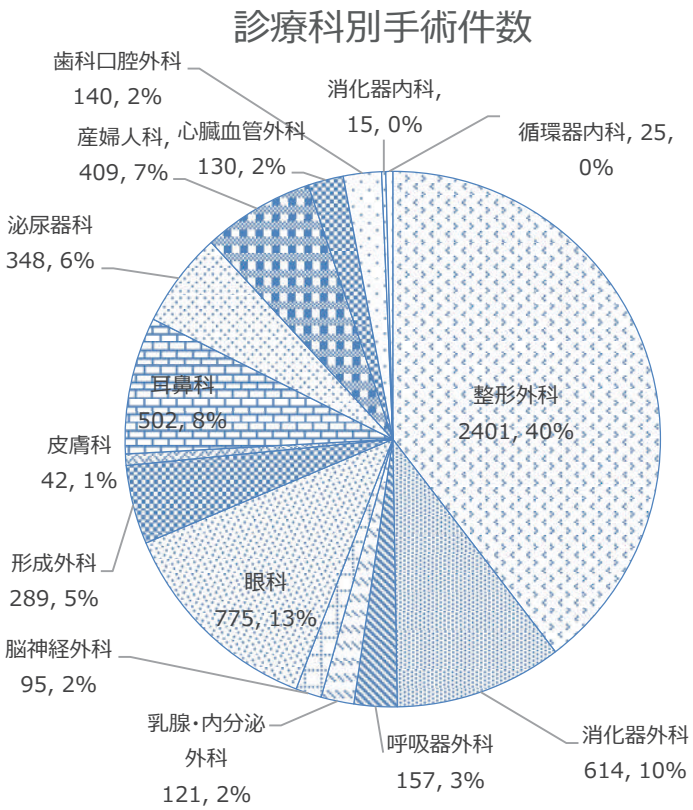
◆概 要

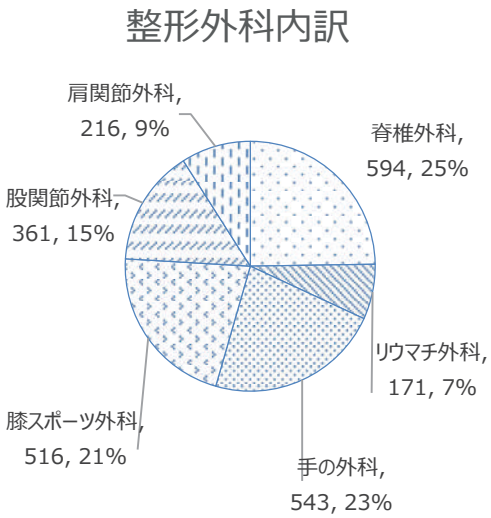
手術室は12室あり、うち4室がバイオクリーンルーム、1室はハイブリット手術室である。

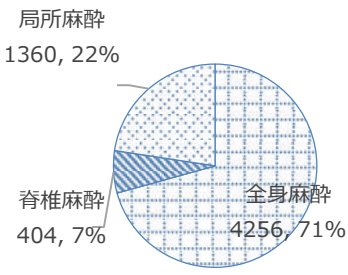
◆実 績

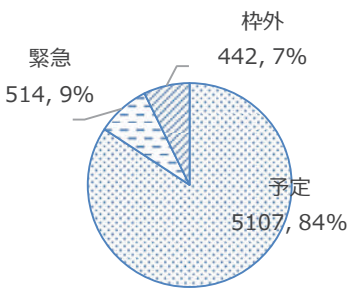
2025年度総手術件数は6020件（診療科別手術件数のグラフは共観手術を含む各診療科の実績件数）で、年々増加している。麻酔は全身麻酔が年々増加し全体の71％であった。総手術件数に対し、予定手術以外の手術（枠外・緊急手術）の占める割合は16％であった。



## 診療協力部門 薬剤部

◆スタッフ（◎部長）

◎辻川　正彦、他薬剤師33名、薬剤助手4名

◆概　要

2026年3月現在、薬剤師34名（定数34名） 薬剤部長：辻川正彦

副薬剤部長：長谷川真美、主任：田中早紀・村山和子・岡渕直子・角陽子・冨永真代・森脇崇

一般薬剤師26名（男6名・女20名、内育児休業3名） 薬剤助手4名、事務4名、SMO4名

施設基準等

病棟薬剤業務実施加算１ …… 11病棟

病棟薬剤業務実施加算２ …… SCU・ICU

薬剤管理指導料、外来化学療法加算１、無菌製剤処理料、がん患者指導管理料（ハ）

チーム医療：ICT・AST・NST・緩和ケア・褥瘡ケア・認知症ケア・せん妄ケア 、術後疼痛

学生実務実習受入施設

| | | |
|---|---|---|
| 日本病院薬剤師会 | 病院薬学認定薬剤師 | 15名 |
| | 認定指導薬剤師 | 1名 |
| 日本薬剤師研修センター | 認定実務実習指導薬剤師 | 5名 |
| | 研修認定薬剤師 | 1名 |
| 日本医療薬学会 | がん専門薬剤師 | 1名 |
| 日本緩和医療薬学会 | 緩和薬物療法認定薬剤師 | 1名 |
| 日本臨床腫瘍薬学会 | 外来がん治療専門薬剤師 | 1名 |
| | 外来がん治療認定薬剤師 | 1名 |
| 日本医療情報学会 | 医療情報技師 | 2名 |
| 日本糖尿病療養指導士認定機構 | 日本糖尿病療養指導士 | 1名 |
| 日本・アンチドーピング機構 | 公認スポーツファーマシスト | 3名 |
| 日本臨床栄養代謝学会 | 栄養サポートチーム専門療法士 | 3名 |
| 日本循環器学会 | 心不全療養指導士 | 1名 |
| 日本心臓リハビリテーション学会 | 心臓リハビリテーション指導士 | 1名 |
| 日本麻酔科学会 | 術後疼痛管理研修修了 | 3名 |

◆実　績

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 外来一般処方箋（舞） | 1,714 | 薬剤管理指導患者数（人） | 15,942 | TDM算定件数 | 1,221 |
| 外来注射処方箋（枚） | 24,570 | 指導回数 | 23,196 | 採用薬品数 | 1,231 |
| 院外処方箋（枚） | 93,953 | 算定件数 | 21,064 | 新規レジメン登録（件） | 32 |
| （発行率　%） | 98.2 | 麻薬管理指導加算（件） | 401 | 後発薬品置換率（%） | 93.73 |
| 入院一般処方箋（枚） | 175,499 | 退院時薬剤情報（件） | 2,887 | 年間治験実施本数 | 23 |
| 入院注射処方箋（枚） | 369,311 | 持参薬調査件数 | 12,350 | 新規治験契約件数 | 7 |
| 入院麻薬一般処方箋（枚） | 870 | 持参薬調査剤数 | 78,450 | 薬剤情報提供料（件） | 1,439 |
| 入院麻薬注射処方箋（枚） | 8,624 | | | 疑義照会件　（調剤室）<br>（注射室） | 5,636<br>161 |
| 院内製剤件数<br>（一般）<br>（無菌製剤） | <br>64<br>60 | 無菌製剤処理算定件数<br>（抗がん剤・TPN） | 3,941 | 病棟薬剤業務実施加算（件）<br>（一般病棟11）<br>（SCU・ICU） | <br>22,590<br>3,524 |
| 注射混合調製分取総件数 | 10,244 | 処置薬剤払出件数 | 7,184 | 医薬品安全研修（回） | 9 |

## 診療協力部門 放射線室

◆スタッフ

（技師長）定　昭彦、他放射線技師32名

◆概　要

現在、診療放射線技師33名（常勤）、事務スタッフ10名で放射線室を運営しています。取得資格・認定においては、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師：6名、第一種放射線取扱主任者：5名、磁気共鳴専門技術者：4名、血管撮影・インターベンション専門診療放射線技師：3名、放射線治療専門放射線技師：3名、核医学専門技師：1名、放射線管理士：8名が在籍しております。放射線室は地下１階に核医学検査と放射線治療、１階に救急専用の撮影室、２階に一般撮影、CT、MRI、MMG、X-TV、骨密度測定装置等の診断部門、５階に血管撮影室、Hybrid 手術室（近畿四国地区で唯一）を配置しております。

令和7年度は、新機器の導入に伴う検査制度の向上と、待ち時間短縮による患者満足度の向上を目標に掲げ、室員一丸となって取り組みました。我々放射線室スタッフは常に放射線診断、治療の各分野で知識と技術の向上を図りながら専門性を深め、一方では高度な放射線機器を操作し、画質や被ばく線量管理を適切に行っています。地域連携依頼検査においてはCT・MRI・RI検査等を積極的に受け入れ要望に応じた柔軟な対応を行っています。タスクシフト/シェアも業務化しMRI造影・RI検査における静脈穿刺・抜針・止血の運用を始め、現在11名の技師を育成することができ、血管撮影検査においても4名の技師が清潔操作を行っています。次年度の課題は、「タスク・シフトシェアの更なる推進」、「中堅技師の育成と、他部門との人材交流」を軸に、風通しの良い職場環境を構築し放射線室一丸となって病院経営に貢献し、質の高い医療の提供を目指します。

装置一覧

| 装置 | 台数 | スペック等 | 装置 | 台数 | スペック等 |
|---|---|---|---|---|---|
| CT | ２台 | 64列　80列 | MRI | ２台 | 1.5T、3.0T |
| 血管撮影装置 | ２台 | Single、Biplane | 核医学検査装置 | １台 | SPECT-CT |
| 放射線治療装置 | １台 | 定位照射、IMRT | X線TV装置 | ３台 | FPD |
| Hybrid-Angio | １台 | ハイブリッド手術室 | 一般撮影装置 | ５台 | FPD、長尺立位撮影台 |
| その他 | 乳房撮影装置、骨密度測定装置、ポータブル装置、外科用イメージ | | | | |
| 情報システム | 放射線部門システム、放射線画像管理システム、放射線読影レポートシステム | | | | |

2025年度に整備した放射線機器

①３T　MRI装置：キヤノンMRI　Galan3T SupremeXG

◆実　績

| | 2023年度 | 2024年度 | 2025年度 |
|---|---|---|---|
| 一般撮影 | 59,924 | 61,901 | 58,477 |
| 乳房撮影 | 2,588 | 2,551 | 2,444 |
| 骨密度測定 | 1,708 | 1,841 | 1,831 |
| X線TV | 1,533 | 1,688 | 1,506 |
| CT | 22,566 | 23,847 | 25,300 |
| MRI | 10,031 | 10,509 | 11,116 |
| 血管撮影・心カテ | 1,052 | 1,075 | 1,234 |
| RI | 1,147 | 1,109 | 1,092 |
| 放射線治療 | 2,842 | 3,088 | 2,905 |
| 地域連携依頼<br>CT・MRI・DEXA | 1,189 | 1,255 | 1,272 |

診療協力部門

# 中央検査室

◆スタッフ（◎部長）

◎岡田　昌子、（臨床検査技師長）髙嶋　学志、他 臨床検査技師42名、事務員2名

◆概　要

中央検査室は医師である臨床検査科部長1名、臨床検査技師43名（非常勤6名含む）、事務員2名のスタッフで外来患者採血、血液・凝固、生化学・免疫化学、尿・便、微生物、輸血管理、病理の各種検体検査および生体検査の生理機能検査を担当しています。それぞれ各部門には専門資格を有するスタッフの配置でレベルの高い医療情報の提供に努めています。また、検体検査では24時間対応の緊急検査体制をとり情報提供を絶やないようにしています。さらに緊急検査体制とは別に微生物検査では重症感染症の早期診断のために365日連続日勤体制もとっており、感染の早期治療に貢献できるようにも務めています。

そのような中、当検査室は2023年に国際規格である ISO 15189認定を取得しました。世界共通の基準に基づき「安全で高品質な医療サービス」を提供しているところも特色の1つです。医療事故やインシデントの防止は同じ過ちを繰り返さない「改善する仕組み」が日常的に機能しています。また業務プロセスがマニュアル化・標準化されておりブレのない確実な対応をとっています。そして効率化により患者様の待ち時間の短縮にも努めています。今後もさらなる検査室を目指しチーム一丸となって邁進してまいります。

Medical LAB
RML03070

◆主な資格と取得人数

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認定輸血検査技師 | 3名 | 細胞検査士 | 7名 |
| 認定一般検査技師 | 2名 | 国際細胞検査士 | 4名 |
| 認定病理検査技師 | 2名 | 二級臨床検査士　血液学 | 6名 |
| 認定血液検査技師 | 2名 | 〃　臨床化学 | 4名 |
| 認定臨床微生物検査技師 | 1名 | 〃　循環生理学 | 1名 |
| 認定臨床化学・免疫化学精度保証管理検査技師 | 2名 | 〃　微生物 | 4名 |
| 感染制御認定臨床微生物検査技師 | 1名 | 〃　病理学 | 2名 |
| 超音波検査士　循環器 | 4名 | 緊急臨床検査士 | 8名 |
| 〃　消化器 | 3名 | 遺伝子分析科学認定士 | 2名 |
| 〃　体表臓器 | 1名 | 大阪糖尿病療養指導士 | 2名 |
| 乳がん検診超音波検査実施者 | 1名 | 栄養サポートチーム療養士 | 1名 |

◆実　績

2024年度検査実績を2025年度と比較し表記しました。

| 検体検査 | 2024年度 | 2025年度 | 生理検査 | 2024年度 | 2025年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 外来採血 | 73,939件 | 73,925件 | 心電図関連 | 17,332件 | 17,077件 |
| 生化学 | 120,144件 | 121,361件 | 肺機能関連 | 4,451件 | 4,910件 |
| 血液・凝固 | 144,556件 | 147,392件 | 超音波　心臓 | 4,438件 | 4,956件 |
| 尿検査 | 76,759件 | 77,254件 | 超音波　腹部 | 5,016件 | 5,025件 |
| 微生物 | 47,572件 | 46,538件 | 超音波　その他 | 2,136件 | 3,202件 |
| 病理 | 13,317件 | 12,774件 | 耳鼻科関連 | 1,213件 | 1,797件 |

診療協力部門

# 栄養管理室

◆スタッフ

管理栄養士６名

◆概　要

患者給食部門は全面委託であり、約35名の給食会社スタッフで給食管理・食数管理を担っています。

病院管理栄養士は、その管理に携わり、給食がより良いものになるように給食会社スタッフと協議をしています。

患者給食は全面委託しているため、病院管理栄養士は、栄養指導と栄養管理をメインに行っています。栄養食事指導件数の増加に取り組んでおり、医師・看護師の協力もあり、年間4000件以上の実施件数を維持しています。

個人栄養食事指導の他、糖尿病教室、腎臓病教室に参加し集団指導も実施しています。また、糖尿病透析予防・慢性腎臓病透析予防外来を医師・看護師と協力して実施しています。

早期栄養介入管理加算、周術期栄養管理加算も継続して算定しています。

チーム医療では、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、摂食嚥下チーム、褥瘡対策チームに参加し、回診に同行、患者さんに適切な栄養管理ができるよう努めています。その他、糖尿病ケアチーム、減量・代謝改善チームの一員としても活動しています。

2026年3月からは、入院支援センターに管理栄養士が常駐し、栄養介入が必要な高リスク者（全身麻酔手術、急激な体重減少、摂食・嚥下機能低下、食物アレルギー等）を対象に聞き取りを行い、早期からの栄養管理に努めています。

**＊認定資格取得**

・糖尿病療養指導士：5名

・NST専門療法士：１名

・病態栄養専門管理栄養士：1名

◆実　績

2025年度　栄養食事指導算定件数

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院初回 | 163 | 151 | 150 | 144 | 143 | 140 | 149 | 121 | 132 | 81 | 95 | 89 | 1558 |
| 入院2回目以降 | 59 | 49 | 54 | 59 | 45 | 56 | 38 | 37 | 43 | 28 | 34 | 21 | 523 |
| 外来初回 | 45 | 42 | 50 | 55 | 65 | 40 | 48 | 43 | 32 | 33 | 31 | 37 | 521 |
| 外来2回目以降 | 126 | 129 | 112 | 136 | 137 | 151 | 150 | 107 | 139 | 141 | 117 | 134 | 1579 |
| 合計 | 393 | 371 | 366 | 394 | 390 | 387 | 385 | 308 | 346 | 283 | 277 | 281 | 4181 |
| １日平均件数 | 18.7 | 18.6 | 17.4 | 17.9 | 19.5 | 19.4 | 17.5 | 17.1 | 17.3 | 14.9 | 15.4 | 13.4 | 17.3 |

2025年度　栄養関連業務実績

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 糖尿病透析予防管理料 | 24 | 27 | 26 | 26 | 33 | 31 | 27 | 25 | 35 | 28 | 30 | 26 | 338 |
| 慢性腎臓病透析予防管理料 | 1 | 7 | 12 | 20 | 19 | 24 | 31 | 17 | 22 | 14 | 18 | 18 | 203 |
| 栄養情報連携料 | 12 | 4 | 9 | 17 | 9 | 6 | 10 | 3 | 6 | 3 | 5 | 1 | 85 |
| 早期栄養介入管理加算 | 120 | 96 | 93 | 120 | 133 | 116 | 103 | 85 | 94 | 89 | 64 | 119 | 1232 |
| 周術期栄養管理実施加算 | 317 | 321 | 300 | 300 | 310 | 298 | 309 | 277 | 315 | 301 | 265 | 296 | 3609 |
| 緩和ケア個別栄養食事加算 | 49 | 42 | 23 | 51 | 42 | 41 | 50 | 59 | 63 | 58 | 54 | 55 | 587 |
| 栄養サポートチーム加算 | 38 | 69 | 60 | 74 | 58 | 57 | 74 | 59 | 60 | 58 | 60 | 58 | 725 |
| NST回診実件数 | 44 | 75 | 63 | 77 | 62 | 61 | 76 | 61 | 62 | 59 | 60 | 61 | 761 |
| NST新規依頼件数 | 15 | 28 | 26 | 18 | 21 | 18 | 24 | 29 | 19 | 20 | 20 | 19 | 257 |

## 診療協力部門 臨床工学室

◆スタッフ（副技士長）

勝賀瀬　朗、他臨床工学技士13名

◆概 要

当院の臨床工学室は、14名の臨床工学技士で組織されています（欠員4名）（2026年３月１日現在）。医療機器管理や血液浄化をはじめ、心臓カテーテル検査・治療、心臓電気生理学的検査・アブレーション、人工心肺、手術室、集中治療室、補助循環、呼吸療法、心臓植込み型電気的デバイス関連業務、睡眠時無呼吸症候群検査、24時間自由行動下血圧測定など、幅広い業務に携わっています。その他、各種委員会活動や、院内スタッフを対象とした医療機器の取り扱い研修を行っています。

2021年11月より当直体制を導入し、緊急カテーテル検査や緊急手術、医療機器のトラブル等に迅速に対応できる体制を整えました。また、2023年度よりTAVIおよび心臓カテーテル検査・治療時の清潔介助業務を開始し、2024年からは手術支援ロボットの管理業務や内視鏡業務にも参画しています。これにより、業務内容の充実と医師からのタスクシフトを積極的に推進しています。

今後も病院経営に貢献するとともに、各診療科や看護部をはじめとする各部署と緊密に協働し、安心・安全な医療の提供に努めてまいります。

◆実 績

2025年度実績

| 業務 | 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ICU　HD/HDF/ECUM | 件 | 5 | 2 | 5 | 5 | 3 | 0 | 1 | 4 | 0 | 2 | 2 | 6 | 35 |
| 特殊血液浄化 | 件 | 6 | 4 | 9 | 13 | 11 | 16 | 7 | 4 | 13 | 23 | 16 | 14 | 136 |
| （PE） | 件 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 5 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 6 | 18 |
| （DFPP） | 件 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| （エンドトキシン吸着） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （LDL） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （レオカーナ） | 件 | 0 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 4 | 1 | 11 | 20 | 15 | 8 | 67 |
| （DFT） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （LCAP） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （GCAP） | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| （CART） | 件 | 3 | 4 | 3 | 1 | 2 | 5 | 2 | 3 | 2 | 3 | 1 | 0 | 29 |
| IABP | 件 | 1 | 1 | 0 | 3 | 0 | 0 | 2 | 3 | 2 | 2 | 5 | 2 | 21 |
| PCPS | 件 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 | 0 | 8 |
| 循環補助用心内留置型ポンプカテーテル（IMPELLA） | 件 | — | — | — | — | — | — | 3 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| 人工心肺 | 件 | 7 | 5 | 4 | 6 | 4 | 6 | 7 | 4 | 4 | 4 | 3 | 9 | 63 |
| TAVI（清潔操作業務） | 件 | 3 | 1 | 1 | 5 | 0 | 2 | 0 | 2 | 2 | 3 | 2 | 1 | 22 |
| ロボット支援下手術 | 件 | 13 | 20 | 16 | 17 | 21 | 18 | 20 | 12 | 20 | 18 | 16 | 18 | 209 |
| 術中自己血回収術（整形外科） | 件 | 47 | 41 | 47 | 49 | 53 | 38 | 38 | 28 | 30 | 22 | 12 | 9 | 414 |
| アンギオ室業務 | 件 | 117 | 103 | 110 | 111 | 101 | 92 | 120 | 97 | 117 | 105 | 134 | 106 | 1313 |
| （CAG） | 件 | 49 | 42 | 40 | 42 | 41 | 36 | 46 | 41 | 38 | 32 | 48 | 43 | 498 |
| （PCI） | 件 | 25 | 24 | 19 | 20 | 16 | 12 | 22 | 22 | 22 | 20 | 30 | 7 | 239 |
| （AoG） | 件 | 2 | 2 | 3 | 5 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 4 | 8 | 7 | 44 |
| （PPI） | 件 | 2 | 3 | 2 | 6 | 1 | 2 | 3 | 5 | 4 | 5 | 8 | 11 | 52 |
| （EPS） | 件 | 19 | 16 | 23 | 19 | 21 | 20 | 23 | 13 | 24 | 22 | 20 | 19 | 239 |
| （ABL） | 件 | 20 | 16 | 23 | 19 | 20 | 20 | 23 | 13 | 26 | 22 | 20 | 19 | 241 |
| CIEDs業務 | 件 | 77 | 46 | 72 | 65 | 53 | 64 | 82 | 66 | 76 | 50 | 60 | 59 | 770 |
| 植込み | 件 | 8 | 8 | 7 | 5 | 3 | 5 | 4 | 5 | 10 | 4 | 6 | 8 | 73 |
| （IPG/CRT-P） | 件 | 5 | 6 | 6 | 5 | 3 | 4 | 2 | 1 | 5 | 3 | 6 | 7 | 53 |
| （ICD/CRT-D） | 件 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 2 | 4 | 1 | 0 | 1 | 14 |
| （ILR） | 件 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 6 |
| PM外来 | 件 | 48 | 22 | 44 | 43 | 32 | 36 | 51 | 43 | 46 | 30 | 37 | 41 | 473 |
| 日勤帯対応 | 件 | 18 | 11 | 15 | 11 | 15 | 18 | 18 | 14 | 18 | 12 | 13 | 6 | 169 |
| 当直帯対応 | 件 | 2 | 1 | 4 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 |
| MRI撮像 | 件 | 1 | 4 | 2 | 3 | 3 | 4 | 8 | 3 | 2 | 4 | 4 | 4 | 42 |
| SAS検査（フルPSG） | 件 | 4 | 2 | 1 | 2 | 1 | 3 | 3 | 1 | 1 | 1 | 3 | 3 | 25 |
| 心拍出量測定（エスクロン） | 件 | 1 | 4 | 2 | 3 | 2 | 5 | 4 | 1 | 3 | 4 | 1 | 2 | 32 |
| ABPM | 件 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 |
| 医療機器　点検総数 | 件 | 1525 | 1662 | 1729 | 1770 | 1624 | 2292 | 2152 | 1883 | 2284 | 2088 | 2062 | 2195 | 23266 |
| （定期点検） | 件 | 124 | 50 | 78 | 79 | 36 | 430 | 142 | 57 | 102 | 95 | 76 | 40 | 1309 |
| （始業点検、回路接続確認等） | 件 | 1401 | 1612 | 1651 | 1691 | 1588 | 1862 | 2010 | 1826 | 2182 | 1993 | 1986 | 2155 | 21957 |
| 医療機器　修理対応総数 | 件 | 64 | 58 | 41 | 57 | 48 | 42 | 63 | 58 | 39 | 42 | 34 | 39 | 585 |
| （院内修理/対応） | 件 | 39 | 38 | 28 | 45 | 28 | 26 | 28 | 38 | 17 | 31 | 20 | 27 | 365 |
| （メーカー修理依頼） | 件 | 25 | 20 | 13 | 12 | 20 | 16 | 35 | 20 | 22 | 11 | 14 | 12 | 220 |

診療協力部門

# 中央材料室

◆スタッフ

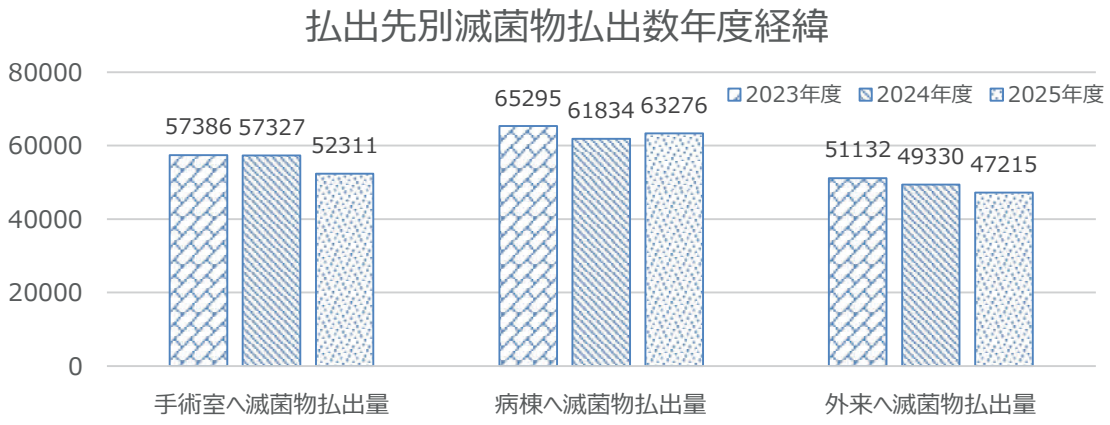
（看護師長）藤原　千佳、他委託業者23名

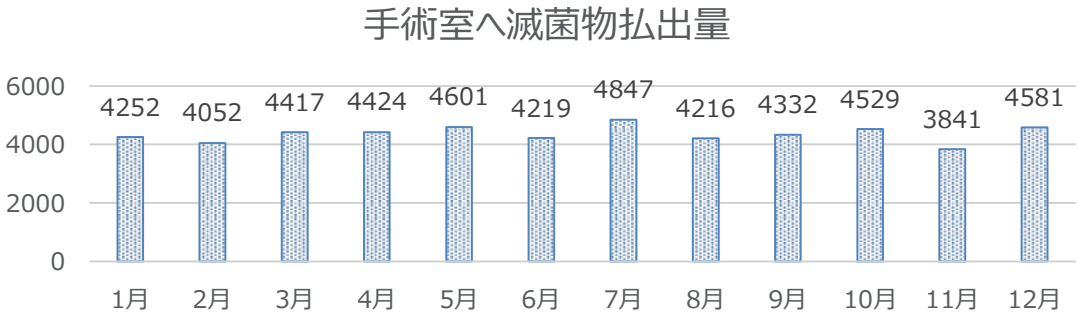
◆概 要

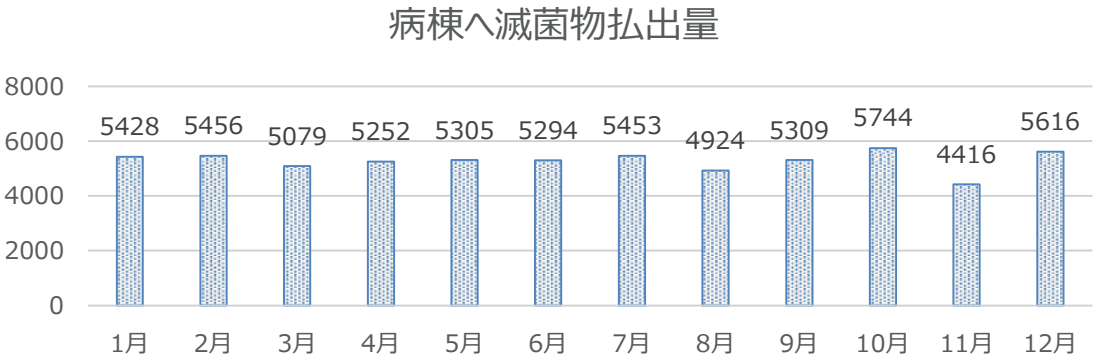
中央材料室は洗浄室と組立室、既滅菌室から成り立っており、医療器械の洗浄から滅菌に至る業務を一括して行っている。

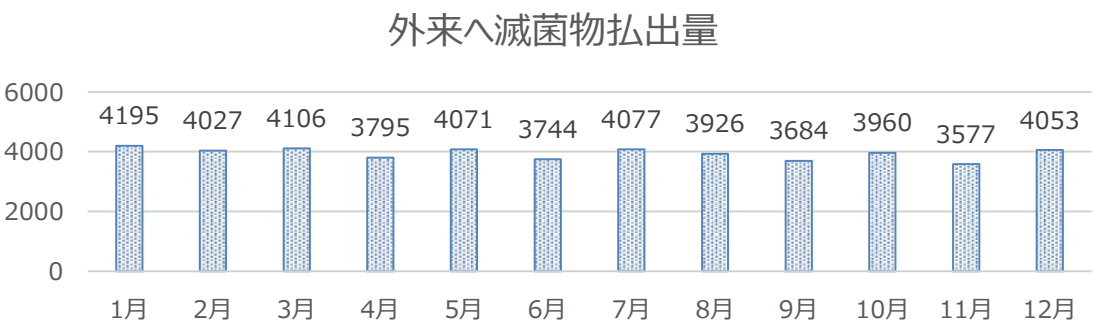
◆実 績

消耗品のディスポ化により滅菌物の払出数は減少している。



診療協力部門

# 地域医療連携室・医療福祉相談室

◆スタッフ

（部長）市川　肇、（室長）三村　麻紀子、他看護師12名、医療社会福祉士6名、事務9名

◆地域連携室

地域医療支援病院に必要な前方支援を担当する地域連携室の主な業務は、救急紹介患者の診療支援、紹介患者の予約診療支援、開放型病床・産科オープンシステムの支援、特殊検査の予約管理、地域連携パスの管理、広報活動などをおこなっている。

また、2025年12月からは、WEB予約およびカルテ公開システムを導入、普及、利用拡大に向け取組んでいる。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 2024年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 診療予約件数 | 1,565 | 1,619 | 1,549 | 1,556 | 1,408 | 1,582 | 1,636 | 1,292 | 1,432 | 1,450 | 1,387 | 1,556 | 18,032 | 17,507 |
| 救急/入院相談受付件数 | 219 | 205 | 206 | 232 | 198 | 204 | 198 | 175 | 199 | 192 | 199 | 199 | 2,426 | 2,585 |

◆医療福祉相談室

医療福祉相談室は、看護師とMSWが、それぞれの専門知識を活かし、患者さん・ご家族が、住み慣れた地域で自分らしく生活し続けられるよう、院内多職種や地域関係職種と協働して入退院を支援、また医療福祉相談などに対応している。

入院が予定された患者さんに対し、入院生活の説明や治療経過の説明等を行い、患者さん・ご家族が、安心して入院医療を受けられるように入院時支援を実施、対象者拡大に向け努めている。

退院支援では、入院後早期から病棟スタッフ等と協力しながらスムーズな退院を目指している。入退院支援加算算定件数、退院調整件数も年々増加し、回復期病院や在宅医療・介護職種との連携強化を図っている。医療福祉相談では、入院中・外来通院中の患者さんやご家族の、在宅療養に関する不安、社会福祉制度の申請やサービスに関する情報提供等を行っている。

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 計 | 2024年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入院時支援件数 | 614 | 568 | 595 | 604 | 570 | 565 | 614 | 546 | 577 | 571 | 536 | 689 | 7,049 | 6,400 |
| 退院調整件数 | 121 | 114 | 115 | 115 | 98 | 97 | 113 | 97 | 108 | 111 | 116 | 108 | 1,313 | 1,331 |
| 医療福祉相談件数 | 113 | 107 | 88 | 110 | 124 | 118 | 171 | 134 | 150 | 179 | 186 | 350 | 1,830 | 1,341 |

## 診療協力部門 がん相談支援センター

◆スタッフ

（センター長）光岡　茂樹、（看護師）土岐　昌世（がん化学療法CN）、MSW１名

◆概　要

当院は大阪府がん診療拠点病院に指定されており、２名の認定がん専門相談員の資格を持つスタッフが配置されている。がん相談支援センターでは、がん患者、家族、地域住民に対して、がんに関する信頼性のおける情報をわかりやすく提供し、適切かつ効果的に活用できるための支援を目的とし活動している。

タイムリーかつ気軽に相談できるように予約なしでも面談や電話相談のできる体制としている。相談内容に応じて、医師、認定・専門看護師、MSW、栄養士、薬剤師など院内多職種だけでなく、院外とも連携している。また、当院の患者・家族を対象に、がんのことを気兼ねなく語り合う交流の場である「がんサロン」や外来オープンスペースを活用した情報提供の場である「オープンキャンパス」を積極的に開催している。

◆実　績

**（１）がん相談（2025年４月～2026年3月）：計936件（月平均78件）**

厚生労働省科学研究「がん対策における進捗管理指標の策定と計測システムの確立に関する研究班」作成の相談記入シートに合わせて相談内容や対応内容を入力している。

| 月 | ４月 | ５月 | ６月 | ７月 | ８月 | ９月 | 10月 | 11月 | 12月 | １月 | ２月 | ３月 | 計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 相談件数 | 88 | 84 | 77 | 96 | 79 | 69 | 81 | 82 | 67 | 68 | 60 | 85 | 936 |

相談にこられる患者さんのがんの部位の上位件数は以下の通りであった。

| 相談内容 | 件数 | 対応内容 | 件数 |
|---|---|---|---|
| 乳房 | 190 | 子宮 | 61 |
| 大腸 | 124 | 前立腺 | 61 |
| 肺 | 114 | 卵巣 | 41 |
| 膵臓 | 81 | 小腸・肛門 | 24 |
| 肝臓・胆道・胆のう | 73 | 食道 | 22 |
| 胃 | 67 | 耳鼻咽喉・口腔 | 18 |

**（２）オープンキャンパス・がんサロン**

院内多職種や院外専門家と連携し、年間予定に従い開催している。

| 開催月 | がんサロン | オープンキャンパス |
|---|---|---|
| ５月 | 「一緒にしましょう！手と爪のケア」 | |
| ６月 | 「いつでもどこでも使えるストレス発散法」 | |
| ７月 | 「頭皮ケアについて」 | がんについて知ろう！<br>がんと検診って受けてる？ |
| ９月 | がん勉強会＆がんサロン<br>「免疫チェックポイント阻害剤」について | |
| 10月 | 椅子を使ったエクササイズ | がん検診啓発集中キャンペーン |
| 11月 | がん治療と栄養 | |
| 12月 | がん治療とお口のケア | |
| １月 | | がん治療と栄養について |
| ２月 | | 緩和ケアについて |
| ３月 | がん相談支援センターについて | 一緒に作る手作り帽子 |

# 医療安全管理部　医療安全管理室

◆スタッフ

◎市川　肇医療安全管理部長、北　由美医療安全管理室長、事務部長、看護部長、専任リスクマネージャー1名、医療放射線管理責任者1名、薬剤師1名、医療機器安全管理責任者1名、放射線技師1名、臨床検査技師1名　計10名

◆概　要

医療安全管理室は、専門的かつ高度な医療技術を提供できる体制を確保するための基盤となる医療安全管理を行うために設置されている部門です。

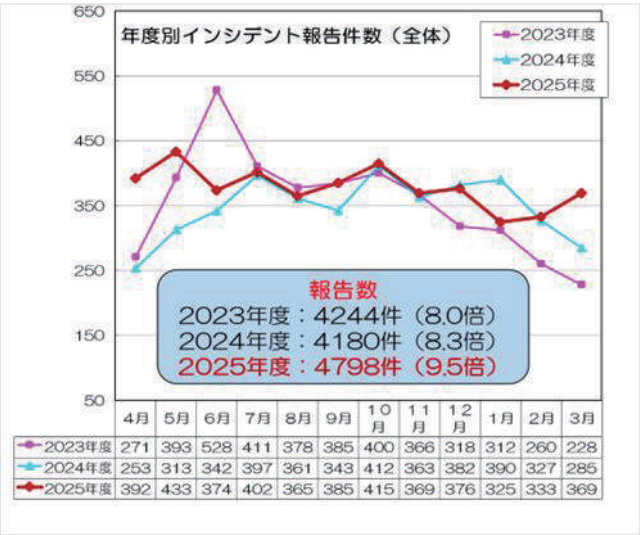
医療安全管理室では、患者さん・ご家族が安心して安全な医療を受けられる体制を構築し、かつ職員が安心して安全な医療が提供できる環境を整えることを目標として活動を行っています。医療の安全と信頼、患者さんへの医療サービスの質の向上、医療事故を未然に防止するための組織及び体制の整備、医療安全に関わる全ての職員の医療安全風土の醸成及び啓発を組織横断的に活動しています。

インシデント・アクシデント発生時は、『隠さない、逃げない、誤魔化さない』を基本方針として、いかなる場合も真実を説明し、真摯に対応していきます。

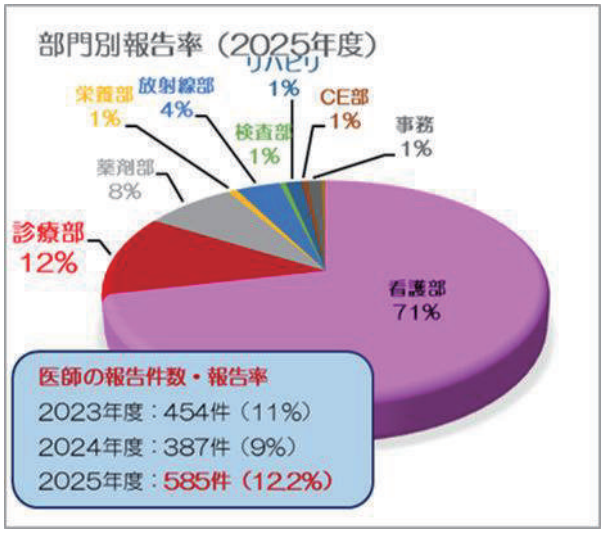
◆実　績

2025年度目標：インシデントレポート報告数を稼働病床数の5倍以上、医師の報告率10％以上の推進と定着

（報告する文化の醸成）




| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 2023年度 | 271 | 393 | 528 | 411 | 378 | 385 | 400 | 366 | 318 | 312 | 260 | 228 |
| 2024年度 | 253 | 313 | 342 | 397 | 361 | 343 | 412 | 363 | 382 | 390 | 327 | 285 |
| 2025年度 | 392 | 433 | 374 | 402 | 365 | 385 | 415 | 369 | 376 | 325 | 333 | 369 |




※ 診療部へ医療安全情報として「医師への回覧版」を配布（1回/1～2ヶ月）

※ 医療安全たよりの発刊（1回/2ヶ月）

※ 医療安全教育

2回/年の講演会（参加率100％）

第1回　『医療安全と関連法「医療に関する法的責任概要」』（参加率100％）

第2回　「 - 病院職員が絶対に知るべき -　医療安全とパワハラ防止」（参加率99％）

TeamSTEPPS研修　全職種対象　48名参加

※ CVC挿入手順講習会（認定制度）

※ RCA分析：看護部が中心となり、関係した多職種が参加して実施。（2007年より導入）

※ 院内リスクパトロール

医療安全管理対策委員会で年間計画立案、多職種で実施（6回/年）

医療安全管理室内で適宜実施（マニュアル遵守状況、インシデント発生状況・対策の検討及び共有）

# 医療情報管理部 医療情報管理室

◆スタッフ

◎北山　聡明、桂　央士、山口　慧、辻川　正彦、樋脇　鷹、小川　慶

◆概　要

医療情報管理室は1989年6月、医療情報課として病院のIT化を担うため設置されました。当初は医事会計システム中心でしたが、時代とともにオーダリング、電子カルテシステムと拡張して参りました。現在では全ての部署に電子カルテが浸透し、また部門ごとに専用システムを導入、ITインフラ整備は一通り完了いたしました。2024年3月には3期目となる電子カルテシステムの更新を行い、長らく使用しておりましたNEC社のシステムから富士通社のシステムへとリプレイスを完了いたしました。

新病院情報システムは、パッケージ製品の電子カルテを採用するとともに、画像システムの集約化や地域連携システム稼働等にも取り組んだほか、国策である電子処方箋の実装も早期に実現するなど、幅広く病院情報システムの強化に着手しました。まだ、DXや働き方改革・業務改善への取り組みにも力を入れております。生成AIやスマートフォンを代表とする”システムの導入”だけではなく、DXアンバサダーという多職種からなるDX推進チームの結成や生成AI利活用に関するガイドラインの策定など”院内のITリテラシーの向上”にも取り組み、”ITに強い病院”を目指してまいります。2026年度夏にはNWインフラの更新が控えており、次世代の医療を支えるべく日々の業務に従事しております。

◆実　績

| | |
|---|---|
| 1988（昭和63）/12 | 医事会計システム導入 |
| 1994（平成６）/３ | 医事会計システム更新 |
| 2004（平成16）/３ | オーダーリングシステム（NEC Ordering system）導入 |
| 2008（平成20）/５ | 電子カルテシステム（NEC MegaOakHR2.5）導入 |
| 2015（平成27）/５ | 新病院への移転に合わせ、電子カルテシステム（ NEC MegaOakHR R9.0.1）更新 |
| 2024（令和６）/３ | 電子カルテシステム等の更新予定 |
| 2026（令和８）/２ | 生成AIを安全に利活用する体制構築に向けたプロジェクト始動 |

# 医事課　診療情報管理室（病歴室）

◆スタッフ

（主任診療情報管理士）西　奈美子、他診療情報管理士3名、事務員2名、非常勤職員

◆概　要

診療情報管理室は、診療情報部門とカルテ部門との2部門で構成されています。

**【診療情報管理】**

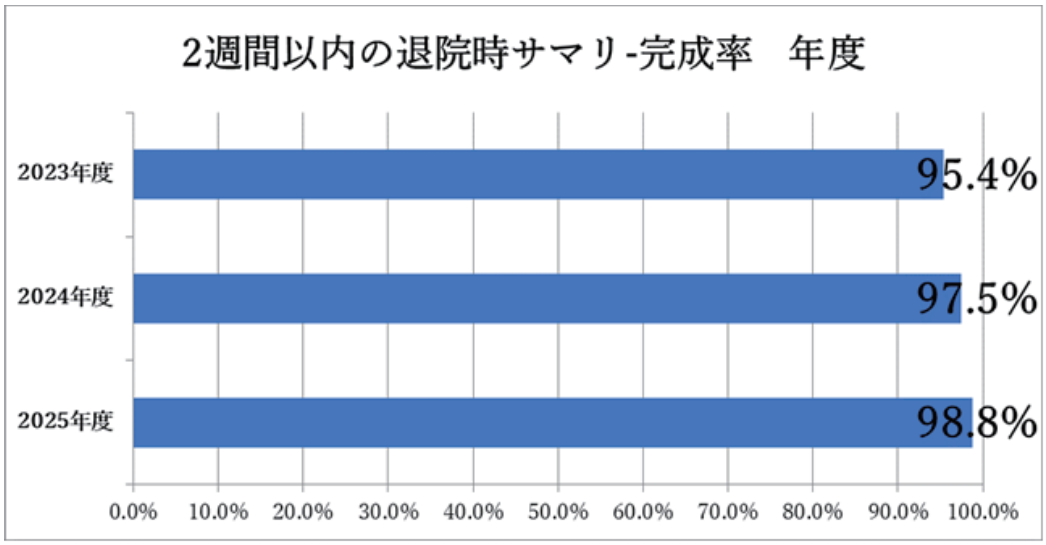
①入退院患者においての統計業務（病歴統計）
・月次統計(退院患者統計：退院サマリ完成率・クリティカルパス使用率・死亡退院リスト・剖検率・部位別がん登録患者数・DPC使用率・分析・分娩新生児情報集計等)
・年次統計（国際疾病分類別・手術件数・合併症件数・麻酔件数・分娩件数等診療科別集計表・診療科別転帰統計、死亡原因別死亡数、合併症件数、麻酔件数、退院患者数等）
・患者情報抽出（手術別・病名別等）
・がん統計分析
・DPC入院期間分析・クリティカルパス分析
②DPC精度管理
・DPC出来高差分チェック・副傷病名確認
③DPC請求の病名確認
・入院、退院患者のDPC病名「ＩＣＤコード」の確認、
・DPC基礎調査　付加コード・ＯＰ初再回・がん登録のチェック
④入院患者情報入力および質的点検
・診療情報管理システム（メディバンク）への入院患者情報入力
（電子カルテ・退院サマリの点検、病名コードICD-10・手術及び処置ICD-9-CM・患者情報等の登録）
⑤がん登録
・院内がん登録・予後調査参加・QI研究参加・神経内分泌腫瘍専門施設情報公開プログラム参加等
⑥退院時サマリ管理・督促
⑦診療情報開示
⑧電子カルテ質的監査・手術記録確認・量的監査
⑨入院すぐの手術・ICD・DPCの確認
⑩電子カルテへの文書・新規スキャン・Excelチャートの管理・テンプレート作成等
⑪診療情報管理・略語集管理等

**【カルテ管理】**

①書類のスキャン取込・内容確認
②カルテ庫へＩＤ別の患者ファイル書類保管
③患者ファイル管理（書類回収・ファイル新規作成・貸出・返却・未返却の督促）
④紙カルテ管理（依頼のカルテ準備・返却・整理・未返却の督促）
⑤保存期間超えの紙カルテ・患者ファイル管理（永久保存管理・廃棄）

◆実績

【クリティカルパス】
DPC退院期間見直し調整：全診療科
クリティカルパス登録：450件
【文書統一フォーマット】
同意書・テンプレート：約800件変更
【ICD確認・退院内容登録】退院患者15,266人
【サマリ記載率の推移】



# 戦略企画室

◆スタッフ

（室長）中田　活也（統括診療部長）　（副室長）事務部長、医事課長　（室員）副院長２名、看護部長、副看護部長、経理課長　※サポートメンバー等（院長、副院長、診療部長２名、医療情報部係長　等）

◆概　要

戦略企画室は、病院のビジョン・コンセプトや、経営改善に向けた方策・提案、地域医療構想を踏まえた自院の機能・他院との連携の在り方など中長期の将来構想等の策定、それらの構成要素となる疾病構造の変化を踏まえた診療体制、行政機関や地域医療・介護福祉事業から今後求められる役割、地域の医療従事者の需給見込みも踏まえた自院の人員配置や今後の人材確保策などの検討・分析を行うこと等を所掌した。

◆所掌業務

①病院の運営および経営に関連する情報の収集、データ分析及び戦略的課題の整理を行い、中長期経営計画に係る提案を行うこと

②年度計画および主要業績評価指標（KPI）に関し、戦略委員会等への提案事項の抽出、データ分析および評価支援を行うこと

③経営状況の分析、財務データの解析、物的・情報的資源の活用に関する調査・検討並びに人的資源（Human Resources：HR）の管理及び育成に関する方策を提案すること

④収益確保（施設基準、加算算定等）、コスト削減および生産性向上を目的とした施策を立案し、戦略委員会等に提案すること

⑤病院機能、医療の質、組織運営及び業務改善に関する課題を抽出し、改善策を企画立案すること

⑥その他、院長の指示又は戦略委員会の要請に基づき必要と認められる事項

◆取組内容等

・2026年度推進プロジェクトの策定（全16種類）
・2026年度三本柱の設定（最先端医療・救急医療・医療DX）
・2026年度病院全体の重要評価指標（KPI）を設定（病床稼働率、手術数、ICU稼働、在院日数等）
・2026年度診療報酬改定に向けて新規取得すべき項目、運用の見直し等の検討
・PPM分析（DPC上2桁：MDC毎）
・医療DX推進に向けた各種検討（スマホ導入・生成AI導入・ロボット等）
・2030年度に向けて目指すべきVision（投資計画、入院患者数、外来患者数、初診患者数等）の策定

# 広報部

◆スタッフ（◎部長）

◎前田　陽平、三村　麻紀子、堀本　多喜子、樋脇　鷹、猪野　優里

◆概　要

これまで「広報・図書委員会」として活動を行ってきたが、より広報活動に力を入れ、地域住民の暮らしと健康を支えるための啓発・教育活動を継続すること、及び、従来の大きな委員会ではなく、少数精鋭によるフットワークの軽さを目指し、2025年より「広報部」が発足した。

西田俊朗院長と共有した広報部設置の目的

| | | |
|---|---|---|
| 広報活動（広報部の設置） | ホームページ | ホームページをハブとした各種集患手段のネットワーク構築。<br>オンライン予約・オンラインセカンドオピニオン |
| | SNS | 複数のSNSでの情報発信。若手世代にはインスタ<br>⇒ 現在はLine登録とインスタグラムに集中 |
| | 医療情報サイト | M3、Medical Noteなど |
| | 広報誌・レター | 広報誌年6回刊行。院内ニュースレター<br>WEB、SNSとの連携。雑誌記事/チラシ配布 |
| | 商業誌・タウン誌 | 各種商業誌での広報を委員会で管理。経済性・有効性により判断 |
| | メール相談 | ホームページ、医療サイトからのメール相談に回答。<br>業者(MN)のプラットホームを利用 |

◆実　績

1. ホームページの作成

ホームページの年数経過による使い勝手の悪さ、煩雑さを解消するため、ホームページのリニューアルを企画する。リニューアルには高額な費用が掛かることより、いかにコストを押さえながら良い物を作成するかにこだわり、複数の企業との相談、検討を繰り返した1年間である。2025年11月には念願の入札に漕ぎ付き、業者の決定が行われ、より具体的、且つ詳細な打ち合わせを繰り返していき、翌年のリニューアルオープンに向けて取り組んだ。

2. 病院パンフレットの作成

当院を紹介するパンフレット類をこれまで作成していなかったため、病院を紹介する「病院紹介」、診療科を紹介する「診療科案内」のパンフレットを作成した。「診療科案内」は「脳神経外科＆脳神経内科」「消化器外科＆消化器内科」「心臓血管外科＆循環器内科」の3パターンをメインに作成した。

3. 道路標識・駅看板等の精査

慢性的に更新を行う看板等はないか、また当院の場所をより分かりやすくするための道路標識の設置について検討を行い、新たに設置を行った。

4. ＳＮＳの積極的な活用

「広報一つの手段であるSNSを活用し、患者集客につなげたい」との考えより、LINEの自動応答の見直しや、健診クーポンの配布など、お友達登録を促す施策を展開した。特に音楽コンサートやオープンキャンパスの事前登録、イベントの抽選等にて活用でき、集客が増加傾向となっている。Instagramでは当院のファン獲得を目指し、診療やイベント、スタッフ紹介等で当院の魅力をアピールしている。昨年一年でフォロワー数が1,000人増加し、LINE、Instagramともに右肩上がりを継続している。

5. 外部媒体への露出

「ホスピタルファイル」（WEB）、「頼れるドクター」（書籍・WEB）など、外部媒体への露出について、効率的かつコスト意識を持ち取り組んだ。

6. 広報等 サービス の 向上を目的とした「初診患者さま 来院 時 アンケート」を実施。

# 健康管理センター

◆スタッフ

（センター長）金子　晃、看護師２名、臨床検査技師１名、スタッフ２名

◆概　要

当健康管理センターは1959年（旧大阪厚生年金病院時代）に創設され、これまで多くの皆様にご利用いただいてきました。 当センターは病院併設型の施設のため、臨床経験豊富な各科専門の医師が検査・読影・判定を行っており、また人間ドックで異常が見つかった場合には当院で精密検査を受けることができます。一日ドック・二日ドックには日本人間ドック・予防医療学会で推奨されている基本項目が含まれており、人間ドック当日に医師から結果説明を聞くことができます。

当センターでは鎮静剤を使用した胃カメラを2022年より導入し、受診者数は2022年68名、2023年169名、2024年196名、2025年270名と年々増加しています。2025年は平日受診が困難な方のため、祝日ドックを3日間実施しました。また9月より肺がんドック単独コースを開始しました。今後も受診者の希望に沿えるようコース内容やオプション検査の検討を行ってまいります。

当院は、受診者が安心して質の高い人間ドックを受けられる健診施設として、日本人間ドック・予防医療学会より「人間ドック健診施設機能評価」の認定を受けております。今後も受診者の満足度向上のため、日々取り組んでまいります。

◆実　績

2025年度（2025年4月1日～2026年3月31日）利用者

| 【基本ドック】 | | 【オプション項目】 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 一日ドック | 1,011名 | 脳ドック | 138名 | VSRAD | 49名 |
| 二日ドック | 49名 | 肺がんドック | 140名 | 骨ドック | 48名 |
| シルバー半日ドック | 7名 | 大腸CT | 44名 | 骨密度 | 20名 |
| 脳ドック（単独） | 15名 | 大腸カメラ | 98名 | 女性検診セット | 222名 |
| 大腸ＣＴ（単独） | 5名 | 腫瘍マーカー | 423名 | 婦人科健診 | 70名 |
| 肺がんドック（単独） | 1名 | ピロリ抗体検査 | 80名 | 乳腺超音波 | 74名 |
| | | 内臓脂肪CT | 48名 | マンモグラフィ | 69名 |
| | | View39(アレルギー) | 35名 | 胃カメラ鎮静 | 270名 |
| | | 花粉症(アレルギー) | 3名 | 喀痰細胞診 | 104名 |
| | | HTLV－1抗体 | 11名 | | |

検査別受診者（一日ドック・二日ドック）

| 検査 | 受診者数 | 要精検者 | | 精検受診者 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | 人数 | 割合 | 人数 | 割合 |
| 上部消化管Ｘ線 | 39 | 3 | 7.7% | 2 | 66.7% |
| 上部消化管内視鏡 | 971 | 110 | 11.3% | 106 | 96.4% |
| 便潜血 | 899 | 50 | 5.6% | 26 | 52.0% |
| 胸部Ｘ線 | 1,056 | 47 | 4.5% | 35 | 74.5% |
| マンモグラフィ | 291 | 18 | 6.2% | 16 | 88.9% |
| 乳腺超音波 | 296 | 15 | 5.1% | 13 | 86.7% |
| 子宮頚部細胞診 | 292 | 9 | 3.1% | 5 | 55.6% |

# 大阪病院附属看護専門学校

◆スタッフ

（学校長）西田　俊朗、（副学校長）田﨑　弘美、馬屋原　豊、（事務長）細井　昌宏、（教務主任）三浦　千里、専任教員９名、事務員２名

◆概　要

大阪病院と附属看護専門学校が共通の「Autonomy：自律」をコンセプトとし、看護師として必要な専門的知識と技術を習得し、同時に豊かな人間性を養い、社会の保健医療福祉の向上に寄与しうる自律した人物を育成することを目的としている。

第5次カリキュラム改正により新設された「キャリアデザインⅡ」では、学生が学校祭の企画運営を主体的に行っている。学校祭を大阪病院のオープンキャンパスおよび地域の区民祭りと同日開催することで、多くの地域住民の方々に来校いただき、地域連携を深めている。R8年度にむけて、さらなる取り組みとして地域の小学校への出前授業の実施に向けて準備を進めた。さらに「地域で暮らす人の理解」では、1年生でのフィールドワークや地域ボランティア活動への参加を通じ、生活の基盤である地域社会への早期理解と貢献を促している。

また、病院と緊密に連携して実習環境を整えることで学生の心理的安全性を確保するとともに、指導者や先輩看護師と学生との交流会・懇親会を実施した。これにより、学生の学習意欲やモチベーションを高め、「将来自分もこうなりたい」という具体性のあるキャリア像を描けるよう取り組んだ。

大学志向化や若年人口の減少が続く中、本校では先を見据えた学習環境の整備（寮や奨学金等）の拡大とともに、一般入試（後期）を導入し、また、次年度に向けて自己推薦入試や帰国生・外国人留学生特別選考といった入試制度の改革に向けた準備を進めた。あわせて、大阪府の看護専門学校として先駆けて令和8年度からの放送大学とのダブルスクール制度導入に向け、連携協定を結び広報活動も積極的に行った。

このように基礎教育の充実と時代に即した新たな挑戦を通じ、質の高い看護実践者を育成し、大阪病院ならびにJCHO組織全体の看護を支える人材の輩出に取り組んでいる。

◆実　績

1.令和7年度　学生数（令和7年4月現在）

| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | 合計 | 充足率 |
|---|---|---|---|---|---|
| 学生数 | 38人 | 39人 | 42人 | 119人 | 99.2% |

2.令和7年度　卒業者の状況（令和8年3月卒業）

| 卒業者数 | 大阪病院 | JCHO関連病院 | その他病院 | 就職率 |
|---|---|---|---|---|
| 38人 | 25人 | 6人 | 7人 | 100% |

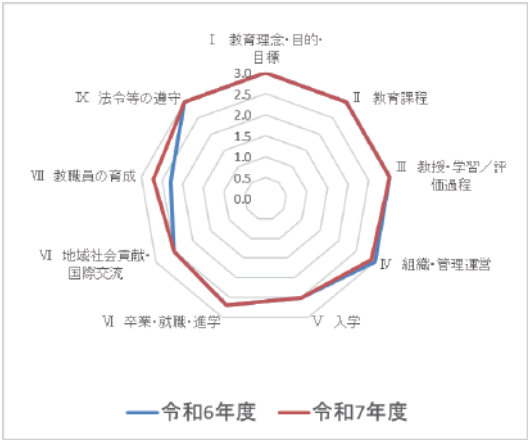
3.第115回　看護師国家試験の合格率　：　100%（全国合格率：88.3%）

4.令和8年度　入学試験状況

| 学年定員数 | 方 法 | | 応募者数 | 受験者数 | 実施日 |
|---|---|---|---|---|---|
| 40人 | 推薦入試 | 公募推薦 | 36人 | 36人 | 令和7年10月11日 |
| | | 社会人特別選考 | 15人 | 12人 | 令和7年10月11日 |
| | 一般(前期) | | 18人 | 26人 | 令和7年12月 6日 |
| | 一般(後期) | | 23人 | 19人 | 令和8年 1月31日 |
| | 合計 | | 92人 | 83人 | |

5.研究活動状況：研究授業は年間9回実施、学会発表1題

6.令和7年度　学校関係者評価結果（前年度との比較）：学校関係者評価　令和8年3月2日実施




【学校関係者評価結果の概要】

昨年度との比較においては、「Ⅳ．組織・管理運営」で3.0から2.9と0.1下がった。財政基盤となる質の高い学生の確保が課題である。

「Ⅷ．教職員の育成」では、2.3から2.7と評価が向上した。これは教員全員の研究授業実施に加え、他校交流会の実践報告継続開催や、リスク回避行動の研究成果を学内で「良いことリフレクション」導入へ繋げるなど、教育実践に還元した取り組みが評価されたと考える。

## チーム医療 感染対策チーム（ICT）

◆メンバー構成

◎長田　学、◎鴨井　博、井上　泰輔、石浦　嘉人、小井　里香、安東　祐璃、筒井　孝一、植松　広治、中野　友寛、山田　祐華

◆概　要

＜重点目標＞

１．標準予防策徹底への取り組み

2024年度より手指衛生の直接観察を開始し、2025年度は各部門での観察体制を整備した。医療ゾーンと患者エリアの区分を明確化し、ICTメンバーおよびリンクナースを観察者として配置した。 部署ごとの課題を踏まえ、改善点をまとめたポスターを掲示した。また、オムツ交換時の個人防護具着脱のタイミングに課題がみられたため、手指衛生と併せてリーダー層を対象とした勉強会を実施した。

２．清潔手術の手術部位感染（SSI）低減に向けた取り組み：ベースラインの把握（脊椎固定手術・脊椎再固定手術）

整形外科手術手技のうち、脊椎手術はベンチマーク上SSI発生率が最も高い。当院は全国と比較しても脊椎手術件数が多いことから、2026年6月～12月の期間でSSIサーベイランスを開始し、ベースラインの把握に取り組んだ。対象期間内にはプロセス評価もあわせて実施した。

３．カテーテル関連尿路感染症（CAUTI）サーベイランスの実施

カテーテル使用頻度の高い部署において、入院中に尿路感染を契機とした敗血症症例が散見されたことから、CAUTI予防策強化・低減を目的にサーベイランスを開始した。排尿ケアチームと情報共有し、2025年6月～12月の期間でカテーテル使用の多い3部署を対象に実施した。

◆実　績

１．手指衛生遵守率は52%から57%へ改善した。タイミング別では、PC操作後を除き微増がみられた。改善部署では、声掛けや個人使用量のフィードバックなどの取り組みが継続されていた。一方、繁忙時の実施困難が課題として残った。ユニット・部門は患者特性上、手指衛生の重要性が非常に高いため、引き続き、改善に向けた取り組みが必要である。

２．対象手術件数161件、厚生労働省院内感染対策サーベイランスデータの90パーセンタイルを超える高手術件数であったが、SSI発生は0件であった。またリスクインデックス2超は5件あったが感染は認められなかった。プロセス評価では、手術室内清浄度の確保が不十分であったため指導を行った。抗菌薬管理は適切であった。一方、術後創傷管理の標準化が課題となり、看護師による創傷処置体制を整備した。

３．対象患者241名、延べ使用日数1,797日、感染発生4件で、感染率は2.22‰と日本環境感染学会が運営するサーベイランスシステム急性期一般病棟の平均値（1.60‰）より高値であった。プロセス評価では適応の認識差や相対的適応患者の長期留置、尿流管理の不徹底が課題であり、基本手技の標準化も不十分であった。今後は排尿ケアチームによる一時点評価の定期化、早期抜去の徹底、OJTによる手技標準化を進める必要がある。

## チーム医療 呼吸ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、臨床工学技士、理学療法士

◆概　要

呼吸ケアチームは、2010年６月より活動を開始しました。一般病棟において48時間以上継続して人工呼吸器を装着し、装着日から１カ月以内の患者さんを対象に、人工呼吸器離脱に向け適切な人工呼吸器の設定や口腔状態の管理などを総合的に行うことを目的に活動しております。

活動内容は、

①　抜管に向けた適切な鎮静や呼吸器の設定についての検討、

②　人工呼吸器の安全管理、③口腔内の衛生管理、④廃用予防のケア、

⑤呼吸リハビリテーション、⑥人工呼吸器関連肺炎予防のケアなどの実施や指導・相談です。

当院では、人工呼吸器離脱を目指した管理は集中治療室で行うことが多いため、呼吸ケアチームの役割は呼吸器からの離脱を目指すというより、安全・安楽な人工呼吸管理を行うことを目的とした活動が多いのが現状です。一般病棟では、経験の少ない人工呼吸器装着患者さんに対して、多方面からの介入を行うことで、安全で質の高い医療・看護の提供ができるように活動を続けていきます。

## チーム医療 褥瘡対策チーム

◆メンバー構成

医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、事務員

◆概 要

【目的】褥瘡発生および重症化を予防し、褥瘡対策における医療の質向上を目指す。

【活動内容】

褥瘡対策委員会 開催（月１回）

褥瘡回診・カンファレンス（毎週）

褥瘡に関する診療計画書の作成・褥瘡予防治療計画書の作成、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定

除圧用具の適正使用、管理

褥瘡に関するコスト算定状況の把握

褥瘡対策講演会

院内職員向けYouTube配信 日時：2026年2月18日～2026年3月18日のべ視聴者数：421名

JCHO大阪病院第１回褥瘡講演会（院外医療・介護従事者対象）2025年11月16日開催　参加者18名

看護師対象ラダー別研修実施

オープンキャンパス開催（患者対象）

褥瘡を保有した状態で退院し地域で療養を続ける方や、褥瘡発生リスクの高い方については、在宅でも褥瘡が発生しないように地域の医師や看護師、施設などと連携しています。

◆実 績

褥瘡発生率:0.71‰（d2以上の褥瘡+MDRPU発生数/月あたり延入院患者数×1,000）

褥瘡推定発生率:0.7％((調査日に褥瘡を保有する患者数―入院時すでに褥瘡保有が記録されていた患者数)/調査日の施設入院患者数×100）

褥瘡対策に関する診療計画書の作成4,236件、褥瘡ハイリスク患者ケア加算算定数2,233件

## チーム医療 栄養サポートチーム（NST：Nutrition support team）

◆メンバー構成

医師、歯科医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、言語聴覚士

◆概　要

『栄養』とは、全ての治療行為の土台となる重要なものです。栄養サポートチーム（NST：Nutrition Support Team）は主治医と連携して、患者さんの治療を栄養面から支えます。あらゆる診療科の患者さんに対し、栄養状態の評価と栄養不良時の栄養管理を行い、手術・薬物療法など各専門科の治療が安全・円滑に進むように支援します。

経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養といった栄養投与経路およびデバイスの提案、病態や摂食嚥下機能に応じた食事・栄養補助食品の提案、経腸栄養・経静脈栄養メニューの提案など、入院中だけでなく退院後の生活も踏まえた適正な栄養管理について継続的に提案・支援します。経腸栄養による下痢など栄養管理におけるトラブルにも対処します。

患者さんが少しでもよくなることを願い、チーム一丸となって活動しています。

◆実　績

日本栄養治療学会　NST稼働施設認定

2025年度

栄養サポートチーム回診件数　　761件

栄養サポートチーム加算算定件数　725件

## チーム医療 ブレストチーム

◆メンバー構成

乳腺内分泌外科医師、看護師(乳がん看護認定看護師等)、放射線技師、臨床検査技師、薬剤師、理学療法士

◆概　要

乳がんの治療には、手術・放射線治療・薬物療法(ホルモン療法・化学療法・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬)があり、これらを単独あるいは複数を組み合わせて行います。がんのサブタイプや病期・年齢・全身状態・併存疾患の有無、最近では遺伝性乳がんへの対応など、患者の希望を考慮し治療法を決定します。治療期間は、術後の経過観察を含めますと10年以上と長期に及ぶため、適切な治療を納得して受けて頂くためには副作用対策や心理・社会的な問題に対するサポート体制が重要です。

乳がんは早期発見できれば治癒が可能な疾患です。乳がん検診をはじめ、各治療期～終末期まで多職種医療チーム、そして乳がん患者会(輪～つながり～)のサバイバーの方々と協力しながら、乳がん患者さんとご家族が、その方らしく生活ができるようにサポートしています。

◆実　績

乳がん啓発活動：ピンクリボンキャンペーン in JCHO大阪病院/2025年10月1日～31日の1か月間

J.M.Sプログラム：10月19日(第3日曜)に乳がん検診を実施。受験者10名

第35回乳がん患者会「輪～つながり～」総会：2025年10月4日(土) 参加者18名

乳がん患者会「輪～つながり～」患者だけの集い：2025年7月27日(土)、2026年2月7日(土)

乳がん検診：毎週木曜・第4水曜に乳がん検診、毎週月曜に女性がん検診(乳がん検診+婦人科検診)

乳がん検診226名、女性がん検診166名

## チーム医療 緩和ケアチーム

◆メンバー構成

医師（身体担当医・精神担当医）、看護師（専門看護師・認定看護師）、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、公認心理師

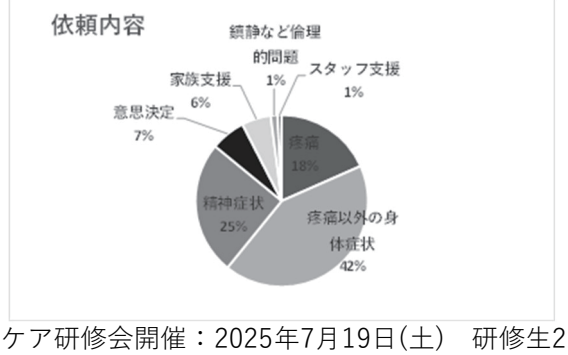
◆概　要

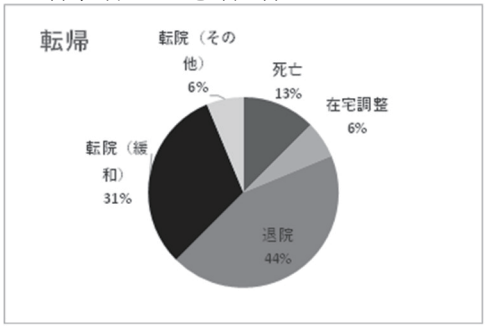
医療チームからコンサルテーションを受け、入院患者とその家族の身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな問題に対し、直接または間接介入を行っている。

- 緩和ケアチームラウンド：：専従看護師を中心に緩和ケアチームメンバーがベッドサイドを訪問し、直接診療を行っている。症状の評価や薬剤の提案、ケアの提案や実施、医療チームとカンファレンスを実施している。また、退院前の合同カンファレンスにも参加し、地域との連携も行っている。
- 緩和ケアチームカンファレンス：週1回緩和ケアチームメンバー全員で介入患者の情報共有や症例検討を行い、必要時は回診を行う。

◆実　績

新規依頼件数：208件(2024年度214件)　⇒　がん患者199件、非がん患者9件




緩和ケア研修会開催：2025年7月19日(土)　研修生22名

チーム医療

# フットケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、義肢装具士、理学療法士

◆概　要

糖尿病足潰瘍、重症虚血肢の治療・看護の方針をチームで検討、足病変の早期発見および重症化の予防。

◆実　績

**1．フットケア外来**

2024年度の糖尿病内科外来による、足スクリーニング調査後のフットケア強化

**2．血液浄化センターフットケア回診**

必要時実施し、下肢末梢管理加算を算定

**3．フットケアチームミーティング**

定例会（月１回開催）

困難症例について適宜検討会を実施

地域講演会に向けての準備・調整

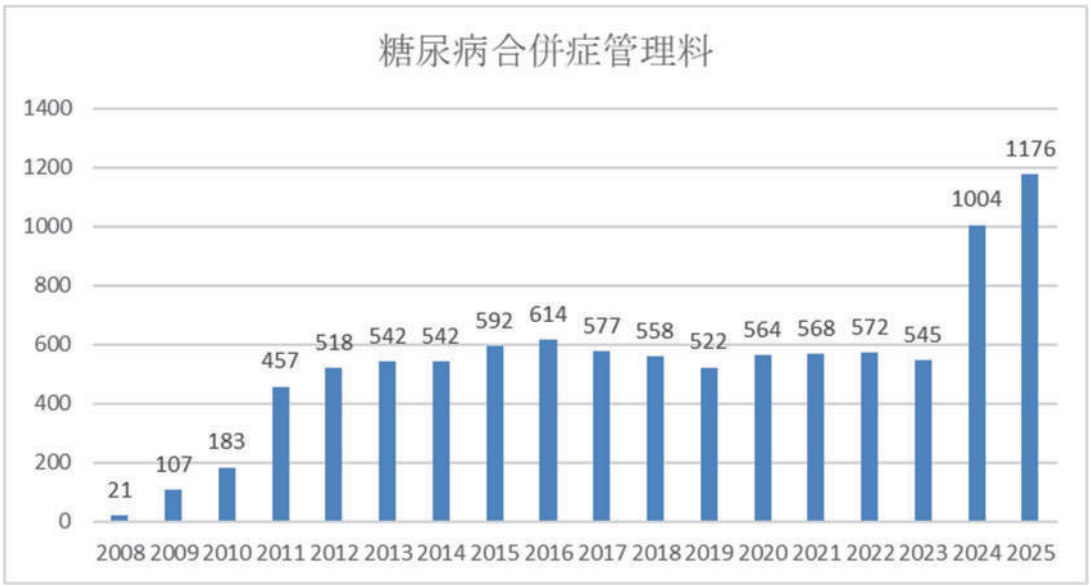
**4．フットケア・スキンケア検討会開催：地域対象**

2025年度は12月7日（日）に第9回フットケア・スキンケア講演会実施。

爪切り・圧迫療法などの体験コーナーを合わせて実施

【次年度に向けて】

- 後方支援病院とのネットワークづくり、連携の強化・推進
- 院内チーム活動の連携の強化
- 地域医療のフットケアに対する、知識や情報の提供と連携
- 院内の足の重症予防ケア強化



## チーム医療 虐待対策チーム

◆メンバー構成

医師、看護師、MSW、事務員

◆概　要

全国的に児童虐待、家庭内暴力、高齢者虐待、障がい者虐待は増加傾向にあり、当院でも虐待対応の体制を整え、行政への通報や支援を依頼し協働して対応している。患者の権利を守り、患者と家族の健全な家庭関係構築を目指して、2021年に虐待対策委員会を発足、現在年3回定例会を開催している。委員会メンバーは医師、看護師、MSW、事務員と多職種にわたっている。症例発生時の対応を明確化するために、院内虐待対応マニュアルを作成し、病院職員全体で対応に取り組んでいる。

迅速かつ適切な治療や支援を行うために小委員会として児童虐待対策チーム、家庭内暴力対策チーム、高齢者虐待対策チーム、障がい者虐待対策チームを設置しており、各チームは医師、看護師、MSWで構成されている。症例発生時は当該部署と各チームで情報共有を行うとともに必要時はカンファレンスを開催して対応を検討し、積極的に行政など相談窓口との連携も行っている。

◆実　績

・2025年度新規虐待相談件数

児童虐待：7件

家庭内暴力：2件

高齢者虐待：6件

障がい者虐待：2件

・研修会、講義など

養育支援研修会　子どもが健やかに育つ環境を実現するために

新入職員オリエンテーション　当院における虐待対応について

## チーム医療 認知症ケアチーム

◆メンバー構成

医師、看護師、PSW、作業療法士、薬剤師、事務員

◆概　要

超高齢化社会となり、高齢者、特に認知症高齢者の入院がますます多くなることが予想されます。認知症高齢者が入院するとせん妄の発症や環境の変化に適応できず行動・心理症状(BPSD)が出現し、退院の遅延・自宅での生活が困難となる、認知機能やADL がさらに低下するなどの問題が生じやすいのが現状です。そのため、認知症患者のケアの質の向上を図ることで認知症高齢者が安心して身体治療を受け、早期に住み慣れた場所に戻ることを目標に活動を行っています。かかりつけ医の先生方にも信頼してご紹介いただけるような病院となることを目指し、多職種でのチーム活動を行っています。

◆実　績

認知症ケアチーム新規患者数・算定件数

| | R5年度 | R6年度 | R7年度 |
|---|---|---|---|
| 依頼患者数 | 634 | 757 | 783 |
| 認知症ケア加算１算定件数 | 7828 | 8807 | 9826 |

依頼内容

| | | | |
|---|---|---|---|
| せん妄予防 | 454 | 身体拘束解除 | 20 |
| 症状コントロール | 400 | 意思決定支援 | 25 |
| BPSDへの対応 | 117 | 家族支援 | 29 |
| コミュニケーション支援 | 115 | その他 | 5 |
| 生活機能の改善 | 156 | | |

*複数依頼含む

チーム医療

# 腫瘍カンファレンス

◆メンバー構成

医師、看護師、リハビリテーション技師、MSW、薬剤師をはじめとする多職種

◆概　要

当院では、腫瘍疾患に対する診断・治療方針を多角的に検討するため、腫瘍カンファレンスを開催しています。腫瘍内科、外科、放射線治療科、病理診断科、画像診断科をはじめ、看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、栄養士、医療ソーシャルワーカー（MSW）、事務部門など多職種が参加し、チーム全体で患者さんに最適な治療と支援を提供できるよう議論を重ねています。

カンファレンスでは、診療ガイドラインや最新のエビデンスを踏まえつつ、患者さんの全身状態、生活環境、社会的背景、栄養状態などを総合的に評価し、個々のニーズに応じた治療戦略を検討しています。さらに、参加職種間で情報を共有することで、医療の質向上と安全性の確保に努めています。

今後も本カンファレンスを通じ、医療・福祉・事務の各部門が一体となって、地域のがん診療の中核としての役割を果たし、患者さんとご家族に寄り添った最善の医療を提供してまいります。

◆スタッフ

| 看護部長 | 田　﨑　弘　美 | | |
|---|---|---|---|
| 副看護部長 | 岩　田　富　美　　中　村　明　美　　田　中　真　由　美 | | |
| 所　属 | 看護師長 | 所　属 | 看護師長 |
| 教育担当 | 森本結美 | 12階東病棟 | 鈴木志帆 |
| 看護外来担当 | 清水加世子 | 12階西病棟 | 松岡亜紀 |
| がん看護担当 | 今井康乃 | 13階西病棟 | 森田玲子 |
| 健康管理センター | 前田結香 | ICU | 門野香織 |
| 病床管理担当 | 東城夏恵（併任） | 手術室 | 藤原千佳 |
| 母子医療センター | 高橋唯 | 外来（一般診療） | 下田真代 |
| 8階西病棟 | 峯真由美 | 外来化学療法センター | 松山佳子 |
| 8階南病棟 | 藤岡みのり | 内視鏡センター | 福永花子（併任） |
| 9階東病棟 | 長辻玲子 | 血液浄化センター | 玉置ひろみ（併任） |
| SCU | 長辻玲子（併任） | 救急室 | 東城夏恵 |
| 9階西病棟 | 金森恵子 | 放射線科 | 東城夏恵（併任） |
| 10階東病棟 | 福永花子 | 医療福祉相談室 | 細井きみ江 |
| 10階西病棟 | 藤澤千穂 | 医療福祉相談部 | 三村麻紀子 |
| 11階東病棟 | 狩野智恵 | 医療安全管理室 | 北　由美 |
| 11階西病棟 | 玉置ひろみ | 感染管理室 | 小井里香 |

◆看護部の理念

地域住民の健康で幸福な生活を支える看護

**◆2025年度 看護部重点目標及び評価**

**目標１.** 急性期病院としての役割を踏まえ、積極的に病院経営に参画する
地域住民の暮らしと健康を支えるための 啓発・教育活動を継続する

| **【主な活動内容】** | **【結果・評価】** |
|---|---|
| ・効果的な病床運営を行う<br>・診療報酬算定件数の増加<br>・救急要請への柔軟な対応<br>・物品の無駄・ムリ・ムラを失くし経費削減に努める<br>・地域住民への教育・研修実施<br>・地域の医療・介護従事者への教育・研修実施 | 病院方針に則り病床管理を展開したが、病床稼働率はKPI達成できず。 ハッピーマンデーの対応（手術・内視鏡・健診）に協力した。救急の積極的な受入を目指し、救急看護師の受電を開始した。個室利用の最適化に取り組んだ。各部署で診療材料の適性化に努め、経費削減に取り組んだ。10月開催のオープンキャンパスに各部署参加し、来場者増加に貢献できた。ＣＮ・ＣＮＳが地域医療従事者への教育・研修会を積極的に開催した。 |

**目標２.** 一人ひとりに寄り添った質の高い看護サービスを提供する

| **【主な活動内容】** | **【結果・評価】** |
|---|---|
| ・外来化学療法センター移転<br>・PFMセンター開設<br>・身体拘束低減の取り組み<br>・ACP推進<br>・DX推進<br>・看護提供方式の検討（セル看護）<br>・DINQL調査 | 外来化学療法センターを13階に移転し、跡地にＰＦＭセンターを開設した。多職種協働によりサービス向上につなげる。認知症チームと協働しラウンドを行い、身体拘束率低減に向け活動した（身体拘束率８％）。看護部倫理委員会が中心となり、ＡＣＰ推進に向け検討を開始した。今後は、院内ＡＣＰワーキンググループに協力し意思決定支援につなげる。AI問診・AI電話、AI動画などの導入、活用に関係職種と協力し積極的に取り組んだ。質の高い看護提供を目指し、セル看護の導入を検討した。 |

**目標3.** 急性期病院として社会のニーズと変化に対応した人材を育成する

| **【主な活動内容】** | **【結果・評価】** |
|---|---|
| ・個々のキャリア開発支援<br>・２年目教育計画の実践<br>・キャリアラダー・マネジメントラダーの再構築<br>・看護の可視化<br>・学会・研修会の伝達講習実施<br>・ＪＣＡによる面談 | ポートフォリオ作成を開始した。今後、自己成長やキャリア開発につなげる。各部署2年目教育計画を立案し個々に合わせた教育を実践した。ラダーを再構築した。評価の精度を高めることが課題である。JCHO学会に10演題発表し、QC活動にも積極的に取り組んだ。長期研修や学会参加時の伝達講習を定例化し、学びを共有した。ＪＣＡによるキャリア面談を開始した。今後、個々のキャリア支援につなげる。 |

**目標4.** お互いに対話し、協働できる職場づくりを行う

| **【主な活動内容】** | **【結果・評価】** |
|---|---|
| ・シビリンク活用<br>・キャリア意向調査<br>・看護管理基準・手順作成<br>・組織図変更・機能図作成 | キャリア意向調査から配置換を実施。シビリンクを導入し、コーチングを受けながら各部署改善に取り組んだ。組織図・機能図による指揮命令系統を明確化した。今後、業務効率・生産性向上につなげる。 |

◆看護部の委員会の活動状況

| 各種会議・委員会名 | 委 員 長 | 主な活動 |
|---|---|---|
| 看護師長会 | 田 﨑 弘 美 | 看護部目標に基づき、問題・課題にタイムリーに取り組んだ。シビリンク導入後、毎月各部署の実践を共有した。院内委員会メンバー削減に伴い、委員会報告を徹底した。学会参加時は学びを伝達し、情報共有した。 |
| 副看護師長会 | 田 﨑 弘 美 | 転倒転落、身体拘束、看護補助者、やりがいの４Gに分かれて活動した。3グループがQC活動で発表、1グループは看護研究としてとりまとめた。長期研修者は伝達講習し学びを共有した。 |
| 教育運営会議 | 中 村 明 美 | 看護協会ラダーとJCHOラダーを比較検討し、JCHOラダーを基盤とした大阪病院キャリアラダーを作成した。また、形骸化していたポートフォリオを見直し、年度末には全看護師がポートフォリオを作成し、目標面談等に活用した。 |
| 看護ケア推進会議 | 中 村 明 美 | JCHO大阪病院における看護ケアの充実をはかり、病院の提供する医療の質を向上することを目的に活動した。訪問します健康講座延べ14回、ケア連携の会2回、CN/CNS報告会2回、SNSによる活動の発信などを実施した。 |
| 看護倫理委員会 | 中 村 明 美 | 教育・ACP・倫理カンファレンスの3チームに分かれて活動した。次年度からは、これらについて該当する委員会等が活動を引き継いで実施していく。 |
| 看護の質評価委員会 | 田 中 真 由 美 | 構造評価やDiNQL、看護過程評価に取り組んだ。また、形式監査を開始し、看護記録の精度管理を行い、看護の質向上を目指した活動を推進した。 |
| 臨床教育委員会 | 森 本 結 美 | 看護部教育計画・新人・2年目看護師教育計画の実施・評価と支援体制強化に取り組んだ。今後は1～3年目看護師の支援充実、指導者育成が課題である。 |
| 学生教育委員会 | 森 本 結 美 | 臨地実習打ち合わせを改善し看護学校との連携を強化した。指導場面の振り返りを進め、学びを現場へ伝達した。今後は効果的な打ち合わせと、臨床・学校との協働深化が課題である。 |
| 看護基準・記録委員会 | 狩 野 智 恵 | 新カルテに則した看護過程の展開を目的に集合教育した。また、各部署で看護過程評価ツールの周知活動や記録モデルを作成し記録の質向上に向け活動した。看護過程評価は昨年と比較し全項目で上昇した。 |
| 看護手順・<br>看護サービス委員会 | 松 岡 亜 紀 | 看護手順の見直し、入院案内（TV9ch）の改訂を行った。業務量調査では、分析を基に部署の課題を明確にし、課題解決に向けて取り組んだ。サービス向上策の一環として、接遇評価、３か月ごとの接遇標語の掲示を行った。 |
| 安全管理委員会 | 東 城 夏 恵 | レポート報告件数が大きく増加した。単に件数を増やすだけではなく、セーフティⅡの考え方に基づき、良好な実践に着目した取り組みも推進し、レジリエンス（現場対応力）が発揮された事例も増加させることができた。 |
| がん看護運営委員会 | 今 井 康 乃 | 入院時『生活のしやすさに関する質問票』で90%は緩和ケアチーム介入に繋がった。早期から介入するためにも入力忘れ防止手段が必要である。 |
| 看護部審査会（研究審査） | 中 村 明 美 | 院内倫理審査3件、院外研究者の倫理審査69件であった。看護職員対象のアンケート倫理審査体制を整備し4件の審査を実施した。学会発表者は23名。 |
| 看護部審査会<br>（ラダー審査） | 中 村 明 美 | 新しく作成した大阪病院キャリアラダーでの審査を3月に実施した。審査結果から、ラダー昇段に必要な研修や評価が難しい項目など課題が明確となった。 |
| 感染予防実行委員会 | 小 井 里 香 | 標準予防策徹底で手指衛生回数全体10.6回、ユニット以外8.5回に微増、遵守率57%。9部署で遵守率向上し、声掛けと使用量フィードバックが奏功。 |
| 褥瘡対策実行委員会 | 清 水 加 世 子 | 4週間毎にハイリスク患者のラウンドを行い、ポジショニングのOJTにつなげ、ポジショニングが要因となる褥瘡発生が減少した。予防介入を継続していく。 |
| 入退院支援実行委員会 | 細 井 き み 江 | 訪問看護師との連絡会を継続開催。院内外の多職種連携について検討。退院時共同指導算定数（147件）が介護支援連携指導算定数（143件）を上回った。 |
| 摂食嚥下・<br>栄養管理実行委員会 | 吉 田 文 子 | 入院時栄養評価の定着に取り組んだ。評価率は上昇したが看護計画への反映に課題が残った。NST回診に同行し、多職種連携の重要性を学ぶ機会となった。 |
| 認知症ケア実行委員会 | 冨 永 純 子 | 認知症患者の環境が変わることでの混乱を最小限にし、適切な治療を受け、住み慣れた場所へ戻る支援体制を整えられるよう活動した。 |
| クリティカルケア実行委員会 | 景 山 恵 利 | NEWSスコアに応じたカンファレンスの定着に向け取り組んだ。心電図モニターアラームへの対応についても定着に向けて取り組んだが継続が必要である。 |
| クリティカルパス委員会 | 藤 澤 千 穂 | クリニカルパスの未評価数の低減に向け、各部署取り組んだ。また、新カルテでの患者パス作成を進めた。パス大会では１２部署の発表を行った。 |
| 身体拘束低減委員会 | 藤 澤 千 穂 | 身体拘束率を可視化。部署ラウンドを行い、実施状況の把握と確認、最小化に向け、身体拘束適正化カンファレンスシートの活用と定着を推進した。 |
| 看護補助者委員会 | 峯 真 由 美 | 感染防止・経費削減の視点で看護補助者と協働し業務改善を実施した。また日々の困り事の解決や業務の見直しを行い、働きやすい環境の改善も行った。 |
| 特定行為研修修了者委員会 | 寺 岡 真 美 | 特定行為修了者のうち、実践している割合は32%である。職員への周知を目的とした報告会を実施した。今後は活動の場の拡大を行っていく必要がある。 |

◆教育全般

1． 院内研修

1） 新人看護職員研修プログラム

新人看護師一人あたりの研修合計時間 358 時間 52 名が受講を修了した。今年度 4 月の新人看護師は 52 名であった。新人看護職員研修として 36 項目の研修を計画・実施した。看護基礎教育から組織社会化への移行を円滑にすることを目的として、2023 年度から導入した集合研修およびジョブローテーション研修を継続して実施した。あわせて定期的な個人面談を行い、看護部全体で新人看護師を支援する体制の強化に努めた。その結果、今年度の離職率は 3.8%と低値を維持することができた。

| 研修名 | | |
|---|---|---|
| 新採用時研修 | 看護倫理　新人 | メンタルヘルス　新人 |
| 3 ヶ月研修 | 看護過程　新人 | コミュニケーション　新人 |
| 6 ヶ月研修 | 看護記録 | がん看護　新人 |
| 9 か月研修 | 救急看護　新人 | 感染　新人 |
| 12 カ月研修 | TeamSTEPPS Ⅰ | リフレクション |
| 災害看護　新人 | 摂食嚥下障害看護　新人 | ジョブローテーション研修 |
| 入退院支援　新人 | 高齢者・認知症看護　新人 | フィジカルアセスメント（呼吸・循環・脳） |
| 周手術期看護　新人 | 糖尿病看護と薬物療法 | 重症度、医療・看護必要度研修 |
| ピアサポート　新人 | スキンケア　新人 | |

2） クリニカルラダー別教育計画

今年度のクリニカルラダー別教育研修として、35 項目の研修を計画・実施した。看護職は、人々の期待に応え役割を発揮するために、変化する社会やニーズに合わせて新たな知識・技術を学び直し、継続的な学習に主体的に取り組むことが求められる。こうした観点から、看護実践能力習熟段階の評価表への変更と、当院の理念・方針および看護部教育理念・目的・目標に沿ったクリニカルラダー別教育研修の見直しを行った。

また、2 年目看護師の教育体制強化として、2 年目看護師教育計画表の整備、支援看護師の配置、集合研修を実施した。その結果、今年度の看護職員離職率は 13.6%から 8%へ、2 年目看護師の離職率は 17.3%から 5.8%へと、いずれも改善する事ができた。

| 研修名 | 受験者数 | 研修名 | 受験者数 |
|---|---|---|---|
| 看護倫理 Step1 | 20 | 新人看護職員実地指導者研修 Part1 | 20 |
| 看護倫理 Step2 | 15 | 新人看護職員実地指導者研修 Part2 | 18 |
| 看護倫理 Step3 | 9 | 教育担当者研修 Part1 | 8 |
| 看護過程Ⅰ | 36 | 教育担当者研修 Part2 | 8 |
| 看護研究Ⅰ | 25 | 実習指導者研修 Part1 | 21 |
| 看護管理Ⅰ | 35 | 実習指導者研修 Part2 | 21 |
| 救急看護Ⅰ | 33 | プリセプターシップ研修 | 30 |
| 臨床判断 | 14 | プリセプターフォローアップ研修 | 39 |
| 臨床推論 | 13 | ピアサポートⅠ | 33 |
| 入退院支援Ⅰ | 36 | リーダーシップⅠ | 37 |
| 入退院支援Ⅱ Part1 | 8 | リーダーシップⅡ Part1 | 18 |
| 入退院支援Ⅱ Part2 | 8 | リーダーシップⅡ Part2 | 16 |
| がん看護Ⅰ | 38 | リーダーシップⅢ Part1 | 11 |
| がん看護Ⅱ | 11 | リーダーシップⅢ Part2 | 11 |
| 感染管理Ⅰ | 23 | ナラティブⅠ | 33 |
| スキンケアⅠ | 17 | 院内留学 | 9 |
| 摂食嚥下障害看護Ⅰ | 17 | スペシャリスト留学 （がん・WOC・糖尿病） | 5 |
| 高齢者・認知症看護Ⅰ | 21 | | |

3） 看護補助者

看護補助者の 5 段階キャリアラダーに沿った研修を実施し、看護の質を支える体制づくりを進めた。

| 研修名 | 対象 | 目標 |
|---|---|---|
| 概論 | 全員 | 組織の機能・役割の理解 |
| 労働安全衛生 | 全員 | メンタルヘルス・ハラスメントの基礎知識 |
| 倫理 | 全員 | 求められる倫理の理解 |
| 接遇 | 全員 | 接遇・コミュニケーションの理解 |
| 清拭・おむつ交換・寝衣交換 | 直接ケアを行うラダーIII | ボディメカニクス・環境調整の理解、清拭/おむつ交換等の技術習得 |
| 移乗・移送 | ラダーII チャレンジ中のI | II:車椅子移乗・移送の留意点理解と実施 / III:理解に加えII・IIIへの指導 |
| 認知症 | 全員 | 直接ケアに必要な知識・技術の習得 |
| コミュニケーション | ラダーI・II | あいさつ等コミュニケーション技術の習得 |
| コミュニケーションIII | ラダーIII | あいさつ等コミュニケーション技術の習得 |
| フォロワーシップIV | ラダーIV | フォロワーシップについての知識習得 |
| 感染・安全 | 全員 | 安全な療養環境提供のための知識習得 |

現場の中心的存在である副看護師長に他者評価の権限を付与することで、看護師と看護補助者が互いに高め合いながら協働する土壌を醸成した。

2． 認定看護管理者、看護管理者研修修了者

| | | | |
|---|---|---|---|
| 認定看護管理者 | 3名 | セカンドレベル修了者 | 23名 |
| サードレベル修了者 | 3 名 | ファーストレベル修了者 | 47名 |

3． 専門・認定看護師

| | 専門看護師 | 認定看護師 |
|---|---|---|
| 資格取得者 | 3 名 | 19 名 |
| 2026 年度教育課程受講者 | 0 名 | 1 名 |

4． 特定行為研修修了者

| | |
|---|---|
| 新規修了者 | 3 名 |
| 新規修了者の取得区分 | 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去<br>創傷に対する陰圧閉鎖療法<br>インスリンの投与量の調整<br>硬膜外カテーテルによる鎮静剤の投与及び投与量の調整 |
| 特定行為研修修了者数 | 22 名 |

5． 実績報告・学会発表

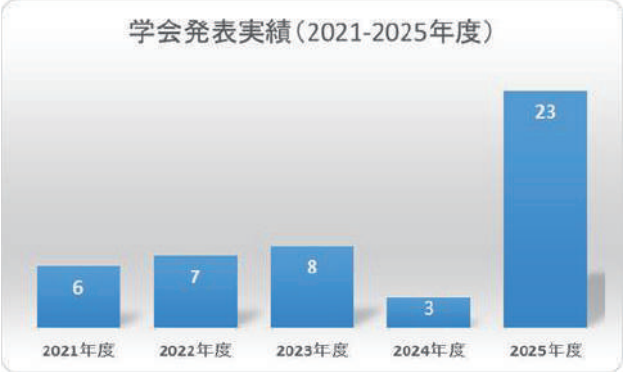
2025 年度は、看護実践や業務改善を可視化することを推奨し、例年を大幅に超える学会発表があった。

引き続き、実践報告・看護研究の支援を行い、自らの看護実践・看護管理実践を振り返り、看護の質を高められる看護部でありたいと考える。

≪主な学会発表≫

・日本看護管理学会
・日本老年看護学会
・日本慢性看護学会
・日本医療マネジメント学会大阪府支部学術集会
・JCHO 地域医療総合医学会

等



## 看護部門 ICU（集中治療室）

（看護師長）門野　香織、看護師30名、12床

◆概　要

ICUは全室個室12床を有しており、循環器疾患や心臓血管外科・外科・脳神経外科などの大手術後、合併症を有する患者の術後、病棟での急変などの患者に対して高度で安全な医療・看護の提供を行っている。

◆要重点項目と実績

重点目標： 急性期病院としての役割をふまえ、積極的に病院経営に参画し、効果的な病床運営を行う。

実　　績：病床利用率72％(2024年度64％)、1日平均患者数8.7人、SOFAスコア５点以上割合29.4％(目標13.5％)。昨年度より継続して毎日SOFAスコア確認の実施および効率的なベッドコントロールに努め、SOFAスコアの目標値を上回ることができた。また、火曜日を10床稼働から12床稼働へ増床し、昨年度より利用率を上昇させることができた。

## 看護部門 母子医療センター（8階東病棟・NICU）

（看護師長）髙橋　唯、助産師31名、看護師4名　産婦人科：18床　小児科：６床

◆重点目標と実績

８階東病棟とNICU は “母子医療センター” として産科医、小児科医、助産師、看護師が24時間体制で連携・協働し、安全な周産期管理を目標に、正常分娩だけでなくハイリスク分娩や新生児管理を行っている。

2025年度も前年度に引き続き、産婦のニーズに応えるため無痛分娩の体制を整備、産後ケア受け入れ体制の強化、マタニティクラスやオープンキャンパスでの情報提供などに取り組み、子育て世代包括支援を進めた。2025年度の実績は、分娩件数515件／年、無痛分娩件数113件/年、産後ケア利用者数のべ222名／年であり、いずれも2024年度を上回ることができた。

## 看護部門 8階南病棟

（看護師長）藤岡　みのり、看護師19名、看護補助者4名

◆概　要

8階南病棟は産婦人科・乳腺内分泌外科・整形外科を中心とした39床を有する女性病棟である。治療と看護においては、手術やがん化学療法、放射線治療、緩和ケアと多岐に渡り、年代では、15歳以上～ご高齢の方までの幅広い年齢層の患者を受け入れている。その中で、日々女性患者のライフステージや役割を理解し、生活の質を高める医療の実践に向けて取り組んでいる。

◆重点目標と実績

8階南病棟は、急性期女性病棟として、他職種と連携しながら患者一人ひとりに寄り添った質の高い医療・看護を提供するとともに、病床の有効活用を図り、安全で効率的な病棟運営を推進することを目標としている。2025年度は1日平均患者数28.2人、稼働率は72.6％、緊急入院が多く新入院の33.5％を占めていた。診療科別では産婦人科41.2％、乳腺内分泌外科15.8％、整形外科17.5％、消化器内科8％、その他17.4％であった。近年は遺伝性乳癌卵巣がん（HBOC）に対する治療も増えており、患者ひとり一人の治療選択のためにチームで連携して取り組んでいる。

## 看護部門 9階東病棟

（看護師長）長辻　玲子、看護師26名◎脳神経外科・脳神経内科・整形外科　39床

◆概　要

9階東病棟は、脳神経外科、脳神経内科、整形外科の混合病棟である。入院患者の内訳は脳外科疾患患者が36%、脳内科疾患患者が33%、整形外科疾患患者が24%である。脳外科・脳内科疾患患者の役半数は脳卒中疾患である。整形外科疾患患者のほとんどが脊椎疾患であり手術を目的とした入院である。急性期の看護を実践するとともに在宅療養支援を重点に行っている部署である。

◆重点目標と実績

1）予定入院患者、緊急入院患者、転入患者をスムーズに受け入れ、効果的な病床運営を行うために、病床稼働率：89%の維持を目標としたが、83.1%と到達できなかった。

2）SCU・他職種とともに在宅療養支援を実施し、DPC II 期末までの退院、転院割合を65%と設定したが、60.2%にとどまった。

## 看護部門 SCU（脳卒中ケアユニット）

（看護師長）長辻　玲子、看護師15名◎脳神経外科・脳神経内科　9床

◆概　要

脳卒中ケアユニットは全室個室9床を有し、急性期の脳卒中（脳出血・脳梗塞・くも膜下出血）患者を対象としている。脳卒中発症初期から、医師・看護師・多職種協働し急性期の脳卒中患者の回復促進に努めている。

◆重点目標と実績

緊急入院患者をスムーズに受け入れ効果的な病床運営を行うために、病床稼働率96.7%の維持を目標としたが、93.9%と目標値に達することができなかった。

## 看護部門 9階西病棟

（看護師長）金森　恵子、看護師28名　循環器内科・心臓血管外科：45床

◆重点目標と実績

9階西病棟は、慢性疾患を抱える高齢者の入院が多い病棟である。そのため、住み慣れた地域へ早期退院することができるように、入院早期から患者様、家族様の退院目標を確認し、多職種、医療・介護従事者と情報共有や連協強化を実践している。昨年度の平均在院日数は10.0日である。

超高齢化や生活習慣病の増加に伴い心不全患者数も年々増加しており、慢性疾患患者をサポートするためハートチームをつくり、医師、看護師、理学療法士、栄養部、薬剤部と共に患者様、家族様をサポートしている。また病棟-外来間の連携強化をはかる目的で、各部門・各部署の心不全療法士を中心に定期的なカンファレンスや退院後の心臓リハビリ実施状況の共有も実施している。ＡＣＰにおいても日々患者様、家族様の意向を確認し、その人らしい生活を支えることができるように、地域医療・介護従事者と共に質向上に向けて看護介入をおこなっている。

令和8年度の診療報酬改定に伴う「心不全再入院予防継続管理料」を算定するにあたり、ハートチームでの活動強化、心不全療法士の有効的な活用をしていくことが課題である。

## 看護部門 10階東病棟

（看護師長）　福永　花子、10階東病棟看護師20名　内視鏡センター看護師9名　消化器内科：45床

◆概　要

10階東病棟には内視鏡治療・検査を受ける患者さんや、化学療法・放射線療法を受けられるがん患者さんなど、急性期から終末期までの消化器疾患を持つ患者さんが入院されている。自分らしい生き方を支える医療やケアを提供できるように、多職種で協働している。また、内視鏡センターでは緊急対応を含む治療・検査を安全に実施できるよう体制を整えている。

◆重点目標と実績

目標：急性期病院としての役割をふまえ、積極的に病院経営に参画する。

目標値：病床稼働率88%以上　消化器内視鏡手術件数600件/年

結果：内視鏡室と病棟で連携し、24時間緊急治療検査に対応し緊急入院患者の受け入れを行った。緊急入院患者の割合は33%であり年間1896人の患者を受け入れたが、病床稼働率は83.4%と目標達成には至らなかった。ERCP、ESDなどの消化器内視鏡手術件数は年間602件であり、目標を達成できた。

## 看護部門 10階西病棟

(看護師長)藤澤　千穂、看護師24名　消化器外科・消化器内科・歯科：45床

◆概　要

10階西病棟は消化器外科を主とした混合病棟であり、周術期看護とがん看護を中心に、多様な患者の治療を支えている。周手術期では患者の状態変化を的確に予測し、合併症予防・早期回復・自立支援を重視した看護を提供している。術前から退院支援まで一貫した関わりを行い、疼痛管理、栄養管理、ストーマケアなど、専門性の高い看護実践に努めている。がん看護では、検査入院、手術療法、化学療法、放射線療法、緩和ケア、看取り期まで幅広い治療段階の患者が入院されており、各期のニーズに応じた個別性の高いケアを行っている。患者・家族の価値観や意思決定を尊重しながら、身体的・心理的・社会的側面に寄り添い、安心して治療に臨める環境づくりに努めている。

◆重点目標と実績

急性期病院として社会のニーズと変化に対応できる自律した人材を育成する

①消化器外科看護の専門性の向上及びクリティカルケア実践の強化

特に2025年度は化学療法に関する学習を深めることを目標に取り組み、E-learningによる自己学習に加え、他職種を含めた学習会の開催や、デスカンファレンスを実施できた。

院外研修ではストーマケア講習2名、排尿ケア講習1名、中堅研修1名、ICLS2名が参加し、研修後に伝達講習にてスタッフと学びを共有した。

## 看護部門 11階東病棟

（看護師長）狩野　智恵、看護師24名　呼吸器センター（呼吸器内科・呼吸器外科）：45床

◆概　要

11階東病棟は、呼吸器内科・外科を集約した45床の呼吸器センターである。肺癌・気管癌の手術、放射線治療、化学療法、緩和ケアから、COPD・間質性肺炎などの慢性疾患、各種呼吸器感染症まで幅広く対応している。呼吸器疾患に対する専門性と急性期から終末期までの包括的な看護、多職種連携による意思決定・療養移行支援を強みとしている。

◆重点目標と実績

重点目標は、呼吸器センターとして効率的な病床管理を行い、緊急入院を円滑に受け入れながら、急性期患者に適切な治療・ケアを提供することである。個室・重症個室を確保し緊急入院に対応するとともに、オフェブ導入パスを新規作成した。新入院患者数は減少したが、在院日数を調整することで病床稼働率は昨年度より2%上昇した。年間実績は、病床稼働率85.3%、平均在院日数14.6日であった。また、呼吸器疾患に関する知識・技術の向上を目的としたスタッフ教育を行い、専門性の向上に取り組んだ。

## 看護部門 11階西病棟

（看護師長）玉置　ひろみ、看護師23名、泌尿器科・腎臓内科・糖尿病内科・免疫内科：45床

◆概要

11階西病棟は45床、泌尿器科33%・腎臓内科28%・糖尿病内科27%・免疫内科4%の混合病棟である。泌尿器科はロボットを使用した手術を積極的に実施し、安全安心な治療に取り組んでいる。また、がん疾患に関しては診断から終末期医療まで、がん・緩和ケアチームと協力しながら継続的な治療を提供している。
腎・糖尿病・免疫内科は投薬治療を中心に生活習慣の見直しを患者・家族と共に行い、継続可能な療養生活が送れるよう地域の医療従事者と連携しながら実施している。

◆重点目標と実績

【重点目標】患者の尊厳・権利を尊重した看護の実践

11階西病棟は、終末期患者の療養先の選定や透析導入、嚥下困難患者の栄養経路の選択等、意思決定を支援する必要がある場面が多くあり、「倫理・多職種カンファレンスの企画運営が5回以上実施できる」を達成水準に掲げ、取り組んだ。結果、年間17件の倫理・多職種間カンファレンスが実施できた。これまでの生活や患者の希望などを確認し、地域の医療従事者にも参加いただき開催することができた。今後はカンファレンスでファシリテーションが実施できるリーダー看護師を育成していくことが課題である。

## 看護部門 12階東病棟

（看護師長）鈴木　志帆、看護師24名　　整形外科　45床

◆概　要

12階東病棟は急性期の整形外科病棟であり、若年から高齢者までの幅広い患者に対し、周術期や緊急入院の対応を行なっている。患者と退院目標を共有し、退院後安心した生活が送れるよう入退院支援、理学療法士など多職種との連携を図り、看護実践を日々行なっている。

◆重点目標と実績

１．選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する

病床稼働率89％を目指し、ＤＰＣⅡ期内での退院や在院日数を意識したベッドコントロールを行なった。2025年度の１日平均患者数は38.８名、ＤＰＣⅡ内での退院は64.1％、平均在院日数は15.2％であった。病床稼働率は86.1％であり、目標には至らなかった。

２．患者サービス向上に向けた体制整備を行う

退院後訪問が５件/年実施できた。急性期から在宅への連携についてスタッフが学べる機会となった。

## 看護部門 12階西病棟

（看護師長）松岡　亜紀、看護師25名、整形外科：45病床

◆概　要

整形外科病棟として専門領域に特化した診療に関わる看護を担っている。予定入院・手術に加え、緊急入院・手術にも迅速に対応できるよう、医師や他職種と協働した学習会を行い、専門性の高い看護が提供できるように努めている。

◆重点目標と実績

１．急性期病院としての役割をふまえ、積極的に病院経営に参画する

病床稼働率88.6％（前年85.5％）1日平均患者数39.9名（前年38.4名）平均在院日数14.1日（前年13.5日）DPCⅡ期内退院率66.3％（前年64.5％）整形外科病棟間での連携を行いながら、他職種・他部門と協力した退院支援のもと、効果的な病床運営に努めた。目標値には至らなかったが、前年度より改善を認めた。

２．一人ひとりに寄り添った質の高い看護サービスを提供する

患者にとっての安全な療養環境の提供を目標に、手術後の安全対策の検討に取り組み、身体拘束低減に努めた。取り組み結果は、0.47％（前年3.3％）であり、目標値・前年度値を大幅に上回ることができた。

## 看護部門 13階西病棟

（看護師長）森田　玲子、看護師22名、眼科・耳鼻いんこう科・皮膚科・形成外科：45床

◆概　要

13階西病棟は眼科・耳鼻咽喉科・形成外科・皮膚科の混合病棟であり、手術目的の入院患者を中心に急性炎症や外傷などの治療を目的とした患者を受け入れています。周術期看護をはじめ、疾患や年齢層が多岐にわたる患者にたいし、それぞれの診療科の特性をふまえた専門性の高い看護を提供しています。

◆重点目標と実績

**選ばれる急性期病院になるために病院経営に参画する**

「急性期病院としての役割をふまえ積極的に病院経営に参画する」

（目標）病床稼働率：80％　平均在院日数:5.2日　DPCⅡ期内退院：70％

各診療科と連携しながら入院患者の円滑な受け入れ、退院調整を行うとともに早期退院支援や効率的なベッドコントロールを推進した。その結果、DPCⅡ期内退院76.8％、平均在院日数5.0日となりおおむね目標を達成することができた。病床稼働率は目標値達成にはならず、病床の有効活用について課題が残る。今後も入院患者の受け入れ体制や退院支援を充実し効率的な病床運営を推進し、急性期病院として質の高い医療の提供をめざしていきたい。

## 看護部門 一般診療外来

（看護師長）下田　真代、看護師　36.7名

◆概　要

一般診療外来部門は、2・3・13階に配置された26診療科において、1日平均約1,100名の外来患者の診療を担っています。看護師、外来クラーク、医師事務作業補助者が協働し、円滑で安全な外来診療の提供に努めています。また、診療補助や検査・処置、療養指導、看護外来などを通して、患者一人ひとりの状態や生活背景に応じた看護を提供するとともに、外来・病棟・地域をつなぐ継続看護を実践しています。さらに、患者サービス向上と業務の効率化を目指し、デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進に取り組み、AI問診やAI電話システムなどを活用した外来運営を進めています。

◆重点目標と実績

重点目標：「一人ひとりに寄り添った質の高い看護サービスを提供する」

継続看護の充実に向け、外来・病棟・地域との連携強化に取り組みました。患者が安心して療養生活を継続できるよう、退院前カンファレンスへの参加や地域との情報共有の機会を増やし、療養環境を踏まえた支援体制の充実を図りました。また、各診療ユニットにおけるカンファレンスを活用し、患者情報や支援内容の共有を推進するとともに、継続看護に必要な記録のあり方やケアカンファレンスについて部署内で学習機会を設け、看護実践の質向上に努めました。その結果、在宅療養支援件数は前年度から約26％増加し、患者の療養生活を支える継続的な支援の充実につながりました。今後も、多職種との連携をさらに強化し、患者が安心して療養を継続できる支援体制の充実と、質の高い外来看護サービスの提供に努めていきます。

## 看護部門 外来化学療法センター

（看護師長）松山　佳子、看護師8名

◆重点目標と実績

1．外来化学療法センター・放射線治療室を効果的に運用し、治療件巣の増加に対応する

2．がん患者のニーズを捉えて、包括的な視点をもった看護が提供できる看護師を育成する

外来化学療法センターは13階へ移転したことで、落ち着いた環境で安心して治療を受けられる環境を整備した。年間の化学療法実施件数は4,010件であった。

また、各診療科の医師・看護師で定期的にカンファレンスを実施し、患者一人ひとりの状況に応じて治療を継続できるよう支援するとともに、継続看護の充実に努めた。

人材育成では、がん化学療法看護の質向上と安全な治療提供を目的に、化学療法を実施する病棟においてINナースを育成した。

## 看護部門 救急室・放射線科

（看護師長）東城　夏恵、看護師20名

◆重点目標

1:救急患者の受け入れ体制を強化する(初療室/観察室を有効に活用し、満床によるお断り件数が減少する)

2:アンギオ室を効率的に運用する

◆実績

1:救急患者総数：7,938人、救急搬送台数：4,987台、緊急入院：3,653人、救急搬送応需率：87%、救急室満床による救急搬送お断り：0件

24時間365日地域の患者を早急に受け入れ、検査・治療が行えるように看護体制や治療提供体制を見直した。また、看護師の増員を図り、夜勤看護師を常時3人体制とした。昨年から継続し、医師・救急救命士・看護師との連携強化および知識・技術の向上や共有に努めた。

2:治療検査実績：1,567件(2024年度実績：1,168件)

各アンギオ室を効率的に運用するために、各診療科と情報共有や治療検査時間の調整を実施し、治療検査件数を増加させることができた。

事務部門

# 総務企画課

◆スタッフ

（課長）高佐　東洋公、他事務職員9名、非常勤職員8.7名、派遣職員1名

◆概　要

総務企画課は、総務係・給与係・職員係・厚生係・経営企画係・業績評価係の6つの係の他、安全管理対策担当・図書室・医局秘書・秘書室で構成。

総務係は関係官公庁への許認可申請・届出、連絡調整、会議、諸行事に係る事務、行政対応、情報開示、施設管理、患者搬送、自動車運転、投書及びクレーム対応、電話交換、図書及び医局の管理など各部署の業務が円滑に遂行できるよう広範囲の業務を所掌。給与係は人事・給与関係と賞罰、職員係は労務管理、職員の倫理、臨床研修医関係事務及び職員の研修、厚生係は職員の健康管理及び福利厚生、経営企画係の所掌は中期・年度計画策定、フォロー等、業績評価係は病院や職員の業績評価に関する業務をそれぞれ所掌しているほか、幹部職員のスケジュール等を管理する秘書室、医局を管理する医局秘書、図書室の管理、そして職員の安全管理対策担当を所掌する警察官OB2名を配置し、これらの業務の遂行にあたっている。

◆実　績

●増収ならびに費用節減対策

・令和８年度診療報酬改定に向けた「地域医療体制確保加算2」及び「外科医療確保特別加算」の当該施設基準の取得が可能となるように手当要件にかかる勤務体制等を整備。
・節電、ペーパーレス化等費用削減。業務分掌の整理による超過勤務の削減。

●人員管理

・職員定数について、次年度の体制構築のための、タスクシフト・シェア及び増収対策の観点から、病院運営に必要な人員増員協議、適正配置。
・法令等諸規程に基づく業務委託及び人材派遣関係の調整等。
・出退勤管理、時間外勤務の適正管理、年次休暇の取得促進（年5日取得）。
・医師の働き方改革に対応した勤怠管理システムの導入、勤務時間の適正管理。
・障害者の法定雇用率引き上げと除外率引き下げを見越した雇用の確保。

●課内業務管理

・課内業務の可視化を図り、複数で業務が対応できるように情報共有する。
・課員が院内外研修会等へ自主参加できる慣習づくり、将来を見据えた資格取得、人材育成。

◆その他

・幹部管理会議、所属長会議及び医局連絡会の企画・運営。
・職員健診（過重労働の軽減、健康診断受診率の向上及びJCHO神戸中央病院への健診委託）。
・個人情報保護及びコンプライアンス研修による職員意識の啓蒙。
・ハラスメント防止対策委員会の企画・運営及びハラスメント相談窓口
・大阪市保健所等調査、監査への適切な対応。
・JMECC（内科専門プログラムに附帯する必修講習）及びICLS（初期臨床研修プログラムに附帯する必修講習）について、自院定期開催。
・災害用BCPマニュアルの作成と年2回の防災訓練。

## 事務部門 経理課

◆スタッフ

（課長）森山　伸一、他事務員5名、非常勤事務員2.4名、派遣職員1名

◆概　要

経理課は、経理係と契約係の2つの係で構成されています。

経理係は日々の売上金収納、資産負債管理、資金繰り、予算策定、決算業務、経営分析、寄附に関することなど院内のお金に纏わる様々な事務処理を担当しています。

契約係は医療機器等の物品の調達、清掃等の役務の委託、修理対応などを行っています。契約業者の選定に際しては、独立行政法人として契約の透明性や公平性を確保するため、原則として一般競争入札を実施しています。

令和7年度は黒字決算となりましたが、職員の処遇改善、物価高騰、医療機器整備等により費用負担が増加しており、非常に厳しい経営状況に置かれております。

我々は経理課員として、中長期的計画の策定と費用削減を推進し、より筋肉質な病院経営の実現に貢献してまいります。

◆実　績

●契約件数

・一般競争入札（最低価格落札方式）：130件
・一般競争入札（総合評価落札方式）：3件
・随意契約（不落）：14件
・随意契約（不適）：67件
・随意契約（緊急）：43件

●寄附実績

・ご寄附をいただいた方 592名、合計 61,858千円

◆年度別決算状況　（単位：千円）

| 科 目 | 令和3年度 | 令和4年度 | 令和5年度 | 令和6年度 | 令和7年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 診療業務収益 | 18,302,877 | 19,365,387 | 18,631,332 | 19,506,927 | 20,423,440 |
| 入院診療収益 | 10,875,417 | 11,960,805 | 12,430,729 | 13,353,706 | 13,948,672 |
| （平均点数） | (7,431.0) | (8,672.1) | (8,857.1) | (8,943.7) | (9,198.4) |
| （平均患者数） | (401.0) | (377.9) | (385.8) | (409.1) | (415.5) |
| 外来診療収益 | 4,866,717 | 4,958,272 | 5,120,017 | 5,100,608 | 5,187,217 |
| （平均点数） | (1,869.7) | (1,921.7) | (2,025.0) | (1,965.7) | (1,981.3) |
| （平均患者数） | (1,075.3) | (1,061.8) | (1,038.6) | (1,067.8) | (1,081.8) |
| 【経 常 収 益】 | 18,440,981 | 19,537,368 | 18,804,971 | 19,670,576 | 20,599,366 |
| 診療業務費 | 17,159,105 | 18,294,697 | 18,853,043 | 19,260,181 | 20,150,515 |
| 給与費 | 8,276,795 | 8,615,136 | 8,634,254 | 8,624,723 | 9,055,568 |
| 材料費 | 5,426,748 | 5,769,556 | 6,324,898 | 6,506,334 | 6,779,428 |
| 設備関係費 | 1,464,614 | 1,680,892 | 1,534,735 | 1,909,512 | 2,000,950 |
| （減価償却費） | (883,089) | (978,453) | (893,800) | (1,228,918) | (1,237,871) |
| 経　費 | 733,006 | 818,797 | 848,065 | 820,265 | 856,115 |
| 【経 常 費 用】 | 17,326,369 | 18,508,885 | 18,780,964 | 19,455,056 | 20,346,024 |
| 【経 常 利 益】 | 1,114,611 | 1,028,483 | 24,007 | 215,520 | 253,342 |

## 事務部門 医事課

◆スタッフ

（課長）栗本　真吾、他事務員15名（医師事務作業補助者（MA）含む）、非常勤事務員10名（医師事務作業補助者（MA）含む） 派遣職員24名（医師事務）

◆概　要

医事課は、病院の窓口として医療事務全般に関わる業務を担当しています。

**【外来部門】（委託）**

- 初診受付
- 再診受付（自動再診受付機）
- 保険確認
- 外来計算
- 支払窓口（自動精算機）
- 救急受付
- 外来レセプト（外来レセプトの作成・点検、査定対応）

**【入院部門】（職員・派遣）**

- 入院計算（入院診療費の計算、請求書の発行、入院レセプトの作成・点検、査定対応）DPC制度に基づき入院患者の医療事務全般を担っています。（DPC 請求・平成18年４月～）
- 入院センター（入院申込手続き、入院当日受付）
- 公費医療（労災・生保等のレセプト請求、諸法手続き、自賠責）

**【その他】**

- 未収金処理（未収金の督促・管理）（未収金回収プロジェクト委員会の開催・平成17年９月～）
- 統計、システム対応（レセプト電算処理、諸統計作成、システムメンテナンス）
- 検診（人間ドック、乳がん・女性がん検診の受付・請求）
- 文書（介護保険主治医意見書・生命保険診断書等作成の医師依頼及び調整）
- 各診療科外来にて医師の事務作業補助業務を行う医師事務作業補助者（ＭＡ）

◆実　績

医事課では、安心安全な医療提供の一翼を担うため、待ち時間の短縮や患者サービスの向上などを目的として、毎月１回勉強会を開催しています。その中で、保険請求や接遇について、さらなるレベルアップを目指して努力しています。

診療報酬算定漏れの減少や算定アップに向けた取り組みを行っています。経営マネジメントの役割を担い、さらにチーム医療の一員として、事務的業務において医療サービスを側面的にサポートしていきたいと考えております。

病院経営戦略について、Vision For 2030に向けた立案・検討等を該当委員会等で行っております。

また、医師の働き方改革に伴い、医師事務作業補助体制加算（15対１）を取得し、タスクシフト推進及び体制強化を図ります。

**【2025（令和７度）委員会一覧】**

| | 委員会名 | 委員長 | 主幹課 |
|---|---|---|---|
| 1 | イベント・研修委員会 | 谷岡　美佐枝 | 総務企画課 |
| 2 | 図書委員会 | 北山　聡明 | 総務企画課 |
| 3 | 臨床研修管理委員会 | 馬屋原　豊 | 総務企画課 |
| 4 | 医学倫理委員会 | 金子　晃 | 総務企画課 |
| 5 | 院内感染予防対策委員会 | 長田　学 | 総務企画課 |
| 6 | 医療安全管理(兼事故調査)委員会 | 市川　肇 | 医事課/総務企画課 |
| 7 | 医療安全管理対策委員会 | 市川　肇 | 総務企画課 |
| 8 | 診療情報提供委員会 | 市川　肇 | 総務企画課 |
| 9 | 労働安全衛生委員会 | 西田　俊朗 | 総務企画課 |
| 10 | 防災対策委員会 | 鴨井　博 | 総務企画課 |
| 11 | 医療ガス安全管理委員会 | 田中　克明 | 総務企画課 |
| 12 | 放射線障害予防委員会 | 西多　俊幸 | 放射線室 |
| 13 | 診療情報管理委員会 | 市川　肇 | 診療情報管理室 |
| 14 | 医療情報運営管理委員会（兼）情報セキュリティ委員会 | 北山　聡明 | 医療情報室 |
| 15 | 保険等調整検討委員会（兼）DPC コーディング委員会 | 筒井　建紀 | 医事課 |
| 16 | クリティカルパス推進委員会 | 島田　幸造 | 看護部 |
| 17 | 医療の質の評価委員会 | 馬屋原　豊 | 医事課 |
| 18 | 脳死判定委員会 | 榊　孝之 | 総務企画課 |
| 19 | 施設整備委員会 | 中田　活也 | 経理課 |
| 20 | 診療材料委員会 | 小笠原　延行 | 経理課 |
| 21 | 薬事委員会 | 鴨井　博 | 薬剤部 |
| 22 | 治験審査委員会 | 金子　晃 | 薬剤部 |
| 23 | 委託研究審査委員会 | 塚本　文音 | 経理課 |
| 24 | 輸血療法委員会 | 中田　活也 | 中央検査室 |
| 25 | 栄養管理委員会 | 馬屋原　豊 | 栄養管理室 |
| 26 | プライマリケア・救急医療運営委員会 | 小笠原　延行 | 総務企画課 |
| 27 | 中央検査室運営委員会 | 岡田　昌子 | 中央検査室 |
| 28 | 病理科運営委員会 | 吉田　康之 | 病理科 |
| 29 | 放射線室運営委員会 | 北山　聡明 | 放射線室 |
| 30 | 手術室運営委員会 | 田中　克明 | 麻酔科 |
| 31 | 集中治療部運営委員会 | 佐藤　善一 | 集中治療室 |
| 32 | リハビリテーション運営委員会 | 寺川　晴彦 | リハビリテーション室 |
| 33 | 人間ドック運営管理委員会 | 金子　晃 | 医事課 |
| 34 | 内視鏡センター運営委員会 | 山本　克己 | 内視鏡センター |
| 35 | 母子医療センター運営委員会 | 筒井　建紀 | 医事課 |
| 36 | 病床管理運営委員会 | 田﨑　弘美 | 医事課 |
| 37 | 褥瘡対策委員会 | 竹原　友貴 | 看護部 |
| 38 | ボランティア活動運営委員会 | 細井　昌宏 | 総務企画課 |
| 39 | 働き方改革・業務改善委員会 | 馬屋原　豊 | 看護部 |
| 40 | ＤＸ推進委員会 | 北山　聡明 | 総務企画課 |
| 41 | 虐待対策委員会 | 島田　幸造 | 医療福祉相談室 |
| 42 | 診療環境健全化推進委員会 | 市川　肇 | 総務企画課 |
| 43 | 契約審査委員会 | 中田　活也 | 経理課 |
| 44 | がん診療運営委員会 | 明石　雄策 | 医事課 |
| 45 | 認知症ケアチーム運営委員会 | 山森　英長 | 医事課 |
| 46 | 特定行為研修委員会 | 馬屋原　豊 | 看護部 |
| 47 | 棚卸実施委員会 | 西田　俊朗 | 経理課 |
| 48 | 外来運営委員会 | 北　圭介 | 医事課 |
| 49 | 外来機能強化委員会 | 北　圭介 | 医事課 |
| 50 | 利益相反（COI）委員会 | 金子　晃 | 総務企画課 |
| 51 | 透析機器安全管理委員会 | 鈴木　朗 | 総務企画課 |
| 52 | 臨床倫理委員会 | 鴨井　博 | 総務企画課 |
| 52 | 倫理コンサルテーション | 山森　英長 | 総務企画課 |
| 54 | RRS 運営委員会 | 佐藤　善一 | 集中治療室 |
| 55 | 教育研修委員会 | 金子　晃 | 総務企画課 |
| 56 | 高難度新規医療技術、未承認新規医薬品・医療機器等審査委員会 | 武中　章太 | 医事課 |
| 57 | 外国人患者対応運営委員会 | 中田　活也 | 医事課 |
| 58 | 戦略委員会 | 西田　俊朗 | 戦略企画室 |
| 59 | 患者サービス向上委員会 | 谷岡　美佐枝 | 看護部 |
| 60 | 医療機器等投資検討委員会 | 西田　俊朗 | 経理課 |
| 61 | ＱＣ活動推進委員会 | 市川　肇 | 総務企画課 |

# 業　績

## 整形外科

【原著・総説・著書】

1. 田中　雄大
初回骨孔位置不良例に対する長方形骨孔解剖学的前十字靱帯再再建術の成績
日本スポーツ整形外科学会誌　2025；2：107-108

2. 田中　雄大
解剖学的長方形骨孔法前十字靱帯再再建術の臨床成績
日本膝関節学会誌　2025；2：104-105

3. 三好　祐史
関節リウマチに対する肘関節鏡視下手術の中長期成績
日本手外科学会雑誌　2025；42：88-93

4.三好　祐史
難治性上腕骨外側上顆炎に関与する肘関節外側不安定性の評価と術後成績との関連
日本肘関節学会雑誌.　2025；32：218-222

5.島田　幸造
知っておきたい整形外科手術アプローチの要点と盲点：肘関節鏡でのアプローチ
関節外科　2025；44：85-91

6.山田　修太郎
骨粗鬆症性椎体骨折の2レベル前方椎体置換術で4ロッドでの再建により骨癒合を得た2例
日本脊髄障害医学会誌　2025；38：112-114

7. 岡本　恭典
Cemented dual mobility cupを使用した人工股関節再置換術の短期成績
日本人工関節学会誌　2025；55：115-116

8. 岡本　恭典
ショートテーパーウェッジステムの中期成績 -TriFit TS術後7年以上の臨床成績-
Hip Joint.　2025；51：275-278

9.中矢　亮太
モデュラーネックによる前捻角調整とステムによる前捻角調整とのROM比較研究　-減捻ネックの場合-
日本人工関節学会誌.　2025；55：277-278

10.中矢　亮太
モデュラーネックによる前捻角調整とステムによる前捻角調整とのROM比較研究
Hip Joint.　2025；51：516-518

11.北　圭介
絶対外さない整形外科の病態生理 半月板損傷
整形外科看護　2025（冬季増刊）

12. 島田　幸造
変形性肘関節症の診断・治療指針
運動器診療最新ガイドライン第２版　2025；407-409

13. 武中　章太
外来診療で使われるアウトカム評価法
頚椎・胸椎の痛みと障害（ニュースタンダード整形外科の臨床）　2025；4：14-23

14. Yamada S
Accuracy and Feasibility of Intraoperative Computed Tomography Navigation with a Clavicular Reference Frame in Anterior Cervical Spine Surgery: A Preliminary Report
Spine Surg Relat Res　2025；9：698-704

【学会発表】

1. 田中　雄大
膝蓋腱異所性骨化を伴った体軸性脊椎関節炎の1例
関西関節鏡・膝関節研究会 2025.3　奈良

2. 斎藤　謙太郎
脛骨内側プラトーの骨破壊を伴う内側型変形性膝関節症に対してCWHTOを施行した2例　2025.3　奈良

3. 熨斗　優樹
円板状内側半月板に対して縫合術を施行した２例　関西関節鏡・膝関節研究会　2025.3　奈良

4. 熨斗　優樹
近位脛骨骨切り術後の手術部位感染と矯正損失の関係　日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会 2025.4,　札幌

5. 田中　雄大
外側半月板中節横断裂に対する半月板円周線維補強術の短期成績―術後半年における半月逸脱の改善―

日本スポーツ整形外科学会　2025.9　東京
6. 熨斗　優樹
解剖学的単束前十字靱帯再建術術後12カ月における半腱様筋腱、大腿四頭筋腱および膝蓋腱の移植腱のMRI評価
日本スポーツ整形外科学会　2025.9　東京
7. 田中　雄大
当半月板円周線維補強術による外側半月板損傷の整復効果：術後早期のMRI評価
日本膝関節学会　2025.12　姫路
8. 熨斗　優樹
内側半月板後根断裂に対する半月板円周線維補強術の逸脱改善に関与する因子の検討
日本膝関節学会　2025.12　兵庫
9. 三好　祐史
上腕骨外側上顆炎に関与する肘外側不安定性の評価と術後成績との関連
日本肘関節学会学術集会　2025.3　岡山
10. 三好　祐史
関節リウマチに対する肘鏡視下手術の中長期成績
日本手外科学会学術集会　2025.4　横浜
11. 三好　祐史
身体機能評価から考えるRA肘の治療戦略～肘鏡視下手術の中長期成績と人工肘関節置換術との比較も含めて～
日本リウマチ学会近畿支部学術集会　2025.9　神戸
12. 三好　祐史
整形外科後期研修医の働き方改革と高水準の医療提供の両立～タスクシフトとチーム医療の実践～
JCHO地域医療総合医学会　2025.11　横浜
13. 山本　悠介
上腕筋内に橈骨頸部の絞扼を伴い整復困難を呈した小児Monteggia骨折の一例
日本リウマチ学会近畿支部学術集会　2025.9　神戸
14.山本　悠介
Suture Bridge法とpull-out法を併用した小児上腕骨小頭骨軟骨骨折の治療経験
中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2025.4　福井
15. 安田　彩夏
有頭骨広範囲骨壊死に対し肋骨骨軟骨移植で関節再建を行った1例
手の外科懇話会　2025.10-　大阪
16. 金山　完哲
腰椎椎間孔狭窄に対してFESSはLIFよりも優位か　日本脊椎脊髄病学会　2025.4　千葉
17. 金山　完哲
心が折れなければできるようになるFED：TF/ILアプローチ
日本低侵襲脊椎外科学会　2025.11　千葉
18. 金山　完哲
未経験からの挑戦：MEL・片側進入両側除圧未経験術者がバイポータル脊椎内視鏡手術AFESSを習得するまで
日本低侵襲脊椎外科学会　2025.10-　千葉
19. 金山　完哲
高難易度頸椎前方手術における新たな鎖骨リファレンス固定法を用いた術中CTナビゲーションの可能性
日本脊椎インストゥルメンテーション学会　2025.10-　千葉
20. 河野　剛之
脊椎多椎間固定術後に遅発性感染を伴うproximal junctional kyphosis (PJK)の２例
中部日本整形外科災害外科学会•学術集会　2025.10-　広島
21. 山田　修太郎
頚椎前方手術における術中CTナビゲーションの活用
日本脊椎インストゥルメンテーション学会　2025.10-　千葉
22. 中谷　裕貴
90歳以上の超高齢者に対する人工膝関節置換術
日本人工関節学会　2025.2　名古屋
23. 岡本　恭典
Cemented dual mobility cupを使用した人工股関節再置換術の短期成績　日本人工関節学会　2025.2　名古屋
24. 中矢　亮太
モデュラーネックによる前捻角調整とステムによる前捻角調整とのROM比較研究　-減捻ネックの場合-
日本人工関節学会　2025.2　名古屋
25. 岡本　恭典
カーブドショートステムの長期成績 -MiniHip術後10年以上の臨床成績-　日本股関節学会　2025.10　下関
26. 中矢　亮太
カラー付きダブルテーパーウェッジ型ショートステムによるTHAの短期成績

日本股関節学会　2025.10-　下関
27. 田辺　隆司
これってARMDですよね？　関西股関節研究会　2025.12　大阪
28. 中矢　亮太
ショートステムを使用した人工骨頭置換術におけるPatient Specific Templateの有用性
日本ＣＡＯＳ学会　2025.3　松本
29. 岡本　恭典
CT-based navigation を使用した isoelastic monoblock cup の短期成績
日本ＣＡＯＳ学会　2025.3　松本
30. 藏谷　幸祐
肩腱板広範囲断裂と変形性肩関節症に対するRSAの短期成績の比較
日本肩関節学会　2025.10-　福岡
31. Kita K
Meniscal circumferential fiber augmentation-New technique for preserving meniscal function-
ISAKOS CONGRESS 2025　2025.6　Munich
32. Kita K
Latest Update of Meniscal Circumferential Augmentation Technique
The Meniscus Asian Summit 2025　2025.12　Himeji
33. Temporin K
Bone deformity in sports-related elbow osteoarthritis – influence of osteochondritis dissecans
International Federation of Societies for Surgery of the Hand (IFSSH), IFSSH and IFSHT Triennial　2025.3 Washington DC
34. Temporin K
Prediction of the osteophytes requiring removal during arthroscopic debridement for elbow osteoarthritis
Global Elbow Network Annual Meeting　2025.11　Miami
35. Shimada K
Arthroscopic Management for Elbow OCD
Seoul International Elbow Meeting 2025　2025.5　Seoul(Web)
36. Shimada K
Novel approach to elbow pathology　Alexandria Hand & Microsurgery Congress　2025.10-　Alexandria
37. Shimada K
Elbow Arthroplasty-Designs, evolutions, revision and precise osteotomy-
Alexandria Hand & Microsurgery Congress　2025.10-　Alexandria
38. Shimada K
Treatment of comminuted radial head/neck nonunion using costal osteochondral autograft
nonunion using costal osteochondral autograft　Global Elbow Network Annual Meeting　2025.11　Miami
39. Kirimura S
Arthroscopic bone pegs fixation for ICRS OCD-II lesions of capitellum OCD
lesions of capitellum OCD　Global Elbow Network Annual Meeting　2025.11　Miami
40. Shimada K
Costal Osteochondral Graft for Reconstruction of Damaged Elbow -Ultra-useful biological material to fix the damaged elbow
2025 Pohang SM Christianity Hospital Advanced Elbow Symposium (POSCHES 2025)　2025.11　Pohang
41. Nishikawa M
High relationship between combined patellofemoral/tibiofemoral joint osteoarthritis and calcium pyrophosphate dihydrate crystal in operated knee osteoarthritis　Congress of the European Federation of National Associations of Orthopaedics and Traumatology　2025.6　Lyon
42. Nakata K
Diaphyseal fixation of short stem might be risk factor on progression of stress-shielding
World Congress SICOT　2025.9　Madrid

【学会講演】
1. 北　圭介
CWHTOの手術手技 骨切り術のピットフォール
整形外科医師　2025.1　大阪
2.北　圭介
半月板円周線維補強術は膝周囲骨切り術の長期成績を上げ得るか　整形外科医師　2025.4　福井
3.北　圭介
Circumferential Fiber Augmentationfor MMPRT　整形外科医師　2025.4　札幌

4.北　圭介
半月板円周線維補強術(Circumferential Fiber Augmentation)は半月板手術治療の未来を変えるか
整形外科医師　2025.5　東京
5.北　圭介
半月板円周線維補強術の手術手技と極意　整形外科医師　2025.8　新潟
6.北　圭介
単独内側膝蓋大腿靱帯再建術では対処できない膝蓋骨脱臼に対するアプローチ　整形外科医師　2025.9　東京
7.北　圭介
Indications for isolated MPFLR from a biomechanical perspective　整形外科医師　2025.10-　青森
8.北　圭介
半月板円周線維補強術の手術手技　整形外科医師　2025.10-　仙台
9.北　圭介
日常診療に役立つ膝の診断と治療　-膝関節外科医のアタマの中-　整形外科医師　2025.10-　大阪
10.北　圭介
Pathophysiology of Patellar Instability: From the Perspective of Surgical Indications
整形外科医師　2025.12　姫路
11. 轉法輪　光
疼痛を有する肘関節疾患の手術治療～肘関節鏡を中心に～　整形外科医師　2025.2　大阪
12. 轉法輪　光
手外科専門医の診る透析患者の手　整形外科医師　2025.4　大阪
13. 島田　幸造
関節鏡が可能にした肘関節温存手術　-肘関節鏡がもたらした新知見-　整形外科医師　2025.3　京都
14.島田　幸造
日常に（ゴルフにも？）役立つ、腰痛の話　整形外科医師　2025.5　大阪
15. 金山　完哲
今知りたい脊椎全内視鏡下除圧術の特性とコツ～バイポータル脊椎内視鏡手術、AFESS～
整形外科医師　2025.4　千葉
16. 金山　完哲
骨粗鬆症の素朴な疑問に答えます～ためになるQ＆A～　整形外科医師　2025.3　大阪
17.金山　完哲
繰り返す恐怖の術後血腫の症例～Openおよび内視鏡の症例～　整形外科医師　2025.3　大阪
18.金山　完哲
脊椎手術患者の合併症と対応－固定術後の隣接椎間の固定術式について－　整形外科医師　2025.7　大阪
19.金山　完哲
ゼロから始めるEndoscopic Surgeryー 脊椎内視鏡が変える思考と手術戦略 ー　整形外科医師　2025.8　大阪
20.金山　完哲
PLIFとOLIF（XLIF）の比較検討：椎体間固定術における術式選択のポイント　整形外科医師　2025.7　大阪
21. 山田　修太郎
整形外科医に向けられた「がんのサイン」骨転移の見方　整形外科医師　2025.12　大阪
22. 武中　章太
背骨を守る，生活を支えるー チームで挑む脊椎外科　整形外科医師　2025.11　横浜
23. 武中　章太
前弯獲得と安定性を両立するブーメラン型3D プリント椎体間ケージの有用性と設置の工夫
整形外科医師　2025.10-　千葉
24. 中田　活也
3D金属積層造形 Curved Short Stem　整形外科医師　2025.2　名古屋
25. 中田　活也
CSS Meets with ALSA-Path　整形外科医師　2025.3　ホノルル
26. 中田　活也
ALSA総論と基本手技　整形外科医師　2025.3　バンコク
27. 中田　活也
近年トレンドのセメントレスステムを解剖する（理論と実践）　整形外科医師　2025.3　仙台
28. 中田　活也
ALSA-Bikini-Path & CSSのトリセツ（概論）　整形外科医師　2025.8　台北
29. 中田　活也
明日から使える３Ｄ Printedショートステム　整形外科医師　2025.10-　下関
30. 中田　活也
MiniHip (Corin)を上手く使いこなすために　整形外科医師　2025.11　金沢

## 手外科・外傷センター

【学会講演】

1.轉法輪　光
手外科専門医の診る透析患者の手　整形外科と透析をつなぐ透析アミロイドーシスセミナー　2025/4/16　大阪
2. 島田　幸造
日常に（ゴルフにも？）役立つ、腰痛の話　大阪ロータリークラブ　健康講話　2025/5　大阪
3. Shimada K
Arthroscopic Management for Elbow OCD　Seoul International Elbow Meeting 2025　2025/5　Seoul(Web)
4. Shimada K
Novel approach to elbow pathology　18th Alexandria Hand & Microsurgery Congress　2025/10　Alexandria
5. Shimada K
Elbow Arthroplasty-Designs, evolutions, revision and precise osteotomy-
18th Alexandria Hand & Microsurgery Congress　2025/10　Alexandria
6. Shimada K
Costal Osteochondral Graft for Reconstruction of Damaged Elbow -Ultra-useful biological material to fix the damaged elbow
2025 Pohang SM Christianity Hospital Advanced Elbow Symposium (POSCHES 2025)　2025/11　Pohang

## リウマチ科

【学会発表】

1, Masataka Nishikawa, Hajime Owaki, Katsuya Nakata
High Relationship Between Combined Patellofemoral/Tibiofemoral Joint Osteoarthritis And Calcium Pyrophosphate Dihydrate Crystal In Operated Knee Osteoarthritis
26th EFFORT Congress　2025.6.12　Lyon, France
2, 打浪諒太、西川昌孝、中矢亮太、岡本恭典、中田活也
人工膝関節全置換術退院直後に癌性胸膜炎が判明した一例　第56回　日本人工関節学会　2026.2.27　大阪

## スポーツ医学科

【学会発表】

1.熨斗　優樹
近位脛骨骨切り術後の手術部位感染と矯正損失の関係
日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会　2025/4/11　札幌
2.田中　雄大
外側半月板中節横断裂に対する半月板円周線維補強術の短期成績―術後半年における半月逸脱の改善―
日本スポーツ整形外科学会　2025/9/12　東京
3. 熨斗　優樹
解剖学的単束前十字靱帯再建術術後12カ月における半腱様筋腱、大腿四頭筋腱および膝蓋腱の移植腱のMRI評価
日本スポーツ整形外科学会　2025/9/12　東京
4. 田中　雄大
半月板円周線維補強術による外側半月板損傷の整復効果：術後早期のMRI評価
日本膝関節学会　2025/12/5　姫路
5. 熨斗　優樹
内側半月板後根断裂に対する半月板円周線維補強術の逸脱改善に関与する因子の検討
日本膝関節学会　2025/12/5　姫路

【学会発表】

1. 北　圭介
半月板円周線維補強術は膝周囲骨切り術の長期成績を上げ得るか
中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2025/4/4　福井
2. 北　圭介

Circumferential Fiber Augmentationfor MMPRT
　日本Knee Osteotomy and Joint Preservation研究会　2025/4/11　札幌
3. 北　圭介
半月板円周線維補強術(Circumferential Fiber Augmentation)は半月板手術治療の未来を変えるか
　日本整形外科学会学術集会　2025/5/22　東京
4. 北　圭介
半月板円周線維補強術の手術手技と極意　新潟関節鏡セミナー　2025/8/30　新潟
5. 北　圭介
単独内側膝蓋大腿靱帯再建術では対処できない　日本スポーツ整形外科学会　2025/9/12　東京
6. 北　圭介
Indications for isolated MPFLR from a biomechanical perspective
　日本整形外科学会基礎学術集会　2025/10/16　青森
7. 北　圭介
半月板円周線維補強術の手術手技　SAT CFA Stryker's Arthroscopic Training　2025/10/18　仙台
8. 北　圭介
日常診療に役立つ膝の診断と治療　-膝関節外科医のアタマの中-
　JCHO大阪病院　整形外科勉強会＆症例検討会　2025/11/30　大阪
9. 北　圭介
Pathophysiology of Patellar Instability: From the Perspective of Surgical Indications
　日本膝関節学会　2025/12/5　姫路

## 脊椎外科

【原著・総説・著書】

1. Aono H, Takenaka S, Okuda A, Kikuchi T, Takeshita H, Nagata K, Ito Y.
Timing of surgery and predictors of canal reduction after short-segment fixation for thoracolumbar burst fractures.　Eur J Trauma Emerg Surg.　2026 Mar　23;52(1):110. doi:

2. Kanie Y, Takenaka S, Furuya M, Fujimori T, Urakawa H, Hagizawa H, Ukon Y, Makino T, Okada S, Kaito T.
Lateral parallel insertion of large footprint cages in PLIF promotes early fusion and fewer endplate cysts.
　Eur Spine J.　2026 Mar 13.　doi: 10.1007/s00586-026-09822-3. Epub ahead of print.

3. Ishiguro H, Takenaka S, Kaneko M, Aono H.
Risk factors for insufficient segmental lordosis at the fused level following posterior lumbar interbody fusion: Effect of change in segmental lordosis in the intraoperative prone position.　N Am Spine Soc J.　2026 Jan 12;25:100850. doi: 10.1016/j.xnsj.2026.100850.

4. Kanie Y, Kaito T, Takenaka S, Kitahara T, Furuya M, Ukon Y, Fujimori T, Okada S.
Optimal measurement of sacral obliquity in adolescent idiopathic scoliosis-associated sacral deformity.　J Neurosurg Spine.　2026 Jan 23;44(4):547-553. doi: 10.3171/2025.9.SPINE25561.

5. Yamada S, Kanayama S, Kono T, Takenaka S.
Accuracy and Feasibility of Intraoperative Computed Tomography Navigation with a Clavicular Reference Frame in Anterior Cervical Spine Surgery: A Preliminary Report.　Spine Surg Relat Res.　2025 Oct 9;9(6):698-704. doi: 10.22603/ssrr.2025-0214.

6. Hosozawa K, Suzuki Y, Nagamoto Y, Kita K, Kanie Y, Furuya M, Ukon Y, Takenaka S, Kaito T, Kishimoto K, Shinyashiki K, Nakajima N, Hori M, Okada S, Fujimori T.
Predicting Attainment of Clinically Important Difference in the Japanese Orthopaedic Association Back Pain Evaluation Questionnaire: A Comparison of Deep Learning and Machine Learning.　Spine (Phila Pa 1976).　2026 Jan 1;51(1):E11-E22. doi: 10.1097/BRS.0000000000005534. Epub 2025 Oct 9.

7. Maki S, Furuya T, Katsumi K, Nakajima H, Honjoh K, Watanabe S, Kaito T, Takenaka S, Kanie Y, Iwasaki M, Furuya M, Inoue G, Miyagi M, Ikeda S, Imagama S, Nakashima H, Ito S, Takahashi H, Kawaguchi Y, Futakawa H, Murata K, Yoshii T, Hirai T, Koda M, Ohtori S, Yamazaki M.
Response to Letter to the Editor Regarding: Multimodal Deep Learning-Based Radiomics Approach for

Predicting Surgical Outcomes in Patients With Cervical Ossification of the Posterior Longitudinal Ligament. Spine (Phila Pa 1976). 2025 Apr 15;50(8):E159-E160. doi: 10.1097/BRS.0000000000005296. Epub 2025 Feb 11.

8. Ukon Y, Takenaka S, Hirai H, Sugiura T, Sakai Y, Fujimori T, Furuya M, Kanie Y, Okada S, Kaito T. Establishment of Scoring to Predict Severe Complication After Pyogenic Spondylodiscitis Surgery. Clin Spine Surg. 2025 Oct 1;38(8):353-359. doi: 10.1097/BSD.0000000000001756. Epub 2025 Jan 29.

9. Aono H, Takenaka S, Nagamoto Y, Tobimatsu H, Yamashita T, Furuya M, Ishiguro H, Iwasaki M. Impact of Spinal Instrumentation on Early Postoperative Inflammatory Markers: A Comparative Analysis in the Same Patient Cohort with or without Instrumentation. World Neurosurg. 2025 Apr;196:123681. doi: 10.1016/j.wneu.2025.123681. Epub 2025 Mar 10.

10. Sakaura H, Fujimori T, Sugiura T, Yamada S, Kanayama S, Ikegami D. Clinical Outcomes of Additional Posterior Lumbar Interbody Fusion for Adjacent Segment Disease after Posterior Lumbar Interbody Fusion Assessed with the Zurich Claudication Questionnaire. J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2026 Jan;87(1):18-22. doi: 10.1055/s-0044-1791975. Epub 2025 Jun 9.

11. Sakaura H, Fujimori T, Sugiura T, Yamada S, Kanayama S, Ikegami D. Clinical Outcomes of Revision Posterior Lumbar Interbody Fusion for Late Deterioration after Laminotomy Assessed with the Zurich Claudication Questionnaire. J Neurol Surg A Cent Eur Neurosurg. 2025 Nov;86(6):532-536. doi: 10.1055/a-2479-4972. Epub 2024 Nov 20.

12. 武中 章太
【骨粗鬆症性脊柱障害の治療戦略-保存から手術,そしてその先へ】(第4章)種々の病態に対する手術の工夫 骨粗鬆症性椎体骨折(後壁骨折)に対するアンカーの工夫
Cortical bone trajectoryの実際 脊椎脊髄ジャーナル 39巻4号 Page381-387(2026.04)

13. 細澤 幸輝, 鈴木 裕紀, 長本 行隆, 喜多 洸介, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 武中 章太, 海渡 貴司, 岸本 紘樹, 新屋敷 佳, 今井 大達, 中嶋 望, 岡田 誠司, 藤森 孝人, 堀 雅敏
深層学習を活用した腰椎手術患者のJOABPEQの術後改善予測
日本医用画像工学会大会予稿集 44回 Page138-139(2025.08)

14. 山田 修太郎, 武中 章太
骨粗鬆症性椎体骨折の2レベル前方椎体置換術で4ロッドでの再建により骨癒合を得た2例 日本脊髄障害医学会雑誌 38巻1号 Page112-114(2025.08)

15. 喜多 洸介, 藤森 孝人, 鈴木 裕紀, 蟹江 祐哉, 武中 章太, 海渡 貴司, 瀧 琢有, 古家 雅之, 幸 博和, 中嶋 望, 杉浦 剛, 石黒 博之, 釜谷 崇, 塚崎 裕之, 坂井 勇介, 高見 晴奈, 立岩 大輔, 橋本 国彦, 綿谷 朋大, 西垣 大毅, 佐藤 淳哉, 富山 憲幸, 岡田 誠司, 木戸 尚治
[二次出版] MRI画像と臨床情報を統合して脊髄腫瘍を鑑別するBi-Modal AIの開発 iScienceに掲載された英語論文の日本語による二次出版 Journal of Spine Research 16巻9号 Page1224-1233(2025.09)

【学会発表】

1.金山 完哲, 河野 剛之, 山田 修太朗, 武中 章太
腰椎椎間孔狭窄に対してFESSはLIFよりも優位か 第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2025/4/17 千葉

2. 池上 章太, 有馬 秀幸, 石黒 博之, 井上 玄, 海渡 貴司, 菅野 晴夫, 高橋 真治, 竹居 隼人, 武中 章太, 中島 宏彰, 藤田 順之, 細金 直文, 牧 聡, 八木 満, 山田 賢太郎, 渡邊 慶, 藤田 卓仙, 新村 千江, 種市 洋, 渡辺 雅彦, 竹下 克志, 中村 雅也, 金村 徳相, 日本脊椎脊髄病学会データベース委員会
リアルワールドデータを用いたJSSR-DBリスクカリキュレーターの開発と展望 第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2025/4/17 千葉

3. 有馬 秀幸, 池上 章太, 井上 玄, 海渡 貴司, 菅野 晴夫, 高橋 真二, 武中 章太, 中島 宏彰, 藤田 順之, 細金 直文, 牧 聡, 八木 満, 山田 賢太郎, 渡邊 慶, 藤田 卓仙, 新村 千江, 種市 洋, 渡辺 雅彦, 竹下 克志, 中村 雅也, 金村 徳相, 日本脊椎脊髄病学会データベース委員会
いよいよ始まるJSSR-DBからのアウトプットReal World Evidenceへ 第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会 2025/4/17 千葉

4. 有馬 秀幸, 池上 章太, 井上 玄, 海渡 貴司, 菅野 晴夫, 高橋 真治, 武中 章太, 中島 宏彰, 藤田 順之, 細金 直文, 牧 聡, 八木 満, 山田 賢太郎, 渡邊 慶, 藤田 卓仙, 新村 千江, 種市 洋, 渡辺 雅彦, 竹下 克志, 中村 雅也, 金村 徳相, 日本脊椎脊髄病学会データベース委員会

脊椎ビッグデータ(レジストリー)　2023年度JSSR-DBを用いた日本における脊椎脊髄手術の全国合併症調査と今後の展望　第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2025/4/17　千葉
5. 石黒 博之, 武中 章太, 青野 博之
後方進入腰椎椎体間固定術(PLIF)における固定椎間の局所前彎角(SL)の獲得不良の危険因子　術中腹臥位におけるSL変化の影響　第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会　2025/4/17　千葉
6. 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 藤森 孝人, 武中 章太, 海渡 貴司, 岡田 誠司
思春期特発性側彎症に伴う仙椎変形と適切な仙骨傾斜パラメーター　第98回日本整形外科学会学術総会　2025/5/22　東京
7. 右近 裕一朗, 武中 章太, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 藤森 孝人, 海渡 貴司, 岡田 誠司
化膿性脊椎炎術後合併症の予測スコアリング式の確立　多施設データベース研究　第98回日本整形外科学会学術総会　2025/5/22　東京
8. 喜多 洸介, 藤森 孝人, 海渡 貴司, 武中 章太, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 岡田 誠司, 木戸 尚治, 堀 雅敏
深層学習を用いた,JOABPEQ用紙から回答結果を自動的に収集するAI　第98回日本整形外科学会学術総会　2025/5/22　東京
9. 藤森 孝人, 中嶋 望, 喜多 洸介, 蟹江 祐哉, 古家 雅之, 武中 章太, 海渡 貴司, 細澤 幸輝, 岸本 紘樹, 新屋敷 佳, 岡田 誠司
側彎症の診断治療におけるAI(artificial intelligence)の役割　人工知能を用いた特発性側彎症患者の脊椎パラメーター自動計測　第98回日本整形外科学会学術総会　2025/5/22　東京
10. 河野 剛之, 山田 修太郎, 武中 章太, 金山 完哲
脊椎多椎間固定術後に遅発性感染を伴うproximal junctional kyphosis(PJK)の2例　第145回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会　2025/10/3　広島

【学会発表】

1. 金山 完哲
今知りたい脊椎全内視鏡下除圧術の特性とコツ～バイポータル脊椎内視鏡手術、AFESS～　第54回日本脊椎脊髄病学会学術集会 アフタヌーンセミナー　2025/4/17　千葉
2. 金山 完哲
脊椎手術患者の合併症と対応－固定術後の隣接椎間の固定術式について－　骨粗鬆症academia　2025/7/4　大阪
3. 金山 完哲
PLIFとOLIF（XLIF）の比較検討：椎体間固定術における術式選択のポイント　第66回大阪脊椎フォーラム　2025/7/19　大阪
4. 金山 完哲
ゼロから始めるEndoscopic Surgery－脊椎内視鏡が変える思考と手術戦略－　Next Generation Forum　2025/8/29　大阪
5. 武中 章太
前弯獲得と安定性を両立するブーメラン型3Dプリント椎体間ケージの有用性と設置の工夫　Spine Week Japan 2025　2025/10/31　千葉
6. 武中 章太
背骨を守る，生活を支える ―チームで挑む脊椎外科　第10回JCHO地域医療総合医学会 ランチョンセミナー8　2025/11/28　横浜

## リハビリテーション科

【学会発表】

1. 大江実穂、寺川晴彦
拘束性喚起障害に対して横隔膜トレーニングが有用であったポストポリオ症候群の一症例
第62回日本リハビリテーション医学会学術集会　2025/6/12-14　京都
2. 吉田はる香、水田裕文、前田香、寺川晴彦、島田幸造
長高齢者指伸筋腱断裂に対する腱移行術後固定法におけるHome Programの工夫
第62回日本リハビリテーション医学会学術集会　2025/6/12-14　京都
3. 赤井滉基、梶本泰志、日原唯斗、木下佳子、水田裕文、寺川晴彦
すくみ足の著明なパーキンソン病患者に対し応用行動分析学的介入が有効であった一例

第66回日本神経学会学術集会　2025/5/21-24　大阪

4. 大塚秀人、水田裕文、寺川晴彦

肝癌の胸椎直接浸潤後、自宅退院を目指し多職種連携により自宅退院が可能となった一症例

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28-29　横浜

5. 木下佳子、下田真代、水田裕文、寺川晴彦、佐伯一

外来心臓リハビリテーションにおける情報共有ツールの構築～私たちの総合実施計画書の活用方法～

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28-29　横浜

6. 松本恵理子、高橋憲、水田裕文、寺川晴彦、中田活也

人工股関節全置換術後の転帰に関連する因子の検討-パイロット研究-

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28-29　横浜

7. 玉置悠輔、橋爪稚乃、酒井宏樹

右大脳半球梗塞後の左片麻痺に対し、代償動作に着目した運動療法が歩行再建に寄与した症例

大阪府理学療法士会中支部新人症例検討会　2026/2/1　大阪

8. 南頼康

胸部ステントグラフト内挿術後、脊髄障害による対麻痺を呈した患者に対する理学療法経験

第65回近畿理学療法学術大会　2026/2/15　京都

9. 田中健毅、北山幸子、興田夏美、寺川晴彦

当院2日ドック受験者におけるロコモ度テスト結果と転倒発生との関連性の検討：前向き調査研究

第44回日本臨床運動療法学会学術集会　2025/9/13-14　順天堂大学

10. 橋爪稚乃

HFNCを導入し、患者の状態に合わせた理学療法を行ったことで自宅退院が可能となった高齢間質性肺炎の一症例

第11回日本呼吸理学療法学会学術大会　2025/11/29-30　京都

11. 山中優、吉田はる香、水田裕文、寺川晴彦

パーキンソン病の線条体手に対する装具により食事動作が改善した一例

第39回大阪府作業療法学会　2025/12/7　大阪

【学会講演】

1.木下佳子

当院における外来心臓リハビリテーション～MICTとHIITの使い分け～

理学療法士　2026/2/10　福島区理学療法士会研修会（オンライン）

【原書・総説・著書】

1.田中健毅

ロコモ25質問紙を用いた特定6項目加算スコアによる簡便な転倒スクリーニング-人間ドック受検者を対象とした前向き観察研究-　日本人間ドック・予防医療学会誌　2026；41：30-37

## 消化器外科

【原著・総説・著書】

1. Kawabata K, Takahashi T, Nishida T, Kurokawa Y, Yamamoto K, Saito T, Momose K, Yamashita K, Tanaka K, Makino T, Kawabata R, Takeno A, Nakajima K, Eguchi H, Doki Y

18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography-computed tomography as a prognostic marker of imatinib-resistant gastrointestinal stromal tumors　Surg Today　2025;55(9):1295-1302

2. Hirano H, Naito Y, Nishida T, Higashi T, Satake T, Morizane C, Kawai A

Epidemiologic Features and Age-Related Differences in Management among Patients　with Gastrointestinal Stromal Tumors in Japan: A National Cancer Registry Study.　Cancer Res Commun　2025;5(7):1235-1242

3. Obata Y, Natsume M, Shiina I, Takahashi T, Nishida T
Golgi retention of KIT in gastrointestinal stromal tumour cells is phospholipase D activity-dependent　Sci Rep 2025;15(1):28778. doi: 10.1038/s41598-025-14739-w.
4. Kurokawa Y, Honma Y, Sawaki A, Naito Y, Iwagami S, Komatsu Y, Takahashi T, Nishida T, Doi T
Pimitespib for advanced gastrointestinal stromal tumor: a plain language summary of the CHAPTER-GIST-301 study　Future Oncol　2025;21(19):2401-2413
5. Kawabata K, Takahashi T, Nishida T, Kurokawa Y, Yamamoto K, Saito T, Momose K, Yamashita K, Tanaka K, Makino T, Kawabata R, Takeno A, Nakajima K, Hirota S, Eguchi H, Doki Y
Clinical impact of primary and secondary KIT mutations on the efficacy of molecular-targeted therapies in gastrointestinal stromal tumors　Gastric Cancer　2025;28(5):899-910
6. Yokouchi T, Takahashi T, Nishida T, Tanaka K, Kurokawa Y, Yamamoto K, Saito T, Hagi T, Momose K, Yamashita K, Makino T, Kawai K, Serada S, Fujimoto M, Hirota S, Nakajima K, Naka T, Eguchi H, Doki Y
Targeting yes-associated protein to overcome imatinib resistance in gastrointestinal stromal tumor drug-tolerant persister cells.　Gastric Cancer　2025;28(6):1101-1113
7. Kawabata K, Takahashi T, Hara H, Kurokawa Y, Yamamoto K, Saito T, Akamaru Y, Motoori M, Nishida T, Hirota S, Satoh T, Eguchi H, Doki Y
Clinical significance of comprehensive genomic profiling in unresectable or recurrent gas+H4:H6trointestinal stromal tumors: a multicenter retrospective cohort study　J Gastroenterol　2025: doi: 10.1007/s00535-025-02327-8
8. Tei M, Suzuki Y, Fujii M, Ohtsuka M, Nomura M, Yoshikawa Y, Tamai K, Sueda T, Akamatsu H, Matsuda C.
The learning curve for single-incision laparoscopic colectomy for colon cancer: succession of surgical techniques for novice surgeons.　Surg Today　2025;55(11):1681-1693
9. Naito A, Takahasi H, Yoshihara T, Iwamoto K, Ohara N, Matsuda C, Noura S.
Transanal Minimally Invasive Surgery for a Gastrointestinal Stromal Tumor of the Lower Rectum: A Case Report.　Asian J Endosc Surg.　2025;18(1):e70025. doi: 10.1111/ases.70025
10. Sueda T, Yasui M, Nishimura J, Kagawa Y, Kitakaze M, Mori R, Matsuda C, Ushimaru Y, Sugase T, Mukai Y, Komatsu H, Yanagimoto Y, Kanemura T, Yamamoto K, Wada H, Goto K, Miyata H, Ohue M.
Learning curve analysis for prophylactic bilateral robot-assisted lateral lymph node dissection for lower rectal cancer: a retrospective study.　Tech Coloproctol.　2025;29(1):77. doi: 10.1007/s10151-025-03119-1.
11. Yokota M, Takahashi H, Tsuji H, Iwami Y, Watsapol JJ, Takaichi S, Paku M, Iwamoto K, Ohashi T, Nakahara Y, Asaoka T, Matsuda C, Nishikawa K, Takemasa I, Omori T.
A Case of Ascending Colon Perivascular Epithelioid Cell Tumor Presenting with Intestinal Intussusception: Case Report.　Surg Case Rep.　2025;11(1):24-0090. doi: 10.70352/scrj.cr.24-0090.
12. Ishii K, Takahashi H, Tsuji H, Ishihara T, Iwami Y, Juavijitjan W, Yokota M, Takaichi S, Paku M, Iwamoto K, Ohashi T, Nakahara Y, Asaoka T, Matsuda C, Nishikawa K, Omori T.
Clinical and Pathological Analysis of Perianal Paget's Disease: A Case Report and Review of 89 Cases.　Cancer Diagn Progn.　2025;5(1):49-55
13. Yamamoto M, Omori T, Shinno N, Hara H, Mukai Y, Sugase T, Takeoka T, Kanemura T, Mikamori M, Hasegawa S, Akita H, Haraguchi N, Nishimura J, Wada H, Matsuda C, Yasui M, Miyata H, Ohue M
Prognostic Value of a Novel Index Combining the Prognostic Nutritional Index and D-Dimer Levels for Gastric

Cancer after Gastrectomy.　Oncology.　2025;103(1):1-10

14. 松田宙

手術のtips and pitfalls　ロボット支援下大腸手術における助手の役割とコツ　ロボット支援下直腸癌手術における助手の役割とコツ(図説)　日本外科学会雑誌　2025;126(1):73-80

【学会発表】

1. 松田 宙

脾彎曲授動を伴う横行結腸癌、下行結腸癌に対するロボット支援手術の手技の工夫と短期成績

第125回日本外科学会定期学術集会　2025/4/10-2025/4/12　仙台

2. 松田 宙

当科における脾彎曲部癌に対するロボット支援手術の手技の工夫と短期成績

第80回日本消化器外科総会　2025/7/16-2025/7/18　神戸

3. 松田 宙

da Vinci SPを用いた単孔式ロボット支援大腸癌手術の導入と短期成績

第33回日本消化器関連学術週間　2025/10/30-2025/11/1　神戸

4. 和田 浩志

胆嚢腫瘍に対する腹腔鏡下拡大胆嚢摘出術の治療成績と悪性リスク因子の検討

第125回日本外科学会定期学術集会　2025/4/10-2025/4/12　仙台

5 Wada H

Clinical outcome of surgery for borderline resectable hepatocellular carcinoma (BR1-HCC)

第37回日本肝胆膵外科学会学術集会　2025/6/13-2025/6/14　軽井沢

6. 和田 浩志

Expert Consensus 2023による肝細胞癌の腫瘍学的切除可能性分類とその治療成績

第80回日本消化器外科学会総会　2025/7/16-2025/7/18　神戸

7. 和田 浩志

肝細胞癌における腫瘍血流ドレナージ領域に基づく解剖学的肝切除の再評価

第46回日本肝臓学会西部会　2025/12/4-2025/12/5　下関

8. 出村 公一

当院における非乳頭部十二指腸腫瘍に対するD-LECSの検討(Treatment outcomes of duodenal LECS for non-ampullary duodenal tumors　第80回日本消化器外科学会総会　2025/7/16-2025/7/18　神戸

9. 出村 公一

ロボット支援下胃切除術におけるドームポートの使用経験

第38回日本内視鏡外科学会総会　2025/12/11-2025/12/13　横浜

10. 斎藤 百合奈

経皮内視鏡的胃瘻造設術後の胃結腸皮膚瘻に対して腹腔鏡下結腸部分切除術および胃瘻再造設を施行した1例

第40回日本栄養治療学会学術集会　2025/2/14-2025/2/15　横浜

11. 雪本 龍平

回腸人工肛門造設術におけるHigh-Output Stomaの特徴とリスク因子

第125回日本外科学会定期学術集会　2025/4/10-2025/4/12　仙台

12. 山川　拓真

腹腔鏡下胆嚢摘出術早期に発症した盲腸捻転症の１例　第87回日本臨床外科学会学術集会　2025/11/20-2025/11/22　東京

13. 鎌田 大喜(臨床研修医)

術前診断し得た胆嚢捻転症の１切除例　第87回日本臨床外科学会学術集会　2025/11/20-2025/11/22　東京

【学会講演】

1. 松田 宙

大腸癌に対するロボット手術の現状と展望　福井赤十字病院　第11回 消化器カンファレンス　2025/8/23　福井

## 呼吸器外科

【原著・総説・著書】

1.Mizutani T, Takahama M, et al.

Longitudinal assessment of functional independence of older adults after lung cancer surgery: Final results of the JCOG1710A prospectivecohort study　Longitudinal assessment of functional independence of older adults after lung cancer surgery: Final results of the JCOG1710A prospectivecohort study　2025;16:102268.

2. 髙濱　誠

気管支形成術後気道狭窄の治療　診療チャートで理解する肺癌周術期管理　2026:220-223.

【学会発表】

1. 坂本 鉄基，髙濱 誠

縦隔型と肺内型が混在した気管支動脈瘤に一切除例　第42回日本呼吸器外科学会総会　2025/5/16　東京

2. 前田 純一，伊豫 田明，髙濱 誠

2026年度診療報酬改定について　第42回日本呼吸器外科学会総会　2025/5/16　東京

3. 髙濱 誠，臼田 実夫，沖 昌英，佐藤 賢，新納 英樹，高島 雄太，野津田 泰嗣，半田 博，姫路 大輔，吉井 直子

気道ステントワーキンググループの活動報告　第48回日本呼吸器内視鏡学会学術集会　2025/6/11　仙台

4. 髙濱 誠

巨大胸部悪性腫瘍に対する開胸術～アプローチと体位の工夫～　第66回日本肺癌学会学術集会　2025/11/7　東京

【学会講演】

1. 髙濱 誠

硬性気管支鏡によるInterventional Pulmonology　日本呼吸器内視鏡学会会員　2025/2/22　大津

2. 髙濱 誠

その肺がん，本当に切れないか？　～気管支形成術で拓く拡大手術の可能性～　日本呼吸器外科学会会員　2025/11/28　大宮

3. 髙濱 誠

硬性気管支鏡と気管ステント　日本呼吸器内視鏡学会会員　2026/1/17　大阪

4. 髙濱 誠

## 乳腺・内分泌外科

硬性気管支鏡とInterventional Pulmonology　日本呼吸器内視鏡学会会員　2026/1/23　神戸

【原著・総説・著書】

1. 竹内 千聖

副乳癌と潜在性乳癌の鑑別に難渋した1例　乳癌の臨床　2026年；41巻：ページ 61-67

【学会発表】

1. 大谷 陽子

アテゾリズマブ単剤で長期病勢安定が得られた1例　第32回日本乳癌学会学術総会　2025/7/10　京王プラザホテル

2. 武田 恵美

経静脈抗癌剤は可能であったがS-1は継続困難であった潰瘍性大腸炎併存乳癌の一例　第32回日本乳癌学会学術総会　2025/7/10　京王プラザホテル

3. 笠島 綾子

乳房全摘後に胸壁に再発したStromal sarcomaの1例　第32回日本乳癌学会学術総会　2025/7/10　京王プラザホテル

## 脳神経外科

【原著・総説・著書】

1. 一瀬綾花、山際啓典、呉村有紀、榊孝之

血管脆弱性を伴う神経線維腫症1型の一例: 内頚動脈血流遮断試験時に新規解離を生じた解離性頭蓋外内頚動脈瘤

脳卒中　2025：47；323-329

【学会発表】

1. 一瀬綾花、山際啓典、呉村有紀、榊孝之

神経線維腫症１型に合併した頭蓋外内頚動脈瘤に対する血管内治療の経験　第87回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会　2025/4/5　大阪

2. 松島蓮、山際啓典、呉村有紀、榊孝之

多発破裂末梢前下小脳動脈瘤に対する血管内治療の1例　第51回日本脳卒中学会学術集会　2026/3/12　大阪

## 心臓血管外科

【学会発表】

1. 政田 健太

Risk Analysis of Potential Lower-Limb Ischemia in Minimally Invasive CardiacSurgery with Femoral Cannulation　ASCVTS　5/14-17　Singapore

2. 折橋 寛典

Kilt techniqueを用いて中枢ネックを瘤内まで延長した上でAFX2を留置したEVARの1例

日本血管外科学会総会　5/21-23　北九州

3. 勝谷 礼子

解離性胸部大動脈瘤に対するTEVAR後のエンドリークtype診断に4D-CTが有用であった1例

日本血管外科学会総会　5/21-23　北九州

4. 折橋 寛典

冠動脈肺動脈瘻に対して、冠動脈肺動脈瘻閉鎖術を施行した2症例　日本循環器学会近畿地方会　12/20　神戸

## 感染症内科

【学会講演】

1. 長田 学

この10年で最大の流行となった、百日咳のマネージメントと感染対策　福島区・此花区医師会員　2026/2/5　大阪市福島区

2. 長田 学

インバウンドやマスギャザリングに関連する感染症　JCHO大阪病院職員　2026/7/16～8/5　大阪市福島区

3. 長田 学

尿路感染症に対する抗菌薬適正使用　JCHO大阪病院職員　JCHO大阪病院職員　2026/2/6～2/25　大阪市福島区

## 免疫内科

【学会講演】

1. 真鍋 侑資

COVID-19ワクチン接種後に自己免疫性血小板減少症をきたした関節リウマチの1例　第69回日本リウマチ学会総会・学術集会　2025/4/25　福岡国際会議場

2. 植田 すず

関節リウマチ(RA)に対してタクロリムス(Tac)を使用中に巨細胞性動脈炎(GCA)を発症した高齢女性の1例　第69回日本リウマチ学会総会・学術集会　2025/4/26　福岡国際会議場

## 糖尿病内分泌内科

【原著・総説・著書】

1. Mita T, Katakami N, Yoshii H, Onuma T, Kaneto H, Osonoi T, Shiraiwa T, Yasuda T, Umayahara Y, Yamamoto T, Yokoyama H, Kuribayashi N, Matsumoto K, Gosho M, Shimomura I, Watada H

Long-term efficacy and safety of early sitagliptin initiation in individuals with type 2 diabetes: an extension of the SPIKE study.　Diabetol Int.　16:272-284, 2025

2. Hata M, Takahara M, Kubo F, Fujita Y, Tamura R, Takeda S, Katsura T, Umayahara Y, Hatazaki M

Association of the Glasgow Coma Scale with the Length of Hospital Stay in Patients with Thyroid Storm.

Intern Med.　64:2270-2275, 2025

【学会発表】

1.久米田 靖郎, 武呂 誠司, 安田 哲行, 最上 伸一, 谷本 吉造, 徳田 好勇, 谷口 敏雄, 庄司 繁市, 吉内 和富, 川岸 隆彦, 村田 佳織, 岡野 理江子, 姜 信午, 小杉 圭右, 北川 義弘, 馬屋原 豊, 橋本 久仁彦

1型糖尿病診療の現状と今後の課題　第68回日本糖尿病学会学術集会　2025/5/29-31　岡山市

2. 足立 奏美, 桂 央士, 橋本 紘宜, 森田 香菜子, 上野 圭祐, 外川 有里, 馬屋原 豊

セマグルチド自己注射の腎機能の変化における影響についての検討　第68回日本糖尿病学会学術集会　2025/5/29-31　岡山市

3. 松久 宗英, 黒田 暁生, 安田 哲行, 馬屋原 豊, 良本 佳代子, 吉内 和富, 山本 恒彦, 吉田 守美子, 森 博康

非糖尿病者および2型糖尿病者のサルコペニア肥満の有病率と臨床的特徴の検討　iDIAMOND研究のサブ解析　第48回日本肥満学会　2025/10/4　岡山市

## 消化器内科

【原著・総説・著書】

1. 西尾 啓

A rare case of a malignant hepatic perivascular epithelioid cell tumor (PEComa) with aggressive progression following the relapse of renal pecoma despite everolimus therapy.　Clin J Gastroenterol.　2025;18(2):343-351

2. 西尾 啓

Complete Response of Hepatocellular Carcinoma With Inferior Vena Cava Tumor Thrombus and Right Atrium Involvement to Combined Radiotherapy and Immunotherapy: A Case Report.　Gastro Hep Adv.　2025;4(5):100634

3. 西尾 啓

Intrahepatic Exhausted Antiviral Immunity in an Immunocompetent Mouse Model of Chronic Hepatitis B.　Cell Mol Gastroenterol Hepatol.　2025;19(1):101412

4. 三善 裕佳(臨床研修医)

Ciliated Hepatic Foregut Cyst with Clustered Echogenic Foci: An Incidental Finding on Health Screening. Am J Gastroenterol. 2026 Mar 6. doi: 10.14309/ajg.0000000000003993. Online ahead of print.PMID: 41789807

5. 日山 智史

Effectiveness of tacrolimus therapy in refractory ulcerative colitis compared to infliximab with propensity score matching. Sci Rep. 2025 Jan 2;15(1):68. doi: 10.1038/s41598-024-77365-y.

6. 巽 信之

The Risk of Developing Hepatocellular Carcinoma Persists in Chronic Hepatitis B Patients Even After the Long-Term Administration of Nucleos(t)ide Analogs. Hepatol Res. 2025 Jun 16. doi: 10.1111/hepr.14225. Epub ahead of print. PMID: 40522439.

7. 山本 克己

J-WEB/EGC, Group. Short- and long-term outcomes of endoscopic resection for gastric tube cancer: a Japanese multicenter prospective cohort study. Gastrointest Endosc. 2025 Apr 8

8. 佐藤 大竜

Contrast-Enhanced Ultrasound and Somatostatin Receptor Scintigraphy Unveil an Occult Neuroendocrine Tumor With Carcinoid Syndrome and Presumed Small Intestinal Origin - A Case Report. Gastro Hep Adv. 2025 Dec 16;5(3):100866.PMID: 41586345

9. 佐藤 大竜

Gas-forming Pyogenic Liver Abscess Mimicking Gastric Perforation in a Patient With Diabetic Ketoacidosis and Subsequent Rupture: A Case Report. Gastro Hep Adv. 2025 Nov 26;5(2):100851.PMID: 41541649

【学会発表】

1. 西尾 啓

Identification of predictive biomarkers for combination immunotherapy in advanced HCC through single-cell sequencing analysis. Clin J Gastroenterol. 第61回日本肝臓学会総会シンポジウム 2025.6.5

2. 西尾 啓

切除不能進行肝細胞癌患者に対する複合免疫療法時におけるシングルセル解析を用いた治療効果予測因子の検討 第111回日本消化器病学会総会ワークショップ 2025.4.24

3. 日山 智史

潰瘍性大腸炎に対する生物学的製剤治療後における分子標的治療薬の長期治療成績 第111回日本消化器病学会総会パネルディスカッション 2025.4.25

4. 高橋 佑生(臨床研修医)

汎発性腹膜炎、敗血症性ショックを伴う肝膿瘍の腹腔内穿破に対して外科的ドレナージ術にて救命し得た１例 第249回日本内科学会近畿地方会 2025.9.20

5. 佐藤 大竜

カルチノイド症候群を呈した小腸原発神経内分泌腫瘍・多発肝転移の１例 第122回日本内科学会総会 2025.4.19

6. 川口 美優(臨床研修医)

急性発症の自己免疫性肝炎非典型例と考えられた１例 第250回日本内科学会近畿地方会 2025.12.6

7. 三善 裕佳(臨床研修医)

健診を契機に診断に繋がった前腸性肝嚢胞の１例 第250回日本内科学会近畿地方会 2025.12.6

## 循環器内科

【原著・総説・著書】

1. Arita Y etc

Perioperative Management of Takayasu Arteritis for Cardiac Surgery - Review and Single-Center Experience. Circ J. 2025 Nov 25;89(12):1849-1856.

2. Arita Y*, Takaki K, Orihashi H, Kitabayashi K, Ogasawara N.

Successful Surgical Embolectomy Following Veno-Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation in a Taxi

Driver With High-Risk Pulmonary Embolism: A Case Report.　Cureus.　2025 Oct 15;17(10):e94611.

3. 三好 美和

アブレーション治療の新時代~パルスフィールドアブレーション循環器疾患治療の進歩　めざめ　冬号　2026年1月15日発行

4. Matsuda Y

Impact of renal function on the efficacy of low-voltage area ablation after pulmonary vein isolation: a sub-analysis of the SUPPRESS-AF trial　Europace　2025 Sep 1;27(9):euaf205

【学会発表】

1. Yoh Arita

Relationship between Blood Pressure and Ankle-Brachial Index and Its Prognosis after Endovascular Treatment　第33回日本心血管インターベンション治療学会　2025/7/17　大阪国際会議場

2. 片平 千花彩

急性肺血栓塞栓症による閉塞性ショックに対しVA-ECMOと外科的血栓摘除術で救命し得たタクシードライバー　日本内科学会第249回近畿地方会　2025/9/20　神戸国際会議場

3. Yoh Arita

Long-Term Tocilizumab Therapy Leading to Improvement of Coronary Artery Ostial Stenosis in a Patient with Takayasu Arteritis　第90回日本循環器学会　2026/3/22　福岡国際会議場

4. MIWA MIYOSHI

Silent but Significant:Seven Day Holter Based Risk Strafication after AF ablation　第90回日本循環器学会学術集会　2026/3/21　マリンメッセ福岡

5. 三好 美和

食道亜全摘後の心房頻拍に対しパルスフィールドアブレーションを施行した1症例　第140回日本循環器学会近畿地方会　2025/12/20　神戸国際会議場

【学会講演】

1. 福井 智大

Micra Web Seminar (コメンテーター)　医師　2025/12/17　大阪

2. 福井 智大

Medtronic Web Seminar (講演)　医師　2026/3/4　大阪

3. 福井 智大

KANSAI TAVI Channel (講演)　医師　2026/3/12　大阪

4. 小笠原 延行

心不全パンデミック時代へ向けて地域でいかに対応するか（講演）　医師　2025/7/5　大阪

## 脳神経内科

【学会発表】

1. 服部 寿紀

弓部大動脈偽腔開存により術後3カ月で塞栓性脳梗塞を合併した慢性胸部大動脈解離の一例　日本神経学会131回近畿地方会　2025/7/5　神戸

## 皮膚科

【原著・総説・著書】

1. 川部僚子、竹原友貴

病理組織連続切片作製により診断した好酸球性膿疱性毛包炎の２例　皮膚病診療　2025;47:314-317

2. 川部僚子、竹原友貴

ジアフェニルスルホンにより改善を認めた顔面肉芽腫の1例　皮膚の科学　2025;24:391-397

【学会発表】

1. 竹原 友貴

Curvlaria属による表在性皮膚真菌症の1例　第118回近畿皮膚科集談会　2025/7/28　大阪

2. 今中 洋子

眼圧上昇のためステロイド外用を中断したアトピー性皮膚炎の 3 例　第76回日本皮膚科学会中部支部学術大会　2025/10/27　京都

3. 川部 僚子

新生児同種免疫性血小板減少症の一例　第513回日本皮膚科学会大阪地方会　2026/2/7　大阪

## 泌尿器科

【原著・総説・著書】

1. Tsujimura G, Takezawa K, Wakita T, Kujime Y, Kitakaze H, Ueda N, Fukuhara S, Kobuchi S, Fujisawa Y, Nishiyama A, Negoro H, Koyama Y, Shimada S, Nonomura N.

Cerebral Sympathetic Nervous System Activation Promotes Intrarenal Renin-Angiotensin System Activity and Salt-Induced Nocturnal Polyuria.　Int Neurourol J　2026 Mar;30(1):35-43.

2. Enoki M, Yamanaka K, Kawashima A, Fukuhara S, Nonomura N.

A Case of Metastatic Renal Cell Carcinoma Developing Isolated Adrenocorticotropic Hormone (ACTH) Deficiency During Nivolumab Therapy.　Cureus　2025 Dec 20;17(12):e99745

3. Hirata T, Fukuhara S, Takezawa K, Kai N, Nakai M, Fumimoto Y, Tamaki N, Tatekawa S, Hayashi K, Tamari K, Kato T, Hatano K, Kawashima A, Shimizu S, Nonomura N, Ogawa K.

Successful Stereotactic Body Radiation Therapy for Prostate Cancer in a Patient With Prior Total Colectomy and Ileal Pouch-Anal Anastomosis: A Case Report and Technical Considerations.　Adv Radiat Oncol.　2025 Nov 22;11(3):101965.

4. Sato Y, Tsujimura A, Shirai M, Sasaki H, Kobayashi K, Horita H, Masaharu A, Suzuki N, Hisasue S, Fukuhara S, Chiba K, Yoshizawa T, Tomoe H, Kimura K, Kikuchi E, Maeda E, Nagai A, Nagao K, Tsukamoto T, Masumori N.

Three Decades of Change in Frequency of Sexual Intercourse and Sexual Function Among Japanese Men: A Comparative National Survey.　Int J Urol　2026 Jan;33(1):e70344

5. Fukuhara S.

Editorial Comment on Efficacy and Safety of Clomiphene Citrate for Late-Onset Hypogonadism as Evaluated by Aging Male Symptom Rating Scale Over 1 Year.　Int J Urol　2026 Jan;33(1):e70335.

6. Yamasaki H, Nakazawa S, Takezawa K, Kato T, Hatano K, Kakuta Y, Kawashima A, Fukuhara S, Nonomura N.

Laparoscopic Partial Cystectomy for Inflammatory Myofibroblastic Tumor of the Urinary Bladder.

IJU Case Rep.　2025 Oct 16;8(6):604-607.

7. Hatano K, Ishizuya Y, Nakamura Y, Kawamura M, Nakazawa S, Ueda N, Hayashi T, Yamamoto Y, Takezawa K, Mitsunari K, Kato T, Kakuta Y, Kawashima A, Fukuhara S, Imamura R, Nonomura N.

Laparoscopic Bilateral Nerve-Sparing Retroperitoneal Lymph Node Dissection for Testicular Cancer After Chemotherapy.　Int J Urol.　2026 Jan;33(1):e70267.

8. Shirai M, Tsujimura A, Fukuhara S, Chiba K, Yoshizawa T, Tomoe H, Kimura K, Kikuchi E, Maeda E, Sato Y, Nagai A, Nagao K, Sasaki H; Clinical Research Promotion Committee of the Japanese Society for Sexual Medicine.

Prevalence and associated factors of delayed ejaculation: insights from a nationwide internet-based, cross-sectional survey on male sexual dysfunction in Japan.　Sex Med.　2025 Sep 10;13(4):qfaf072.

9. Kuribayashi S, Fukuhara S（責任著者）, Kitakaze H, Tsujimura G, Imanaka T, Ueda N, Takezawa K, Kobayashi H, Imamura R, Nonomura N.
Silicon-Based Agent Attenuates Age-Related Spermatogenesis Disorder. Int J Urol 2025 Nov;32(11):1696-1702.
10. Shirai M, Tsujimura A, Fukuhara S, Chiba K, Yoshizawa T, Tomoe H, Kimura K, Kikuchi E, Maeda E, Sato Y, Nagai A, Nagao K, Sasaki H; Clinical Research Promotion Committee of the Japanese Society for Sexual Medicine.
Prevalence and Factors Associated with Premature Ejaculation in Japan: First Nationwide Cross-Sectional Survey by the Japanese Society for Sexual Medicine. World J Mens Health Epub 2025 Jun 11.
11. Tsujimura A, Iijima M, Umemoto Y, Kobayashi H, Komiya A, Shiraishi K, Chiba K, Hirota Y, Fukuhara S, Yumura Y.
Summary of the Clinical Practice Guidelines for Male Infertility by the Japanese Urological Association With the Support of the Japan Society for Reproductive Medicine. Int J Urol 2025 Oct;32(10):1301-1313.
12. Kitakaze H, Miyata H, Oyama Y, Pan C, Kujime Y, Tsujimura G, Imanaka T, Kuribayashi S, Ueda N, Takezawa K, Fukuhara S, Nonomura N, Ikawa M.
KIF2C Deletion Causes Meiotic Abnormalities and Nonobstructive Azoospermia in Mice. Reprod Med Biol. 2025 May 27;24(1):e12659.
13. Nakatake N, Ueda N, Takezawa K, Kato T, Hatano K, Kakuta Y, Kawashima A, Fukuhara S, Nonomura N.
[A Case of Open Poucholithotomy for Recurrence of Indiana Pouch Stones]. Hinyokika Kiyo 2025 Apr;71(4):115-119.

【邦文原著 著書】

1. 福原 慎一郎
【どうなの? どうするの? 男性不妊症診療の素朴な疑問】男性低ゴナドトロピン性性腺機能低下症(MHH)に対するホルモン治療はいつまで継続するべきか? 臨床泌尿器科 79巻12号 Page1068-1072(2025.11)
2. 福原 慎一郎
【更年期障害を見極める】男性更年期障害 アニムス 31巻1号 Page24-30(2026.01)
3. 福原 慎一郎
停留精巣、精巣捻転症 今日の治療指針２０２６ 2026年 1296-97

【学会発表】

1. 福原 慎一郎
KEAP1-NRF2 System Regulates Age-related Spermatogenesis Dysfunction 第70回日本生殖医学会総会 2025/4/28 東京

【学会講演】

1. 福原 慎一郎
教育講演２１：性機能・性腺機能低下症診療の最前線 第112回日本泌尿器科学会 2025/4/19 博多
2. 福原 慎一郎
シンポジウム１新ガイドラインが描く性機能診療の未来 日本性機能学会第35回学術総会 2025/9/19 大阪
3. 福原 慎一郎
テストステロン治療認定医講習会：LOH症候群の治療の実際と効果・副作用 第25回メンズヘルス医学会 2025/10/12 東京

【賞罰】

1. 福原 慎一郎

KEAP1-NRF2 System Regulates Age-related Spermatogenesis Dysfunction　第70回生殖医学会総会優秀ポスター賞　2025/4/28

## 産婦人科

【講演】

1.竹中 聡、藤崎 弘之、筒井 建紀、金田 真紀

円滑な紹介システム構築のために～骨軟部腫瘍モデル患者の検討～　第9回大阪がん・生殖医療ネットワーク講演会　パネルディスカッション　2025/11/30　大阪

【学会発表】

1. Naoya Shigeta, Yuka Koretsune, Asuka Tateyama, Shiori Ichimiya, Yui Kuhara, Mie Hattori, Yumiko Kiyohara, Chifumi Hara, Takafumi Inoue, Tateki Tsutsui

Assisted reproductive technology (ART) pregnancies needs care as high-risk at delivery　第70回日本生殖医学会学術講演会/The 25th IFFS World Congress　2025/4/26-29　東京

2. 一宮 汐里、繁田 直哉、是常 有香、立山 明日香、久原 ゆい、田中 稔恵、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

当院での無痛分娩の現状と課題　第77回日本産科婦人科学会学術講演会　2025/5/23-5/25　岡山

3. 是常 有香、井上 貴史、立山 明日香、一宮 汐里、久原 ゆい、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、筒井 建紀

妊娠継続が可能であった正所異所同時妊娠の一例　第77回日本産科婦人科学会学術講演会　2025/5/23-5/25　岡山

4. 久原 ゆい、是常 有香、立山 明日香、一宮 汐里、田中 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

妊娠後期に感染し、産褥期に感染が発覚した早期梅毒の一例　第77回日本産科婦人科学会学術講演会　2025/5/23-5/25　岡山

5. 神田 瑞希、北野 佐季、竹田 満寿美、兪 史夏、横山 拓平、太田 行信、安原 裕美子、山本 敏也

初回手術より10年後に再発を認めた成人型顆粒膜細胞腫の1例　第77回日本産科婦人科学会学術講演会　2025/5/23-5/25　岡山

6. 北野 佐季、神田 瑞希、竹田 満寿美、兪 史夏、横山 拓平、太田 行信、安原 裕美子、山本 敏也

CA19-9の異常高値を認めた早期子宮体癌の一例　第77回日本産科婦人科学会学術講演会　2025/5/23-5/25　岡山

7. Maho Takiyama, Aasa Shimizu, Yasuhito Kinose, Mahiru Kawano, Michiko Kodama, Kenjiro Sawada

Clinical and pathological study of 7 cases of low-grade serous ovarian cancer in our hospital　第77回日本産科婦人科学会学術講演会　2025/5/23-5/25　岡山

8. 清原 裕美子、是常 有香、立山 明日香、一宮 汐里、久原 ゆい、服部 稔恵、繁田 直哉、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

骨形成不全症を合併した卵巣成熟奇形腫に対して腹腔鏡下手術を行なった１例　第152回近畿産科婦人科学会学術集会　2025/6/21-22　滋賀

9. 是常 有香、花澤 綾香、立山 明日香、一宮 汐里、久原 ゆい、服部 稔恵、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

子宮頸部憩室症を伴う帝王切開子宮瘢痕症に対し、腹腔鏡下子宮全摘術を実施した１症例　第152回近畿産科婦人

科学会学術集会　2025/6/21-22　滋賀

10. 是常 有香、一宮 汐里、久原 ゆい、田中 稔恵、繁田 直哉、原 知史、筒井 建紀

生児を得た正所異所同時妊娠（HP）の一例　第61回日本周産期・新生児医学会学術集会　2025/7/13-15　大阪

11. 小泉 舞、木瀬 康人、粕谷 香南子、王 妍、清水 亜麻、河野 まひる、小玉 美智子、澤田 健二郎、木村 正

葉酸代謝拮抗薬とトポイソメラーゼI阻害薬の併用療法は、 ARID1A変異卵巣癌に対して相乗効果を示す　第67回日本婦人科腫瘍学会学術講演会・ASGO2025　2025/7/17-7/19　東京

12. 清原 裕美子、花田 佳奈、是常 有香、瀧山 真帆、小泉 舞、服部 稔恵、繁田 直哉、竹田 満寿美、井上 貴史、筒井 建紀

骨形成不全症を合併症にもつ卵巣成熟奇形腫の患者に対し腹腔鏡下腫瘍摘出術を行った１例　第65回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　2025/9/18-20　鹿児島

13.服部 稔恵、花田 佳奈、是常 有香、瀧山 真帆、小泉 舞、繁田 直哉、竹田 満寿美、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

卵巣チョコレート嚢胞合併妊娠に対し腹腔鏡手術を行った２症例　第65回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会　2025/9/18-20　鹿児島

14. 小泉 舞、木瀬 康人、王 妍、粕谷 香南子、竹本 祐基、リ ハン、清水 亜麻、中塚 えりか、河野 まひる、澤田 健二郎、木村 正、小玉 美智子

葉酸代謝拮抗薬とトポイソメラーゼ阻害薬の併用療法は、ARID1A 変異卵巣癌に対して相乗的な抗腫瘍効果を示す　第84回日本癌学会学術総会　2025/9/25-9/27　石川

【邦論文】

1. 花澤 綾香、田中 稔恵、中尾 恵津子、繁田 直哉、清原 裕美子、原 知史、井上 貴史、筒井 建紀

切除不能な子宮体部原発大細胞型神経内分泌癌に対して、３レジメンの化学療法を実施した１例　産婦の進歩 77(3):273-280,2025

2. 北野 佐季、神田 瑞希、河田 真由子、竹田 満寿美、兪 史夏、横山 拓平、太田 行信、山本 敏也

当院での腹腔鏡下婦人科手術における開腹移行症例の検討　堺市立総合医療センター医学雑誌25(3):8-13,2025

3. 神田 瑞希、北野 佐季、河田 真由子、竹田 満寿美、兪 史夏、横山 拓平、太田 行信、山本 敏也

当院における初期子宮体癌に対する低侵襲手術の周術期成績の比較検討　堺市立総合医療センター医学雑誌 25(3):2-7,2025

## 耳鼻いんこう科

【原著・総説・著書】

1.永田明弘、前田 陽平、宇野敦彦

脳血管障害：急性発症の持続性回転性めまい　診断と治療　113 (10), 1199-1201, 2025-10

2. 小幡翔、前田陽平

特集 花粉症の疑問に答える 【発症のメカニズム】 くしゃみの神経生理学的機序は?　JOHNS　41 (9), 1061-1064, 2025-09-01

3. 前田 陽平、芦田直毅

特集 どうする!?外来処置と手術 【鼻領域における外科処置と手術】 ESS後の補正手術-癒着の剝離,再発への対応-JOHNS　41 (8), 901-904, 2025-08-01

4. 前田 陽平

好酸球性副鼻腔炎のup-to-date　大阪府保健医協会雑誌　53 (705), 55-60, 2025-05

【学会発表】

1. 永田 明弘

当科における好酸球性副鼻腔炎への生物学的製剤の使用経験　第74回日本アレルギー学会学術大会　2025/10/25　東京国際フォーラム

2. 小幡 翔

当院における鼻副鼻腔良性腫瘍手術が健康関連QOLおよび労働生産性に与える影響についての検討　第64回日本鼻科学会　2025/9/25　東京ドームホテル

3. 紀田 宝那

JCHO大阪病院耳鼻咽喉科におけるOpen septorhinoplasty症例の検討　第372回日耳鼻大阪地方連合会例会　2026/1/31　大阪

4. 紀田 宝那

JCHO大阪病院耳鼻咽喉科におけるOpen septorhinoplasty症例の検討　第35回日本頭頸部外科学会　2026/2/5-6　横浜

【学会講演】

1. 前田 陽平

ESS術中のコツ～術後に後悔しないために　第64回日本鼻科学会　2025/9/25　東京ドームホテル

2. 前田 陽平

未来を拓く情報発信！広報の挑戦と成果　第126回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会　2025/5/29　パシフィコ横浜

## 小児科

【原著・総説・著書】

1. Daisuke Harada

Autosomal dominant hypocalcemia type 1: status quo of tailored management and future perspectives　J Bone Miner Res　2026 zjag034

2. 原田 大輔

BPを軸に 学童期に焦点を当てた少子化対策その２　NPO法人こころの子育てインターねっと関西会報　2025 30(5):2-3

3. 原田 大輔

親子の絆づくりプログラム「赤ちゃんがきた！」が与える参加者の変化―BP1の効果測定―　桃山学院教育大学研究紀要　2025 7:119-131

【学会発表】

1. 石浦 嘉人

周期性嘔吐症との鑑別が困難であった腸回転異常症の女児例　第39回大阪小児科医会救急・新生児研修会　2025/9/27　大阪

2. 松下 浩子

小児科外来における頭痛を伴う不登校の子どもたち　第53回日本頭痛学会総会　2025/11/21　横浜

3. 原田 大輔

ボソリチドと成長ホルモンの併用療法を行った軟骨無形成症例　第97回日本内分泌学会学術集会　2025/6/6　千葉

4. 原田 大輔

親子の絆づくりプログラム'きょうだいがうまれた！' の効果の検証　第72回日本小児保健協会学術集会　2025/6/28　金沢

5. 原田 大輔

幼稚園・保育園・こども園等における成長曲線活用の実態調査　第58回日本小児内分泌学会学術集会　2025/10/31　千葉

6. 五味 久仁子

腹部症状先行のIgA血管炎　第51回大阪小児栄養消化器病懇話会　2025/11/15　大阪

7. 西村 美杉
アデノウイルス感染で加療中に左室収縮力低下をきたした不全型川崎病の1症例　第45回日本川崎病学会　2025/10/17　久留米
8. 上山 薫
WFS1遺伝子にバリアントを認めた糖尿病の13歳女児例　第97回日本内分泌学会学術集会　2025/6/6　千葉
9. 上山 薫
重症貧血を契機に自己免疫性甲状腺機能低下症の診断に至った一例　第1回日本小児内分泌学会 近畿地方会　2026/3/7　大阪

【学会講演】
1. 柏木 博子
成人期を見据えた小児XLHの管理　第43回日本骨代謝学会学術集会　2025/7/26　熊本
2. 柏木 博子
骨系統疾患最近の話題　小児医療のパートナーシップセミナー　2025/10/9　Web
3. 原田 大輔
子どもの健康と成長のための保護者コミュニケーション～保育士が気づける子どものSOS～　ベビージョブウェビナー2025　2025/6/26　Web
4. 原田 大輔
XLH における成人移行期の治療選択　実地医療による小児内分泌疾患 Expert meeting　2025/8/7　大阪
5. 原田 大輔
FGF23関連低リン血症性くる病・骨軟化症治療におけるクリースビータ®の位置づけ　クリースビータ皮下注シリンジセミナー　2025/9/3　Web
6. 原田 大輔
親子の絆づくりプログラム（BP）の効果と実践課題と展望について　研究実践セミナー　2025/12/21　大阪
7. 原田 大輔
子どもの事故防止と応急手当　福島区ファミリーサポート会員養成講座　2026/1/29　大阪
8. 原田 大輔
子どもの発育と発達　福島区ファミリーサポート会員養成講座　2026/2/5　大阪
9. 原田 大輔
「子育て支援プログラム“赤ちゃんがきた！”の取り組み」　福島区医師会小児科関連病診連携の会　2026/2/26　大阪
10. 原田 大輔
糖尿病の理解と支援　大阪健康を守るサークル連絡会　2026/3/22　大阪
11. 西村 美杉
見逃しやすい川崎病～他の治療中に発見された心血管合併症の症例から～　小児医療のパートナーシップセミナー　2025/10/9　Web
12. 名島 俊介(臨床研修医)
腹部症状先行のIgA血管炎　福島区医師会小児科関連病診連携の会　2026/2/26　大阪
13. 松﨑 僚太
リンパ節腫大と発熱から診断に至ったWilson病　福島区医師会小児科関連病診連携の会　2026/2/26　大阪

## 神経精神科

【原著・総説・著書】
1. Miura K, Yoshida M, Morita K, Fujimoto M, Yasuda Y, Yamamori H, Takahashi J, Miyata S, Okazaki K, Matsumoto J, Toyomaki A, Makinodan M, Hashimoto N, Onitsuka T, Kasai K, Ozaki N, Hashimoto R.
Gaze behaviors during free viewing revealed differences in visual salience processing across four major psychiatric disorders: a mega-analysis study of 1012 individuals.　Mol Psychiatry.　2025 Apr;30(4):1594-1600

2. Kawamata Y, Ohi K, Ito S, Hasegawa N, Yasuda Y, Fujimoto M, Yamamori H, Fukumoto K, Kodaka F, Matsumoto J, Yasui-Furukori N, Hashimoto R.
Relationships between clinician adherence to guideline-recommended treatment and memory function in patients with schizophrenia. J Psychiatr Res. 2025 May;185:169-176.
3. Sumiyoshi C, Ito S, Matsumoto J, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Sumiyoshi T, Hashimoto R.
Predicting models for work outcomes in patients with schizophrenia and its clinical application. Sci Rep. 2025 May 1;15(1):15308.
4. Yasuda Y, Ito S, Matsumoto J, Onitsuka T, Yamamori H, Fujimoto M, Hasegawa N, Ikeda M, Hashimoto R.
Clinical Characteristics of Patients With Enlarged Ventricles and Cognitive Impairment (EVCI): Case Series.
Neuropsychopharmacol Rep. 2025 Sep;45(3):e70029
5. K, Yamamori H, Fujimoto M, Yasuda Y, Koeda M, Kawashima T, Aki M, Sasabayashi D, Fujikane D, Harada K, Yamamoto M, Ishikawa S, Hasegawa N, Ito S, Ohi K, Matsubara T, Hirano Y, Watanabe Y, Yamasue H, Tateno A, Miyata J, Takahashi T, Kawasaki Y, Onitsuka T, Okubo Y, Asai K, Suzuki M, Ozaki N, Kasai K, Hashimoto R; COCORO.
Optimizing multi-site schizophrenia differentiation: MRI harmonization with 20 controls per scanner in a study of 3560 subjects across 15 MRI scanners. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2026 Jan 2;144:111607.
6. Matsumoto J, Ito S, Sumiyoshi C, Yasuda Y, Hasegawa N, Fujimoto M, Yamamori H, Sumiyoshi T, Hashimoto R.
Cognitive profile of psychiatric patients with coexisting enlarged ventricles and cognitive impairment: A rare cross-diagnostic phenotype predominantly observed in schizophrenia. Psychiatry Clin Neurosci. 2026 Mar;80(3):233-234.

【学会発表】

1. 山森 英長(座長)
一般口演10（臨床）その他_2 BPCNPNP2025合同年会 2025/11/13 国立京都国際会館
2. 松本 純弥、伊藤 颯姫、住吉 チカ、安田 由華、長谷川 尚美、藤本 美智子、山森 英長、住吉 太幹、橋本 亮太
側脳室拡大（Enlarged Ventricle: EV）と認知機能障害（Cognitive Impairment: CI）があるEVCI患者の認知機能プロファイル BPCNPNP2025合同年会 2025/11/14 国立京都国際会館
3. 安田 由華、伊藤 颯姫、松本 純弥、鬼塚 俊明、山森 英長、藤本 美智子、長谷川 尚美、池田 学、橋本 亮太
脳室拡大および認知障害を特徴とする患者（enlarged ventricles and cognitive impairment:EVCI）の臨床的特徴:ケースシリーズ BPCNPNP2025合同年会 2025/11/13 国立京都国際会館
4. 川俣 安史、大井 一高、伊藤 颯姫、長谷川 尚美、安田 由華、藤本 美智子、山森 英長、福本 健太郎、小高 文聰、松本 純弥、古郡 規雄、橋本 亮太
精神科医の治療ガイドラインに基づく治療と統合失調症患者の記憶機能との関係 BPCNPNP2025合同年会 2025/11/14 国立京都国際会館
5. 伊藤 颯姫、住吉 チカ、安田 由華、松本 純弥、藤本 美智子、山森 英長、長谷川 尚美、髙野 晴成、住吉 太幹、橋本 亮太
統合失調症患者の労働時間に影響を与える要因の検討：認知機能と社会機能の役割 BPCNPNP2025合同年会 2025/11/14 国立京都国際会館
6. 福本 健太郎、大井 一高、長谷川 尚美、伊藤 颯姫、川俣 安史、安田 由華、山森 英長、藤本美智子、小高 文聰、松本 純弥、古郡 規雄、橋本 亮太
統合失調症患者における治療ガイドライン遵守度と脳皮質下構造体積との関連 BPCNPNP2025合同年会 2025/11/14 国立京都国際会

## 放射線診断、IVR 科

【原著・総説・著書】

1. Ookura R

Arterial phase enhancement of the adrenal glands as a severity inducator for acute pancreatitis　Jpn J Radiol 2025 Jul;43(7):1145-1152

## 歯科・口腔外科

【学会発表】

1. 宮本かれん、横田 祐介, 乾 千珠子, 岸上 波輝,磯村 恵美子, 大庭伸介, 田中 晋

がん薬物療法における味覚異常に関する研究－ S-1 投与が味覚関連遺伝子発現に及ぼす影響－　第79回日本口腔科学会学術集会　2025/5/1　長野

2. 宮本かれん, 妹尾日登美,木下久美子

口蓋に発生した良性線維性組織球腫の一例　第37回　日本腔科学会近畿地方部会　2025/12/6　大阪

## 麻酔科、緩和ケア・ペインクリニック科

【原著・総説・著書】

1. 西村杏香，川原玲子，清水雅子，鳥井直子，濱田拓，吉川範子

頭痛を合併した持続性特発性顔面痛の急性増悪に漢方薬が有効であった1例　痛みと漢方　2025；34：40-44

2. 清水雅子、田中克明

徹底分析シリーズ　ペインクリニックはじめました　LiSA　2026；33：64-67

【学会発表】

1. 田中克明，今村圭佑，佐藤善一

Microsoft Excelによる麻酔科医・集中治療医の勤務管理　第53回日本集中治療医学会　2026/3/7　横浜

## 救急・プライマリ診療部

【学会講演】

1. 小笠原 延行

今日のJCHO大阪病院救急医療　地域医療関係者　2025/7/5　大阪

2. 植木 奎登

JCHO大阪病院お迎え搬送について　地域医療関係者　2026/1/31　大阪

## 薬剤部

【学会発表】

1. 丸川 華穂

ゾルベツキシマブ適正使用へ向けた多職種連携による院内フローの導入とその運用

第35回日本医療薬学会年会　2025/11/22～24　神戸

2. 角 陽子

大腸癌患者において5 - ＦＵ投与後に高アンモニア血症を呈した1例

第23回日本臨床腫瘍学会学術集会　2026/3/26～28　横浜

## 放射線室

【学会発表】

1. 戸田　光映
エンドリークのType鑑別において、80列CTでのTilt-4DCTAが有用であった一例
第54回日本IVR学会総会(JSIR&ISIR2025)　2025/5/30　虎ノ門ヒルズフォーラム(東京)

2. 中田　裕貴
当院における大腸CTの現状　第16.5回関西CTC研究会　2025/9/20　APホール

3. 山口　裕祐
多施設 SPECT装置を用いた骨SPECT 自動解析ソフトウェアへの適用
第23回 金沢核医学技術検討会(STOIC)-Study and discussion of NM technology in Kanazawa conference-
2025/9月27～28　金沢大学

4. 戸田　光映
造影剤のWashoutを考慮した冠動脈・大動脈同時撮影における撮影開始タイミングの最適化
第53回日本放射線技術学会秋季学術大会　2025/10/19　札幌コンベンションセンター(札幌)

5. 髙田　梨佳那
冠動脈造影検査における視認狭窄度評価とFFRangio値の不一致についての検討
Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)2025　2025/10/23～24　神戸国際展示場

6. 川合　真奈
冠動脈定量評価における光干渉断層装置と循環動態解析装置の計測精度に検討
Complex Cardiovascular Therapeutics(CCT)2025　2025/10/23～24　神戸国際展示場

7. 新田　武史
当院放射線室における危険予知トレーニング導入の効果
第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

8. 吉岡　良真
長尺撮影システムを活かした脊椎撮影について ― 撮影方法と臨床でのポイント ―
第2回 3病院合同勉強会　2026/1/7　JCHO大阪病院（大阪）

9. 中田　裕貴
JCHO施設間における生殖腺防護シールドの現状と課題
第3回放射線WESTミーティング　2026/3/7　JCHO大阪病院

10. 田上　幸弘
MRIの安全利用　～2025 磁気共鳴医学会 インシデント報告より～
第3回放射線WESTミーティング　2026/3/7　JCHO大阪病院

11. 水流　健一
一般撮影・整形撮影セミナー　第3回放射線WESTミーティング　2026/3/7　JCHO大阪病院

12. 中田　裕貴
大腸CTの標準化を目指して　第17回関西CTC研究会　2026/3/14　APホール

13. 定　昭彦
DWIBS+α　第33回京阪イメージカンファレンス　2026/1/17　天の川病院

【学会発表】

1.戸田　光映
80列心臓CT攻略法 ～心電図上のStrategy～　診療放射線技師　2025/9/6　キヤノンメディカルシステムズ株式会社関西支社(大阪)　第23回 関西キヤノンCTユーザー会

2. 戸田　光映
FFRangioのNext Step　診療放射線技師、臨床工学技士　2025/11/29　日本メドトロニック株式会社大阪支店(大阪)　FFRangio Super User Training

3. 川合　真奈

冠動脈定量評価における光干渉断層装置と循環動態解析装置の計測精度に検討

診療放射線技師、臨床工学技士　2025/12/13　web配信　第48回PICASSO

4. 山口　裕祐

呼吸移動抑制デバイス RRB の実践 -RRB だからこそ得られる効果と、抑制効果の最適化-

診療放射線技師　2025/12/18　web配信　RRB活用webセミナー@関西

## 中央検査室

【学会発表】

1. 永井 琴音

心不全治療中に右上肢脱力を突然発症した1例

第５２回　日本超音波医学会関西地方会学術集会　2025/12/13　大阪国際会議場

2. 郭 明成

心室性期外収縮を契機に肺動脈弁置換を施行したファロー四徴症の１例　第１５回　日本心臓弁膜症学会

2025/12/20　広島コンベンションホール

3. 藤田 悠斗

類基底型扁平上皮癌と小細胞がん判定に苦慮した一例

第８回　大阪臨床検査技師会医学検査学会　2026/2/15　森ノ宮医療大学

## 臨床工学室

【原著・総説・著書】

1. 天野 義久

早期警戒スコア（NEWS2）を活用した患者搬送基準の取組みについて

近畿消化器内視鏡技師会会誌　2025年；第33号：53-57ページ

【学会発表】

1. 天野 義久

SutuArtを用いた内視鏡的手縫い縫合介助のコツ　第88回近畿内視鏡治療研究会　2025/6/20　JCHO大阪病院

2. 塩見拓斗

院内におけるMACT（Monitor Alarm Control Team）活動の取り組み

第31回近畿臨床工学会　2026/1/17～18　奈良県コンベンションセンター

## 看護部

【原著・総説・著書】

1. 畠山 明子

大腸がんの薬物療法における意思決定支援を支える看護②　がん看護　2026；31巻1号：P21-25

2. 宇賀神 ゆかり

第4章　腹膜透析療法を受ける患者の看護　腎臓病看護スターンダード　2026/1/22

3. 下田 真代

外来看護の質向上に向けたチーム活動の実践―JCHO大阪病院　外来における取り組み―

日総研出版　2025冬号030ページ

【学会発表】

1. 冨永 純子

認知症看護特定認定看護師の活動を語ろう

日本老年看護学会第30回学術集会　2025/6/27～29　幕張メッセ国際会議場

2. 井上 知恵

整形外科病棟における身体拘束低減に向けた取り組み

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

3. 小井 里香

病棟における環境要因の検討～院内発生感染症の多い病棟に焦点をあてて～

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

4. 白子 愛生

患者アンケートからみた入院前支援内容の評価と今後の課題

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

5. 木下 莉奈

睡眠の質に関する客観的データに基づいたケア介入の効果～眠りスキャンを使用して～

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

6. 池内 葉子

A病院の挨拶に関する現状と課題について

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

7. 田中 万規子

退院患者へのheartfulな服薬管理を目指した取り組み

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

8. 川井 祐実

NEWS2を用いた安全な患者搬送と内視鏡治療検査の課題

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

9. 加藤 真穂

大腿骨骨折患者の手術前筋力低下予防に使用するリハビリテーションパンフレット内容の検討

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

10. 寺岡 真美

「糖尿病内科外来通院患者」の予防的フットケア介入を行うための取り組み―「足チェックシート」を活用してー

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

11. 田﨑 弘美

役割遂行能力を向上させる副看護師長会のあり方

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

12. 岩田 富美

看護職と看護補助者が効率的・効果的に協働するための体制構築

第10回JCHO地域医療総合医学会　2025/11/28～29　パシフィコ横浜ノース

13. 宇賀神 ゆかり

慢性腎臓病予防外来の実際

日本腎不全看護学会学術集会参加者　2025/11/30　兵庫県神戸市神戸国際会議場メインホール

14. 中村 晏梨

小児病棟におけるホスピタルプレイ・スペシャリストの取り組みについて

第17回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　2026/2/14　マイドーム大阪

15. 前田 結香

インスリン自己注射が困難となった高齢2型糖尿病患者に対し、インスリンイコデクを導入した1例～訪問看護師との連携を通して～　第17回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　2026/2/14　マイドーム大阪

16. 松永 友紀子

日本国際看護師（NiNA）の外国人患者と医療者をつなぐ役割～外国人患者に対する病棟スタッフの変化を通して～

第17回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　2026/2/14　マイドーム大阪

17. 寺岡 真美

「血糖管理関連」特定行為実践報告～1型糖尿病患者を通して～

第17回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　2026/2/14　マイドーム大阪

18. 北野 妙佳

支援導入に難渋した認知症高齢者夫婦への関わり～生活意向に寄り添う多職種連携の実践～

第17回日本医療マネジメント学会大阪支部学術集会　2026/2/14　マイドーム大阪

19. 鈴木 志帆

外来診療に関するデータの見える化による外来看護改善の取り組み

第29回日本看護管理学会学術集会　2025/8/23～24　グランドメルキュール札幌大通公園

20. 中村 明美

看護師による外来患者の相談件数増加に向けた取り組み-コンピュータ・シミュレーションによる最適件数の探索-

第29回日本看護管理学会学術集会　2025/8/23～24　グランドメルキュール札幌大通公園

21. 岩田 富美

看護補助者５段階キャリアラダー活用効果の検証

第29回日本看護管理学会学術集会　2025/8/23～24　グランドメルキュール札幌大通公園

病 院 年 報　第１０巻

2026年11月発行

■発行■

独立行政法人

地域医療機能推進機構　大阪病院

〒553-0003 大阪市福島区福島４丁目２-78

TEL：06-6441-5451（代表）

http://osaka.jcho.go.jp